



「モノづくりでいのち輝く未来を」

SHIGA KOKU
MONOZUKURISAI

OPEN FACTORY REPORT BEYOND EXPO

はじめに

<本紙の位置づけ>

関西（本事業においては、「関西」を福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の2府5県と定義する）では、中小企業が主役となる地域一体型のオープンファクトリーが各地で誕生している。これらオープンファクトリーを地域で一体となって取り組む中で様々なイノベーションが生まれ、それらを創出する鍵となるキーパーソンが存在する。

これまでの調査から明らかとなった各地の取組内容やその特徴、キーパーソンを紹介するほか、共に取組を支える CO-LEADERS や事務局も紹介する。また、今年度実施してきた「LOCAL X STAGE」や「LOCAL X STAGE振り返りワークショップ」、「検証会議」を経て作成したLOCAL X STAGEガイドラインについても紹介する。

<本紙で取り扱うオープンファクトリーとは>

地域一体型オープンファクトリーとは、ものづくりに関わる中小企業や工芸品産地など、一定の産業集積がみられる地域を中心に、企業単独ではなく、地域内の企業等が面として集まり、生産現場を外部に公開したり、来場者にもものづくりを体験してもらう取組を示す。

なお、本紙において紹介する事例については、以下の要件を満たすものを前提とする。

- ①業種や従来の商習慣の枠組みを超えた、「多様なプレイヤー」が「主体的」に取り組むもの。
- ②取組において、共通として共有される目的や理念（コアバリュー）が存在すること。
- ③リアルな現場（工場 / 工房や付加価値を生み出す現場）（※1）を実際に五感で体感する仕組みとなっていること。

（※1）特定の場所に企業が集合して実施するポップアップ型オープンファクトリーにおいても、近隣に他の地域一体型オープンファクトリーが存在し、当該イベントとの相乗効果が想定されるものは満たすものとする。

<地域区分について>

本紙で掲載する地域一体型オープンファクトリーの地域区分は、経済産業省各経済産業局の管轄区域で区分している。各経済産業局と管轄区域は以下のとおり。

経済産業局名	管轄地域
北海道経済産業局	北海道
東北経済産業局	青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
関東経済産業局	東京都、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県
中部経済産業局	富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県
近畿経済産業局	福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国経済産業局	岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県
四国経済産業局	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州経済産業局	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
内閣府沖縄総合事務局経済産業部	沖縄県

※地域内の都道府県名は順不同

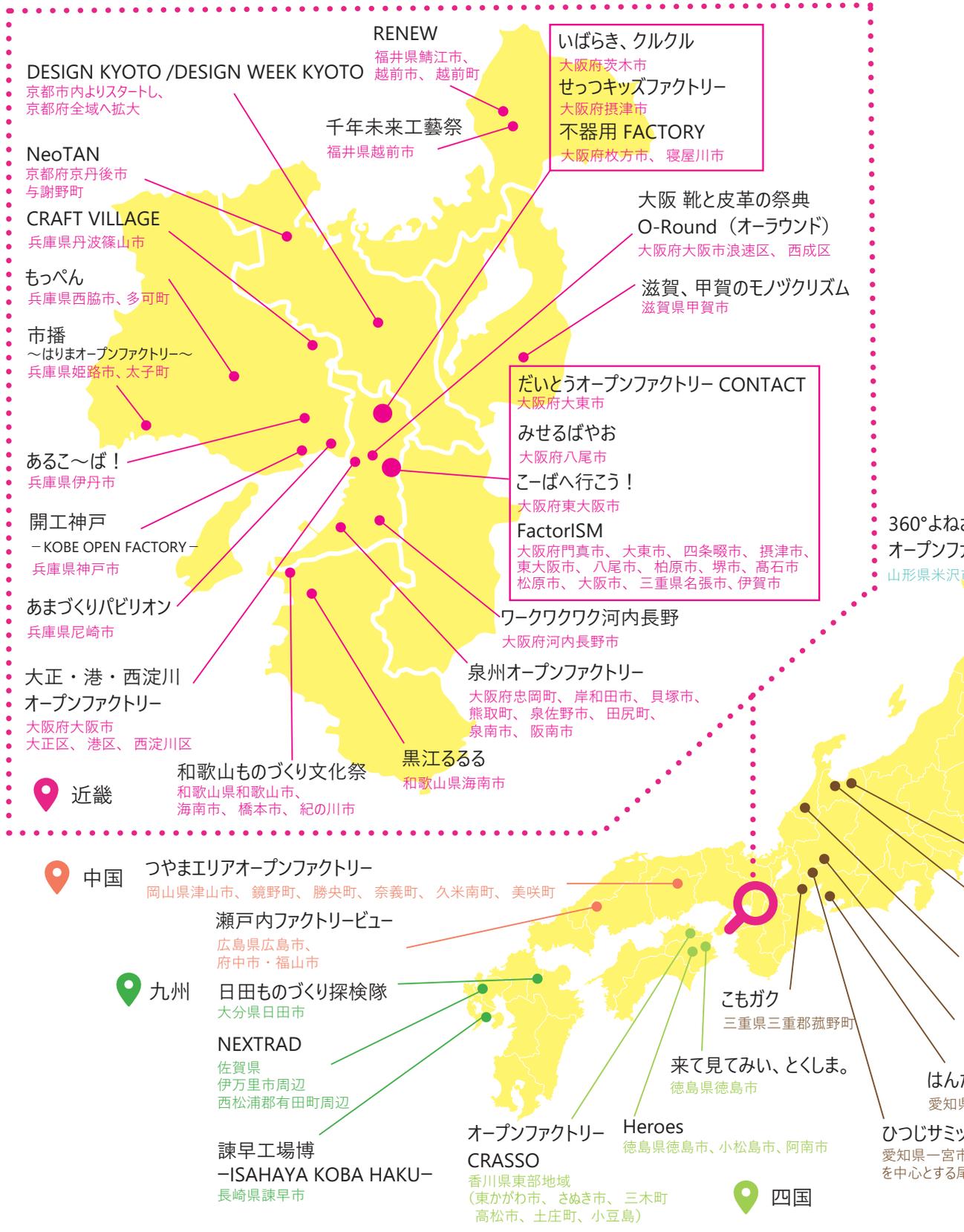
INDEX

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー

MAP	4
TIME LINE	6
Meet up Furniture Asahikawa (あさひかわデザインウィーク)	8
360°よねざわオープンファクトリー	10
OPEN FACTORY KORIYAMA	12
すかがわ TEC ツアーズ	14
KIRYU FOCUS	16
彩の国オープンファクトリー	18
台東モノマチ	20
スミファ すみだファクトリーめぐり	22
おおたオープンファクトリー	24
かつしかライブファクトリー	26
おうめオープンファクトリー	28
あやせ工場オープンファクトリー	30
燕三条 工場の祭典	32
五泉ニットフェス	34
やまなし Jewelry Week	36
ハタオリマチのハタ印	38
ニラサキオープンファクトリー	40
東信州 産業の陣	42
秋の漆器祭 — ヨヨヨイ!!!	44
共生 Shizuoka Craft Week	46
ファクハク 静岡工場博覧会	48
市場街 (高岡クラフト市場街)	50
トミファ	52
GEMBA モノヅクリエキスポ	54
関の工場参観日	56
ひつじサミット尾州	58
はんだオープンファクトリー	60
こもガク	62
RENEW	64
千年未来工芸祭	66
滋賀、甲賀のモノヅクリズム	68
DESIGN KYOTO / DESIGN WEEK KYOTO	70
NeoTAN	72
大正・港・西淀川オープンファクトリー	74

大阪 靴と皮革の祭典 O-Round (オーラウンド)	76
泉州オープンファクトリー	78
不器用 FACTORY	80
いばらき、クルクル	82
FactorISM	84
みせるばやお	86
ワークワクワク河内長野	88
だいたいオープンファクトリー CONTACT	90
せつつキッズファクトリー	92
こーばへ行こう！	94
開工神戸 — KOBE OPEN FACTORY —	96
市播 ～はりまオープンファクトリー～	98
あまづくりパビリオン	100
あるこ～ば！	102
もっぺん	104
CRAFT VILLAGE	106
和歌山ものづくり文化祭	108
黒江るるる	110
つやまエリアオープンファクトリー	112
瀬戸内ファクトリービュー	114
来て見てみい、とくしま。	116
Heroes	118
オープンファクトリー CRASSO	120
諫早工場博 — ISAHAYA KOBA HAKU —	122
日田ものづくり探検隊	124
NEXTRAD	126
II . その他 各地の取組について	129
八王子オープンファクトリー	130
～職人探訪～十日町きもの GOTTAKU	131
OSAKA 町工場 EXPO	132
モノシロ	133
III . オープンファクトリーフォーラムの開催軌跡	134
IV . LOCAL X STAGE ガイドライン	136

I. 全国の地域一体型オープンファクトリー MAP



北海道

Meet up Furniture Asahikawa (あさひかわデザインウィーク)

北海道旭川市、東川町、東神楽町、当麻町、美瑛町

燕三条 工場の祭典
新潟県三条市、燕市

五泉ニットフェス
新潟県五泉市

彩の国オープンファクトリー
埼玉県さいたま市、入間市、久喜市、
加須市、川越市、狭山市、草加市、
秩父市、坂戸市、本庄市

KIRYU FOCUS
群馬県桐生市

東信州 産業の陣
長野県上田市、東御市、坂城町

秋の漆器祭
- ヨヨヨイ!!!
長野県塩尻市

ニラサキ
オープンファクトリー
山梨県韮崎市

やまなし
Jewelry Week
山梨県甲府市

ハタオリマチのハタ印
山梨県富士吉田市、西桂町

ファクハク 静岡工場博覧会
静岡県静岡市

共生 Shizuoka Craft Week
静岡県内

おうめオープンファクトリー
東京都青梅市

あやせ工場オープンファクトリー
神奈川県綾瀬市

台東モノマチ
東京都台東区
スミファすみだファクトリーめぐり
東京都墨田区
おたオープンファクトリー
東京都大田区
かつしかライブファクトリー
東京都葛飾区

東北

OPEN FACTORY
KORIYAMA
福島県郡山市

すかがわ TEC ツアーズ
福島県須賀川市

トミファ
富山県

市場街 (高岡クラフト市場街)
富山県高岡市

GEMBA モノづくりエキスポ
石川県小松市

関の工場参観日
岐阜県関市

だオープンファクトリー
岐阜県半田市

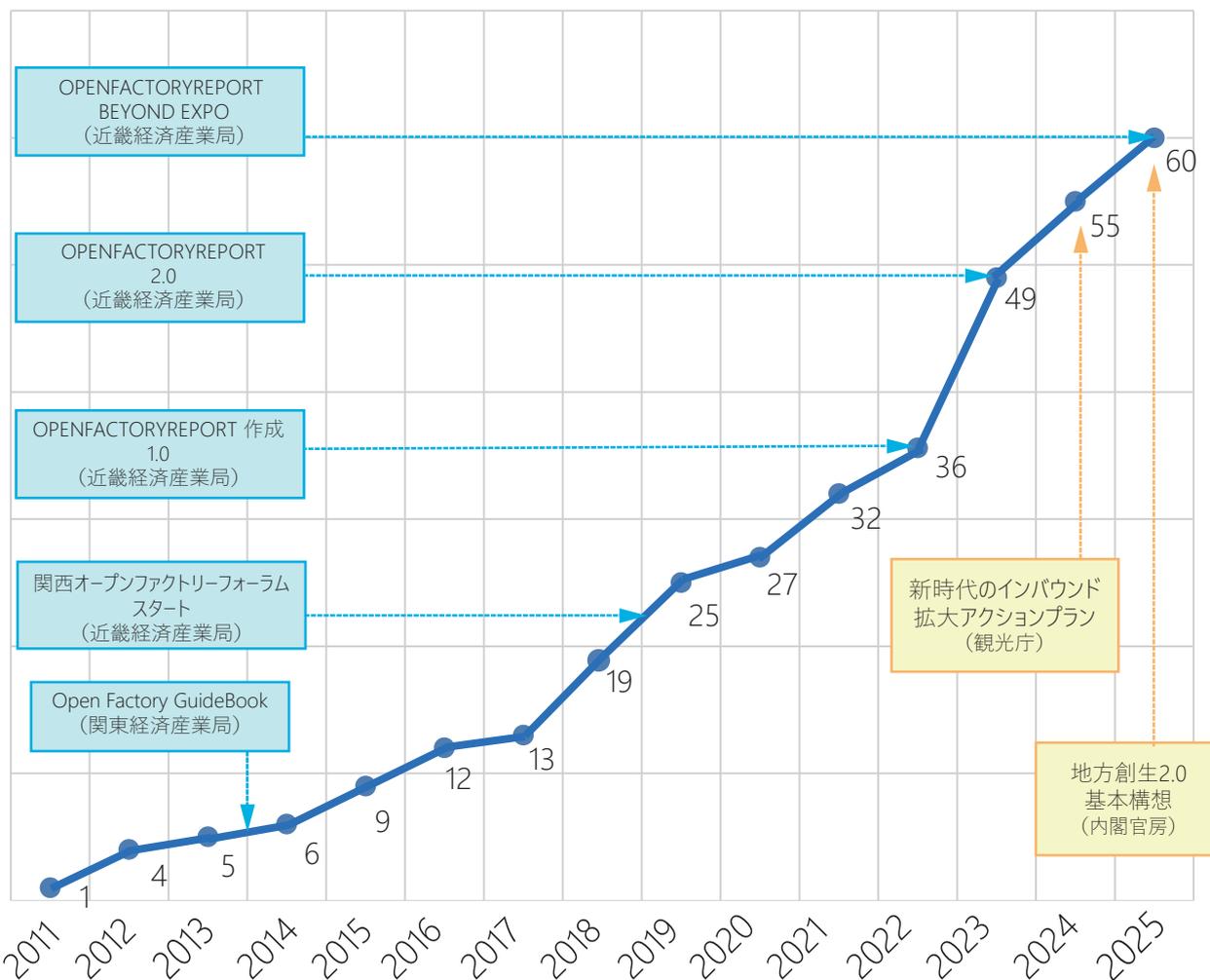
尾州
岐阜県津島市、岐阜県羽島市
尾州エリア

中部

関東

TIMELINE

開始年	取組名		
2011年	台東モノマチ		
2012年	スミファ すみだファクトリーめぐり	おおたオープンファクトリー	市場街（高岡クラフト市場街）
2013年	燕三条 工場の祭典		
2014年	関の工場参観日		
2015年	Meet up Furniture Asahikawa	RENEW	大正・港・西淀川オープンファクトリー
2016年	五泉ニットフェス	ハタオリマチのハタ印	DESIGN KYOTO/DESIGN WEEK KYOTO
2017年	こもガク		
2018年	彩の国オープンファクトリー みせるばやお	共生 Shizuoka Craft Week こーばへ行こう！	千年未来工芸祭 つやまエリアオープンファクトリー
2019年	かつしかライブファクトリー ニラサキオープンファクトリー	おうめオープンファクトリー 瀬戸内ファクトリービュー	あやせ工場オープンファクトリー 日田ものづくり探検隊
2020年	FactorISM	黒江るるる	
2021年	GEMBAモノヅクリエキスポ CRAFT VILLAGE	ひつじサミット尾州 NEXTRAD	泉州オープンファクトリー
2022年	OPEN FACTORY KORIYAMA 和歌山ものづくり文化祭	やまなしJewelry Week	ワークワクワク河内長野
2023年	360°よねざわオープンファクトリー ファクハク 静岡工場博覧会 不器用FACTORY あまづくりパピリオン 諫早工場博 -ISAHAYA KOBA HAKU-	すかがわTECツアーズ はんだオープンファクトリー だいたうオープンファクトリーCONTACT 来て見てみい、とくしま。	KIRYU FOCUS 大阪皮と皮革の祭典O-Round 開工神戸 -KOBE OPEN FACTORY- オープンファクトリー CRASSO
2024年	東信州 産業の陣 いばらき、クルクル	秋の漆器祭 -ヨヨイ!!! せつつキッズファクトリー	滋賀、甲賀のモノヅクリズム もっぺん
2025年	トミファ あるこ〜ば！	NeoTAN Heroes	市播 〜はりまオープンファクトリー〜



※本誌掲載事例のみを件数としてカウント

「オープンファクトリー」を切り口とした事業は、各地における地域一体型オープンファクトリーの取組が関東・北陸エリアから始まっていたことから、関東経済産業局において平成26年度「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域資源活用ネットワーク形成発展事業）」を活用する形で「Open Factory GuideBook」が制作されることが始まり。

その後、関西における取組の活性化を受けて近畿経済産業局でも「イノベーション政策」及び「万博を契機とした地域活性化事業」として位置づけ取組をスタート。各地の取組は世界中からビジネスパーソンが訪れる万博における「ビジネス・バイウェイ先」ともなり得ることから、全国版の事例集を取りまとめた。

また、作成に合わせて各地の経済産業局と連携しながら、互いのナレッジシェアを目的としたキーパーソン同士が登壇者となる「フォーラム」を開催。ナレッジシェアは登壇者のみならず、聴講者にも大きな影響を与え、次のオープンファクトリー実施者となっていくエコシステムとしての機能も果たした。

なお、2024年、2025年に公表された「新時代のインバウンド拡大アクションプラン」及び「地方創生2.0基本構想」にも「オープンファクトリー」という言葉が使われるなど、一般的に使われる言葉としても認識を広げていった。

【各経済産業局が実施したオープンファクトリーフォーラム】(2025年度末)

・近畿経済産業局	43回	・東北経済産業局	7回
・四国経済産業局	7回	・中部経済産業局	
・九州経済産業局	1回	電力ガス事業北陸支局	2回

Meet up Furniture Asahikawa (あさひかわデザインウィーク)



CORE VALUE

**家具に出会う。
産地で、会う。**

- EVENT DATA -

開始年 : 2015年
開催回数 : 10回
開催期間 : 例年5月下旬～6月中下旬
参加企業 : 47社(2025年)
来訪者数 : 約9,400人(2025年)
主催 : 旭川家具工業協同組合

FEATURES

新時代の産地展

2015年に「旭川家具産地展」から名称を変更し「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」としてリニューアル。「Meet up Furniture Asahikawa」は、2022年から旭川市民へ向けて家具以外の地域の団体も参加するイベントへと発展をした「あさひかわデザインウィーク」とともに開催されるプログラムである。世界に誇る木製家具産地としての総合インフラをフル活用した「ものづくりの現場」を舞台に開催。家具やインテリアをキーワードに集う多くの方々や木製家具の未来を共創することを目的とした新時代の産地展である。2025年は、オープンファクトリーや産地バスツアー等6つのコンテンツが実施された。

FUTURE

さらに満足度を高めるための企画へ

参加者のオープンファクトリーの満足度は高いものの、課題として、各社の見どころを見せることと、所要時間が長い点の2点がある。前者については、参加企業が同じ木工機械を使用しているため、見学の際に似たような印象を受けるとの声も聞く。各社の見どころや特徴をうまく監修し、変化をつけながらコース作成等の企画をしていきたい。後者については、道外からの訪問者は1泊2日で来られることも多い。ショートコース等、短時間で満足度の高い内容を提供できるように企画していきたい。

INNOVATION

デザイナーとのネットワークから生まれる新たな繋がり

Meet up Furniture Asahikawaには、異業種が協働する「大雪の大切プロジェクト」が参加する。「大雪の大切プロジェクト」は、参加企業である(株)大雪木工が家具デザイナーである小泉誠氏やグラフィックデザイナー等と立ち上げた、モノづくりを続けるために大切なコトを探索し続けるプロジェクト(2015年スタート)である。

こうしたプロジェクトの活動を続けながら、(株)大雪木工と小泉氏はゆるやかに連携してきており、他産地の異業種事業者との繋がりもできた。

実際、小泉氏のもと、カキモリ(東京・蔵前の文具店)や、坂爪スプリング製作所(新潟・三条の金属)と(株)大雪木工のコラボ商品が生まれている。また、Meet up Furniture Asahikawa開催期間中は、小泉氏とコラボ商品を生み出した3社でライブセッションも実施した。(一部オンライン)

元々、旭川家具では、デザイナーを始めとする外部パートナーとの連携が多く、他地域との連携にもつながっている。その背景には、もともと1990年から旭川独自のデザインコンペを行っていたことがある。コンペに向けてコラボ製品をつくるなど、長年培われたデザイナーとのネットワークがあり、これは旭川家具の大きな強みでもある。「東京では会えない(会わない)人に、旭川では会える」という声も聞く。デザイナー同士でも互いに時間がなくて東京ではなかなか会えないが、旭川(Meet up Furniture Asahikawa)に参加することで、ゆっくり話す時間を設けられる等、交流を深める機会になっている。

●事務局連絡先

旭川家具工業協同組合 事務局
〒079-8412 北海道旭川市永山2条10丁目1-35
TEL 0166-48-4135

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



SOMEYA NORIYOSHI
梁谷 哲義 氏
株式会社カンディハウス
代表取締役社長
ADW (ASAHIKAWA DESIGN WEEK)
初代プロジェクトリーダー

1996年 株式会社インテリアセンター（現 株式会社カンディハウス）に入社し、企画部長を経た後、2013年に同社の取締役マーケティング本部長に就任。2016年に取締役 企画本部長、2020年 専務取締役 営業本部／企画本部 統括、2021年3月に代表取締役社長に就任。2015年にリニューアルを行なった「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」プロジェクトチームの初代リーダーに就任し、積極的にイベントを推進した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

藤田 哲也 氏

株式会社カンディハウス 代表取締役会長
旭川家具工業協同組合 理事長
あさひかわデザインウィーク実行委員会 副会長

1982年に株式会社インテリアセンター入社。営業・販売業務を経験した後、1998年株式会社カンディハウス横浜を起業。2007年取締役営業本部長として同社復帰後、2013年に代表取締役社長、2021年に代表取締役会長に就任。旭川家具産地の成長と発展を目指し、ASAHIKAWA DESIGN WEEK等を推進。旭川家具を通して地域の活性化に貢献している。



旭川家具工業協同組合

次の森を育てながら家具をつくるという想いのもと、41社の組合員で活動する。活動内容は、共同展示場事業・共同購買事業・共同受注事業・共同物流事業等。

旭川家具
ASAHIKAWA DESIGN

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



2代目プロジェクトリーダー
佐々木 雄二郎 氏



Meet up Furniture Asahikawa リーダー
小助川 泰介 氏

ともにあゆむ

OTHERS

北日本木材株式会社 高原 昌央 氏

旭川市にある木材会社として積極的にオープンファクトリーを実施。イベント期間中には業界関係者や市民向けに木材の製造過程を公開しており運営に協力。

合同会社ココ企画 (産地バスツアー企画)

以前から、木工への理解を深めながらキャンペーンを行うツアーを企画・開催。2022年の産地バスツアー企画・運営に協力。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2014年までは「旭川家具産地展」として長年、プロユーザー向けに家具展を開催していた。旭川家具産地の価値をもっと高めていきたいという思いから生まれたのが「ASAHIKAWA DESIGN WEEK」である。イベント活性化の為、プロジェクトチームを発足させ、経営者以外の若い人もメンバーに入れるとともに、今まであったイベントを再編成した。こうして新しい視点や若い世代の意見を取り入れることにより、これまでの「旭川家具産地展」が進化した経緯がある。また、2019年にユネスコ創造都市ネットワークのデザイン部門に旭川市が加盟してから2021年に「あさひかわデザインウィーク」としてイベントが発展をしている。

TOPICS

旭川木工技能競技大会

新しい核となるコンテンツをつくらうという考えから生まれたのが「旭川木工技能競技大会」。最終形態の家具製品にスポットが当たりがちだが、技術力が旭川家具の強みでもある。これまで製品のコンテストはあったが技術に注目する場がなかったため、技術者にもスポットを当てたいという思いから企画が生まれた。企画内容は限られた時間（1時間）で課題に取り組み、木工技能を競うもの。予選から30名近くが参加、10名が決勝戦進出。決勝戦は家族含め参加できるよう、Meet up Furnitureの最終日である日曜日に開催した。今年初の取り組みであるが、とても盛り上がり、現場のモチベーションに繋がるなど可能性を感じている。



(写真) Meet up Furniture Asahikawa 当日の様子、旭川木工技能競技大会の様子等

360° よねざわオープンファクトリー

360°
Yonezawa Open Factory

CORE VALUE

米沢をひらく。

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 3回(2025年)
 開催期間 : 毎年9月頃
 参加企業 : 32社(2025年)
 来訪者数 : 約4,700人(2025年)
 主催 : 360°よねざわオープンファクトリー実行委員会

FEATURES

美盆地が育んだモノづくりの現場を360°満喫

「山々に囲まれた美盆地」であり、上杉家の城下町である米沢。街並みと、この土地で古くから育まれてきた伝統的なモノづくりの現場を360°余すことなく見学・体験して、自然・歴史・匠・食の全てを満喫できる地域一体型のオープンファクトリーを2023年に初開催。製品だけでなく、米沢という街そのものを知ってもらい「米沢ファン」を増やすべく、米沢織関係・発酵食品関係・大学・飲食店など、業種を超えた企業が輪となって米沢の魅力を発信するイベントとなっている。数字から名称がスタートするオープンファクトリーであることも特徴的である。

FUTURE

みんながもっと好きになる「米沢」へ

当初の予想を上回る約2,400名が来訪した初開催の2023年を経て、来年以降はさらに業種を拡大し、様々なモノづくり企業に参画いただきながら継続開催を予定。2年目以降もぶれない軸として大切にしているのは、モノづくりに従事する現場の人々が仕事と米沢の街をもっと誇れること。そして、その職人の想いが来場者にも伝わるような熱のあるイベントにすること。インナーブランディングが、職場環境の改善や若者取り込みに繋がるようにすること。また、新たなイノベーションの創出を目指して、多種多様な業種に参加してもらえるよう市内の仲間づくりと内容拡充に取り組み、街をあげての一大イベントを目指す。

●事務局連絡先

360° よねざわオープンファクトリー実行委員会事務局

〒992-0039 山形県米沢市門東町1-1-87 米沢織維協議会内
TEL 0238 - 23 - 3525

INNOVATION

価値の再発見と可能性への期待

2023年は、初開催ということで何もかもが手探り、参加企業の中でも、初めての試みに慎重な姿勢のところもあり、当日までは不安な思いがあった。しかし、フタをあけて見れば、予想を上回る約2,400名もの来場があった。

「こんなところに見に来る人がいるはずない」「お客さんが喜ぶだろうか」と不安を感じていた現場の間人も、多くの人が訪れ、真剣な眼差しで説明を聞き、作業を見ながら驚いた表情を覗かせるのを見て、パッと明るくなり背筋が伸びた。従事者が自身の仕事の価値を再発見し、モチベーションが向上したと、参加企業の多くがインナーブランディング効果を感じている。

また、若者にモノづくりの現場に触れる機会を作りたいと、地元の高校などへの呼びかけのほか、学生向けのバスツアーや学生ボランティア起用を実施した。若者を巻き込むことで地域への愛着を育み、ひいてはそれが、地元での就職という選択に繋がることを期待する。

そして、最も大きな可能性を感じているのは、企業間交流によって生まれる相乗効果である。事前に行った参加企業間を巡るキャラバンや交流会で他社のアイデアに触れることで、お互いに刺激を受け、自社の取り組みに落とし込みまた新しい発想に繋がった。特に今まで交流がなかった異業種との交流から生まれる発想は、未知の可能性に溢れている。今後、継続していく中で生まれるだろうイノベーションの芽が育ちつつある。



ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



360°よねざわオープンファクトリー実行委員長
KONDO TETSUO
近藤 哲夫 氏
近賢織物有限会社 代表取締役

京都での10年間の修行を経て、家業の近賢織物に入社。米沢繊維協議会の会長を務めながら、街の伝統産業の活性化を目指す。



企画担当
MIYAJIMA HIROAKI
宮嶋 浩聡 氏
プラットヨネザワ株式会社 代表

米沢出身。海外、首都圏でのキャリアを経て2017年に米沢へUターン。2022年にまちづくり会社「プラットヨネザワ(株)」を創業し、観光を中心とした持続可能なまちづくりに従事。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
鈴木 健太郎 氏
株式会社 nitorito



副実行委員長
小嶋 千夏 氏
株式会社小嶋総本店



副実行委員長
新田 真有美 氏
株式会社新田



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

様々な人が幅広く参加する実行委員会組織



運営
実行委員会



運営サポート
サンロク様



クリエイティブ担当
PR 部隊

TRIGGER & STORY 誕生秘話

上杉家ゆかりの城下町・米沢は、山々に囲まれ、豊かな水と美味しい食材に恵まれた歴史と伝統文化が根付く街であり、米沢織などに代表されるモノづくりも盛んに行われている地域である。そんな米沢のモノづくりの素晴らしさを街の魅力のひとつとして伝えたい。その想いを具現化する手段が、オープンファクトリーである。東北地方で実施している事例は少ないが、モノづくりの現場を見てもらってこそ、作られるモノの価値を伝えることができる。まさに求めていたものだった。もちろん、初の試みに慎重な企業もあったが、中心メンバーの熱意が伝わり、最終的には18社もの企業の参加が叫び、山形県内初のオープンファクトリーの実現となった。

TOPICS

360°楽しむオープンファクトリー

◆ 360°その1：「楽」

米沢織を使ったブローチ作り、ティーマット作り、がま口作り、リース作り、紅花染め体験、織り体験などバラエティに富んだワークショップを各社で開催。参加者は、モノづくりを見るだけでなく、体験してその楽しさを実感することができる。

◆ 360°その2：「知」

2023年は、期間中にトークイベントも開催。外部の作り手やアーティストとのクロストークで、360°あらゆる視点でモノづくりを考える知的満足度を満たす催しとなった。

◆ 360°その3：「食」

発酵・醸造企業による利き酒や味噌の食べ比べ、蔵めぐりなど食を楽しむ内容が充実。また、参加飲食店がオープンファクトリーのために考案したオリジナルメニューでオープンファクトリーを盛り上げた。



OPEN FACTORY KORIYAMA



CORE VALUE

感響 -Kankyō- 工場の音・光・人の動きが響き調和する

- EVENT DATA -

開始年 : 2022年
 開催回数 : 計4回
 開催期間 : 8月上旬、10月上旬、11月上旬(本開催)
 参加企業 : 12社
 来訪者数 : 約1,800名
※オープンファクトリー以外も含む全人数
 主催 : オープンファクトリー KORIYAMA 実行委員会

FEATURES

年間を通してオープンファクトリー関連のイベントを展開

2022年に福島県で初めてオープンファクトリーを実施。福島県郡山地域の町工場が集まり、普段は見せることのできない工場を公開する「工場見学」や各社ならではの「ものづくり体験」を提供する。11月の本開催のほかに、「中央キッズスクール×ものづくり工場」と題して、夏休みに小学生向けのワークショップ等を実施した。さらに、郡山市内の商業・工業・農業が一堂に会する「こおりやま産業博」にも出展し、来場者へ体験イベントを開催した。

FUTURE

過去3回の課題を踏まえて

これまでの開催を通して見えてきた課題を解決するため、「参加企業」「来場者」「工場開放企業」に具体的な目標値を設定し、目標達成のため様々な取り組みを実施した。その結果、概ね目標値を上回ることができたため、今後も中・長期的な目標値を設定し、更なる認知、向上を目指して挑戦を続けたい。

INNOVATION

参加企業の意識の変化

これまで社長が1人でオープンファクトリーの活動に参加していた企業において、社員が積極的に参加し、当日の工場見学やワークショップの運営等を任せたり、新たなワークショップの提案をするなど、企業内部の変革があった企業も出てきている。

学生との連携

本年度も学校法人国際総合学園 FSG カレッジリーグ国際ビジネス公務員大学の学生と連携を図った。各社の工場訪問により事業内容を理解した後に、若者ならではのアイデアやスマートフォンスキルを活かして、企業紹介用の動画制作や各種イベントの運営などを協力していただいた。今後も継続して連携を図っていききたい。

●事務局連絡先

オープンファクトリー KORIYAMA 実行委員会 事務局
 〒963-0115
 福島県郡山市南二丁目52番地(公益財団法人郡山テクノポリス推進機構内)
 ●問い合わせ先 郡山市産業創出課 (TEL 024-924-2271)



ウェブサイト



Instagram

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



WATANABE TAKUMI
渡辺 拓美 氏
日ノ出工機株式会社 代表取締役
OPEN FACTORY KORIYAMA
実行委員長

2019年日ノ出工機入社。それまで自身が持っていた町工場へのイメージが変わる機会・人・仲間に出会い、そのすべてを多くのひとに伝える場所を作るため、2022年に「OPEN FACTORY KORIYAMA」を立ち上げる。これからも郡山を中心に、ものづくりのおもしろさや町工場の力を広く発信し、郡山産業の新しい時代を共創することに尽力する。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
佐藤 伊知郎 氏
株式会社ケイ・エス・エム 代表取締役



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

参加企業

参加企業全社が実行委員として企画・運営を行った。

パートナー

- ・郡山市産業創出課
- ・郡山地域テクノポリス推進機構



実行委員会の様子

ともにあゆむ

OTHERS

学校法人国際総合学園
FSG カレッジリーグ
国際ビジネス公務員大学校
(JO-BI)

本開催や関連イベントの会場設営や参加企業のワークショップのサポート、企業紹介の動画制作など、JO-BIの学生の方々には様々な面で協力していただいている。



TRIGGER & STORY

誕生秘話

実行委員長である渡辺氏は、日ノ出工機株式会社に入社前は、製造業に対してややマイナスイメージを持っていた。同社に入社し、「郡山テックブートキャンプ」で自社製品を作ったことをきっかけに、自分が欲しいモノを形に出来る技術が自社にあることを実感し、仕事への熱量が高まりつつあった。ちょうどその頃、テックブートキャンプに参加した数社で燕三条工場の祭典を視察することとなった。工場の祭典に参加する企業が純粋にかっこよく、大きく感化され、社内外でPRする機会がほしいと考えた。共に視察したメンバーも同様に皆大きく感化され、企画が立ち上がった。

TOPICS

様々なイベントの同時開催

2025年の本開催では、市内高等学校が制作したプロジェクトマッピングや市内小学校の合唱の他、様々なアーティストによるステージイベント、各社の技術力やこれまでのイベントを振りかえる「写真展」、キッチンカーやフードエリアなど、来場された方がものづくりの他、音楽や飲食を一日中楽しめる魅力あふれる内容で実施し、多くの方にご来場いただきました。



すかがわ TEC ツアーズ



CORE VALUE

「すかがわ」が好きな
すべての人と企業へ

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
開催回数 : 3回
開催期間 : 11月頃
参加企業 : 19社 (2025年)
来訪者数 : 約500人 (2025年)
主催 : すかがわ TEC ツアーズ実行委員会

FEATURES

須賀川をもっと好きになってもらいたい

すかがわ TEC ツアーズは、須賀川市の地元企業が市と連携し、「企業」が主体的に「コミュニケーション」の起点となり、「一人でも多くの人や企業がつながり、須賀川がもっと元気になってほしい」という想いが込められたオープンファクトリー。

食品、通信機械、電子機器、化学、プラスチック加工、段ボール、精密機械、IT、金属加工、農業などの幅広い業種 19 企業が参画。

過去 3 回の開催は、「須賀川に誇りを持ち、須賀川をとにかく好きになってもらいたい」と、地元の 3 校の高校生約 500 人を対象に、現場見学バスツアーを実施。見学に加え、段ボールの筆箱づくり、腕時計の組み立て、米粉麺の試食、ハンダ付けなど、多様な業種だからこそできる様々な体験を通して、須賀川のものづくりの魅力を発信。

FUTURE

「人と人」「人と企業」「企業と企業」をつなぐ

2024 年度以降は、参画企業を増やすことも視野に入れつつ、対象を学生に限定せず、地域、そして全国へ、「コミュニケーションの輪」の拡大を目指し、次なるチャレンジをしている。

企業が点在しているという立地的なハードルを乗り越え、地域活性化に向けて地元企業が共創する仕組みをつくり、「毎年、新たなチャレンジを取り入れていきたい」と意気込む。

将来的には、地域とともに「すかがわの未来」を創造すべく、「人と人」「人と企業」「企業と企業」をつなぐオープンファクトリーに成長させていきたい。

●事務局連絡先

須賀川市商工課 (すかがわ TEC ツアーズ実行委員会事務局)
〒962-8601 福島県須賀川市八幡町 135 番地
TEL 0248-88-9142

INNOVATION

イノベーションの源泉は「仲間との信頼」

すかがわ TEC ツアーズは、市の公募で集結した 15 の企業が、実行委員会に参画し、運営チーム、広報チーム、デザインチームを編成。実行委員会は、「まずはやってみよう」、「予算がないなら工夫しよう」と前向きな言葉が飛び交い、楽しい雰囲気や包まれている。開催に向け、議論を繰り返しながら、各社のリソース、技術、ノウハウをフル活用し、様々な企画に取り組んできた。

ロゴ、HP、企業 PR の冊子の作成には、参加の印刷会社や IT 企業を中心となって取り組んだ。また、高校生への企業紹介の活動として、高校を訪問してのプレゼンテーションや各社で自社 PR 動画を作成。さらに、企業の日常の様子も届けたいと、各社リレー形式での Instagram 配信や、当日の様子もタイムリーに投稿するなど、参画企業が主体的に企画・運営を行っている。今後は、参加企業間で突撃取材を行い、他社紹介の発信を行うという企画もスタートする予定。

「すかがわ TEC ツアーズの強みは『参画企業の結束』。やる時にはしっかりやる、素晴らしい企業ばかり。実行委員会を開催するたびに、信頼関係が育まれていった。お互いを知らなかった企業同士で 1 つのことを一緒に成し遂げたのは大きな成果。」と神田実行委員長は語る。

オープンにすることで生まれた変化

参画企業の社員にも変化が生まれた。「ここ掃除しておいた方がいいですかね」、「学生にはこれを見せた方がわかりやすいですかね」など普段静かな社内で自然と会話が生まれるように。また開催後も「意外と面白かった」、「すごいって言われて嬉しかった」と、社員のモチベーションに繋がった。

オープンファクトリーが、社内の雰囲気や向上、働くことへの誇りややりがいを得られる機会となり、小さいかもしれないが、現場の社員や職人たちに良い変化が生まれ始めている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



すかがわ TEC ツアーズ実行委員長
KANDA MASAHIKO
神田 雅彦 氏

神田産業株式会社 代表取締役

1960 年生まれ
1981 年神田産業株式会社に入社
1997 年代表取締役に就任
地域の皆さまに育てられた経験から、これからの地域の発展や地域の在り方を模索中

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長

樽川 千香子 氏

アルファ電子株式会社 代表取締役社長

1980 年須賀川生まれ。2015 年に家業である同社に入社。2023 年に三代目社長に就任。須賀川の地域資源を活用した事業への取り組みもスタートしている。



副実行委員長

細井 潤 氏

株式会社クラフト 代表取締役社長

関東の IT ベンダー勤務を経て、2005 年 10 月にソフトウェア開発を主業とする株式会社クラフトに入社。2020 年 7 月に同社代表取締役社長に就任。須賀川市に会社がある意義を考えながら、人材採用活動に注力する。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

すかがわ TEC ツアーズ実行委員会

アルファ電子株式会社 食品事業部	株式会社須賀川東部運送
岩崎通信機株式会社 福島事業所	東京工芸株式会社 福島工場
エスケー電子工業株式会社	東北電力ネットワーク株式会社
大内新興化学工業株式会社 須賀川工場	須賀川電力センター
笠原工業株式会社	トキワ印刷株式会社
神田産業株式会社	林精器製造株式会社
株式会社吉城光科学	パラマウント硝子工業株式会社
株式会社クラフト	株式会社福島タネセンター
三柏工業株式会社	武蔵野精機株式会社
須賀川瓦葺株式会社	和田装備株式会社

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

すかがわ TEC ツアーズ実行委員会事務局

須賀川市経済環境部商工課

公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構

須賀川商工会議所

TRIGGER & STORY

誕生秘話

須賀川市の企業の課題として「人材確保が困難」という声が多く、市では「雇用の確保」を目的に、若年層へ企業の知名度を上げるためオープンファクトリーの実施を検討。

一方で、企業側としても、地域の人口減少が進む中で、地元で魅力ある企業があることを地域の人に知ってもらい機会を模索していたところ、東京都墨田区「スミファ」浜野実行委員長の講演（市主催）に気づきを得て、オープンファクトリーが課題解決の手段となり得ると実感。

このような経緯から「すかがわ TEC ツアーズ」は誕生し、行政と企業の共通の問題意識のもと、「官」と「民」がこれまでにない近い距離感で連携し、取組が推進していく。

※ TEC には Technology, Ecology, Energy, Company などの意味が込められている。

TOPICS

やればできる！自分たちでつくった企業 PR 動画

オープンファクトリー当日を迎えるまでに、限られた予算の中で、何ができるか議論の末、各社で動画編集アプリを活用し、企業 PR 動画を作成。

会社の歴史、事業紹介、若手社員等の生声を盛り込んだ内容や、ドローン撮影など各社で工夫を凝らした個性溢れる動画が完成した。中には、再生回数が 1,000 回に迫る動画や社内 YouTuber が誕生した企業も（笑）。

実は、各社、これまで動画作成の経験がなく、実行委員会では戸惑いの雰囲気・・・そこで参画している IT 企業が動画編集の講師となり講習会を実施することに。その結果、個性溢れる動画が無事完成。メンバーの力を合わせれば、やればできるというマインドが醸成され、動画作成を契機に、すかがわ TEC ツアーズのメンバー間の結束力が高まった。



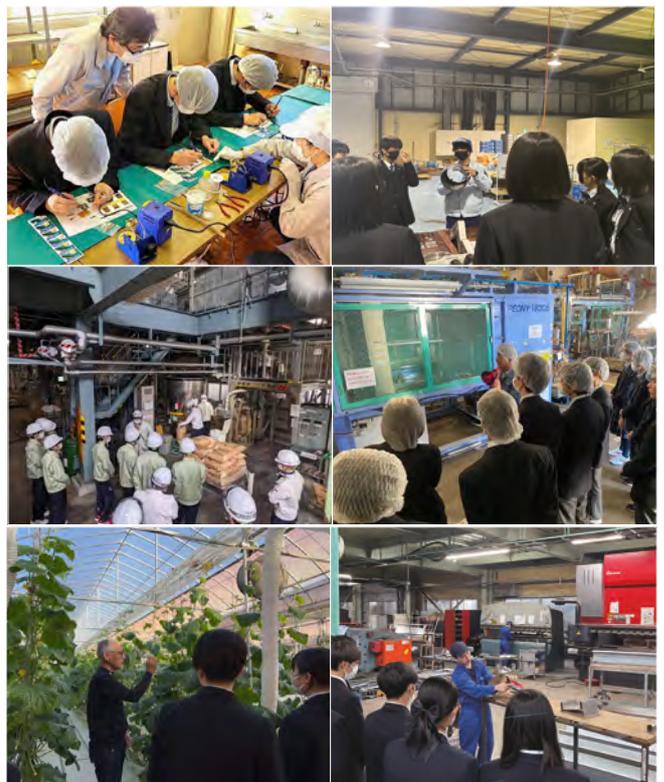
公式 Instagram



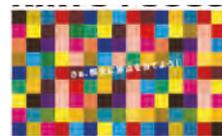
公式 YouTube



公式 HP



(写真) 工場見学やワークショップの様子



KIRYU FOCUS



CORE VALUE

さあ、桐生に焦点を当てよう！

- EVENT DATA -

開始年	: 2023年
開催回数	: 3回
開催期間	: 毎年11～12月頃
参加企業	: 25社・施設(2025年)
来訪者数	: 約1,400人(2025年)
主催	: 桐生商工会議所 桐生オープンファクトリー事業実行委員会

FEATURES

桐生の街の魅力にフォーカスする

桐生市は古くから織物のまちとして栄え、繊維の産地として知られている。今日でも、最終製品である織物だけでなく整経や縫製、刺繍など、製造工程を担う多くの企業が市内に存在する。また、近年は個性豊かなお店が集まってきており街の魅力となりつつある。そんな日常生活では目に触れにくい工場・工房を主役とし、古くから桐生を盛り上げてきたものづくりにフォーカスすることをコンセプトに、2023年から開催されたオープンファクトリーイベントが「KIRYU FOCUS」だ。

FUTURE

いつでも身近に感じられる桐生を

「KIRYU FOCUS」を実施した結果、これまでオープンファクトリーを実施していなかった企業からも問い合わせが来るなど、取り組みは桐生の方々に認知されてきている。こうした認知度向上の動きを経て、企業規模の違いから参加を遠慮していた小規模事業者にも働き掛けを行い、取り組みの輪を拡げていく。

桐生市内には、株式会社笠盛など、「KIRYU FOCUS」の取り組みを始める前から企業単体でオープンファクトリーに取り組む企業もあった。そのようにイベントだけでなく、随時見学者を受け入れることができる企業を増やし、桐生のものづくりをさらに身近に感じられるようにすることが、今後の目標だ。

INNOVATION

様々なイベントや協力者との連携

桐生市では街を盛り上げるために様々なイベントが開催されている。織物のまち桐生の魅力を伝えるイベント「桐生ファッションウィーク」も、その1つだ。このイベントは1996年から開催されており、元々は繊維製品や工芸品の展示販売が中心だったが、神社でのファッションショーや群馬大学のキャンパスでクラシックカーフェスティバルを開催するなど、常に進化を続けてきた歴史がある。2023年の「KIRYU FOCUS」の初開催は、ものづくりの観点から織都桐生をアピールすべく、織物とファッションとの関連を意識して、桐生ファッションウィークとの同日開催とした。両方のイベントに参加する企業の負担を考慮し、2024年は別日程での開催となったが、両年共に桐生を盛り上げるイベントとして、市内外から多くの参加者を集めた。

2025年は、参加企業が25社・施設に増え、酒造会社や木工所といった新たな事業分野の参画があった。また、各工場を見学する際の移動手段が課題となっていることから、中心市街地の工場を巡る低速電動バス「MAYU」を特別に運行した。期間中には、情報交換の場として、「職人と語る、桐生の夜」と題した交流会も開催し、ものづくりの裏側や日々のストーリーを、職人やスタッフなどがお酒を片手に語り合った。実行委員会では、他地域の取り組みも参考にしよう先進地視察や各地の仕掛け人を招いてセミナーを実施するなど、更なる進化を追い求めている。

●事務局連絡先

桐生オープンファクトリー事業実行委員会 事務局

〒376-0023 群馬県桐生市錦町3-1-25 桐生商工会議所 総務課内
TEL 0277-45-1201

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



桐生商工会議所副会頭
桐生オープンファクトリー事業 初代実行委員長
KASAHARA YASUTOSHI
笠原 康利 氏
株式会社笠盛 代表取締役会長

1877年に帯の織物業として創業した老舗、(株)笠盛。
長い歴史の中で、染めや編み、独自技術によるレースの開発など、変化し挑戦し続けてきた。現在、事業の中心は刺繍業で、国内外のブランドやメーカーとのものづくりのほか、ファクトリーブランド「000 (トリプル・オー)」を展開する。
笠原氏は、2019年に桐生商工会議所副会頭に就任し、会頭ビジョンの一つである「桐生のまち全体のブランド化」の一環として、オープンファクトリー事業に積極的に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

桐生オープンファクトリー事業 実行委員長
朝倉 剛太郎 氏
朝倉染布株式会社 代表取締役社長



桐生オープンファクトリー事業 副実行委員長
小山 哲平 氏
有限会社平賢 代表取締役社長



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

企画・広報



和崎 拓人 氏
ふふふ代表

デザイン



平本 友里 氏
株式会社桐梁

WEB制作
株式会社両毛システムズ

制作・印刷
株式会社アズ

ともにあゆむ

OTHERS

桐生商工会議所
ファッションタウン桐生推進協議会
桐生市産業経済部

実行委員

柳 明彦 氏 (株)ヤナギ
長谷川 博紀 氏 森秀織物(株)
川村 徳佐 氏 (株)桐
岡部 利明 氏 (株)トラストインターナショナル
片倉 洋一 氏 (株)笠盛

参加事業者 (2025年)

藍工房 正田
(有)青柳 ノコギリ屋根店
朝倉染布(株)
OLN / 井清織物
(株)笠盛
(株)協和
桐生織物記念館
桐生ものづくり協同組合

綿遊塾 工房風花
近藤酒造(株)
サンキンサービス
(株)シンクトゥギャザー
(株)土田産業
(株)トシテックス
(株)中里商店
(株)HANDLER

(有)平賢
(株)経岡木工所
三立応用化工(株)桐生工場
(有)ミヤマ全織
森秀織物(株) 織物参考館"紫"
(株)ヤナギ
(株)矢野テクニカルセンター染殿
(株)ユニマーク
(有)ワダノブテックス

TRIGGER & STORY

誕生秘話

「KIRYU FOCUS」の構想が持ち上がったのはコロナ禍の時期。当時桐生市では、繊維産業に携わる企業がそれぞれのノウハウを生かして、オリジナルマスクの開発を行った。各企業が個性を發揮したこの取り組みを行う中で、事業者が一丸となって桐生を盛り上げ、街のブランド化に繋げる取り組みが必要との声が上がリ、これを実現するためにオープンファクトリーの企画がスタート。桐生商工会議所の副会頭で、株式会社笠盛の代表取締役会長 笠原氏を中心となってイベントの開催を実現した。

TOPICS

桐生のものづくりを表現したメインビジュアル

「KIRYU FOCUS」のメインビジュアルは、様々な企業が織りなす桐生のものづくりを、カラフルなモザイク模様で表現したものになっている。2024年は、パンフレットやフライヤーに加えて、メインビジュアルをあしらった名刺サイズのイベントカードを作成。インパクトのあるビジュアルと配布しやすいサイズで、イベントの周知に一役買うアイテムとなった。



彩の国オープンファクトリー



2025.8.24

入間市工業会

ワクワクものづくり体験会

CORE VALUE

彩りいろいろ

- EVENT DATA -

開始年 : 2018年
 開催回数 : 計8回(2025年)
 開催期間 : 11月
 参加企業 : 約60社
 来訪者数 : 約700名
 主催 : 彩の国工業団地連携協議会

FEATURES

多彩な連携と交流の促進

彩の国オープンファクトリーの主催は「彩の国工業団地連携協議会」。本協議会は2016年に埼玉県内の工業団地工業会や工業団地連絡協議会などを正会員とし、また多くの協賛企業を賛助会員として設立された県内の工業団地を繋ぐ協議会であり、本協議会を中心として会員工業会がそれぞれに自分の色を出して多様な魅力を創出するオープンファクトリーとなっている。

「連携と交流」を基本テーマに、形式に拘らず、各工業会や賛助会員・特別会員間の交流を促進し、オープンファクトリーの活性化に繋げ、地域との連携・共生に向け有意義な機会を提供している。

【協議会構成】

- ・入間市工業会・岩槻工業団地事業協同組合・加須工業会
- ・川越東部工業会協同組合・川越狭山工業会・久喜市清久工業団地連絡協議会
- ・(株)久喜菖蒲工業団地管理センター・児玉工業団地工業会
- ・狭山工業団地工業会・秩父機械電気工業会・東埼玉テクノポリス協同組合
- ・富士見工業団地工業会・吉野原工業団地連絡協議会

FUTURE

世界とつながるオープンファクトリーへ
～ Open Factory World ～

今後、彩の国工業団地連携協議会では、埼玉県内のオープンファクトリー、東京都八王子市オープンファクトリー、さらには海外(パリのオープンファクトリー)の関係者の皆様と、将来のオープンファクトリーのコラボレーションについて意見交換を行う「ワールド・トークセッション」の開催を検討している。

INNOVATION

各団地が牽引するそれぞれのオープンファクトリー

「岩槻工業団地事業協同組合」

『彩の国オープンファクトリー 2025 in 岩槻』は、リアル工場見学11社、リモート工場見学・企業紹介動画含め34社が参画。さいたま市立中・特別支援学校の生徒に勤労観、職業観をはぐくみ、学ぶことの意義を考える機会とすることをねらいとした、さいたま市中学生職場体験事業「未来(みら)くるワーク体験」とタッグを組み中学校2年生男女を受け入れ、「リモート工場見学のリポーター」として活躍。「リアル工場見学」は、200名を超える、沢山の方にご来場者いただいた。リモート工場見学・企業紹介動画の動画は特設サイトで、引き続き配信中である。また、来年2026年春には、商業と工業、協力のもと、仮称：スプリングフェスティバル(ホコ天等様々な催しを企画中)を開催予定。地域との連携・共生に向けた進化へ挑戦していく。

「入間市工業会」

本年初めての試みとして、行政(市、教育委員会等)とタイアップで、「子供から大人、シニアまで楽しめる1日!」をコンセプトに、埼玉県入間市の技術を体験してもらえるように『ワクワクモノづくり体験』を開催。子どもたちの夏休み自由研究にも活用でき、当日は多くの来場者(約500名)にご参加いただき、ものづくりの楽しさや地域産業の魅力を体感していただく貴重な機会を創出した。

●事務局連絡先

彩の国工業団地連携協議会事務局

〒346-0028 埼玉県久喜市河原井町19番地
 ((株)久喜菖蒲工業団地管理センター内 3階)
 TEL 0480-48-7202

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



MATSUURA HIRONOBU

松浦 広展 氏

彩の国工業団地連携協議会
理事兼事務局長

日本も世界もオープンファクトリーを通して国際交流が始まりました。
共通は地域・企業・人が輝くことです。

“世界の仲間同士とオープンファクトリーを楽しみましょう”(^^)♪

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



石田 嵩 氏
彩の国工業団地連携協議会
会長
(川越狭山工業会 顧問)



澁谷 敬一 氏
彩の国工業団地連携協議会
副会長代理
(岩槻工業団地事業協同組合 理事長)



寺園 智樹 氏
彩の国工業団地連携協議会
副会長
(入間市工業会 会長)

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



石倉 啓安 氏
(株)イシクラ
専務取締役



濱地 雄平 氏
(株)Himawari
取締役



彩の国工業団地連携
協議会 顧問



田邊 幸裕 氏
(株)Tabeo
代表取締役

ともにあゆむ

SUPPORTERS

現在の会員概要

2025年5月1日現在 正会員及び賛助・特別会員

正会員 (13 団体)
入間市工業会
岩槻工業団地事業協同組合
加須工業会
川越東部工業会協同組合
川越狭山工業会
久喜市清久工業団地連絡協議会
(株)久喜昌備工業団地管理センター
児玉工業団地工業会
狭山工業団地工業会
秩父機械電気工業会
東埼玉テクノポリス協同組合
富士見工業団地工業会
富野原工業団地連絡協議会
(上記、会員企業数：約 750 社)

賛助会員 (27 企業)
大塚ウエルネスベンディング (株)
キリンビール (株)
コカ・コーラボトラーズジャパン (株)
五大工業 (株)
(株)サイサン
埼玉縣信用金庫
(株)埼玉りそな銀行
(株)サイコー
新日本輸送 (株)
住協建設 (株)
(株)全日警
TT 彩たま (株)
東京ガス (株)
東京電力エナジーパートナー (株)
飯能信用金庫
東日本電信電話 (株)
富士フイルムビジネスソリューションズジャパン (株)
(株)武蔵野銀行
マレリ (株)
日本生命保険相互会社
第一生命保険 (株)
大塚不動産 (株)

日東商事 (株)
(株)グローナーズ
R & C (株)
(一社) 埼玉県人材開発協会
(株)レビドル技研

特別会員 (4 企業、1 団体)
(株)埼玉新聞社
(株)テレビ埼玉
(株)日刊工業新聞社
(株)ジェイコム埼玉・東日本
公益財団法人さいたま市文化振興事務局

TRIGGER & STORY

誕生秘話

埼玉県内の工業団地工業会や工業団地連絡協議会などを正会員とし、また多くの協賛企業を賛助会員として、彩の国工業団地連携協議会が2016年に設立。各工業団地が抱える「人材採用」「人材育成」「販路拡大」といった課題解決をミッションとし、連携協議会では工業団地間の活発な情報交換、セミナー、インターンシップ等のプログラムを展開。魅力ある工業団地づくりにも繋がるオープンファクトリーに注目し、「燕三条 工場の祭典」を視察、実行委員長を招くなどして、各工業会のやる気を高めていきながら、2018年よりオープンファクトリーを開始した。

TOPICS (彩の国オープンファクトリー仕掛け人の想い)

オープンファクトリーという"しなやかな場"へ

我々が考えるオープンファクトリー。

それは単なるイベントではなく、「地域と企業をつなぐ」共創の場です。

2023年までは、私たち自身の会の中で開催することが中心でした。しかし、開催を検討する団体にとっては、既存の事業に加えて新たに取り組むことのハードルもありました。

2024年は一歩外へ。モノづくりとアートのコラボレーションによって、企業にも地域にも新たな付加価値を生み出す挑戦を行いました。

2025年はさらに広がりを見せ、近隣地域や海外のオープンファクトリーとの情報共有を開始。活動の流れが「内から外へ」と広がった3年間でした。

そして2026年は、「柔軟性」をテーマに。各団体が既に取り組んでいる事業も、オープンファクトリーの枠の中に自然に重なり合うような形を目指しています。もしかすると、オープンファクトリーの最大の魅力はこの柔軟性なのかもしれません。

変化に寄り添いながら、人と地域とものづくりが共鳴していく。そんな未来を、どうぞお楽しみにしてください。

オープンファクトリー仕掛け人
松浦 広展 Hironobu Matsuura

台東モノマチ



CORE VALUE

モノづくりのマチづくり

- EVENT DATA -

開始年 : 2011年
 開催回数 : 16回 (2025年)
 開催期間 : 5月下旬
 参加企業 : 121店 (2025年)
 来訪者数 : 約6万人 (2025年)
 主催 : 台東モノづくりのまちづくり協会
 (台東モノマチ協会)

FEATURES

モノづくりでマチづくりを

全国のオープンファクトリーの先駆け的存在である「台東モノマチ」。古くから財布やかばん、ファッション雑貨などの製造・卸の集積地として歴史をもつ東京の下町、台東区南部・御徒町～蔵前（カチクラ）エリアを歩きながら「街」と「ものづくり」に触れられるイベントである。「台東モノづくりのまちづくり協会」が主催する代表的なイベントで、多くのモノづくり企業やショップ、職人、クリエイター、飲食店等が参加している。産業振興にとどまらず「モノづくりのまちづくり」をテーマに掲げていることも特徴。2km四方のエリアを回遊してもらえる仕掛けとして考えたコラボ企画（複数の参加店を巡る体験ワークショップ）も好評で、毎回趣向を凝らした企画が展開されている。

FUTURE

モノマチが持続可能であるために

「モノづくりのまちづくり協会」では、オープンファクトリー開催時だけでなく年間を通しての情報発信の強化を目指し、一店一店、取材した参加店のルーツやモノづくりへのこだわりなど、より深い情報の発信をオウンドメディアで進めている。またモノマチが持続していくために良い意味でのスリムな運営のあり方、そして次の世代への引き継いでいく世代交替を見据えた新しいオープンファクトリーのたちを模索している。

INNOVATION

モノマチがマチを変えた

モノマチを通じて、マチに様々な変化が現れている。エリアの最大の魅力である、多くのクリエイターの存在もそのひとつ。モノづくりの町の魅力に惹かれて、工房を構えるデザイナーやクリエイターのアトリエが増加した。モノづくり企業との協業、クリエイター同士の交わりにより新しいブランドが生まれている。モノマチの波及がマチの変化を生み、その変化が、モノマチを変えていく。若い人が集まるマチへと変貌を遂げ、モノマチがあったからマチが変わったと言えるほど、モノマチは大きなインパクトをもたらしている。

企業とマチをアクティベートする「磁場」として

複数の参加店によるコラボ企画やクリエイターとの協業による商品開発、B to B企業のB to C事業への新たなチャレンジ等、モノマチを機に様々なコラボレーションが生まれている。ボタン加工のメーカーはモノマチでのお客様との接点やクリエイターや異業種との繋がりを機に、小売業を営みはじめた。パッケージや店舗内装などクリエイターが身近にすることが大きな推進力となったという。

モノマチの魅力は「モノマチは企業とまちをアクティベートする磁場」と捉えている。地域でモノづくりを営む人・店・企業を刺激し触発する、明日に向かってアクティベートしトランスフォーメーションを促す「磁場」となっている。

●事務局連絡先

台東モノづくりのまちづくり協会（台東モノマチ協会）

〒111-0056 東京都台東区小島 2-9-10

モノマチ公式サイト : monomachi.com email : info@monomachi.com

ONE TEAM

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

モノマチ 2026 実行委員長

西澤 昌隆 氏
Pheelit dogs



ビジュアルデザイン担当

進士 遙 氏
Haruka Shinjit Illustration



台東モノづくりのマチづくり協会 副会長

佐藤 正裕 氏
株式会社リアライズ



台東モノづくりのマチづくり協会 副会長

片岡 清高 氏
有限会社ファッションメイト片岡



台東モノづくりのマチづくり協会 理事

大井谷 猛 氏
株式会社プラス



台東モノづくりのマチづくり協会 理事

津久井 大輔 氏
株式会社コンボ



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

台東モノづくりの
マチづくり協会 会長



吉田 昌充 氏
株式会社ラモダヨシダ

ライター・広報担当



三田村 路子 氏

事務局
前島 昭美 氏

広報担当
森 あこ 氏

WEB サイト担当
細川 太郎 氏

ともにあゆむ

OTHERS

台東デザイナーズビレッジ 村長 鈴木 淳 氏
台東区 産業振興課 地域産業担当の皆様
モノマチ参加店とボランティアの皆さん



TRIGGER & STORY

誕生秘話

「台東デザイナーズビレッジ」の鈴木村長が、モノづくりに関心がある消費者を呼び込み地域活性化を目指すイベントを構想。地元企業等に呼びかけ、2010年にモノマチの前身となる「台東ファッションザッカエリア」を、翌年5月には佐竹商店街を舞台に初回「台東モノマチ」の開催に至った。第5回以降「台東モノづくりのマチづくり協会」を立ち上げ体制強化を図りつつ、参加店やボランティア、モノマチに共鳴する地域市民が中心となり、運営を行っている。

TOPICS

参加店の個性とまちを探検する楽しみ「モノマチ ZINE」

2022年に発行した「モノマチ ZINE」は、参加店自らが原稿をつくり制作する。お店を巡り手にいれたページをファイリングすることで、参加者一人一人のオリジナルなガイドブックができあがる。内容もレイアウトも各参加店の個性がしみだし人間味が感じられるのも意外な魅力になっている。

モノマチは、情報がわかりやすいところがないことで、却って宝探しのようなワクワク感が生まれ、まちを探検するような楽しみ方が魅力となっている。2026年開催のモノマチでも、参加店自らが原稿をつくる「モノマチ ZINE」の装いを新たに行う予定。



写真(中段左)モノマチマップ、(下段左)モノマチ ZINE。

Photo ©2022 taro hosokawa

スミファ すみだファクトリーめぐり



CORE VALUE

みつけよう、
君だけのものづくり

- EVENT DATA -

開始年 : 2012年
開催回数 : 13回 (2025年)
開催期間 : 11月中旬
参加企業 : 52社 (2025年)
来訪者数 : 約5,000人 (2025年)
主催 : スミファ実行委員会

FEATURES

スミファという場で、それぞれの想いを実現

昔から住宅街や商店街の中に町工場が立ち並ぶ墨田区。まちを巡り、工場の職人と話し、技術に触れ、ものが作られていく“現場”を肌で感じることでできるイベント。2025年は、開催13回目を迎え、「共創」をテーマに工場見学、ツアー、ワークショップ、お買い物コンテンツとした。デジタルスタンプラリーの活用や地域のカフェとの連携等、スミファの魅力伝えるため、毎年活動をアップデートさせている。来ていただく方に楽しみながら墨田のものづくりを知っていただきたいのはもちろんだが、参加する工場に「学びの場」を提供することが大きな狙い。実行委員会は、スミファをそれぞれの工場の成長の機会と捉えて場づくりを進めている。

FUTURE

世界へ、未来へ、進化し続けるスミファ

より深い“技”の世界のコンテンツ化、地域のさまざまな団体やグループとの連携、インバウンド向けコンテンツの充実と並行し、「江戸から続く職人のまち」という地域の歴史と「現代」を融合させ、形にとらわれず進化していきたい。

INNOVATION

運営体制を再構築し、リスタート

第11回終了後に他の実行委員のメンバーの環境が大きく変化したことで、運営体制の再構築を余儀なくされてしまった。そこで、東京都墨田区に本店を構える東京東信用金庫（ひがしん）が、信用金庫の組織力を生かし、運営の中心を担うことになった。加えて、墨田区観光協会や大学を含む教育機関等とも連携し、オールすみだでスミファを支える持続可能な体制を構築した。

●事務局連絡先

スミファ実行委員会事務局（東京東信用金庫内）

〒130-0026 東京都墨田区両国4-31-16

TEL 03-3633-5505

E-MAIL seminar-1200@higashin.co.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



HAMANO KEIICHI
浜野 慶一 氏
 株式会社浜野製作所 代表取締役 CEO
 スミファ実行委員会 実行委員長

1962年東京都墨田区生まれ。大学卒業後、都内の精密板金加工メーカーに就職。1993年株式会社浜野製作所代表取締役に就任。町工場が直面する量産加工の厳しい環境から脱却するため事業構造を見直し、自社の強みを活かした様々なプロジェクトに挑戦。産学官連携としての電気自動車「HOKUSAI」、深海探査艇「江戸っ子一号」、異業種連携としてアウトオブキザニアによる工作教室、ベンチャー企業を支援する「Garage Sumida」とその取り組みは多岐に渡る。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

東京東信用金庫



墨田区は東京23区でも有数のものづくりの街として知られているが、地域の都市化や後継者不足等を背景とし、工場数は全盛期の4分の1以下にまで減少している。その状況を改善し、地域の事業と雇用を守りたいという想い、そして、地域を元気に共に発展を目指す、という信用金庫の根幹にある理念に基づき、スミファへ参画することを決めた。準備にあたっては、若手職員を中心に試行錯誤しながら取り組んだ。この経験は大きな自信につながり、人材育成の面でも大きな成果をもたらしている。当金庫は、「つなぐ力」を非常に大事にしている。どんなに小さなことでも、一つ一つ真摯に向き合い、人と人、人と地域をつなげていくことが、やがて大きな成果へとつながっていくと信じている。こうした想いのもと、さまざまな地域貢献活動にこれからも積極的に取り組み、地域とともに歩んでいく。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

墨田区
 産業観光部
 産業振興課

スミファ
 実行委員会

一般社団法人
 墨田区観光協会

スミファ
 参加企業の皆様

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2011年におおたオープンファクトリー（大田区）とモノマチ（台東区）が相次いで始まり、墨田区役所から、モノづくり企業の若手後継者を中心とした一般社団法人配財プロジェクトに「墨田区でもやれないか？」と話があった。先行していたオープンファクトリーとの横の繋がりも元々あり、イベントの様子を見て、お客様も楽しそうで工場の方も生き生きしていたのを見て、やってみることに。当初は、工場の方は会議自体に慣れていない方も多かったが、始めてみると、自ら他地域のイベントに参加し、アイデアを出し、自分の身の丈にあわせて工夫をしながら積み重ねてきた。

TOPICS

「プレスミファ」や勉強会が生む学びと交流

スミファでは、「プレスミファ」として、参加企業向けの本番前の工場見学会の研修イベントを企画。目が肥えたお客さんにも満足してもらえるよう、自分自身が体験し、何を聞いたらわかりやすく、どういう見せ方をすればよいか、お客さんの見たいものを見せられるか、お客さんの関心をひくためにどういう準備が必要か、オープンファクトリーの魅力を高めるための実践知を学んでいただき交流する場となっている。



（写真）スミファ当日は、参加企業の技術に直接触れることができるほか、実行委員会が企画したツアーなども楽しめる。

おおたオープンファクトリー



CORE VALUE

大田の技に会いに行こう！

- EVENT DATA -

開始年 : 2012年
 開催回数 : 14回 (2024年)
 開催期間 : 例年11月頃
 参加団体 : 72団体 (2024年)
 来訪者数 : 約3,800人 (2024年)
 主催 : おおたオープンファクトリー実行委員会

FEATURES

モノづくり、まちづくり、観光の連携イベント

小さな町工場の集積地である東京都大田区。機械金属加工を中心としたB to Bの工場がその多くを占めている。おおたオープンファクトリーは、そうした町工場の中を一般向けに公開し、モノづくりの技術や職人と触れ合う見学・体験ができるイベントとして、2012年にスタートした。運営は「おおたクリエイティブタウンセンター」、「大田観光協会」、「工和会協同組合」からなる産学官連携の実行委員会を中心に担い、モノづくり、まちづくり、観光の3本柱とする「おおたクリエイティブタウン構想」を実現するプロジェクトとして「おおたオープンファクトリー」(以下、OOF)が展開されている。

FUTURE

ファクトリップ | FACTORY × TRIP |

オープンファクトリーの次の展開として、工場見学の通年化、収益化、集客の広域化を目指し、日本屈指の技術力・ネットワークをもつ、モノづくりのまちで、子ども達に「学ぶ」「発見する」「探究する」を叶える様々なトリップを提供開始。
 ①町工場でSDGsを学ぶツアー、②工場廃材を生かした工作体験・SCRAP、③モノづくりを教材とした探究学習プログラム、④モノづくり関連施設見学/ガイドツアーなど、小中高生向けの教育旅行・教育プログラムの企画に挑戦している。

受賞アワード

2013年 第7回「産業観光まちづくり大賞」金賞受賞
 2017年 第3回「ジャパン・ツーリズム・アワード地域部門賞受賞」
 2018年 第4回「ジャパン・ツーリズム・アワード地域部門賞受賞」
 2019年 厚生労働省 令和元年度「地域発!いいもの」に選定

INNOVATION

職人ネットワーク「チーム仲間まわし」

もともと大田区では、金属の曲げ、穴あけ、溶接、磨きといった独自の加工技術をつなぎあわせ一つの最終製品が製造されてきた。そのプロセスを一般のお客さまにわかりやすく体験してもらい、伝えようと思ったのが、この「チーム仲間まわし」だ。

当初はOOFのイベント企画として取り組まれたが、続けるうちに若い職人達がつながる新しいコミュニティが誕生した。2021年からはデザイナーユニットやIoTシステム開発技術者も仲間に加わり、「アンプ Project」に取り組んでいる。

おおたクリエイティブ拠点との連携

大田区では近年、町工場のまちのポテンシャルを活かしたアートやまちづくりのための拠点、クリエイターの活動や新たな創造的な活動を推進しているクリエイティブな施設がここかしこに生まれてきている。

OOFでは、これらの施設を「おおたクリエイティブ拠点」と呼称し、連携を図っている。2022年には、羽田イノベーションシティ、ART FACTORY城南島、KOCA、六郷BASEにてアート作品やスタートアップ企業の展示などを同時開催し、大田区全域にOOFを展開した。

●事務局連絡先

おおたオープンファクトリー実行委員会 事務局

一般社団法人 大田観光協会内

〒144-0035 東京都大田区南蒲田1-20-20 大田区産業プラザ2F

TEL 03-3734-0202

仕掛け人

TREND SETTER



HIROSE YASUHIRO

広瀬 安宏 氏

おおたオープンファクトリー実行委員会 委員長
工和会協同組合 理事長
株式会社伊和起ゲージ 代表取締役

1970年、私が生まれた大田区の下丸子と呼ばれる地域では、まちにヒーローがあふれていました。学校帰りの道中、工場の中にいたヒーローたちは、錆びた鉄を削り、鉄同士をじっと光らせ合体させ、銀ピカの製品を作りあげていました。そのような大人たちに憧れ、私も職人になりたいと思い、気がつけば町工場のおやじになっていました。今度は私たちがヒーローに変身し、子供たちに「モノづくり」の良さや楽しさ、喜びを伝えていきたいと思い、オープンファクトリーへの参加を決めました。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

一般社団法人大田観光協会

大田区を持つ地域力を活かした観光まちづくりの推進を目指す一般社団法人。OOFの事務局を担い、大田区と連携しOOFの事業を推進する。また、オープン工場の窓口を担う。

一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター (OCTC)

「公×民×学」がそれぞれ活動しながら連携して豊かな「クリエイティブタウン」を生み出すためのプラットフォームとして設立された一般社団法人。全体調整、各種プログラムの企画、広報などに携わる。

工和会協同組合

大田区矢口、下丸子地域を中心として活動する中小事業主の事業協同組合。OOFの工場側の取りまとめ役として、各工場への参加呼びかけや、各種企画への協力を行う。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

大学生 (横浜国立大学 & 東京都立大学)



OOF開始当初から「モノづくりのまち」を広めるため各種企画を担っている。

ねじまき隊



OOF当日の来訪者の案内誘導や、各工場での案内の補助を担っている。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

住工混在のまちでありながら、BtoB製品の製造が多く、どのような製品が作られているのかわからない大田区の町工場。大田観光協会から東京都立大学・横浜国立大学に、「秘めた町工場」を観光資源として活用できないかと話を持ち掛けられ、オープンファクトリーの企画へとつながった。初動期には、大学生のパワーが地元の工場を巻き込みながら進められ、若い感性でのツアー企画や体験プログラムなど、新たな観光コンテンツが誕生した。

TOPICS

おおたクリエイティブタウン構想

「おおたクリエイティブタウン構想」とは、大田区のまちの豊かさを次世代にまで受け継ぎ続けるために、これまでの地域のアイデンティティでもある「モノづくり」の力を、地域の重要な資源として生かしながら、新しい価値を生み出すための創造性も採り入れ、これを暮らしの中に落とし込んでゆくための総合的な都市再編（エリア・コンバージョン）構想である。特に、①「技術」（モノづくりの力）×②「創造」（クリエイティブな力）×③「生活」（地域の力）を重ね合わせることで、大田区ならではの、地域価値を豊かに育むことができるような将来像を描いている。



(写真) 上から右回り：学生企画の様子、ART FACTORY 城南島「OPEN STUDIO 2022」、「チーム仲間まわし」の「アンプ Project」、「START UP FES in OOF '22」(羽田イノベーションシティにて開催)、工場オープンの様子

かつしかライブファクトリー



CORE VALUE

ものづくり体験型 オープンファクトリー

- EVENT DATA -

開始年 : 2019年
 開催回数 : 7回 (2025年)
 開催期間 : 10月下旬
 参加企業 : 11社 (2023年)
 来訪者数 : 153人 (2025年)
 主催 : かつしかライブファクトリー実行委員会

FEATURES

ものづくり体験型オープンファクトリー

小規模なオープンファクトリーながら、葛飾のものづくり文化を体験できるワークショップ中心の工場見学イベント。「かつしかライブファクトリー」という名に込められた「葛飾町工場の生きる (LIVE) 姿を、実際に (LIVE) 見て、体験してほしい」という願いに共感する9社がそれぞれ企画する工場見学やワークショップを実施している。イベントでは実際に職人が立ち合い、加工のノウハウ・勘所や難しい点のアドバイスなど、リアルなコミュニケーションも楽しめる。制作した作品は持ち帰れることもLIVE感へのこだわりで、例年、参加者の満足度も非常に高い。

FUTURE

ものづくりとともに、葛飾のまちづくりを

住工混在地域である葛飾で展開される「かつしかライブファクトリー」が見据える未来は葛飾区域全体の活性化。自分たち工場のことだけを考えるのではなく、「三方良し」を基本に市場や地域が良くなるのが大切だと考え、地域の財産である工場を活かしながら、地域の産業観光につなげることを目指している。

その一歩として飲食店の紹介ツールを企画予定だという。地域の人たちオスメの飲食店や地域のお土産なども紹介したいと構想が膨らむ。

INNOVATION

顧客接点での自信から新商品へチャレンジ

オープンファクトリーをきっかけに地域の参加企業のマインドも変化している。「下請けで受注した仕事をこなすだけ」という受け身の姿勢から、自らアイデアを出し企画を考えるなど、積極さが増している。また、企業間で互いに仕事をお願いしたり、自分ができない仕事を仲間へ紹介したりと横の連携も強まっている。

ワークショップの参加者から技術とアイデアを評価されたことをきっかけに、新しく自分たちで売れるものを自社製品として開発し、ビジネスとして展開しようという企業が生まれ始めている。期間限定で「メイドイン葛飾★自動販売機 (まいぶれ葛飾セレクション)」で販売も行った。

小さく、深い。本格派コラボレーション企画

このコラボレーション企画は「異業種がお互いのできることを合わせて、一つの作品を作りたい」という参加企業からの発案で企画された。革の染色体験、椅子張りの工場で椅子や時計を製作など、参加者にも好評であった。

今は数社内での取り組みだが、好評だったコラボ企画はほかの企業も取り入れる動きがあり、オープンファクトリーが参加企業同士、より濃く、深くつながる、良い機会となっていることは確かだろう。

●事務局連絡先

かつしかライブファクトリー実行委員会 事務局

株式会社ミヨシ

〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩 5-19-14

TEL 03-3692-0662

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



SUGIYAMA KOUJI
杉山 耕治 氏
 株式会社ミヨシ 代表取締役
 かつしかライブファクトリー発起人
 かつしかライブファクトリー実行委員長

大学卒業後、三造環境エンジニアリング就職。ゴミ処理プラントの補修工事監督業務に従事した後、家業を継ぐために株式会社ミヨシ入社。金型設計、金型製作、射出成形の技術を習得し、10年間工場加工業務に従事。2012年技術士を取得。同年、代表取締役に就任。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

かつしかライブファクトリー参加企業
 有限会社アズ池田 有限会社海鴻社
 新越精機株式会社 有限会社立花製作所
 有限会社坪川製箱所 長坂染革株式会社
 有限会社長沢ベルト工業 株式会社日新鉄工建設
 有限会社山崎精工 株式会社ミヨシ
 モールドメーカー株式会社カミジョー



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

かつしかライブファクトリー実行委員会

ともにあゆむ

OTHERS

後援：葛飾区
 協力：スミファ実行委員会
 台東モノづくりのまちづくり協会
 まいぶれ葛飾

※後述の TRIGGER & STORY、TOPICS 参照

TRIGGER & STORY

誕生秘話

発起人の杉山氏（株式会社ミヨシ代表）が2014年「燕三条工場の祭典」の体験に感動し、モノマチ、浅草エーラウンド、スミファなどにも参加し開催を決意。2017年に自社のみでオープンファクトリーをスタートした。

近隣の「モノマチ」関係者から運営のアドバイスを受け、試行錯誤しながら回を重ねるうちに、徐々に葛飾区内企業からの理解も得られ、参加企業も集まった。また、その頃「スミファ」実行委員会にオブザーバーとして参加しながら運営手法を学んだという。こうした支えと杉山氏の強い想い、さらに方向性を同じくする企業が集まったことで2019年の第1回かつしかライブファクトリー実現へと導いた。

TOPICS

東東京地域のオープンファクトリー間の連携

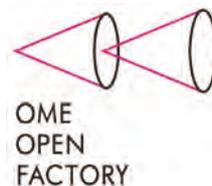
かつしかライブファクトリーは、オープンファクトリーが盛んな東東京の中では後発イベントである。「モノマチ」「スミファ」「浅草エーラウンド」といった先行していたオープンファクトリーとのかわりも深い。

運営ノウハウを教えてもらったり、イベントにも参加したりといった、先輩後輩のような人間らしい関係性がそこにはある。2022年5月には、モノマチのスペースで4団体でのコラボイベント「東とうきょう物造会」も開催。東東京地域が一体となって地域を盛り上げるべく、連携を強めている。



(写真) オープンファクトリー、体験ワークショップの様子等。

おうめオープンファクトリー



CORE VALUE

青梅だから“つくる”が“つづく”

- EVENT DATA -

開始年	： 2019年
開催回数	： 7回
開催期間	： 毎年11月頃
参加企業	： 35社（2025年）
来訪者数	： 470人（2025年）
主催	： おうめオープンファクトリー実行委員会 青梅商工会議所

FEATURES

青梅の地域経済の復活を目指す新たな挑戦

青梅市は多摩地域北西部に位置し、かつてはハイテク産業の集積地として栄えていたが、近年では大手メーカーの工場が相次いで転出し、地域経済は大きな転換期を迎えている。このような状況を受けて、青梅商工会議所は「青梅のものづくり」を活性化させるための取り組みとして「おうめオープンファクトリー」を立ち上げた。

FUTURE

青梅市の未来を担う取り組み

開催初年度には30社が参加していた青梅オープンファクトリーであったが、2年目は新型コロナウイルスの影響で全面オンラインでの開催となり、参加企業が15社へと大幅に減少した。翌年からオンライン、リアルとのハイブリット開催を試みてきたものの依然としてコロナの影響は大きく、地域内の行事も少なく、家族連れの参加がほとんど見られない状況が続いていた。そこで、実行委員会では集客方法の工夫について協議し、ホームページやチラシの見せ方を改善し、参加者が飽きないような新しい方法を模索している。また、地元高校の進路指導教員を通じて説明会を行い、参加企業へのインターンシップ機会を提供することで、人材確保や地元高校の認知度向上を狙っている。

ものづくりに興味を持つ人々が集まる町を目指している青梅市。常に多様なものづくり企業が切磋琢磨しながら地域の機運を高めていく取り組みを模索し続けている。実行委員の間でも、参加者が飽きないようなイベントの工夫が重要であると話し合われており、他地域とのオープンファクトリーとの交流を通じて、青梅のまちづくりのさらなる進化を追い求めている。

INNOVATION

まちづくりを「目的」から「手段」へ

2022年に開催された4回目のおうめオープンファクトリーでは、これまでの取り組みから発展し、見学者が工場を「見る」だけでなく「参加する」機会が増えた。実行委員長の奈良野氏は、同オープンファクトリーのブランディングを担当している明星大学デザイン学部の萩原教授などのアドバイスによって、見学者を対象としたワークショップの開催に踏み込んだり、取り組みを通じて専門的な知識を持つ見学者との交流が生まれ、今後BtoBやBtoC事業に発展する可能性を感じているという。

さらに実行委員会を担う商工会議所は、地域事業間で各企業の得意分野を生かしたデザイン性の高い地域プロダクトを生み出す構想も進められている。

オープンファクトリーの参加企業や見学者の数を増やすこと以上に、一人一人に丁寧に青梅市の魅力を伝え、伝わるオープンファクトリーの“質”を追求する段階にあると強調している。実際の取り組みとして、見学を完全事前申込み制にし、企業側の負担を考慮する等さまざまな試行を通じて青梅にとって最適な開催方法を見つけ、将来的には地元企業主体で恒例化していきたいと考えている。

このように「おうめオープンファクトリー」は単なるイベントから、地元企業がつながり新たな地域経済の循環を生み出す「手段」としての役割を果たしつつある。

●事務局連絡先

青梅商工会議所

〒198-0081 東京都青梅市上町 373-1
TEL 0428-23-0111

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



おうめオープンファクトリー実行委員長

NARANO TSUYOSHI

奈良野 剛 氏

株式会社丸芝製作所 代表取締役

おうめオープンファクトリー実行委員長。

1993年より株式会社丸芝製作所の代表取締役に就任。

オープンファクトリーの取組を通じて、地域企業間で個々の得意分野を生かしたデザイン性の高い地域プロダクトを目指し、構想を重ねている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

おうめオープンファクトリー実行委員会

副実行委員長

池田 和弘 氏

株式会社池田製作所 代表取締役



副実行委員長

成澤 崇志 氏

アドフォクス株式会社 代表取締役



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

萩原 修 氏

明星大学 デザイン学部 教授



瀬戸山 雅彦 氏

グラフィックデザイナー



青梅商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS

オープンファクトリー 2025 参加企業

小澤酒造株式会社、株式会社MOPTOP、原島製菓、Studio fu-mine Copper Works、有限会社プラム、株式会社池田製作所、藍染工房 壺草苑、ホットマン株式会社、株式会社クボプラ、株式会社丸芝製作所、有限会社菅谷食品、株式会社アサップシステム、東京都自動車整備振興会 大多摩支部、アドフォクス株式会社、株式会社サムライTシャツ、武州工業株式会社、南デザイン株式会社、大和製函株式会社、住友金属鉱山株式会社 青梅事業所、株式会社昭和石材工業所 青梅事業所、美光印刷株式会社、株式会社立川あん工房、太陽誘電モバイルテクノロジー株式会社、青梅トヨー住器株式会社、株式会社イシダ技研、野村DS株式会社、株式会社鬼塚硝子、株式会社指田製作所、有限会社三ツ原芸社、株式会社エイム、五十鈴中央株式会社青梅サービスセンター、井戸鉄建株式会社、株式会社せきづか、株式会社有明電装、株式会社ボーダーライン

TRIGGER & STORY

誕生秘話

現実行委員長の奈良野氏より「なにか製造業を支援してくれる事業はないかな?」とのリクエストをいただき、青梅商工会議所の事業として2019年から開催している。開催準備としてオープンファクトリー先進地の「おたオープンファクトリー」と「スミファ」、そして「かぬまオープンファクトリー」を視察させていただいたことが大きな力となった。

翌2020年からコロナ禍となったが、Zoomを使ったオンライン工場見学として実施し、その後もリアル型・オンライン型両方でオープンファクトリーを継続した。

2021年からは明星大学デザイン学部の萩原修先生にクリエイティブディレクションを、アートディレクションをデザイナーの瀬戸山雅彦氏に担っていただいている。

TOPICS

青梅は木材産業・繊維産業で栄え、そこから製造業が発展した。様々なジャンルのものづくり企業が活躍しており、出展企業も金属機械加工・プラスチック加工・電子機器メーカー・食品製造・自動車整備工場・ハウスメーカー・タオルメーカー・藍染工場・半導体工場など多種多様であり、この多様性こそが青梅の強みである。





あやせ工場オープンファクトリー



CORE VALUE

来て、見て、触って
町工場と繋がろう。

- EVENT DATA -

開始年 : 2019年
開催回数 : 7回
開催期間 : 8月～11月・4日程(2024年)
参加企業 : 4エリア 延べ60社(2024年)
来訪者数 : 延べ5,930人(2024年)
主催 : あやせ工場オープンファクトリー
実行委員会

FEATURES

"繋がり" から地域産業を活性化させる

中小製造企業が多く立地する「ものづくりのまち」綾瀬市だが、地域住民や従業員の家族、子ども達など、一般の方との接点はほとんどなかった。一般の方を対象にした工場見学イベントを町工場一丸となって企画し、人と人、人と企業、企業と企業の“繋がり”を創出することを目指し開催している。2019年、綾瀬工業団地の50周年記念を皮切りに単独開催を重ね、第4回目の2022年からは、市内全域に拡大し、市内に点在する4エリア(吉岡エリア、早川・さがみ野・小園エリア、上土棚・与蔵山下エリア、綾瀬工業団地エリア)、4日程で開催した。

FUTURE

学校とも連携し、子ども達がいつも訪れる工業地帯に

地元の小中学生が社会科見学の一環で訪れる「毎日がオープンファクトリー」と言えるような地域に根づいたすがたを想像している。全国いろいろな地域から人びとが訪れる非日常的なオープンファクトリーと、地域の子も達が授業や学校帰りに訪れる日常的なオープンファクトリーという、2つの形の共存を目指している。綾瀬の町工場での、ものづくり体験が子ども達の記憶に残り、来年もまた行きたい、さらに将来ここで働くことも選択肢の一つになるような、未来の“繋がり”を生んでいく場。そんなオープンファクトリーとしていきたい。

INNOVATION

"距離" を縮めるオープンファクトリーで未来へ繋がる

自動車部品となる機械や金属加工の工場が集積する綾瀬の工場団地のオープンファクトリーは、「来て、見て、触って」がコンセプト。よく知らないがゆえに、「危ない」と思われている工場に対する先入観とのギャップを埋めたいという思いから、オープンファクトリーをスタートした。

火花の散る溶接体験やプレス加工、板金からつくるプラモデルなど、子ども達が楽しみながら、本物の技術をすぐそばで体験できるのが大きな特徴になっている。普段は黙々と作業する職人たちも、お客さんに一生懸命、説明をし、その笑顔を見ることで自分も笑顔になっていく。子ども達に体験してもらうために、安全感覚が高まり、日頃の環境や作業での改善にもつながっていく。

工業団地の各工場は、もともとライバル関係に近かったが、オープンファクトリーをきっかけに、お互いが顔見知りになることで仲間意識も生まれている。同じ悩みを抱える後継ぎ同士だけでなく、その下の若い社員もオープンファクトリーを通じて、初めて他社の同世代を知り、繋がっていく。一緒にやる楽しさを実感し、そこから輪が広がり、横同士の繋がりがから仕事生まれていることに驚かされることもあり、若い社員の成長の舞台の一つになっていると感じている。

また、オリジナル焚火台を作る体験からは、参加者からの依頼でオリジナルデザインの焚き火台をOEMで生産・販売する例も生まれている。

●事務局連絡先

あやせ工場オープンファクトリー実行委員会

〒252-1108 神奈川県綾瀬市深谷上8-21-25

神奈川県綾瀬工業団地協同組合 綾瀬工業団体連合会内

TEL 0467-78-8383

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



あやせ工場オープンファクトリー
実行委員長
MARUYAMA YUJI
丸山 裕司 氏
神奈川県綾瀬工業団地協同組合 理事長
綾瀬工業団体連合会 会長
有限会社光製作所 代表取締役社長

県内でも有数のプレス加工、金型製作を手掛ける有限会社 光製作所の代表取締役の同氏は、大手外食チェーンの黎明期の中核メンバーとしての経験を活かし、「製造業はサービス業」という理念のもと、製造業の手法にとらわれない挑戦を続けている。

自社の課題は、業界全体の課題としてとらえ、同業者、行政、支援機関を巻き込みながら、中小製造企業の未来のための革新を続けている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

初開催時から実行委員会の中心メンバーとして、企画・財務・広報活動や各エリアの調整など、イベント全体を統括・支援。



野口 裕 氏
株式会社野口製作所 代表取締役社長



大原 浩志 氏
有限会社大原鋳金工業 代表取締役社長

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

吉岡エリア長



高崎 将二 氏
株式会社 KYOEI

早川・さがみ野・小園
エリア長



嶋 知之 氏
旭工業有限会社

上土棚・与蔵山下
エリア長



梶 宏朗 氏
株式会社ニチゲン

綾瀬工業団地エリア長



今 寿義 氏
株式会社ナウ産業

ともにあゆむ

OTHERS

綾瀬イノベーション推進委員会

市内企業の経営者等で組織された団体で、実行委員の多くが同委員会出身。中小製造企業の課題解決や、新たな価値創造にむけ、セミナーの開催・行政への施策提案・他地域団体との連携を図る。

あやせものづくり研究会

市内企業4社で組織された団体。調理器具などのB to C製品の共同開発、体験イベントを通し、ものづくりへの興味喚起や「ものづくりのまちあやせ」をブランディングを行い、オープンファクトリーの運営にも参画。

あやせ工場 営業部長（綾瀬市長） 橋川 佳彦 氏

綾瀬市が行う中小企業振興プロジェクト「made in Ayase あやせ工場プロジェクト」では、市全体を一つの工場（＝あやせ工場）に見立て、官民共同で様々な事業を展開。同プロジェクト内では、綾瀬市長は「あやせ工場営業部長」として「ものづくりのまちあやせ」をトップセールス。



TRIGGER & STORY

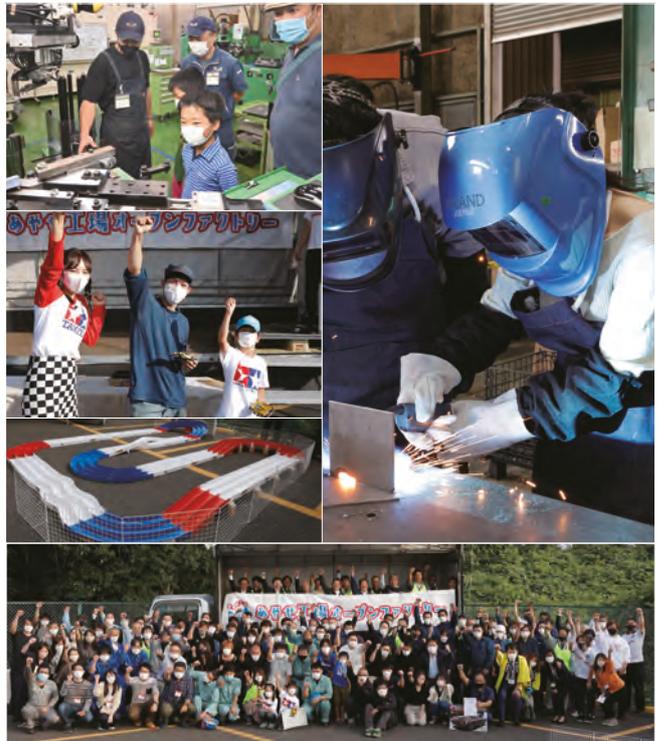
誕生秘話

お客さんとの距離が遠いものづくりにおいて、顧客の感謝や笑顔に直接的に触れる機会は少なく、ものづくりの現場では、その意味、やりがい、素晴らしさを忘れてしまいがち。ある日、子どもたちの工場見学を受け入れた丸山氏は、町工場の日常に驚き、楽しむ子どもたちの様子に、「町工場の日常はエンターテインメントになる」と確信。同時に、普段、寡黙な職人が誇らしげに話す姿を見て、工場見学が見る側・見せる側双方に相乗効果をもたらすと認識した。2019年、丸山氏が理事長を務める神奈川県綾瀬工業団地協同組合の創設50周年を機に、これまでを振り返るだけではなく、ものづくりの未来に繋がるオープンファクトリーを組合員に提案。実行委員と行政が一丸となって意識醸成を図り、『工場の日常、あなたの非日常』をテーマに初回を開催。普段は寡黙な職人が、若手が、町工場が、団地が、一般の方が、そして行政の目の色が変わる「ものづくりのまちあやせ」の大きなターニングポイントとなった。

TOPICS

ものづくり技術を楽しく、競う「ミニ四駆グランプリ」

ミニ四駆を題材に、気軽・楽しくものづくりに触れる機会の創出を目的に開催されたワークショップ。『遊び心でものづくりと繋がってみよう』をコンセプトに、企業の職人や一般の方が参加可能。エリア予選を経て決勝戦が最終日に開催され、優勝者が決まっていく。同市の合同入社式でも取り入れられていた「ミニ四駆グランプリ」は、その取り組みやすさとともに、競いあうことで本気度も仲間の結束も高まるワークショップとして、盛り上がりを見せている。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験・ミニ四駆グランプリの様子等。



燕三条 工場の祭典



CORE VALUE

オープンファクトリーのその先へ 新提言！“MakerScape（メーカースケープ）”

- EVENT DATA -

開始年：2013年
 開催回数：13回
 開催期間：例年10月頃
 参加企業：133社（2025年）
 来訪者数：62,060人（2025年）
 主催：工場の祭典実行委員会

FEATURES

オープンファクトリーの先駆的存在

金属加工の産地である新潟県燕三条地域の工場を一堂に開放し、ものづくりの現場を見学体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」は2013年が初回。毎年10月の数日間、「開け、工場！」をキャッチフレーズに、多くの観光客をお迎えしてきた。燕三条のものづくり技術の高さをデザインで表現。数々のデザインアワードを受賞し、全国のオープンファクトリーに取り組もうとする地域の一步先をいく「憧れ」の存在となっている。2023年に運営の世代交代、2024年より燕市・三条市の商工会議所青年部からの出向者と参加工場の有志メンバーで構成された新組織で運営を行う。

FUTURE/INNOVATION

10年の歩みから、文化を伝えるまちへ

「燕三条 工場の祭典」を通して「オープンファクトリー」の概念は製造業の意識を変え、まちづくりの新しい形として地域に定着した。今では30社近くの工場が年間を通じて観光客を受け入れている。

産業観光都市を目指し、2025年は133社がイベントに参加。来場者数・売上金額ともに過去最高を記録した。しかし実行委員会では「産業観光」という言葉に対して一定の違和感を抱くようになった。

受賞アワード／ターニングポイント

2013年 初開催
 2014年 グッドデザイン賞、第18回ふるさとイベント大賞 選考委員特別賞、
 第8回産業観光まちづくり大賞 経済産業大臣賞
 2016年 第64回日本観光ポスターコンクール総務大臣賞
 2017年 Red Dot Design Award : Brands & Communication Design Winner
 第8回地域再生大賞 優秀賞
 2019年 German Design Award 2019
 2021年 第13回観光庁長官表彰
 2022年 Red Dot Design Award : Brands & Communication Design Grand Prix
 2023年 運営世代交代
 2024年 新組織 工場の祭典実行委員会 運営

近年のインバウンド需要の拡大やオーバーツーリズムの問題に見られるように、「観光」という言葉が過度に経済効果や集客数を元に語られる傾向があるからだ。その結果、「観光」が前面に出る一方で「産業」がもつ本来の価値や現場の尊厳、ものづくりの本質が見えにくくなっていくようにも感じられる。

私たちが目指すのは、単なる観光地化ではなく、不便でも、苦勞でも訪れたいと思える、ものづくりの風景を守り続けることだ。その本質は、職人の手仕事や現場の空気、そしてそこに流れる時間の積み重ねにある。観光という消費的な側面ではなく、心に残る体験や共感を重視し、作り手と訪問者が互いに学び合い、新しい発想が生まれる。そんな“共創の場”こそが、これからの産業観光の未来だと私たちは考える。

新提言！

私たちが提唱する新しい概念、それが「MakerScape（メーカースケープ）」だ。この言葉には、“ものづくりをする人々（Maker）が生み出す唯一無二の風景（Scape）”という意味が込められている。「MakerScape」は、単に工場を訪れる体験ではない。ものづくりそのものを感じ取り、共有し、未来へとつなぐための思想である。その理念を体現する手段のひとつが「オープンファクトリー」であり、開かれた工場はMakerScapeの世界観を実際に感じ取れる場となる。この考えを軸に、私たちは燕三条の風景をより深く、より持続的なかたちへと進化させていく。そして地域の企業、行政、教育機関、来訪者が一体となり、“ものづくりの風景を未来へつなぐ10年を築いていきたい”と考えている。ものづくりのまち燕三条が紡ぐ新たな風景「MakerScape」。この動きが、次の時代をどう変えていくのか、ぜひその動向にご注目いただきたい。

●事務局連絡先

工場の祭典実行委員会 事務局
 E-mail: kouba.0229@gmail.com
 TEL: 080-1186-0484

仕掛け人

TREND SETTER



工場の祭典 実行委員会 2025
実行委員長

TEPPEI AKIMOTO
秋元 哲平 氏

燕商工会議所青年部
株式会社青芳 取締役専務

燕市を拠点に、生活雑貨やステンレス食器、福祉用品の企画開発を中心に展開。最近木工場を立ち上げ、家具・レジンテーブルの製造やリノベーション、人の暮らしと心を豊かにする“空間づくり”へと事業を広げる。2025年「燕三条 工場の祭典」実行委員長を務め、開放企業数・来場者数・販売額のすべてで、過去最大規模と成果を達成した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

【ひらく分科会】

副実行委員長 長谷川 裕紀 氏 (無所属・カンライズ)
リーダー 高橋 達也 氏 (三条商工会議所青年部・株式会社ディ・アンド・ファイブ)

【みせる分科会】

副実行委員長 高橋 巧 氏 (三条商工会議所青年部 OB・Seesaw グラフィックデザイン事務所)
リーダー 小野塚 雄也 氏 (三条商工会議所青年部・three-v)

【つなぐ分科会】

副実行委員長 三浦 佑太郎 氏 (三条商工会議所青年部・きら星株式会社)

【まなぶ分科会】

副実行委員長 捧 開維 氏 (参加工場・養物産株式会社)
リーダー 笹川 英二 氏 (参加工場・笹川メッキ株式会社)

【つたえる分科会】

副実行委員長 山村 興司 氏 (三条商工会議所青年部 OB・株式会社山村製作所)
リーダー 諸橋 良祐 氏 (三条商工会議所青年部・諸橋農園)

直前実行委員長 安達 拓未 氏 (三条商工会議所青年部・有限会社いづみ商会)
専務理事 結城 靖博 氏 (三条商工会議所青年部・有限会社魚兵)
事務局長 小玉 晃之 氏 (三条商工会議所青年部・株式会社未来プランニング)

実行委員長を中心に5つの分科会が専門性を持って活動する。それぞれの役割が交差して、祭典の一つひとつの瞬間が紡がれている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

工場の祭典 実行委員会

燕市・三条市の商工会議所青年部からの出向者と参加工場の有志メンバーで構成された組織。工場をオープンにして、作り手や売り手とファンを繋ぎ、普段交じり合うことがない人々の関係をつくることで地場産業の課題に向き合うことを目的に活動。ものづくりに対する多様な価値観を織り交ぜ、学びを通して、文化的なものづくりを今より多く生み出す産地を目指している。

ともにあゆむ

OTHERS

産学連携デザインチーム「プリプレス」
長岡造形大学、新潟デザイン専門学校の学生が所属。
「燕三条 工場の祭典」のクリエイティブをサポート

燕三条ローカルラボ
まちづくりを学び、ツアーバスガイドや観光コンシェルジュとしてサポート

燕商工会議所青年部
三条商工会議所青年部
燕市 三条市
(公財) 燕三条地場産業振興センター

TRIGGER & STORY

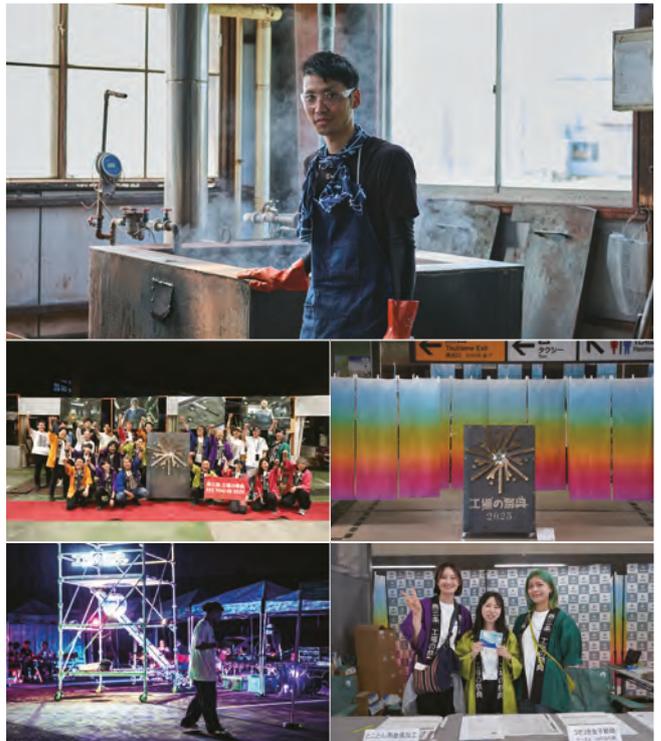
オープンファクトリー誕生秘話

三条市が2007年から開催していた「越後三条鍛冶祭り」での生産現場を見てみたいという要望を受け、市の「後継者育成事業」を通じて method 山田 遊氏らとのつながりからオープンファクトリーの企画が進行。一方、燕市でもツアー形式の工場見学に取り組む工場もあり、当時の初代実行委員長・曾根忠幸氏のリーダーシップや行政職員の尽力もあり、両市合同のオープンファクトリーとして一気に企画が進んだ。

TOPICS

昨年の学びを活かした改善

2025年は、地域課題である二次交通の解決を目指し、全27本のオフィシャルバスツアーを運行。燕三条の産業や歴史を学んだボランティアが、バスガイドや観光コンシェルジュとして工場をご案内。さらに「夜の時間も工場の魅力を伝えたい」という想いから、6種類のナイトイベントを開催。工場を舞台にしたお化け屋敷や、無機質なテクノサウンドともものづくりを融合させたナイトクラブなど、昼とは異なる表情で多くの来場者を魅了した。



五泉ニットフェス



CORE VALUE

**目の前で動く、生きた工場。
つくりたいを、形にできる
垂直統合型産地。**

- EVENT DATA -

開始年 : 2016年
開催回数 : 11回 (2025年開催終了時点)
開催期間 : 例年11月頃
参加企業 : 工場見学 8社、販売 13社
来訪者数 : 2,981人 (2025年)
主催 : GOSEN KNIT FES 実行委員会
(五泉ニット工業協同組合)

FEATURES

歩いて巡れる距離に、産地の力が凝縮する。

日本有数のニット産地・新潟県五泉市を舞台に、今年で11回目を迎えるGOSEN KNIT FES。首都圏から約3時間の立地は、日常から適度に距離を置いた非日常性を生み、ものづくりと向き合う集中した時間を生み出している。

市内中心部から概ね3km圏内に、編み・染色・整理等の工程が集積するコンパクトさが特徴で、来場者は産地全体の構造を一統きに理解できる。

本イベントでは、デザイナーやバイヤー、商品企画担当者といったビジネス関係者が、稼働する編機や作業に向き合う職人を前に、「つくってみたい」「この仕様は可能か」その場で対話を行うことができる。

GOSEN KNIT FESは、商談や開発の起点となる、産地の機能そのものを体験できる場である。

FUTURE

イベントを起点に、産地の持続可能性を更新する。

立ち上げ当初は一般消費者への認知拡大を目的としていたGOSEN KNIT FES。近年は、OEM依存からの脱却や自社ブランドの発信、さらにB2BのPR機会へと機能を拡充し、産地に欠けていた要素をイベントを機に補完してきた。

今後は、生産量や担い手の確保、環境対応といった課題に向き合い、産地の持続可能性をより高める場への進化を目指します。また、海外を意識した発信にも挑戦し、これまで培った関係性や知見を将来へつなげることで、世界に誇れる持続可能な産地像を確立していく。

INNOVATION

OEMから自社ブランドへ。産地を動かす「共創」の連鎖

五泉ニットフェスは年々来場者数を伸ばし、秋の観光を兼ねたライトな層から、アパレル業界のデザイナーやバイヤーといった専門性の高い層まで、幅広い来場者を惹きつけている。当初は県をまたいでまで現場を訪れる人は少ないと考えていた事業者も、魅力的な発信により人が集まる実感を持ち、現在は体験の質を高めるバスツアーや案内機能の強化に注力している。

最大の変化は、OEM主体の業態から自社ブランドを立ち上げ、B2Cへ挑戦する企業が増えたことである。2021年に誕生した複合施設「LOOP & LOOP」は、消費者との重要な接点となっている。さらに2025年にはBEAMS PLUSとの共同企画で開催した。同社のリミテッドストアとしても記録的な売上を達成し、消費低迷下でも「わくわくする購買体験」が国産アパレルの価値を証明できることを示した。小売企業との協働を通じ、価値を伝える方法やPRの在り方を学ぶ貴重な機会となった。

また、「産地の学校」との連携によるB2Bツアーの継続実施など、プロフェッショナル層の呼び込みにも成功している。こうした外部との共創により、産地の意識は「受注」から「提案」へと着実に進化。イベントは、産地の意識と行動を確実に変えつつある。

●事務局連絡先

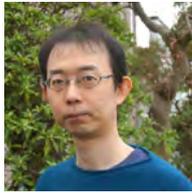
五泉ニット工業協同組合 事務局
〒959-1824 新潟県五泉市吉沢 1-1-10
TEL 0250-42-2156

LOOP & LOOP
五泉ニット複合施設
ニットでつながる、みんなのスペース

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



齊藤 智之 氏

有限会社サイフク 専務取締役
GOSEN KNIT FES 実行委員会
実行委員長（2025 年度）

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

梅田 大樹 氏

株式会社ウメダニット
GOSEN KNIT FES 実行委員会
オープンファクトリー担当



長谷川 泰 氏

株式会社ナック
GOSEN KNIT FES 実行委員会
BEAMS PLUS 企画担当



桜井 洋一 氏

有限会社桜井メリヤス工場
GOSEN KNIT FES 実行委員会
フェスへの企業・学生の誘致担当



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



高橋 正春 氏

五泉ニット工業協同組合 事務局長



木伏 淳子 氏

にいがた五泉商店 代表

ともにあゆむ

OTHERS

五泉市役所 商工観光課 / 地域おこし協力隊

五泉市商工会議所

五泉市観光協会

村松商工会

JR 東日本新潟支社

TRIGGER & STORY

誕生秘話

日本一のニット産地でありながら、かつての五泉では地元の若い世代にすら、ものづくり産地としての認識が浸透していませんでした。産地の将来に危機感を抱いた若手事業者が、企業の枠を超えて横につながり、手弁当でオープンファクトリーを開始したことが本イベントの出発点である。地道な活動の結果、現在では地域内外に認知が広がり、高校生ボランティアが運営に参加するなど、次世代を巻き込む動きへと発展している。

TOPICS

大手小売りとの深い共創が導く産地ビジネスの新機軸

GOSEN KNIT FES では、外部との連携を通じて、産地の価値を具体的な成果へと結びつけてきた。2025 年、BEAMS PLUS との協働では、販売員による製品開発や期間限定店の開設に加え、地元食や高校を巻き込んだ多角的な企画を実施。同店での売上は NY に次ぐ快挙となり、大手小売りが産地に深く入り込み、開発から観光まで一体で取り組む前例のない共創モデルを確立した。本フェスが、単なるイベントを越え、実利と熱狂を伴う「産業の共創プラットフォーム」へと進化しつつあることを象徴する成果となった。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験・高校生ノベルティ企画・マルシェの様子。



やまなし Jewelry Week



CORE VALUE

ホンモノに出会う場所、 宝石のまち甲府

- EVENT DATA -

開始年 : 2022年
 開催回数 : 4回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 85社(2024年)
 来訪者数 : のべ8,000人(2024年)
 主催 : 山梨ジュエリープロジェクト委員会

FEATURES

甲府でしかできない体験

やまなし Jewelry Week は、日本が世界に誇るジュエリー産業の集積地である山梨県・甲府市でジュエリーを核とした様々な産業やお店を体験し、ジュエリー産業をはじめ、各種地場産業やクラフトマン、ショップなどに興味を持ってもらうことを目的としたプロジェクト。普段開放していないジュエリー工房・企業の見学やジュエリーに関する様々な体験をすることができるジュエリーツーリズムを中心に、郡内織物や甲州印伝、甲州ワインなど県内地場産業がコラボレーションした YAMANASHI Product Fashion-show 等 10 個のジュエリーを核とした体験イベントをジュエリーデー(11/11)の直前の土日に実施している。

FUTURE

新たな文化の醸成を目指して！

甲府市のジュエリー産業は、ジュエリー関連企業の集積数の多さや加工技術の高さ等によりジュエリー業界内では世界的にも知名度があるが、一般消費者にはほとんど知られていないのが現実だ。本イベントを通し、一般消費者における甲府市のジュエリー産業の知名度を向上させ、毎年11月上旬には甲府市にジュエリーに触れに来る環境や、子供のうちからジュエリーに触れることで日常にジュエリーがある環境を醸成したい。

INNOVATION

ジュエリー産業だけでなく、宝石のまち甲府へ

本事業の運営は、ジュエリー業界関係者に加え、放送事業者やWEB事業者、NPO法人で行っている。また、事業実施にあたっては、郡内織物業者や甲州印伝業者といった地場産業業者や山梨県、甲府市、山梨大学、山梨県立宝石美術専門学校、県内に本支店がある5つの金融機関などの機関とも連携している。

ジュエリー、織物、印伝と県内にはファッション関連の地場産業があるが、これまでは単独にプロモーションをしてきた。本事業ではトータルコーディネートとしてのプロモーションを行い、将来的にはジュエリーを核としたファッションの先進地を目指していく。

また、NPO法人が担当するマルシェエリアでは、アマチュアクラフトマンや県内産品を使用した飲食ブースの出店など本イベントに出店することで、県内で活躍する多くの方に光が当たった。

さらには、テレビ山梨が本事業に係わったことで系列BS局にてジュエリー番組が制作・放送されたり、山梨中央銀行ではジュエリー産業PRチームが発足するなど、本イベントを通し、各所で活発なイノベーションが起きている。

●事務局連絡先

やまなし Jewelry Week 事務局

〒400-8512 山梨県甲府市相生2-2-17

TEL 055-233-2241



※ジュエリーツーリズムの様子

※キッズジュエリーワークショップの様子

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



山梨ジュエリープロジェクト委員会 委員長
MATSUMOTO KAZUO
松本 一雄 氏
株式会社光新 代表取締役

協同組合山梨県ジュエリー協会前理事長。理事長在任時にジュエリー業界のプロモーションとして、やまなしジュエリーウィークを企画。現在は山梨ジュエリープロジェクト委員会委員長として、宝石のまち甲府を県外・海外へ発信するべく様々な事業に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

やまなしジュエリーウィークリーダー
古屋 貴司 氏
株式会社古屋 代表取締役
株式会社 GSTV 取締役副社長



やまなしジュエリーウィーク事務局
鈴木 重正 氏
甲府商工会議所中小企業振興部
産業振興観光課 課長



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

ジュエリー事業者の仲間たち



柳本 力 氏
(協)山梨県ジュエリー協会
理事長



恩田 はるみ 氏
(協)山梨県ジュエリー協会
事務局長



鈴木 竜樹 氏
(株)鈴峯 代表取締役



秋山 裕太郎 氏
(株)秋山製作所 代表取締役



勝本 泰志 氏
WILL 代表



詫間 康二 氏
(株)詫間宝石彫刻 代表取締役

ともにあゆむ

OTHERS

行政・異業種の仲間たち



保坂 ひとみ 氏
(有)アイ・ピー・ジー・コレクション
代表取締役



早川 亜希子 氏
NPO法人マンメルカート
理事長



阿部 純 氏
山梨県 産業労働部
産業振興課 主査



原野 欽司 氏
(株)テレビ山梨
営業局営業部長



楠 彩華 氏
(株)ホワイトボード
WEBディレクター



角田 哲 氏
甲府市 産業部
商工観光室 商工課 課長

TRIGGER & STORY

誕生秘話

甲府商工会議所では2003年～2004年に通年型オープンファクトリーであるエブリデイジュエリー・ファクトリーセールを実施していた。当時は根付かなかったが、約20年の歳月を経てジュエリーのオープンファクトリーが復活した。復活にあたっては、様々な要因があるがその一つにジュエリー協会青年部が郡内織物のオープンファクトリーに影響を受けたということがある。

ここ甲府でしかできない体験ということもあり回を重ねるごとに参加者が増えている。

TOPICS

キッズジュエリープログラムを開催

国内のジュエリー市場は縮小傾向にあり、若年者層へのヒアリング調査では「ジュエリーを購入したことはない」という回答が年々増加傾向にある。この状況を打破するために、子供のうちからジュエリーを身近に感じてもらい、これから訪れる人生の大きなタイミングでジュエリーを選択してもらえるような環境づくりのために2023年にはキッズジュエリープログラムを開催している。

本プログラムでは、まずジュエリーワークショップでジュエリーを製作、その後自らが製作したジュエリーをお気に入りのファッションとコーディネートして、ランウェイを歩いてもらうというもの。ファッションショー参加者は世界で活躍するファッションモデルのウォーキングレッスン等を受けられるとういこともあり好評を得ている。



※ジュエリーツーリズム、キッズジュエリープログラム、ゆめ・きら・マルシェの様子

ハタオリマチのハタ印



CORE VALUE

イトとヒトがいきかうマチづくり

- EVENT DATA -

開始年 : 2016年
 開催回数 : 通年
 開催期間 : 通年
 参加企業 : 約40社
 来訪者数 : 約35,000人(2022年)
 主催 : ハタオリマチのハタ印プロジェクト

FEATURES

産地の今を伝える、これからの100年の「ハタ印」

「ハタオリマチのハタ印」は1000年以上続いた山梨県富士吉田市・西桂町の織物産地にさまざまなヒトがいきかい、新たにモノやコトが生まれる生き活きとした産地を、次の100年に継承させるためのプロジェクト。その意思表示として「ハタ印」を掲げ、地域の異業種や行政間が連携しながら勉強会や新たな施策を展開。織物の魅力をお客様に直接伝える「小さな工場めぐり」は、毎月第3土曜日に開催。織物工場見学やワークショップに加え2022年にはガイド付きツアーとしてバージョンアップ。機屋さんと作り手を繋ぐマッチングサイト「MEET WEAVERS」を運営する他、機屋さんが中心に活動する「ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOP」や富士吉田のまちなかで開催される「ハタオリマチフェスティバル」と連携し、作り手とユーザーを繋げる場となっている。

FUTURE

高付加価値化とマッチング・ツアーにも注力

富士吉田・西桂はハイブランドにも採用されるテキスタイルが生産される織物産地。一般の観光客にとっては高価に捉えられかねないが、モノの価値がわかる購買力のある層、その技術を学びたいと考える層へのアプローチを強化していきたい。また、サイト「MEET WEAVERS」を発展させ、ビジネスマッチングの成果を加速させるため、業界向けの産地生地展「MEET WEAVERS SHOW」を開催。これまでは山梨での展示会を行ってきたが、これからは東京での開催にも注力していくつもりだ。

INNOVATION

皆で挑戦を重ね、ブランドやサービス開発を強化

産地の後継者たちの強い危機感が根っこにある「ハタオリマチのハタ印」。産学コラボ「フジヤマテキスタイルプロジェクト」や織物事業者が最終製品の販売を行うプロジェクト「ヤマナシハタオリトラベル」による売場での経験、産地に人を呼び込むイベントやまちづくりが自然発生的に生まれ、その都度、課題を解決しながら、トライアンドエラーで挑戦し続けている。

「ハタ印」の会議は、メンバーたちの課題を共有する場にもなっており、課題を抱える事業者に対して、みんなが協力しながら新たな事業を生み出すサポートも行われる。黒染め加工の体験会や自社の看板となる黒染めサービスの開発に取り組んだ染色工場・丸幸産業もその一例で、こうした皆がつながり協力しあえる関係性が育まれている。

また、渡邊織物の三代目が展開するブランド Watanabe Textile は、その世界観を伝える場としてオープンファクトリーへの参加を重ね、このイメージとコラボしたいと考えるブランドブティックも多く訪れるようになり、ダブルネームでの商品企画も動き出しており、各工場のファクトリーショップの存在も街の新たな魅力となっている。ファクトリーブランドを持つ織物事業者同士が独自で運営する「ヤマナシハタオリトラベル MILL SHOP」をはじめ、各企業で展開される工場併設のファクトリーショップも街の大きな魅力となり、大事な顧客との接点を生んでいる。

受賞アワード

第12回 産業観光まちづくり大賞(山梨県富士吉田市)

●事務局連絡先

ハタオリマチのハタ印プロジェクト

〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田2-5-1

TEL 0555-22-2164

(ハタオリマチ案内所/山梨県絹人織織物工業組合)

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



TAKASUKA KATSURA
高須賀 活良 氏
 東京造形大学テキスタイル専攻領域
 専任教員
 「ハタオリマリのハタ印」
 総合ディレクター

東京造形大学でテキスタイルデザインを学ぶ。日本各地を旅し、その土地にある素材にインスピレーションを受け作品を制作。モノづくりの始まりは「土」からであるというコンセプトのもと、原始布の研究。2011年 修士号取得。アーティストとして国内外で作品の発表の他、織物産地でのテキスタイルデザイン、ファクトリーブランドの立ち上げ、アートディレクターとして活動。2016年「ハタオリマリのハタ印」総合ディレクターに任命。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

高須賀 文子 氏
 株式会社トリッキー 代表取締役
 企画・運営を担当



毛利 朋子 氏
 株式会社トリッキー 取締役・デザイナー
 アートディレクションを担当



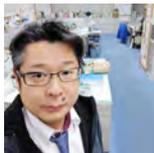
富士吉田商工会議所（繊維部会）
富士吉田織物協同組合
西桂織物工業協同組合

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



水越 欣一氏
 (元 富士吉田市役所)



小野 雄一氏
 富士吉田商工会議所



五十嵐 哲也氏
 山梨県産業技術センター

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

富士吉田市 経済環境部 商工振興課
 西桂町役場 企画財政課
 富士吉田商工会議所
 山梨県産業技術センター
 山梨県絹織物工業組合
 富士吉田織物協同組合
 西桂織物工業協同組合
 ふじよしだ定住促進センター

富士吉田市 経済環境部 富士山課
 ハタオリマチフェスティバル
 (年2回、3万人参加)
FUJI TEXTILE WEEK
 (隔年1回、3万人参加)
B-TAN MARKET
 (年3回、2千人参加)
 特定非営利活動法人かえる舎

TRIGGER & STORY

誕生秘話

はじまりは、織物メーカー数社と東京造形大学テキスタイルデザイン専攻領域との産学協同で2009年に発足した「フジヤマテキスタイルプロジェクト」。それを機に、二代目世代が中心となって新たなチャレンジが模索されていった。

OEM生産に頼っていた当産地では、海外生産への移行や諸外国で作られた安価な織物の流通により、自社ブランド商品の企画開発や販路開拓の課題が顕在化。産学協同事業がきっかけでファクトリーブランドを立ち上げた織物事業者を中心に「ヤマナシハタオリトラベル」として全国を巡り展示販売の売場に立つ新たなビジネスモデルを確立。その後「ヤマナシハタオリトラベル」に参画した11社(当時)が地域の中で中心となり、同プロジェクトのディレクションを行っていた高須賀活良氏に企画立案を依頼し、地方創生の一環で観光産業と情報発信に注力する「ハタ印」プロジェクトがスタートした。

TOPICS

取引直結する機屋情報サイト「MEET WEAVERS」

クリエイターをつなぐ役割を担う。そのページは、概要や生産されるテキスタイルの情報だけでなく、織物工場の成り立ちや特徴や代表者の考え方が記載されており、更には織機の情報だけでなく価格やロット、納期の情報まで、具体的な発注を考える上で参考になる情報が公開されている。アイテムや技術、デザインなどのキーワードやイメージからの検索性にも優れているのも特徴。各社の問合せフォームからコンタクトできる。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験・産地バスツアーの様子。

ニラサキオープンファクトリー



CORE VALUE

ぼくらのまちは、想像以上。

- EVENT DATA -

開始年 : 2019年
 開催回数 : 6回
 開催期間 : 7月24日～29日/6日間(2025年度)
 参加企業 : 20社、ガイドブック掲載協力8社
 合計28社(2025年度)
 来訪者数 : 1141人(2025年度)
 主催 : ニラサキオープンファクトリー実行委員会、
 韮崎市商工会、韮崎市商工会製造業部会

FEATURES

ものづくりの知らない世界を体感する

ニラサキオープンファクトリーは、「ぼくらのまちは、想像以上」を合言葉に、韮崎市内の精密機器関連の機械・金属加工や食品関連、自動車関連など、身近でありながらも普段はなかなか入ることができない工場内を見学・体験できるイベント。6回目となる2025年は、令和7年7月24日から29日までの6日間開催され、リアル開催では過去最大規模の20社で開催し、世界トップレベルの生産現場を体験した。各企業は、圧着作業、はんだ付け、穴あけ体験、キーホルダー作り、塗装体験など、子どもたちも楽しめるよう創意工夫したワークショップを開催した。

また、新たな取り組みとして、中に入ることでない工場のオンライン開催(工場見学のアーカイブ視聴)を実施した。韮崎市民交流センターニコリ内では、実行委員会主催のオリジナルTシャツやトートバッグ、缶バッジを作成する体験イベントを実施し、多くの子供たちにもものづくりに触れ合う機会を提供した。延べ参加者総数は、過年度を大きく上回る1141名を記録し、ものづくりの魅力を伝えるイベントとして着実に成長を遂げている。

FUTURE

エリアを拡げ地域と関わるオープンファクトリーへ

いま以上に参加企業を増やし、工場見学の参加者もさらに増やしていきたいと考え、また、将来の進路を考える中高大学生の子供達も積極的に参加できるような開催時期や内容も検討事項。また、韮崎市外にこだわらず近隣の北杜市や南アルプス市といったエリアとも協力しながら一枚岩となった広域型でのオープンファクトリーとして盛り上げていく材はと構想している。さらに、製造業だけでなく、商業や観光ツアー等とも絡めながら、地域を包摂し、地域をより盛り上げていくイベントへと育てていきたい。

2023年からは、韮崎市商工会主催の「まちゼミ」や「まちなか美術館」などの各事業を集約した「**韮崎ごと博覧会**」という大きな枠組みの中で開催し、韮崎市内の商工の様々な「ごと」の魅力を身近に感じてもらう機会を創出している。

参加企業は、リアル開催20社とガイドブック掲載協力8社の合計28社となり、近隣地域の北杜市や南アルプス市や近県へのSNS広告発信など広域的な周知を積極的に行っており事業規模を拡大している。

さらに、山梨県立大学が母体として加わったほか、宿南付工場見学ツアーの実施など、製造業だけでなく商業や観光とも連携した広域連携の取組も進められている。企業内にも良い影響を与えており、参加企業からは「当たり前と思っていた仕事を外の人に見てもらい、すごいと言われることでモチベーションアップの効果が生まれている」といった声や新入社員の本格的な参加が得られる経験、見学者受け入れ前の現場の整理整頓といったプラスの作用が生まれている。

INNOVATION

将来的な産業人材の獲得につなげる

ニラサキオープンファクトリーには、子ども世代とのつながりを生み出し、近隣に住む市民にも工場のことを知ってもらいながら、将来的な産業人材の獲得につなげたいという強い思いが込められている。

県内では製造業等の工場の集積地は多くあるものの、オープンファクトリーを開催している地域はほとんどないため、市内外の方々の理解を深める機会を創出し、将来的な産業人材の育成・獲得に繋げていくきっかけとなるよう事業を続けている。

広報活動では、子どもたちの目をひくワクワク感を伝えるデザインを採用し、堅苦しくなく気軽に参加できるイベントとしてアピールをしている。また、若い社員が活躍していることを学生にも印象づける狙いから、若い社員が登場するインタビュー記事で働く人びとにフォーカスした。韮崎市教育委員会や隣接市の教育委員会の協力を得て、学校経由での広報も幅広く行っている。

さらに、将来的な人材獲得に向けた新たな試みとして、2025年度はニコリの体験スペースに企業PRブースを設けた。これにより、工場見学に参加できなかった方や就路・就職に悩む学生も市内の製造業企業等を知る機会を提供し、産業人材の将来的な獲得に向けた確かな土台を築いている。もともとB to Bの取引が多い工場では競合関係にある事情も抱えているが、ニラサキオープンファクトリーを通じて、企業同士の交流が生まれはじめており、各企業が連携して具体的な取組みが進むことを期待しているところだ。

●事務局連絡先

ニラサキオープンファクトリー実行委員会 事務局

韮崎市商工会
 〒407-0024 山梨県韮崎市本町1-5-25
 TEL 0551-22-2204
 公式サイト <https://nirasaki-openfactory.jp>

公式HP



ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



ニラサキオープンファクトリー実行委員

IWASHITA KAZUHIKO
岩下 和彦 氏

荏崎市商工会 会長
昭和産業株式会社 顧問



ニラサキオープンファクトリー実行委員会
委員長

SAITO TSUGUKI
齋藤 嗣樹 氏

荏崎市商工会 製造業部会 部長
ツルヤ化成工業株式会社 常務取締役

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

ニラサキオープンファクトリー実行委員



乾 亘 氏
有限会社イヌイ金属
塗装工業所
代表取締役



金井 洋介 氏
キンキ製工株式会社
社員



上野 政臣 氏
コスモ株式会社
代表取締役



山本 貴人 氏
株式会社信和 社員

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

デザイン担当



陶守 いくみ 氏
BEEK DESIGN デザイナー
ニラサキオープンファクトリー
実行委員

WEB 担当



高野 純矢 氏
コンパス 代表
ニラサキオープンファクトリー
実行委員

事務局



仲澤 瑞基 氏
荏崎市商工会
経営指導員

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

荏崎市

「荏崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、産業人材育成に繋がる事業としてオープンファクトリー開催を支援。

荏崎市教育委員会

オープンファクトリーを「産業を知ること」「将来の選択肢」「普段できない体験の場」など教育の一環として捉え、市内小中学生に向けた広報に全面的に協力。

山梨県産業労働部

産業人材の育成に繋がるオープンファクトリーを軸に、将来的な広域的な連携に向けて、ともに推進。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

交通の要衝の宿場町として栄え商業も盛んな荏崎市。半導体関連の企業も数多く集積し、商工会の製造業部会でも熱心に活動してきた。例えば、180社が参加する仮想工業団地「風林火山ビジネスネット」の立ち上げや合同研修の開催など。地域経済を支える製造業と自負していたが、市が実施した市民アンケートでの製造業に対する満足度が低いことに大きな衝撃を受けた。その解決策を模索するなかで、関東経済産業局が発行した「オープンファクトリーガイドブック」を2018年に入手し、墨田区のスミファなどを視察。そこでの体験からオープンファクトリーの意義を感じるとともに、荏崎市での実現への想いを固めた。

TOPICS

ものづくりをもっと身近に。

将来の産業人材育成・獲得のため子ども向けに「しごと」をテーマにした一大イベント「荏崎しごと博覧会」として2023年に大きく舵をきってから3年が経過。実行委員会主催のオリジナルTシャツ・トートバッグ・缶バッジを作成するものづくり体験は毎年楽しみにしているファンも増え、前年に作成したTシャツやトートバッグを着用し参加してくれる子どもも増えている。店主が講師となり技術を教える「まちゼミ」も同時開催することで、商工業の様々な「しごと」を身近に感じてもらうことができ、着実にものづくりや商業の魅力が伝わっているため、取り組みの更なる推進が求められている。



(写真) 工場見学・ものづくり体験等の様子、「NIRASAKI OPEN FACTORY 2025 GUIDE BOOK」。

東信州 産業の陣

オープンファクトリーイベント
東信州
産業の陣



CORE VALUE

観光並みに面白い産業づくり

- EVENT DATA -

開始年	: 2024年
開催回数	: 2回
開催期間	: 不定期
参加企業	: 20社 (2025年)
来訪者数	: 約1,200人 (2025年)
主催	: 産業の陣 実行委員会

FEATURES

ものづくりの深みを学ぶ、東信州の技術

東信州は、産業用機械やその部品、精密機器、電子部品をはじめとするサプライヤー型企業が多く集積する地域である。消費者の目に直接触れにくい「支えるものづくり」の現場を公開し、体験してもらうことで、産業の奥深さ・面白さを来場者にも実感してもらうことが最大の魅力である。

また、この地域には高校の職業科以外に、ものづくりを学べる場所が極めて少なく、地元の若者が製造業に触れる機会が限られてきた。産業の陣は、小学生～大学生世代の若者やその親の世代が、製造業の仕事を知る貴重な入り口となっており、「学びの場」として機能している点も特筆される。

FUTURE

産業と人がつながる場『東信州』

今後は工場見学の枠を超え、体験系のコンテンツを重視しつつ、産業・教育・観光を結びつけた地域ブランドイベントへと進化させることを計画している。また、出展企業にもオープンファクトリーを通じて、自社の仕事の魅力を再発見したり、進化させたりすることを考えてもらおうと構想している。来場者、特に地元の若者や移住希望者に「この地域で働きたい」と考えてもらえるようにし、若者人口減少に立ち向かう持続的な仕組みづくりを目指している。

また、「サポーター制度」を導入するなどして、企業だけでなく学生、市民、異業種人材など多様な層を巻き込み、オープンファクトリー「産業の陣」を地域のコミュニティのハブへと発展させる構想も描いている。対象を製造業だけでなく、運送業や商社、サービス業など関連分野にも広げることで、完成部品から物流、暮らしに至るまで産の業全体の産業サイクルを一望できるイベントへの成長を狙っている。今後はさらに地域性を生かしつつ、新しい形の産業観光モデルをして全国に発信していくことを視野に入れている。

INNOVATION

地域ぐるみで作る、産業の祭り

産業の陣は、製造業だけでなく、運送業や整備業などの関連産業も対象に含めることで、完成品から物流まで地域産業のストーリーを俯瞰できる独自性を実現した。単なる工場見学会イベントにとどまらず、産業全体の循環を「つながりの物語」として体験できる点で他にない価値を生み出している。

さらに特徴的なのは、補助金に依存しない運営体制である。現在のところ、運営資金はすべて出展企業の会費と寄付で賄っており、将来的にも基本的な運営費は極力自己資金で賄う計画であり、持続性のある運営を目指している。公共部門との連携は模索段階であるが、市の広報誌・CATV・地元ラジオなどの地域メディアを駆使した発信に加え、市長や市議会議員が積極的に関与することで「地域ぐるみで産業を盛り上げる」空気が醸成されつつある。

第2回(2025年)には長野大学のボランティアサークル MIZUMATCH と連携し、各企業での会場案内や受付を担ってもらうとともに、ボランティア参加者も見学や体験を楽しめるようにタイムテーブルを調整した。

初回、第2回開催ともに雇用につながる事例が生まれており、今後も「地域の企業を知るきっかけ」として継続していく方針だ。部品加工や自動車整備といった現場体験を通じて、若者が将来の就職先を具体的にイメージできるよう支援し、地域産業の担い手育成に直結させることも目指している。

●事務局連絡先

産業の陣 実行委員会 事務局

〒386-1211 長野県上田市下之郷 348-1 (NEXT RESERVATION 株式会社内)
TEL 0268-71-7315 E-mail info@sangyo-no-jin.jp

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



NOGUCHI TAKUMA
野口 拓馬 氏
NEXT RESERVATION 株式会社
代表取締役
産業の陣実行委員会 委員

2017年、大学1年生の時にNEXT RESERVATIONを起業し、2021年に法人化。地元中小企業向けのIT支援や人材採用支援、採用サイトの運営などを行う中で、上田地域の製造業の深刻な人材不足に触れ、大人から子どもまで市民に広く産業を知ってもらうためのオープンファクトリー開催を企画。各社に働きかけて実行委員会を組織する。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

WATAYA KAZUKI
綿谷 一樹 氏
株式会社綿谷製作所 専務取締役
産業の陣実行委員会 副委員長



戦前から続く老舗機械メーカーを率いる。野口委員長とともに参加企業の募集などに奔走。

FUJIMOTO MASAHIRO
藤本 理弘 氏
長野大学 非常勤講師
産業の陣実行委員会 理事



地域政策の研究者。野口委員長にオープンファクトリーを紹介した。「産業の陣」の企画にも深く関わる。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局



正村 欣生 氏
NEXT RESERVATION (株)

運営サポート



長野大学
MIZUMATCHの皆さん

ともにあゆむ

OTHERS

第1～2回の参加企業（50音順） (株)アルカディア、(株)Arcana製作所、(株)ウッドテック秋富、(株)エイティ、(株)エスプリ、(株)オーク、大塚たみ工業(有)、木業ホーム(株)、(有)栄工作所、(株)創風、(株)第三木材、田中精機(株)、中部陸運(株)、田口印刷(株)、(有)長野エージーエス、(株)中村体育、(株)ナカヤマ、NEXT RESERVATION (株)、(株)双葉溶接、(株)フレアオリジナル、(有)保屋野製作所、(株)マルイ、(有)柳沢モーターズ、(株)吉見鋳金製作所、(株)綿谷製作所

後援 長野県上田地域振興局、上田市、坂城町、東御市、千曲市、上田商工会議所、上田市商工会、真田町商工会、坂城町商工会、東御市商工会、長野県教育委員会、上田市教育委員会、千曲市教育委員会、東御市教育委員会、小諸市教育委員会、坂城町教育委員会、信州大学、長野大学、長野技術専門学校、信州上田観光協会、(一社)信州とうみ観光協会、(一社)長野県観光機構、(一社)信州千曲観光局、さかきテクノセンター ほか

TRIGGER & STORY

誕生秘話

東信州産業の陣（初回は「うえだ・さかき 産業の陣」として開催）は、人手不足を訴える地元事業者の声を受け、野口 拓馬委員長が各企業に呼び掛ける形で始まった。東信州地域の製造業は、多くが自社製品を持たないサプライヤーであり、最終製品を製造している会社がほとんどなかったため、開催前は参加企業からも効果を疑問視する声もあった。

初回は2024年12月、18社21事業所が参加し、雪がちらつく悪天候の中で、若者や親子連れを中心に約800人が見学。見学者から雇用につながった事例も見られ、参加企業の従業員からは自信につながったという声も上がった。こうした成果を踏まえ「地元企業を知るきっかけにしてほしい」という想いで継続されている。

TOPICS

オープンファクトリー開催による意識の変化

東信州地域は製造業の従業者が全産業の1/4以上を占めるにもかかわらず、オープンファクトリーの知名度は極めて低かった。しかし、「産業の陣」を2回実施して、複数の近隣地域からオープンファクトリー実施に関する問い合わせが事務局に来るなど、オープンファクトリーへの関心は高まりつつある。

今後は、より多くの人に東信州地域の製造業の魅力を伝えられるよう、開催時期の固定（毎年秋の開催を検討中）やポップアップ型イベントの併用などを計画している。



(写真) 産業の陣当日の様子、産業の陣総会の様子等



秋の漆器祭 — ヨヨヨイ!!!



CORE VALUE

信州のものづくりに新たな火をともし

- EVENT DATA -

開始年	: 2024年
開催回数	: 1回
開催期間	: 毎年10月頃
参加企業	: 36社(2024年)
来訪者数	: 約500人(2024年)
主催	: ヨヨヨイ!!!実行委員会
共催	: 木曾漆器祭奈良井宿場祭実行委員会

FEATURES

クラフト産業を未来に繋ぐ『ヨヨヨイ!!!』

長野県塩尻市木曾平沢は、江戸時代を通して中山道随一の木曾漆器の産地として栄えてきた。

そんな木曾平沢では春と秋に「木曾漆器祭」が開催されている。買い物を楽しむ「春」・工房巡りや体験を通じて産地を楽しむ「秋」と季節と趣きを変えた2つの楽しみが出来る。約50件の店舗や工房が建ち並び、職人の精魂込めた漆器を目にすることができる。

第12回となる令和6年秋の漆器祭には、職人の魂を直に感じ取ってほしいと製造現場にも足を運ぶオープンファクトリー『ヨヨヨイ!!!』が同時開催された。『ヨヨヨイ!!!』には、祭を象徴する合い言葉として、勢いや熱、産地への想いや誇りを感じられるようにと願いを込めており、「ヨヨ」（世世・代代）は多くの世代や長い年月を意味し、「ヨイ」は、ものづくりの未来を良いものにしていくという心意気を表している。

FUTURE

交流がもたらす産地のアップデート

多様な人々との交流は、木曾の産業の新たな気づきになると確信した。初回の開催では、他地域のクラフトマンや学生のボランティアなど多くの人が協力してくれたが、特に若い世代である学生の参加は、企業にとって新鮮なものであり良い刺激になっていた。今後も交流を活性化させ、職人やクラフトマンの制作意欲を高め、新たな価値の創出を期待している。

●事務局連絡先

ヨヨヨイ!!! 実行委員会

〒399-6302 長野県塩尻市大字木曾平沢 2272-7
TEL 0264-34-2113

INNOVATION

木曾のものづくりの未来を拓く交流の力

第1回木曾オープンファクトリー「ヨヨヨイ!!!—超工藝—」は、第12回秋の木曾漆器祭と同時開催された。漆器市をはじめ、ワークショップやオープンファクトリー、漆工町探索ツアーなど、木曾漆器に触れる多彩なプログラムを用意し、これまでの木曾漆器祭以上に作り手と買い手の距離を縮めることを目指した。

さらに、クラフトマンの創作意欲を高めるため、異業種との交流を積極的に促進した。アンティーク雑貨やガラスアクセサリ製作を行う事業者、竹細工の伝統工芸や、諏訪市の地域ブランド製作団体「SUWA プレミアム」による特別出店の他、富山県で年間10万人以上が来場する鋳物工場、株式会社能作の能作氏による講演・交流会など刺激的な交流の場を創出した。

また、『ヨヨヨイ!!!』の企画、デザイン、プロモーションを担当したMAGMAGにインターンシップで参加していた学生が関わったことも大きな影響をもたらした。学生による参加企業への取材は、木曾漆器の若い世代向けの魅力を発掘し、SNSでの発信を通じて、従来の木曾漆器祭に来場していた世代とは異なる新たな参加者を呼び込むことに成功した。

オープンファクトリーの開催を契機に、多様な人々との交流が生まれ、木曾地域の産業を新たな人々に知ってもらう機会となった。さらに、伝統工芸とクラフトマンの交流が制作意欲の向上を促し、ひいては新たな産業の創出につながると考えられる。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



木曾漆器祭奈良井宿場祭実行委員長
ヨヨヨイ!!! 実行委員長

KOBAYASHI HIROYUKI
小林 広幸 氏

木曾漆器工業協同組合 理事長
春野屋漆器工房

塗師屋として器から建築物まで漆塗りを熟す傍ら、個展も開催するなど、多岐にわたり活動する。

木曾漆器工業協同組合理事長として、伝統的工芸品「木曾漆器」とクラフトなどのモノづくりとの融合を目指し、秋の木曾漆器祭に合わせ、オープンファクトリー「ヨヨヨイ!!!」に取り組んだ。伝統的工芸品の産地を知ってもらい、新たなモノづくりの発展に繋がればと期待している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

木曾漆器工業協同組合 副理事長

木曾漆器生産者組合長

山崎 敏男 氏

マルタイ山崎漆器店

伝統工芸士として、木曾漆器の生産に携わり、産地が取り組む文化財修復も熟す。「ヨヨヨイ!!!」ではワークショップの指導に携わる。



木曾漆器工業協同組合 専務理事

木曾漆器祭企画専門部会

荻村 実 氏

株式会社山加荻村漆器店

木曾漆器の企画・製造・販売をする漆器店の代表。「秋の木曾漆器祭」と「ヨヨヨイ!!!」の企画を担い、交流会の進行や産地探訪のガイドも務める。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



秋の木曾漆器祭事務局

松井 三佳子 氏

塩尻商工会議所
楢川支所長



ヨヨヨイ!!! 実行委員会事務局

太田 洋志 氏

一般社団法人塩尻・木曾地域地場
産業振興センター 専務理事

ともにあゆむ

OTHERS

株式会社 MAGMAG

アートディレクション、プロモーションを担当

塩尻市商工観光部商工課

運営をサポート

学生ボランティア

(株)MAGMAGでのインターンシップ参加から、伝統工芸に興味のある学生がボランティアとして運営に参加。お客様の案内等を担当。

楢川小中学校

交流会の会場として協力。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

木曾漆器を含む国指定の伝統工芸品や県指定の伝統工芸品などモノづくりに関わるクラフトマンが多い長野県。様々な世代のモノづくりに携わるクラフトマンが集っている地域である。しかしながら、どの伝統工芸品を持つ地域でも後継者不足や需要低下の課題を抱えている。

そのような中で、伝統工芸や地域のクラフトマンが持つ作品に対する独創性を刺激し合える場であり、モノづくりに対する想いを発信できる場をつくらうとした結果、地域一体型オープンファクトリー『ヨヨヨイ!!!』が開催された。

TOPICS

地域の誇りにつなげたい

地元の小中学校では授業で漆塗りの体験をしたり、木の香溢れる開放的なランチルームで木曾漆器の器を使い給食を提供するなど、子どもたちから地域のものづくりに触れる機会を作っている。

『ヨヨヨイ!!!』では地域のモノづくりの背景も知って頂くことを目的に、学校の教室ランチルームを活用して、モノづくりの未来を語る講演・交流会を開催した。

このような取組を通じて、地域の宝である子どもにも木曾漆器を誇りに感じてもらえるようこれからも、モノづくりと触れあう機会をつくっていききたい。この取組から将来の担い手がうまれることを期待する。



共生 Shizuoka Craft Week

共生
SHIZUOKA CRAFT WEEK



CORE VALUE

一番近くて大切な人と、
今あらためて出会う。

- EVENT DATA -

開始年 : 2018年
開催回数 : 8回 (2025年)
開催期間 : 11月末～12月頃
参加企業 : 99社 (2025年)
来訪者数 : 約1万人 (2025年)
主催 : 共生実行委員会

FEATURES

近くにある、小さな"ものづくり"スポット

かつて、静岡浅間神社の造営を機に、全国の職人が徳川幕府によって静岡に集められ、家具産業をはじめ、幅広い業種にわたるものづくり職人の技術が育まれた静岡市で開催される「共生 Shizuoka Craft Week」。「一番近くて一番大切な人と、今あらためて出会う。」をテーマに、身近で大切に紡がれてきた小さな「ものづくり」にスポットをあて紹介する。

初開催は2018年。クラフトマーケットは、静岡県内で活躍する作家や、家具や染物、お菓子や雑貨などが集い、34店舗が参加。浅間神社から駿府城公園へと会場を移し、年々規模を拡大している。今では出店者の数も90店舗を超え、静岡県内に限定した質の高い作り手が出店するマーケットとして市民にしっかりと定着しており、出店者同士のコラボレーションや共同イベントの開催などにも繋がっている。

FUTURE

出会いや縁をつくるハブとなる「共生」

立上げからコロナ禍の対応まで、状況が目まぐるしく変わるなかで、あらかじめの答えを用意せず、個人の意見でぶつかり合って答えを導き出していくのが「共生」のスタイル。誰か一人の強いリーダーシップではなく、絶妙なバランスで、実行委員会メンバーが相互に補いあいながら、あるべき姿を探りながらトライする。「共生」自体が何かを成していくのではなく、「共生」から派生して、何か生まれる、繋がっていく。お客さんも出店者も「共生」の一員であり、「共生」はその出会いや縁をつくっているハブだという根っこを大切にしていきたい。

●事務局連絡先

共生実行委員会

〒420-0839 静岡市葵区鷹匠3丁目20-23 株式会社加減乗除内

TEL 054-204-4944

公式サイト <https://kyo-sei.link/>

INNOVATION

「木工産地における芽吹」をテーマとした CRAFT TOURISM "KOBO NOW"

マーケットと並行して開催しているオープンファクトリー事業は、2022年以降、貸切バスでのオープンファクトリーツアーとして実施している。

2023年～2024年に実施したツアーのテーマは「木工産地における芽吹」。かつて家具・木工の産地として全国的に名を馳せた静岡県だが、時代の流れの中でその勢いは薄らいでしまった。しかし、そこには400年以上続いてきた「ものづくり」の歴史を継承してきた確かな息吹が存続している。その中で生まれつつある新しい芽吹に着目したツアーは、ものづくりの現場でそれを体感し、交流する貴重な機会としてのプログラムとなっている。

地元静岡をはじめ、関東・関西方面などから集まった参加者の多くは、若手デザイナーやクリエイターたちだ。彼ら彼女らに「静岡」を意識してもらいながら、「新しい何か」を生み出すヒントを探りながら、次につながるBtoBの土壌づくりに繋がってほしいという想いで取り組まれている。

更なるウイングの広がりとして実施した 新しい展示交流型イベント「FASS」

2025年6月、共生実行委員会メンバーが中心となって、新しい家具・木工の展示交流型イベント「Furniture And Skills Shizuoka（通称 FASS）ー静岡の家具と木工技術の展示会ー」を初開催した。

これまで共生で実施してきたオープンファクトリーツアーやクラフトマーケットで育んできたネットワークを活かし、静岡県内における家具木工製造の川上（森づくり）～川下（ものづくり）までを見せながら、家具木工製品の展示商談や加工技術の情報交換など30の企業ブースによって実施された。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



ODA YOSUKE
小田 庸介 氏
共生実行委員会 委員長
株式会社ワダイコ 代表

1978年静岡県生まれ。2006年より静岡県内で発行する地域情報誌「するーかる」を立ち上げから15年間編集長を務める。編集業務の傍らテレビ番組のコメンテーターや地域のファシリテーターとして様々なプロジェクトに参加。2021年には静岡市が運営する伝統工芸振興施設「駿府の工房 匠宿」の館長に就任し、同施設のリニューアルに取り組む。2022年8月に(株)ワダイコを設立。レモン商材の開発など、地域をプロデュースしていくための事業を手掛ける。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

HANAZAWA KEITA
花澤 啓太 氏
共生実行委員会プロデューサー
株式会社アンノット 代表



1978年静岡県島田市生まれ。芸術大学で油絵を学んだ後、家具メーカーに就職。家具・雑貨の企画デザインから製造までに関わる。退職後は家具産地静岡から家具産地北海道へと渡り2級技能士の資格を取得する。静岡に帰郷後、プロダクトデザイナーとして独立。2021年デザイン会社(株)アンノットを設立。

もっとよくなること、伝えること、喜ばれることについてシンプルに考えていくことで、その表現は形を帯びてくるものだと考え、日々デザインワークに取り組んでいる。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

共生実行委員会メンバー

- 西田悠真 氏 (ディレクター)
- 松木徳夫 氏 (事務局長)
- 石川智規 氏 (顧問)
- 亀山大樹 氏 (監事)
- 志水竜一 氏 (委員)
- 影山敦彦 氏 (委員)
- 岩崎泰久 氏 (委員)
- 鈴嶋康子 氏 (委員)



ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

- 後援 / 静岡県 (地域産業課)、静岡市 (産業政策課)
協賛 / 株式会社創造舎、セイリン株式会社
株式会社大輝、(公財) 静岡産業振興協会
きみくら株式会社、株式会社アイエイアイ
前田工業株式会社、日進電機株式会社
しずおか焼津信用金庫、静岡信用金庫
有限会社村松鏡店、株式会社 MIYABI
あらしお株式会社



TRIGGER & STORY

誕生秘話

オープンファクトリーの立ち上げ時、静岡県の産業振興施策の一つとして、県の担当者から声かけを受けてコアメンバーが集められた。家具産業の衰退を目の当たりにするなかで、地域に恩返しをしたい強い思いを持った小田氏らの中心メンバーは、大掛かりなものではなく一人でもできること、すぐ隣にある大切なもの、いいものがあるという気づきを生むような取り組みにしたいと考え、体制とともに事業の再構築を図った。そうして、これまでの地域産業のあり方自体を根本的に見直し、新たな魅力を生み出し伝えながら地域活性化を目指す、今の「共生」のかたちができあがった。

TOPICS

自立的な運営を可能にする共生スポンサー

地域の人口減少を食い止めるには、働く場所があることが肝心で、地場産業を変えていくことが地方都市の宿命ではないか、ひいては現代の「産業革命」という考えにもつながっていく。実行委員会メンバーが喧々諤々、本気で「共生」を動かしていく土壌づくりに欠かせない仕組みの一つが共生スポンサー。資金獲得のため、実行委員会メンバーが共生スポンサーをお願いに廻る期間があり、そのおかげで「共生 Shizuoka Craft Week」は、補助金だけに頼らない、自立的な運営が可能になっている。



(写真) クラフトマーケット、オープンファクトリーツアー、FASSの様子。

ファクハク 静岡工場博覧会



CORE VALUE

人とまちと工場が出会い、 ワクワクする未来をつくる

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 3回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 29社(2025年)
 来訪者数 : 約8,000人(2025年)
 主催 : 静岡工場博覧会実行委員会

FEATURES

徳川の時代から受け継ぐ職人魂

さかのぼること、徳川家康大御所時代、全国から優秀な職人がこゝ静岡(駿府)に多数集められた。静岡の町工場には、徳川の職人魂が脈々と受け継がれている。その駿府の地で、初の本格的オープンファクトリーイベントを開催した。食品、金属、木、樹脂、草、繊維等の加工業、ロボット製造業、農家等の多彩なものづくり工場、工房25社が、挑戦できたことは大きな一歩であった。工場見学、ワークショップ、工場直販ショップ、工場見学ツアー等を実施。初回から多数の地域の方々のご支援をいただき、総力で実現することができた。

FUTURE

地域内での認知度を高め、産業観光にも繋げる

開催3回を重ね、地域にオープンファクトリーのムーブメントが起きつつあると感じている。今後も未来のものづくり技術者たちに、ものづくりの楽しさを伝えていきたい。そのため、今後は教育機関、技能学校等との連携もしていく予定。また、産業観光ツアーをインバウンドと県外向けにも開発していきたい。

●事務局連絡先

株式会社山崎製作所
 〒424-0113 静岡県静岡市清水区原134番地の2
 TEL 054-361-0610

INNOVATION

地域企業や学生とのコラボで、静岡が混ざり合う

イベントを盛り上げた、地域の企業や学生とのコラボプロジェクト!

●静岡地域牽引企業とのコラボ研修

静岡鉄道×鈴与システムテクノロジー×静岡ガス×静岡新聞社×エル・ティー・エス×ファクハク4企業

地域を牽引する企業の若手社員20名が、社内研修のPBL(課題解決型学習)として、ファクハク参加企業の課題解決をサポート。実際は「サポート」の域を越え、「圧倒的当事者意識」を持ち、一緒に考えて提案した。

●静岡デザイン専門学校×ファクハク

プロダクト科3年生の学生たちが、授業として静岡のものづくりを学び、ファクハクグッズを提案。実際にファクハク当日から販売開始。



●大学生広報チーム

静岡県立大学の学生が、参加企業の取材を行いSNSで発信。当日は総合案内所のボランティアスタッフとしても活躍。昨年に引き続き、ファクハク冊子も製作。英語と日本語の併記でグローバル展開も目指す。



ONE TEAM

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



山崎 かおり 氏
山崎製作所
代表取締役

「静岡愛と職人技術を次世代に繋げていかなければならない」という使命感が行動の起点。オープンファクトリーを静岡で開催することは長年の夢だった。



小林 大輝 氏
クリエイティブディレクター

東京芸大、ミラノ工科大学で学び、地元静岡でも活躍。ファクハクのクリエイティブな部分を支えているディレクター。



長橋 健太郎 氏
ナガハン印刷 代表取締役

静岡市がデザインとものづくりであふれ、若い人たちがアイデアにあふれ楽しめる街づくりが長年の夢。その第一歩となるオープンファクトリーの開催は大学生の頃からの夢でした。



村田 浩康 氏
村田ボーリング技研 社長兼

「人を大切にする経営」について学び、父と幹部と社員と共に「いい会社」について問う日々を続けている。好きな言葉は「慈悲寛大自己反省」。



伊豆川 剛史 氏
伊豆川飼料 取締役

静岡を代表する水産加工業と農業の循環を支えるため、高級ツナ缶「とろつな」シリーズを自社開発。あふれるマゴロ愛で「マゴ活」をXで発信している。



阪口 瀬理奈 氏
ふじのくに ICT人材育成プロデューサー

関西出身。2018年静岡へ移住。DX分野の支援や政策提言を行う。工場とカメラが好き。ファクハクの事務局兼広報担当。コラボPの立役者。



長澤 杏彩 氏
株 LEAPH 広報/HR

静岡市清水区出身。自社のWebメディア《静岡みんなの広報》の取材がきっかけでファクハクを知り、静岡市のものづくり産業の魅力を発信している。ファクハクではツアー企画やガイドを務める。最近アツい金属加工は「铸造」。



望月 貴子 氏
株静岡新聞社 静岡放送機

SBSラジオで静岡のものづくりコーナーを担当。取材で知った製造業のスコ技に心動かされ、ファクハク実行委員に「オープンファクトリーを通して知られざる企業の魅力を伝えたい」という情熱を胸に活動している。



亀山 美佐子 氏
Free Community Manager

ファクハクの魅力に惹かれ、ボランティアから実行委員に。移住相談員やコミュニティマネージャーの経験を活かし、地域の人や企業を「つなぐ」活動に携わる。



青島 有希 氏
株青島歯車製作所

工作機械用の歯車を製造しており、ファクハクとは参加企業として関り2年目からは実行委員としても活動しています。ものづくりの素晴らしさを発信していきます。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

第3回ファクハク参加企業

大日工業 松尾鉄工所 山崎製作所
セイシンメタルプロ 豊樹脂工業
前六商店 アイオネオン
平金産業株式会社 アイ・テック
深沢製帆店 ウッドクラフトコバヤシ
前田工業 セイリン 理研軽金属工業
興津螺旋 伊豆川飼料 水鳥工業 岳南木工商会 エクタス 青島歯車製作所
ナガハン印刷 長澤瓦商店 村田ボーリング技研 日本ニューノーズル 新海豊店
東名鍛工 丸福製茶 常石三保造船 粟田産業



ともにあゆむ

SPECIAL THANKS

SPECIAL THANKS

協賛：鈴与システムテクノロジー セイリン 静岡産業振興協会
アイエイアイ、静岡鉄道、静岡信用金庫、清水銀行、
大日工業、しずおか焼津信用金庫、興津螺旋、
村田ボーリング技研、遠藤科学、青島歯車製作所、
伊豆川飼料、かちどき特許事務所、フジ物産

特別協賛：静岡銀行

特別協力：静岡県立大学 静岡デザイン専門学校

後援：静岡県産業振興財団、静岡県中小企業団体中央会、
静岡商工会議所、静岡市

地域応援団：ファクキヤス（当日ボランティアスタッフ）

TRIGGER & STORY

誕生秘話

静岡市はその地の利を活かして、第1次産業から第3次産業まで多彩な産業が集積している。家具などの木工、プラモデルなどの樹脂加工、金属加工や食品加工など様々なものづくり工場が市民生活や産業の基盤となっているが、ものづくりを身近に感じている市民は多くない。

地域の魅力の一つとして、ものづくり現場を発信することの必要性を感じていた6人が、引き寄せられるように集まり、民間任意団体の実行委員会としてスタート。他地域の先行事例に学びつつ、徐々に想いに賛同するメンバーが増え、地域行政等も後方支援に入ってくださり、2023年11月、開催にこぎつけた。

TOPICS

スモールスタートで始め、今年で3回を迎えたが、産業のデパートと言われる静岡の多種多様なものづくり企業があつまり、工場のシャッターを開けた。

今年は3つの企業で大きな工場祭りを開催し、そこには地域の親子連れなど、多くの方が工場に遊びに訪れた。一般のお客様も毎年楽しみに待っていてくださるようなイベントにと少しずつ成長している。

参加企業から寄せられた声

「歯車好きの小学生の男の子が参加。工場に入ると目を光らせて歯車の機械や、歯車本体を写真に撮ったり、触ってみており興奮しておりました。この様な方に参加して頂き、弊社のスタッフも嬉しくなり、最高のファクハクになったと思っております。」

「ある熟練職人が、普段の働く姿と仕事をする姿とは違い、いきいきと人に教える姿を見ることができ、経営者としても大変うれしく、また今後の社員育成に関するヒントももらえた。」

「一般向け工場見学のスキームができ、自社単独でも工場見学のイベントの開催に繋がりました。」



※ツアーの様子 / 工場祭りの様子

市場街（高岡クラフト市場街）



CORE VALUE

ものづくりのまち高岡、 産学官連携でつながるまちづくり

- EVENT DATA -

開始年	: 2012年
開催回数	: 14回
開催期間	: 9月下旬 / 4日間 (2025年)
コンテンツ数	: 115 (2025年)
来訪者数	: 約 23,600人 (2025年)
主催	: 高岡クラフト市場街実行委員会

FEATURES

工芸都市高岡から贈るクラフトイベント

「ヒト」、「食」、「マチ」と結びついて、新たな魅力を生み出す、工芸都市高岡が贈るまち一体型のクラフトイベント。開催期間中には、オープンファクトリーやトークイベントの他、高岡の伝統産業職人や作家によるアート・クラフトの展示・販売、ワークショップ体験、地元のグルメを楽しめる飲食メニュー提供など高岡市にまつわる様々なコンテンツが企画・開催される。

10周年を迎えた2021年には、イベント名を「高岡クラフト市場街」から「市場街」に変更して開催している。

FUTURE

継続して開催することを目指す

2012年から継続して開催する中で、市民にも市場街のイベントそのものやイベントにかける想いが浸透してきている。また、市場街が楽しいから富山県内の大学に進学したという学生も出てきている。市場街は、まちづくりの意味合いも大きく、継続して開催することを大切に考えている。若い人も意欲的に活動に加わってくれていて、頼もしく感じている。

今後も継続していくことを大切に、高岡市の地域性や規模にあったコンテンツ作りを力を入れていきたい。

INNOVATION

様々な取組との連携・相乗効果の創出

2010年頃まで、高岡では様々な取組が個別に行われていた。それら取組をまとめていったほうが対外的にも分かりやすくなるとの考えがあり、市場街でも、これまで市内を中心に様々なイベントとの連携を深めてきた。2016年には「金屋町楽市(現在の「ミラレ金屋町」)」というイベントと会期を合わせるため、開催時期を10月から9月に変更している。他にも、2017年～2018年には銅器団地オープンファクトリー、2018年に開催された「日本遺産サミット in 高岡」とも連携してきた。直近の2022年には、「工芸都市高岡の秋。2022」と題して、「市場街2022」「工芸都市高岡2022クラフト展」「ミラレ金屋町」の3つのイベントが同時開催されている。

加えて、富山、石川、福井の北陸三県を舞台に開催される「北陸工芸の祭典 GO FOR KOGEI」でも、会期を合わせてプロモーションを行っている。

数ある取組の連携の中でも、高岡伝統産業青年会が主催する「高岡クラフトツーリズム(年度によって名称が異なる)」がある。高岡クラフト市場街が始まった2012年から、開催期間を重ねて開催してきた。高岡クラフトツーリズムは、職人の工房や工場をめぐる、ものづくりの現場の見学や製作体験ができるツアーである。2020年からは「クラフトツーリズムTV」として、オンラインにも活動範囲を展開している。

こうして、毎年秋には、様々な取組やイベントと連携することで、相乗効果を生み出し、結果、高岡市のまち全体の盛り上がりにも寄与している。

受賞アワード

2018年度	(公財)日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」	受賞
2022年度	(公財)日本デザイン振興会主催「グッドデザイン賞」	受賞
第27回	(一財)地域活性化センター主催 「ふるさとイベント大賞・大賞(内閣総理大臣賞)」	受賞

●事務局連絡先

高岡クラフト市場街 実行委員会

E-mail ichibamachi@gmail.com

公式ホームページ <https://ichibamachi.jp>

記録集「高岡クラフト市場街 11年の軌跡」<https://book.ichibamachi.jp>

ONE TEAM

実行委員長

TREND SETTER



KUNIMOTO KOUTAROU
國本 耕太郎 氏
漆器くにもと 代表
高岡クラフト市場街実行委員長

高岡で100年以上の歴史を持つ漆器問屋の四代目。工芸の技を活かし、ワンストップでものづくりができる高岡のものづくり窓口として様々なプロダクトを生み出す。

2019年には工芸×アウトドアをテーマとした新会社も設立。30歳で帰郷して家業を継いで以来20年間、仲間達と共にものづくりとまちづくりに奔走している。高岡伝統産業青年会OB。

企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
有田 行男 氏
富山大学 芸術文化学部 准教授



デザイン担当
羽田 純 氏
株式会社 ROLE/ 代表



オープンファクトリー企画・運営
佐野 秀充 氏
有限会社 佐野政製作所 ディレクター
高岡伝統産業青年会 OB



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

高岡市長
出町 譲 氏

主催者である高岡クラフト市場街実行委員会の大きな特徴は、産学官が連携している点である。「官」を代表する高岡市は、「市民主体のまちづくり」を推進し、「住みたいまち高岡」の実現を目指す出町市長の思いのもと、実行委員会の一員として「市場街」をともに盛り上げている。



ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

富山大学芸術文化学部プロジェクト授業

富山大学芸術文化学部では、「教員が特定の社会的課題を挙げて、問題発見及び解決までの過程、手法をグループワーク等の他者との協働等を通じて実践的に学ぶ授業」をプロジェクト授業として定義。2016年度から「高岡クラフト市場街」への学生の関わりを「プロジェクト授業」として位置付けている。



TRIGGER & STORY

誕生秘話

1986年より続く歴史ある「工芸都市高岡クラフトコンペティション」。ここで開催される展示会を軸に、高岡のまちをクラフト関連のものづくりやイベントで特長づけるべく、生まれたのが「高岡クラフト市場街」であった。2012年の開催当初はクラフトコンペティション付近に催しを行う等コアなコンテンツが多かったが、年毎に食のコンテンツやまち歩きが加わり、裾野を拡げていった。2016年からは、イベントを教育の場にしていこうと、富山大学のプロジェクト授業として組み込んでいる。若い世代が関わることで関係する年齢層が広がり、より活力あるイベントに成長している。

TOPICS

産学官連携によって生み出されるコンテンツ

イベントの企画や運営において、富山大学芸術文化学部の存在は大きい。マルシェやオープンファクトリー開催にあたってのサポートのほか、職人や町人を巡る「市場街スタンプラリー」、職人や町人の「ぬい」と巡る「市場街ぬいあわせ」、似顔絵のワークショップなどを学生が企画運営するとともに、卒業生である作家らが中心となって開催しているグループ展「高岡で澄む」がアートの展示と販売という側面を担う。実行委員会への大学の関わりや、プロジェクト授業の実施によって高岡ならではのコンテンツが多数誕生している。



(写真) 上段：交流会、中段・下段：産学官連携によるコンテンツ

トミファ



CORE VALUE

「まち」と「ものづくり」で
共に踏み出す「さあ行こう。」

- EVENT DATA -

開始年	: 2025年
開催回数	: 1回
開催期間	: 7～8月頃
参加企業	: 17社 (2025年)
来訪者数	: 約1,000人 (2025年)
主催	: トミファ 富山オープンファクトリー 実行委員会

FEATURES

工場は中が面白い

日本海側有数の工場地帯であり、ものづくり県として知られる富山県。

富山にはたくさんのユニークな工場があり、そこでは多数の伝統あるものづくりが受け継がれています。こうした技術や産業の集積を未来へつなげるとともに、「地域の発展に少しでもお役に立ちたい」「多くの県民の皆さんに普段は見ることのできない工場内を見て触れて知って欲しい」という熱い想いから県内17社の企業が協力し、2025年夏に初開催。富山県立大学のリ・確井教養ゼミとも連携し、大学生が考えた企画内容を取り入れ、子どもから大人までもものづくりを楽しみながら学べる、体験型オープンファクトリーとなっている。

FUTURE

まちを「トミファ」はきっと変えられる。

富山県は就業者の4人に1人が製造業に従事し、製造業の生み出す付加価値額は県内全体の3分の1(31.4%)を占めており、高い技術力と魅力ある製品を持つ、国内屈指の「ものづくり県」と言える。

しかし、地域のものづくり企業が「何を作っているのか」といったものづくりの実態を知っている人は少なく、人材は県外に流出し、働き手不足に悩まされている。そんな現状を打破するためには、「見て、触れて、知ってもらう」場所・機会が重要と考えた。

今後はより多くの企業に関わってもらい、より多くの方に富山のものづくり企業の魅力を知ってもらうことで、「トミファ」の輪を広げ、新たなまちのコミュニティとして確立していきたい。

●事務局連絡先

トミファ 富山オープンファクトリー実行委員会

事務局/コンチネンタル株式会社内

<https://tomifa.jp/contact>

INNOVATION

さあ行こう。で「再興」し「最高」のまちへ。

「とりあえずやってみよう。」の精神で構想から2年。

2025年に初開催となったトミファ。

実施に至るまでの道のりは簡単なことではなかったが、富山のものづくりの魅力をたくさんの人に伝えたいという想いが伝播していき、参加企業17社、協力企業5社、行政連携として後援/協力11自治体、産学連携2校とたくさんの仲間が増え、それぞれの会社の特徴を活かした体験コンテンツが充実。約3万枚のチラシを後援を受けた市町村の小学校へ配布し、4日間開催で当初の想定を1.5倍を上回る約1,000名の方が参加する一大イベントとなった。

普段は見ることのできない工場内を見たり触れたりして、ものづくりの魅力を知ってもらおうと各社が趣向を凝らし、子どもから大人まで楽しみながら学べる見学・体験コンテンツを準備。開催前には、お互いが準備したコンテンツを見学する勉強会を実施したことで、これまでとは違った企業同士の交流が生まれ、それぞれの事業内容を理解する良いきっかけとなった。

初開催後のアンケートでは、9割以上の方が満足し、次回も参加したいと回答。また、参加した企業からの満足度も高く、早くも来年への反省点や改善点が上がってきており、想像以上の反響があった。こうした結果を受けて、「現在の富山県の現状をきっと変えられる。富山のものづくりの未来を明るくできる。」と確信したが、まだまだ1回目の実施で大きく現状は変わらない。

しかし、トミファが成長するほど、「トミファがものづくり企業と富山に住む人の当たり前になれば、富山の未来はきっと変わる」と信じて、次回以降、さらなる仲間を増やして、たくさんの来場者を招き、たくさんの方がものづくりに触れる機会を創出し、関わる全ての方が楽しいと思ってもらえるように発展していきたい。

仕掛け人

TREND SETTER



トミファ実行委員長
中村 裕太郎 氏
コンチネンタル株式会社
取締役総務部長

富山大学経済学部卒業後、県内金融機関を経て、2017年にコンチネンタル株式会社へ入社。中小企業診断士。現在は取締役総務部長として、総務・経理・人事を中心に、社内の“つくる以外”のあらゆる領域を担当している。近年は、グループとしての成長に向けた2社のM&A、ならびに県内鉄工所として初となる企業内大学「やわらかレッジ」の立ち上げに携わる。

富山県が誇る「ものづくり」をもっと地域へ届けたいという想いから、トミファ実行委員会を設立し、実行委員長として企画・運営の中心を担う。工場を開き、ものづくりの魅力を“見て・触れて・知る”体験をつくることで、地域と製造業双方の発展に貢献することを目指している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

トミファ副実行委員長



株式会社田村製作所
代表取締役

田村 彰英 氏

トミファ副実行委員長



株式会社チューエツ
営業本部 企画開発チーム
調査役

綿 弘恵 氏



富山県立大学
講師

リ オリガ 氏



富山大学
地域連携推進機構
地域連携戦略 教授

塩見 一三男 氏

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

トミファ実行委員



アイアンオー株式会社
代表取締役
織田 雄介 氏

トミファ実行委員



talkONE 株式会社
代表取締役
木下 一哉 氏

トミファ事務局長



コンチネンタル株式会社
総務部
柴田 純太郎 氏

ともにあゆむ

OTHERS

参加企業：

(株)青木工業所、(株)北日本新聞社、ケーズメタル(株)、(株)コージン、(株)興和電機システム、コンチネンタル(株)、タカノギケン(株)、立山科学グループ、(株)田村製作所、(株)チューエツ、(株)鳥居セメント工業、(株)ハナガタ、フレンドリー・エレバテック(株)、本田精密工業(株)、(株)山森製鎖、(株)ユニゾーン、(株)リッチェル

トミファ実行委員会：

コンチネンタル(株)、(株)コージン、(株)田村製作所、(株)チューエツ、(株)リッチェル、アイアンオー(株)、talkONE(株)、富山信用金庫、富山第一銀行

後 援：富山県、小矢部市、高岡市、砺波市、富山市、滑川市、南砺市、

上市町、立山町、舟橋村

協 力：中部経済産業局北陸支局、北陸銀行

企画連携：富山大学、富山県立大学

協 賛：富山県精密機械工業協同組合、富山信用金庫

TRIGGER & STORY

誕生秘話

トミファ富山オープンファクトリー実行委員長を務めるコンチネンタル(株)取締役総務部長の中村氏は、同社の採用活動やブランディングに悩んでいた時に同じ北陸地域で実施されているオープンファクトリー（高岡市「市場街」、鯖江市「RENEW」、燕三条「工場の祭典」）を視察。誇らしげにものづくりを語る企業の方々に会い、オープンファクトリーの魅力と可能性を実感。

これまでの地方の閉塞感を一気に吹き飛ばす鮮烈な出会いを得たことがきっかけとなり、富山のものづくりを変える切り札になると考え、富山のものづくり企業を中心に様々な関係者を巻き込んで実施に至った。

TOPICS

産学官金・地域連携で描く、富山の未来

トミファは、工場公開を起点に、企業・行政・大学・金融機関・地域住民がつながる「産学官金・地域連携の新しいプラットフォーム」として動き始めている。

初開催では、参加企業同士の学び合いや大学との協働、来場者との直接交流が数多く生まれ、企業内部では“自社の魅力の再発見”や“社員の誇り向上”といった効果も確認できた。今後は北陸エリア内外との連携を広げ、富山のものづくりを「見える化・体験化・交流化」する取り組みを進め、地域の未来を支える社会基盤として発展させていきたい。



GEMBA モノツクリエキスポ



CORE VALUE

小松のモノツクリの原場が見れる

- EVENT DATA -

開始年 : 2021年
 開催回数 : 5回
 開催期間 : 11月(2025年)
 参加企業 : 40社(2025年)
 来訪者数 : 約8,500人(2025年)※関連施設来場者含む
 主催 : こまつものづくり未来塾

FEATURES

多様な産業のものづくり GEMBA (原場) イベント

小松市は、世界的な建設機械のメーカーであるコマツをはじめ、石材、九谷焼、瓦、繊維、建材、鉄工、機械、酒造、製菓、農業など、世界に誇るものづくりが広がるまちです。GEMBA モノツクリエキスポは、このイベントは、世界屈指のメーカーや職人の工房まで、ものが生まれる原点である場所「原場 (GEMBA)」を開き、小松市に根付いてきたものづくりの文化や技術を見学し、プロと共に体験できるオープンファクトリー・イベントです。2025年は、市内の40事業者が過去最多の54プログラムを設定して実施された。

FUTURE

小松市ならではの産業観光プログラムを目指して

北陸新幹線が2024年に延伸、新幹線小松駅が開業することを好機と捉え、小松市として、いかに産業観光に取り組んでいくかを模索すべく、3回のテストマーケティングに取り組んでいる。小松市ならではの魅力ある産業観光プログラムを提供できるよう、更にバージョンアップした企画を検討し続けている。また、まだ出会っていない小松市内の事業者のうち、我々の描くコンセプトに共感し、想いが合う事業者がいれば参加を積極的に呼び掛けていきたい。

INNOVATION

「こまつものづくり未来塾」の活動から生まれる、協業の兆し

GEMBA モノツクリエキスポは、第14回産業観光まちづくり大賞にて金賞を受賞するなど、地域に大きな影響を与えている。その成果の裏には運営主体である「こまつものづくり未来」の活動がある。こまつものづくり未来塾は、2019年に開催した、産業観光関係の事業者が中心の「南加賀産業観光ワークショップ」から始まり、2020年には九谷焼関係者を中心としたオープンファクトリー「GEMBA」プロジェクトが始動。その後、九谷焼産業以外の事業者も参画し「こまつものづくり未来塾」が2021年6月に発足。

こまつものづくり未来塾は、民間事業者が主体となって、毎年10月末～11月上旬に行われるGEMBAモノツクリエキスポの企画を考案・検討している。また、市内外で行われる各種イベントへの出店や、参画事業者間での工場見学なども実施し、こまつものづくり事業者が一体となって産業観光を発展させる土台の整備に努めている。

2025年に実施したGEMBAモノツクリエキスポでは、参画事業者の工場から端材・廃材を集めて制作されたアート作品を展示するなど、参画事業者間の繋がりが深まっている。参画事業者のコラボレーションによって企画された商品の販売も始まっており、今後も事業者間の繋がりが強化にも努めていく。

受賞アワード

2022年 全国産業観光推進協議会・公益社団法人日本観光振興協主催
 「第14回産業観光まちづくり大賞」金賞受賞
 2023年 全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞 優秀賞受賞
 第7回ジャパンツーリズムアワード 入賞

●事務局連絡先

こまつものづくり未来塾 実行委員会事務局

〒923-8650

石川県小松市市馬出町91番地(小松市国際交流部観光交流課)

TEL 0761-24-8076

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



OGURA HISAHIDE
小倉 久英 氏
小倉織物株式会社 代表取締役
こまつものづくり未来塾実行委員長

小倉織物株式会社は、明治28年創業、100年以上続く老舗の織物会社である。

そのシルクジャガードは世界でも愛されている。小倉氏は兼ねてより、小松市内の祭り等に積極的に参加するなど、地域の発展を願い、活動してきた。地元地域からの信頼も厚い。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

こまつものづくり未来塾 副委員長
宮本 淑博 氏

宮創製陶所株式会社 代表取締役

こまつものづくり未来塾 副委員長
白樂 洋和 氏

ダイエー株式会社 専務取締役

こまつものづくり未来塾 実行委員
酢馬 慶太 氏

IRON WORKS KORU 代表

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

小松市国際文化交流部観光交流課

シコウ株式会社

地域おこし協力隊 2名

ともにあゆむ

OTHERS

小松商工会議所

TRIGGER & STORY

誕生秘話

小松市は、観光地・金沢市と一大温泉地として知られる加賀市に挟まれている。また小松空港、北陸新幹線、北陸自動車道が接する交通の要所でもある。市内には、九谷焼などの伝統工芸が現在まで受け継がれているほか、コマツ粟津工場をはじめとしたモノづくりのまちでもあることから、産業観光の推進を模索していた。

2020年度の南加賀産業観光ワークショップ等にて先進地（燕三条工場の祭典やRENEW等）の視察を実施し、観光産業への学びを深めた。「学ぶだけ」だった状態から、2021年は行動に移す時期とするべく、2021年6月にこまつものづくり未来塾を発足。同年11月に【第1回】のオープンファクトリーの開催に至った。

TOPICS

2025年の開催コンセプト

「来まっし、見まっし、ものづくりのテーマパーク。」

2025年10月31日～11月3日に開催されたGEMBAモノヅクリエキスポは、「来まっし、見まっし、ものづくりのテーマパーク。」（「来まっし、見まっし」は石川県の方言で「来てみて、見てみて」という意味）をコンセプトに定め、ものづくりの現場をテーマパークに見立てて、工場見学や体験を楽しんでいただけるコンテンツを企画した。市内の鉄工関係の企業では、通常業務終了後の工場を開放して、鋼材を運搬するクレーンでクレーンゲームを行ったり、製品の現物と設計図で間違い探しを行うなど、「自社の技術のPRと面白さ」の両立を図った。



（写真）工場見学・ワークショップ体験の様子
写真提供：こまつものづくり未来塾

関の工場参観日

SEKI FACTORY OPEN DAY

関の工場参観日



CORE VALUE

切り開こう、工場の新しい未来

- EVENT DATA -

開始年 : 2014年
 開催回数 : 12回
 開催期間 : 11月頃
 参加企業 : 51社 (2025年)
 来訪者数 : 約 5,550人 (2025年)
 主催 : 関市
 企画運営 : 関の工場参観日実行委員会

FEATURES

世界三大刃物の産地で開催する工場見学

世界3大刃物の産地として名高い岐阜県関市で行われる、刃物産業をはじめとした「ものづくりのまち・関市」の工場を広く開放するイベント。

メインコンテンツである工場見学やワークショップでは、迫力のある機械や職人の熟練の技を間近で見ることが、多種多様なものづくりを実際に体験することができる。さらに、イベントのインフォメーション会場となる「せきてらす」では飲食が楽しめるマルシェや、工場が作った製品を購入できる「SEKI SELECT STORE」も展開。そのほか、複数の工場を巡る企画としてバスツアーやスタンプラリー、トークイベントなども実施している。

FUTURE

全国から来てもらえるようなイベントに

今後の目標は、まだ「関の工場参観日」を知らない人に、イベントや関市の企業を知ってもらきっかけを作り、市内外から足を運んでもらうこと。そのため、イベントの開催や、市外のイベントへの出店、参加企業と協力したSNSなどでの情報発信を行っている。

メイドイン関の製品は広く世界に出荷されている。しかし、その製品が関市の工場で作られていること、また最終製品に至る前の段階の部品製造や加工などいわゆるBtoBの工場が関市のものづくりを支えていることが、まだ関市民にも十分には知られていない。ものづくりのすばらしさを市民にしっかり伝え、関市のシビックプライドの向上につなげたい。

INNOVATION

毎年新たなコンテンツや広報に挑戦

2025年に12回目の開催を迎えた「関の工場参観日」。現在は「関の工場参観日実行委員会」が分科会にわかれ、工場見学やワークショップのブラッシュアップや広報活動の強化など、毎年新たな企画に取り組み、イベントの魅力の向上に努めている。

毎年定番となっているコンテンツは、工場参観日のプレイベント「工場参観日夏祭り」。ワークショップを中心としたイベントで、11月に開催される本イベントの参加を促すものとなっている。インスタライブで行う「工場夜話」は、工場で働く人をゲストとしたトークイベント。近年はイベント直前に実施し、参加企業の士気を高める場にもなっている。工場やワークショップを巡り、スマホでスタンプを集める「デジタルスタンプラリー」も毎年人気のコンテンツ。

「せきてらす」でも、さまざまな企画を実施。会期中の夜に開催する「レセプション」は、誰でも参加できるカジュアルな交流会。ゲームを楽しんだり、ケータリングを味わったりしながら参加企業同士が交流する場となっている。また、会場をメインビジュアルに使用している蛍光グリーンで彩ったり、工場のユニフォームの試着ブースやフォトスポットを設置したりと、「工場参観日仕様」の装飾も行なっている。

さらに、2025年は工場の職人さんおすすめの飲食店をまとめた「職人めし」冊子の制作、参加企業向けのSNS勉強会なども実施した。

受賞アワード

2022年「第14回産業観光まちづくり大賞」奨励賞 受賞

●事務局連絡先

関の工場参観日実行委員会（関市役所産業経済部商工課）

〒501-3894

岐阜県関市若草通3丁目1番地

TEL 0575-22-3131

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



SHIMADA AYUMI
島田 亜由美 氏
株式会社杉山製作所 代表取締役
関の工場参観日実行委員会
初代委員長 / 第10回委員長

“鉄の可能性”を理念として「鉄家具」アイアン建材「FiT」や店舗什器「KEBIN」といったブランドを立ち上げ、誇りの持てるモノづくりを大切に鉄製品の製造をしている。ものづくりのまち・関市を市内外に発信していこうと、関の工場参観日の発足に関わり、委員長退任以降も実行委員会に所属。第10回の関の工場参観日では再び実行委員会の委員長を務めた。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

田中 淳也 氏
義春刃物株式会社 取締役
参加工場の有志等で結成される「関の工場参観日実行委員会」で第11回・第12回の委員長を務める。



関の工場参観日実行委員会
参加事業者の有志や市役所、リトルクリエイティブセンター、広報担当者などにより組織。イベントの企画や企画の方向性、具体的な事業について話し合う。



株式会社リトルクリエイティブセンター
「関の工場参観日」の企画・運営やデザインに携わり、事業所や市役所と意見を交わしながら、より求心力の高い全国規模のイベントへの実現を図る。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

関市役所 商工課

「関の工場参観日実行委員会」のとりまとめや参加事業所との連絡などを行う。参加事業所と共に、前例のない取組にも柔軟に関わる。



ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

参加企業

刀や包丁、はさみといった刃物メーカーはもちろん、機械部品、金属加工、産業用機械、建築、印刷、食品、運輸など、多種多様なものづくりにかかわる約50の企業が参加。(2025年)

TRIGGER & STORY

誕生秘話

関市は日本一の刃物の産地として知られ、「ものづくりのまち」として発展してきた。しかし、若者の市内企業や地場産業への関心は低く、従業員の高齢化、職人の後継者不足、技術の継承が深刻な地域課題となっている。そこで、関市の誇る事業所の高い技術力や高品質な製品を、市民をはじめ多くの人々が直に体感でき、個性的な経営者や職人と接しながら製品の知識を深めることで、地元企業の魅力を再認識してもらうとともに、まちに誇りや愛着を持つ心を育む機会としたいと考え、「関の工場参観日」が始まった。

TOPICS

参加事業者や市役所職員などが本音で語り、共に考える

関の工場参観日では、「関の工場参観日実行委員会」という参加事業者の有志や市役所などが参加するチームが、企画や運営の中心を担っている。1～2ヶ月に1度開催される実行委員会では、企画の方向性や具体的な事業について、参加事業者や市役所職員などがそれぞれフラットな立場で知恵を出し合い、意見をかわしながら、イベントの実現を目指す。



(写真)「工場夜話」、会場の様子等。

ひつじサミット尾州



CORE VALUE

着れる、食べれる、楽しめる。
ひつじと紡ぐ
サステナブルエンターテイメント

- EVENT DATA -

開始年 : 2021年
開催回数 : 6回 (内ブレ開催1回)
開催期間 : 10月下旬頃/3日間
参加企業 : 37社 (2025年)
来訪者数 : 約11,000人 (2025年)
主催 : ひつじサミット尾州 実行委員会

FEATURES

世界三大毛織物産地「尾州」を体感

『尾州』とは、愛知県西部の一宮市や岐阜県羽島市など、木曾川周辺に広がるウール生産地の生産地のこと。尾州は世界三大毛織物産地の一つにも数えられており、紡績・染色・織り・編み・整理など、多くの工程を分業し、産地一帯でものづくりを続けている。

「ひつじサミット尾州」では、そんな世界に誇る繊維の工場を特別に公開。また、『ひつじ』をキーワードにワークショップやショッピング、グルメ、さらには実際にひつじと触れ合うことができる会場も。ひつじサミット尾州は、様々なコンテンツを通して、「使い手」と「作り手」がゆるくふわりとつながるオープンファクトリーだ。

FUTURE

一過性のイベントを超えて、産地コミュニティへ進化

使い手と作り手が繋がる目的で始まった産業観光イベント「ひつじサミット尾州」であったが、作り手同士の信頼関係が強まり、年に一度のイベント開催だけに留まらず、自社の経営課題を共有し、互いに高めようという心理的安全性の高い産地コミュニティへと進化してきた。具体的には、「尾州・繊維産業DX推進コミュニティ(通称:ひつじDX)」立ち上げ、経営者だけでなく現場社員も含めて企業の壁を超えてデジタル活用や事業変革についてディスカッションを行い、製造・販売・管理の全ての面で参加各社のDXを大きく進めている。

また、産地としての課題点も共有し、勉強会を実施。2025年は欧州向けの販路開拓・国際認証など、個社単体だとなかなか情報を仕入れづらい問題に対して、勉強会を開催することで産地としての対応力を高めている。ひつじサミット尾州はオープンファクトリーにとどまらず、産地の未来や成長につなげる共創プラットフォームとして今後も進化していきたい。

受賞アワード

2023年 第10回 織研天然繊維特別賞
2024年 第47回 織研賞
2024年 POTLUCK AWARD2024 準グランプリ

INNOVATION

自分たちの産地に閉じず、他地域との交流や協賛パートナーとの連携を強化

5年目となる2025年は、『つながる』をテーマにオープンファクトリーを企画・開催した。「今まで以上に、繊維・アパレル業界に関わりのある人たちとつながりたい」「尾州産地に来てもらいたい」という参加事業者からの声もあり、2025年はこれに注力した。

10月のイベント本開催中には、(株)オンワードホールディングスの保元社長にひつじサミット尾州を視察いただき、保元社長と経済産業省生活製品課の渡邊課長とのトークセッションを開催した。また、国内大手セレクトショップ3社のキーマンを招き、『尾州産地の魅力』をテーマにトークセッションを開催。いずれのセッションも全国から多くの繊維業界の関係者が集まり、尾州を知ってもらう機会になったとともに、尾州産地の事業者にとっても今後の産地のあり方やものづくりの参考になる有意義な機会となった。

また、繊維産業で従事している若手人材や尾州産地に興味のある若手人材に向けて、公式YouTubeチャンネル内に新コンテンツ『いつでも尾州』を開設した。「いつでも、どこでも尾州産地について学べるコンテンツ」として、ひつじサミット尾州の sponsor 企業でもあるタキセヨ(株)の若手社員が、参加事業者の工場を巡り、各社の働く人・事業内容の紹介や、若手に向けてのメッセージを収録した。計21社×3話の動画を10月の本開催までに公開。当初の目的として活用されているほか、オープンファクトリーの事前学習資料として、様々な方に視聴いただき、本開催時の来場者の増加にもつながった。

●事務局連絡先

三星毛糸株式会社 未来創造室 ひつじサミット尾州事務局担当
〒501-6228
岐阜県羽島市正木町不破一色字堤外 898
hitsuji.summit@gmail.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



IWATA SHINGO
岩田 真吾 氏
三星グループ 代表
ひつじサミット尾州 代表発起人

1981年生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。三菱商事株式会社、ボストン・コンサルティング・グループを経たのち、2009年三星糸糸株式会社・三星ケミカル株式会社に入社。2010年に三星糸糸株式会社、2016年に三星ケミカル株式会社の代表取締役社長に就任。毛織物産業、尾州産地の未来に危機感を持ち、ひつじサミット尾州を発案。賛同する10名の発起人とともに、産地の発展に貢献している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

2022年度実行委員長
宮田 貴史 氏
宮田毛織工業株式会社 代表取締役社長



2022年、2025年度実行委員長
伴 昌宗 氏
伴栄工株式会社 代表取締役社長



2024年、2026年度実行委員長
木村 将之 氏
中隆毛織株式会社 専務取締役



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



クリエイティブディレクション
浅野 一平 氏
プランニングオフィス・ラゲーン有限会社
代表取締役社長



会計担当
三嶋 啓一郎 氏
三嶋公認会計士事務所



実行委員会メンバー

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

タキヒヨー株式会社 サステナブルセクション
國澤 あや乃 氏
YouTube 動画配信企画「いつでも尾州」の若手インタビューを担当。



株式会社リテイル 取締役
Kion Studio 代表 / コーディネーター
稀温 Kion 氏
尾州をメインに新旧の素材を集め、ひとと素材をつなぐ。



Re-TAIL/RRR MATERIAL PROJECT スタッフ
時田 美莉 氏
2025年度ひつじサミット尾州の Instagram を担当。



TRIGGER & STORY

誕生秘話

コロナ禍により繊維業界も多大なダメージを受けていた。外出を控え、在宅ワークが増える中、スーツやおしゃれな服を着る人も減る等の要因で、売上は5割減に。仕掛け人の岩田氏は、自分たちだけが良ければいいという考えではなく、産地の事業者同士助け合う必要性を大きく感じていた。産地全体の活性化に繋がる、大きなムーブメントを起こしたいという想いを募らせていく。跡継ぎ仲間2人を呼び、ジンギスカンを食べながら自身の考えを伝え、一緒に取り組まないか尋ねた。断られたら一人で進めるつもりでいたが、快諾するとともに「絶対他にもやりたい人がいる」と勇気づけてくれた。他の事業者にも声をかけ、想いに賛同する11名の発起人が集まり、ひつじサミット尾州に向けた取組がスタートした。

TOPICS

「ひつじ」に込めた思い

「ひつじサミット尾州」の「ひつじ」には、ふわっとゆるやかに包み込む想いが込められている。イベントでは、北海道から羊飼いを呼び、トークショーも開催。そこでは、丸焼きした羊をさばきながら、食育について学んでもらう時間も設けた。他にも、東京からジンギスカン屋に来てもらうなど、元々関わりのなかった畜産系や飲食系の人達とも「ゆるいつながり」を持つことが出来た。対象を絞るのではなく、「ゆるくつながる」ことが大切だと考えている。また、色々な年齢層にひつじ年の人がいるので、数年後となる「ひつじ年」は大いに盛り上げたい、そんな想いも込められている。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験の様子、地域飲食店でのコラボメニュー等

はんだオープンファクトリー



CORE VALUE

ものづくりを開き 地域のみらいを醸し出す

- EVENT DATA -

開始年	: 2023年
開催回数	: 3回
開催期間	: 毎年10月頃
参加企業	: 42社 (2025年)
来訪者数	: 4,552人 (2025年)
主催	: はんだオープンファクトリー実行委員会

FEATURES

多様な「働く」に出逢えるまち

半田市は古くは醸造と海運で栄えたまちである。江戸時代中期から本格化した醸造業の成長とともに、港湾都市として発展。その後自動車部品メーカーや鉄鋼、航空産業、全国的に注目を集める地域循環型バイオマス発電所、農業など多様な産業が集まる地域へと変貌を遂げた。

産業遺産として保存活用されている「半田赤レンガ建物」は、本格的なドイツビール製造施設として1898年に建設された。当時カプトビールの名称で販売され、東海地方では最大のシェアを誇った。

そんな歴史的建造物「半田赤レンガ建物」をインフォメーション本部として開催されている地域一体型オープンファクトリーが「はんだオープンファクトリー」。第3回は規模も業種も多様な42社が参加し、それぞれの企業による工場見学やワークショップを楽しめるイベントになっている。

来場者は子供連れの家族が多く、「子供に地域の仕事や働く大人の姿を見せたい」若い親世代の共感を生んでいる。

FUTURE

新たな可能性に気づけるコミュニティに

大手企業の協力会社をしている「ものづくり中小企業」が多い同地域では、住民から、地域にどんな会社や仕事があるのか意外に知られていない。また同業種同士の横の繋がりはあれど、異業種同士の繋がりは多くない。

本取組をきっかけに、地域の会社・仕事への関心を高め、将来の半田市でものづくりの担い手として活躍してくれる人材が増えることを期待されている。

また参加各企業の横のつながりを強化し、改善活動等の優良事例の共有や新たな取り組みの創出等お互いに良い影響を生み出せるコミュニティを創り出していくことを目標としている。

INNOVATION

地域のみらいを育む新たな挑戦

初開催の際、来場者にアンケートを行ったところ、「このような（地域の企業を直接知ることができる）イベントを待っていた」「子どもに見せておきたいと思った」などの大変好評をいただいた。働く人々の日々の仕事や、参加する人からすると非日常であり、大変貴重な体験に感じてもらえたと理解でき、主催にあたっての自信となった。また、参加企業にとっても、作業ひとつひとつに「すごい！」などの声をかけてもらったことが、自ら仕事の価値を再認識する機会となり、モチベーション向上となった。

第3回目からの新しい取組みとして、参加事業所相互の「交流工場見学会」をスタートした。2～3ヶ月に1回程度の頻度で、はんだオープンファクトリー参加事業所同士の見学を持ち回りで行うもので、10月3日に第1回を開催した。見学だけでなく、それぞれの事業所の特徴的な取り組みのプレゼンテーションも開催し、参加者にとって学びの機会となっている。相互に学び合い、連携をすることで、地域の事業所のレベル底上げにつながる取り組みになるように設計されている。

「はんだオープンファクトリー」は、実行委員会を中心に参加各企業、半田商工会議所、半田市、半田市教育委員会が連携し運営がされている。地域の企業や行政にとって、「はんだオープンファクトリー」の実施が、将来世代育成と持続的な事業経営と地域活性化のために取り組むべき事と共有されているからである。これも一種のローカルイノベーションといえる。

●事務局連絡先

はんだオープンファクトリー実行委員会

〒475-0874 愛知県半田市銀座本町1丁目1-1 (半田商工会議所内)
TEL 0569-21-0311

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



TAKEKURA MIKIO
竹倉 幹雄 氏
半田中央印刷株式会社
代表取締役社長

半田中央印刷株式会社は江戸時代からの紙商に祖をもち明治19年より140年に渡り印刷事業を続ける老舗で、地域に根ざした事業展開を行ってきた。

2017年に代表に就任した竹倉氏は、人口減少が本格化する今こそ、地域の仕事・事業の持続的発展のために、オープンファクトリーを実施しないといけないという使命感から企画を形にした。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

はんだオープンファクトリー実行委員会



小柳 厚 氏
半田商工会議所
専務理事



三矢 学 氏
株式会社藤工業所
代表取締役



中山 真人 氏
簡井工業株式会社
製造部リーダー



山本 美沙 氏
株式会社鶴弥
総務部長

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

- 取り組みを支える屋台骨**
- 半田市市民経済部 産業課
 - 半田商工会議所
 - 半田中央印刷株式会社
- 応援パートナー（協賛）**
- 知多信用金庫
 - 株式会社かめさきカホリン
 - 中部電力パワーグリッド株式会社半田支社
 - 東海興業株式会社
 - 株式会社 LIXIL 半田工場
 - 日本ガイシ株式会社知多事業所
 - 半田中央印刷株式会社

ともにあゆむ

OTHERS

- 2025年参加企業**
- 愛知道路コンセッション株式会社
 - AHH 工務店
 - 有限会社一粒社
 - ウェルハート農園
 - おとふ工房いしかわ
 - 学校給食センター
 - カナマタ衣装店
 - 株式会社かめさきカホリン
 - 衣通船海運株式会社
 - コパンサボテン園
 - サミット半田パワー株式会社
 - 株式会社 CAC
 - 株式会社シンホリ
 - 大栄技研工業株式会社
 - 瀬上工業株式会社
 - 株式会社タケサン
 - 株式会社武田工業所
 - 知多信用金庫
 - 中部電力パワーグリッド株式会社半田支社
 - ツカサ工業株式会社
 - 簡井工業株式会社
 - 株式会社鶴弥
 - 株式会社ティエムアイコーポレーション
 - 株式会社デザインセンターオワリヤ
 - トミタパックス株式会社
 - 有限会社永坂鉄工所
 - 中経酒造株式会社
 - 株式会社パナホーム愛知
 - 一般社団法人半田市医師会健康管理中心
 - 半田中央印刷株式会社
 - ビオくるファクトリー HANDA
 - 株式会社藤工業所
 - 株式会社ホカムラ
 - マテック株式会社
 - 有限会社丸山石材店
 - 株式会社 Mizkan
 - 名屋グループ株式会社
 - 株式会社屋根技術研究所
 - 株式会社 LIXIL 半田工場
 - テラカドコーヒー半田店
 - 望洲楼
 - リヴェールニッポ

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である竹倉氏は、以前より他地域のオープンファクトリーに刺激を受け、価値の伝え方の一つの解と考えていた。そんな時に舞い込んできたのが、2018年の半田市における産業観光フォーラムの開催である。

会社としてイベントの運営を受託した竹倉氏は、これをきっかけに半田市も産業観光に対する機運が芽生えるのではないかと、地域一体型オープンファクトリーは、更なる半田市の地域産業アピールを加速させると感じ、半田商工会議所や半田市に提言するところから取組が始まった。

新型コロナウイルスの影響もあったが、2023年に趣旨に共感をいただいた12社により第一回「はんだオープンファクトリー」の開催に至った。

TOPICS

オープンファクトリーが繋ぐ地域の力

「オープンファクトリーの実施により、多様な企業の横の繋がりが強化されつつあると感じ」と竹倉氏は語る。3年目を迎えた「はんだオープンファクトリー」は、半田市ならびに周辺地域からさらに認知されるようになり、地道な活動が実を結び始めている。参加事業所相互の「交流工場見学会」では、社員のやりがい改革に成功した企業のミニセミナーや、デジタルマーケティング事業を行う企業による多様なセッションが開催されるなど、お互いの強みを活かした特徴のあるプログラムが組まれている。「そもそもオープンファクトリーを理解し、積極的に参加しようとする事業所は、開放的で進取の気性に富む傾向があり、会社の風土も親和性が高いと感じる。」と竹倉氏。これからも、横のつながりを意識した企画と運営を行い、地域の事業所が切磋琢磨して成長していける場づくりに繋げていきたいと考えている。





こもガク



CORE VALUE

こものの未来を考え続けるためにもっとこものを学ぶこと

- EVENT DATA -

開始年 : 2017年
 開催回数 : 9回
 開催期間 : 例年10月頃 / 2日間
 参加企業 : 58社 (2024年)
 来訪者数 : 約9,000人 (2024年)
 主催 : こもガク祭実行委員会

FEATURES

もっと菟野を学ぶ場「こもガク」

菟野町の未来を考え続けるために誕生した、まちを学ぶ場「こもガク」。

新しく菟野町に住む人が増える一方で、地域の歴史や産業を知らない人も多いため、古くからの住民と新しい住民がつながるきっかけづくりとして始まった。

「まちの深さを知り、主体的に関わる人を増やしたい」という思いのもと、オープンファクトリーやこもガク塾、ファーマーズマーケット、こもガク食堂など、多彩なコンテンツを展開している。

FUTURE

皆が誇りを持つまち菟野町を目指して

体験やものづくりの現場紹介を通じて、地域のことや事業内容を知っていたきたいという想いは、参加事業者の共通した想いであり、将来、若い世代の就労につながればという願いもある。最終的には各事業者が力をつけ、町民もこの町を誇りに感じ、それを町内外に向け発信する事で菟野町に関わりをもつ人が増えることを目的とする。菟野町には、他の地域のようにわかりやすい産業があるわけではない。それでも、より菟野らしい「こもガク」を、やり方を模索しながら、これからもっとうまく伝えられるようになればと考えている。

●事務局連絡先

こもガク祭実行委員会事務局（菟野町商会）

TEL 059-393-1050

INNOVATION

「こもガク祭」で終わらない

「こもガク」での取組がきっかけで、様々な変化が生まれている。参加事業者がそれぞれの事業内容について理解を深め、異業種間での交流やコラボ商品の開発やコラボイベント、様々な情報交換なども行われるようになってきた。

また、メディアへの露出増加、地域外からの集客の増加により、売上増加につながったり、オープンファクトリーを通じて企業への理解を深めた結果、新卒者採用に至ったケースも生まれている。

事業者自身の変化も大きい。例えば、2020年のオンライン開催をきっかけに初めてオンラインに取り組んだ事業者が、自社の事業に取り入れ、オンラインワークショップの定期開催、オンラインショップの開設、SNSによる積極的な発信など新しい動きが加速している。

他にも、こもガク塾でのワークショップを通して、オリジナル商品の可能性を見出し、商品企画・販売スタートに至った事例もある。もともとはBtoBビジネスを展開する企業であったが、こもガク塾にて、新幹線のパーツを制作するワークショップを開催。ワークショップ開催をきっかけに、オリジナル商品の可能性を見出し、子どもでもパーツを組み立てられる金属模型キットを開発、販売をスタートした。「こもガク祭」開催期間以外にも、徐々に日常への波及効果が増えつつある。（右図）



ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



YAMAGUCHI NORIHIRO
山口 典宏 氏
有限会社山口陶器 代表取締役
株式会社菺野デザイン研究所 代表取締役

地元の大手化学メーカーで会社員を経験した後、2003年萬古焼の窯元である家業の(有)山口陶器に入社。2010年代表に就任した後、今までの萬古焼にない現代的なデザインや新しいライフスタイルの提案に挑戦するなど新分野を開拓し、2014年オリジナルブランド「かもしか道具店」を立ち上げた。また産地を残すために産業観光の必要性も感じ、地域事業者の有志と共にこもガク実行委員会を立ち上げ「こもガク祭」を開催。委員長就任中は「こもガク×大日本市博覧会」を収めるなど、活動の場を広げながら現在も地域の一番星として産地を次世代に残すための活動に力を注ぐ。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

稲波 伸行 氏
株式会社RW 代表取締役 /
株式会社菺野デザイン研究所 取締役
菺野町生まれ。大学卒業後フリーランスとして独立し、2008年RW創業。2012年より株式会社RWとして法人化。企業や事業の価値の再定義に伴走し、ミッション・ビジョンの構築や新規事業の立ち上げ、事業の運用までサポートしている。



広報担当
堀 麻里子 氏
(株) 菺野デザイン研究所



デザイン制作担当
森屋 律子 氏
(株) 菺野デザイン研究所

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



歴代実行委員長

2年毎に選出される実行委員長。前年度の委員長が1年、次年度の委員長が1年副実行委員長として現委員長を支える。



菺野町商工会

商工会会員や出店者との連絡・調整担当

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

地元有志の実行委員メンバー

地元の事業者でもある有志メンバーで構成。こもガク祭閉幕の都度解散し、翌年より新結成される。地元の高校生がブース出店や受付ボランティアとしても参加。地元中学校に出張こもガクや講演を行うなど、地域との連携を深めながら、次世代がまちに関わるきっかけづくりにもつながっている。



TRIGGER & STORY

誕生秘話

菺野町には湯の山温泉があり、観光地ではあるものの“泊まり場”にとどまっており、町内に魅力的なコンテンツがあってもそれぞれが点となっており、線でつながっていないという事の課題認識があった。また菺野町の人口が増加する中で、人間関係が希薄な点も課題であった。その一方で、魅力ある事業者の存在等、町のポテンシャルも感じていた。「どうすれば菺野町の魅力を感じてもらえるか。菺野町へ新しく来た人にも町を知ってもらいたい。」そうした思いから、2016年に実行委員会が発足、2017年に活動がスタートした。

TOPICS

地域とともに学び合う取り組みへ

開催10回目を迎える今年(2025年)は、改めてまちを学び直す「学びイヤー」として〈こもガクがく〉を始動。町のオープンファクトリー見学や、教育・福祉をテーマにしたトークイベント、近隣市町との交流会、専門家による勉強会など、住民も参加できる学びの会を毎月開催。年に一度のこもガク祭だけでなく、365日まちのどこかで“こもガク”が続く姿をめざしている。



(写真)：工場見学、ワークショップ、こもガク塾等の様子

RENEW



CORE VALUE

来たれ若人、
ものづくりのまちへ。

- EVENT DATA -

開始年 : 2015年
開催回数 : 11回
開催期間 : 例年10月頃 / 3日間程度
参加事業者 : 122社
来訪者数 : 延べ5万5千人 (2025年度)
主催 : 一般社団法人 SOE/RENEW 実行委員会

FEATURES

持続可能な地域づくりを目指す工房見学イベント

「RENEW (リニュー)」は、福井県鯖江市・越前市・越前町で開催される、持続可能な地域づくりを目指した工房見学イベント。

2015年に福井県鯖江市河和田地区で始まったオープンファクトリー・イベント。会期中は普段出入りできないものづくり工房の見学を通じて、作り手の想いや背景を知り、体験しながら商品の購入を楽しむことができる。現在は鯖江市・越前市・越前町の、半径10km圏内にある7つの産地で開催、国内最大規模のオープンファクトリーイベントに成長している。

FUTURE

越前鯖江エリアを日本一の産業観光地域に

2022年は、持続可能な地域をつくるという目標に向け、次のステージに進んだ大きな転換期であった。越前鯖江エリアを日本一の産業観光地域にするという新たな目標のもと、2022年7月にRENEW実行委員会を法人化し、越前鯖江エリアの産業観光地域づくりを担う、「一般社団法人 SOE」に進化を遂げる (SOE:Sustainability of ECHIZEN)。通年型産業観光推進、宿泊施設の運営、各種スクールの運営、RENEWの運営等を担い、将来的には移住促進や二次交通の整備も目指していく。

受賞アワード

2019年 総務省ふるさとづくり大賞 総務大臣表彰 (団体部門)
2019年 日本デザイン振興会 グッドデザイン賞受賞
2020年 総務省ふるさとイベント大賞優秀賞 (地域活性化センター会長表彰)
2020年 国土交通省地域づくり表彰最高賞 (国土交通大臣賞)
2021年 第11回地域再生大賞 (東海・北陸ブロック賞)
2021年 FBC かがやき基金 かがやき大賞
2023年 ふるさと名品オブ・ザ・イヤー地方創生賞
2025年 福井県文化奨励賞
2025年 鯖江市市政功労賞

INNOVATION

「若くて元気な産地」が着実に浸透

RENEW 開催をきっかけに、越前鯖江エリアには40社の新規店舗がオープンし、日本一のファクトリーショップ集積地となっている。産地企業の機運が醸成されるとともに地元民の郷土愛も高まり、産地での意識に変化が生まれている。また68名の雇用を創出したことも大きな成果である。

最近では年によって、全国のプレイヤーを集める「まち/ひと/しごと」をはじめとしたプロジェクトや、ものづくりに携わる企業とものづくりを志す若者が出会い、互いを知り未来への関係性を育む「産地の合説」も開催しており、これら取り組みをきっかけとする就業者は19名、移住者は12名にのぼる。

また、2020年にはサポートチームとして「あかまる隊」を結成し、現在も120名近くが参加している。半数は県外のサポーター、学生が大半だが、社会人も含まれるなど、RENEWをきっかけにつながった人と人の輪は、着実に広がりつつある。

広域の通年観光を推進する取り組み

RENEWは「更新する」という意味から名付けており、広域での観光を推進する様々な取り組みを続けている。2025年では前年同様、タクシー営業圏域解除の特例を活用した「RENEW タクシー」、人気エリアを周遊する「RENEW シャトルバス」の運用を行うことで、県外客の観光の足を円滑にし、各エリアの来場者の分散を効果的にしている。「FOOD & CRAFT RESTAURANT/CAFE」では伝統工芸を食という切り口から楽しめたり、特別コースを専用車で巡る「RENEW オフィシャルツアー」の実施により、産業観光が楽しめるまちとしての周知を目指している。

●事務局連絡先

一般社団法人 SOE / RENEW 実行委員会

〒916-1223

福井県鯖江市片山町 7-10-4

TEL 0778-78-9967

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



NIİYAMA NAOHIRO
新山 直広 氏
 TSUGI LLC. (合同会社ツギ) 代表
 RENEW ディレクター
 一般社団法人 SOE 副理事

1985年大阪府生まれ。2009年鯖江市に移住。応用芸術研究所を経て、鯖江市役所在職中の2013年にTSUGIを結成。地域特化型のインタウンデザイナーとして、地域や地場産業のブランディングを行う。また、産業観光イベント「RENEW」の運営をはじめ、めがね素材を転用したアクセサリブランド「Sur」、福井の産品を扱う行商型ショップ「SAVAISTORE」など、デザイン・ものづくり・地域といった領域を横断しながら創造的な産地づくりに取り組む。一般社団法人 SOE 副理事。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

RENEW 実行委員長
瀧 英晃 氏

株式会社 滝製紙所
 一般社団法人 SOE 理事 伝統工芸士
 2017年より、RENEW 実行委員会に参加。産地と工芸の持続を軸としたRENEWの運営にも携わる。



RENEW 事務局長
江澤 藍莉 氏

一般社団法人 SOE
 1998年東京都出身。武蔵野美術大学大学院を卒業後、「産地の合説」をきっかけに福井県鯖江市に移住。



あかまる隊

県内外の約120名からなる、RENEWと産地のサポーターチーム。SNSの運営や工房見学ツアーのコーディネートなど、RENEWと産地を広く支える。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



RENEW 事務局
西山 ほゆ 氏



RENEW 事務局
西端 夏生 氏



RENEW 事務局
尾崎 海士 氏



RENEW 事務局
中野 裕輝 氏

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

特別協力：福井県、鯖江市、越前ものづくりの里プロジェクト協議会、めがねのまち鯖江元気再生協議会、中川政七商店

協力：越前市、越前町、公益財団法人ふくい産業支援センター、サバエ・シティホテル、近畿経済産業局、日本商工会議所、JR西日本

協賛：越前漆器協同組合、一般社団法人福井県眼鏡協会、福井県和紙工業協同組合、越前打刃物産地協同組合連合会、越前焼工業協同組合、越前指物協同組合、鯖江商工会議所、福井銀行・福邦銀行、福井信用金庫、越前市商工会、土直漆器、Hacoa、漆琳堂、ヤマト工芸、サカエマーク、谷口眼鏡、ポストクラブ、乾レンズ、キッソオ、TSUGI、龍泉刃物、大音師漆器店、シヤルマン、メガネトップ

TRIGGER & STORY

誕生秘話

約200の越前漆器工房が集積する「うるしの里」福井県鯖江市東部の河和田地区。仕掛け人となる新山氏は、移住してきた際、衰退する漆産業の厳しい現実を目の当たりにし「このまちに足りないものはデザインだ」と考えデザイン事務所を設立。一方この地に住み、以前から自主的にまちの未来のための活動を行っていた谷口康彦氏（RENEW 実行委員会会長）も、まちの未来に危機感を持っていた。そして2015年のあるときに二人が出会い、新山氏が構想した活性化の方策「産業観光RENEW 企画」に谷口氏が共感・賛同する。その後両氏は、地域の工房に地道に足を運び参加を呼びかけ、21社の事業者が集まった。こうして二人の情熱とともに、第1回目のRENEWが始まったのだ。

TOPICS

RENEW/2025 特別企画

RENEW/2025では、例年同時開催の「まち／ひと／しごと -Localism Expo Fukui 2025」に加え、三菱UFJ銀行と関西イノベーションセンターとともに、「KOGEI COMMONS Empowered by MUFG」を初開催。今後、日本のものづくり産地に新たな循環を生むプロジェクトとして、異なる地域の技や知恵が交わることで、作り手同士、そして来場者との対話が生まれ、日本のものづくりの未来をもに育む場を築いていく。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験の様子等

千年未来工芸祭



CORE VALUE

CoNEXTion (共につながる)

- EVENT DATA -

開始年 : 2018年
 開催回数 : 8回
 開催期間 : 例年8月頃 / 2日間程度
 参加企業 : 約198展 (2025年)
 来訪者数 : 延べ18,300人 (2025年)
 主催 : クラフトフェス実行委員会

FEATURES

「モノづくりのまち」越前から工芸の魅力を発信

越前市では、長い伝統と歴史を有する、越前和紙、越前打刃物、越前筆筒が、今もまちの文化・生活を支えている。千年未来工芸祭は、若者たちに、作り手の技や製品、人柄に触れ、工芸や手仕事を身近に感じてもらうとともに、次世代への継承のきっかけづくりを目指すイベント。

コア・バリューである CoNEXTion は、「繋がり」という意味の“Connection”をもとに「共同で次の次元に動かそう」という意味が込められている。世界に誇れる「モノづくりのまち」越前市から工芸の魅力を伝えていく。

FUTURE

未来へ繋ぐ！千年未来工芸祭を国際的な祭典へと進化させる

「千年未来工芸祭 2025」は、2日間で18,000人超の来場と、出展者198展の売上合計3千万円超という確かな実績ができた。そして「CoNEXTion」の熱狂を生み出し、私たちはこの成功を、工芸の未来と新しいビジネスを生み出す「世界へ誇る中核拠点」へと進化させる次のステージに進む。まず、運営・出展者・来場者が一体となる「熱狂」と「交流」をさらに深く追求し、祭の根源的なエネルギーを最大化したいと考えており、出展者の方々の交わりにより技を繋ぎ、日本のものづくりが未来を創る推進力にする。そして、今後も「クラフトマーケット」「ワークショップ」「若手職人チャレンジ」「新世界工芸網」や、「マッチング BtoB マテリアルツアー」を強化することで、伝統の技を具体的な未来の事業へと結びつけ、持続可能な発展を確固たるものにするを目標とし、この熱い動きを戦略的に国内外へ発信し続け、真に国際的な祭典へと進化させていく。

INNOVATION

参加企業間・産地間・消費者とのつながりが生まれる場

「千年未来工芸祭 2025」は、2日間で18,000人超の来場と、出展者198展の売上合計3千万円超という確かな実績、そして「CoNEXTion」の熱狂を生み出し、私たちはこの成功を工芸の未来と新しいビジネスを生み出す「世界へ誇る中核拠点」へと進化させる次のステージに進んでいる。最大の革新は、産地・分野・世代を超えて運営側、出展者、来場者が一体となる「祭」の熱量を創出することで、工芸が持つ潜在的なエネルギーを一気に解放した「熱狂的交流による化学反応」が起きたことだ。この一つ目の「熱狂的交流」を土台に、私たちは以下の三位一体の構造的なイノベーションを生み出した。一つは「工芸ビジネスモデルの革新」であり、単なる BtoC 販売に留まらず、「新世界工芸網」や「マッチング BtoB マテリアルツアー」を通じて、香港・台湾のバイヤーを招聘。工芸の「素材」「技術」「美術的要素」、そして歴史ある産地の職人たちが世界的なバイヤーと直接会える構造的なプラットフォームを確立し、BtoB 連携による新しい商品開発や市場創造への道筋を明確にした。そして、もう一つは「未来への人材・技術・文化継承の革新」だ。「若手職人チャレンジ」の強化による技術継承に加え、今年は越前和紙の里に長く伝わる「紙漉き音頭」を会場で来場者全員で踊るという、大きな試みを実施した。「越前和紙女紙倶楽部」や「大滝女性会」の協力のもと実施。また、やなせ和紙の柳瀬晴夫氏による「紙漉き唄」の披露。これらの踊りや唄を通して、来場者と主催者、そして音頭や唄を継承してきた方々の思いが一つになる「文化の共鳴」を生み出した。伝統技法だけでなく、こうした地域に伝わる文化も次世代へ継承していくことを、本祭典の重要な主題として深く組み込んでいる。このように、本祭典は「熱狂的交流」「BtoB 連携による新事業創出」、そして「技術と文化の継承・革新」という三位一体のイノベーションを同時多発的に生み出し、今まさに日本のものづくり全体に新たな活路を示す、構造的な変革の中心地になりつつあると確信している。

●事務局連絡先

株式会社ヒュージ
 〒915-0225 福井県越前市別印町 2-51
 Email: info@hudge.jp

仕掛け人

TREND SETTER



UCHIDA HIROKI
内田 裕規 氏
株式会社ヒュージ 代表取締役
千年未来工芸祭プロデューサー

福井県・越前和紙の里である日今町出身。デザイン会社「株式会社ヒュージ」の代表を務め、地域に根差しながらも、福井を起点に全国、そして世界を見据えた活動を展開。コミュニケーションデザイン、企業ブランディング、そして地域リノベーションを主軸に活動。また、まちづくりのリノベーションにも尽力しており、文化創造拠点「PLAT」や、ものづくりの作り手を繋ぐ場「CRAFT BRIDGE」をオープンさせたりと、工芸やものづくり、デザインを核としたクリエイティブコミュニティの形成を推進している。さらに、越前市観光協会のブランディングや、越前市創造都市加盟戦略委員を務め、行政と連携したまちづくりにも深く関与。一般社団法人「陸古民家再生機構」の理事も兼任し、歴史ある資源の保全と活用を通じて、地域の持続可能な未来をデザインしている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

**実行委員長
清水 聡 氏**
清水紙工株式会社
委員の様々な意見を汲み取りながら、委員長として主体的に取り組み、当日は実行委員長としての任務に徹した。



**事務局 / プロジェクトマネージャー
高木 孝太郎 氏**
運営会議にて積極的に指揮を取り、開催準備や設営、オンライン配信など様々なコンテンツを実行に導いた。



**事務局 / 出展者対応
坪田 サトシ 氏**
初年度から運営会議に参加し、出展者集めに尽力していただいている。自ら出展しながら出展者目録での意見も反映していただいている。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



クラフトフェス実行委員会 CoNEXTion TEAM メンバー

清水 聡 氏 / 前澤 峻 氏 / 山口 祐弘 氏 / 山口 真史 氏 / 柳瀬 泰吾 氏 / 戸谷 祐次 氏 / 野村 一樹 氏 / 小柳 勇貴 氏 / 高木 孝太郎 氏 / 内田 裕規 氏

ともにあゆむ

OTHERS

越前市
街中のスペースで毎月継続開催したこの場には、龍田副市長をはじめ、初年度から尽力いただいている越前市 経営戦略室課長 橋本康史氏などの行政関係者が定期的に参加。
実行委員会や職人、ファンと立場を超えた日常的な交流を重ねることで、行政は祭典への「当事者意識」を共有し、工芸を地域戦略の核と捉えるようになった。この強固な産官民のパートナーシップこそが、開催日の2日間だけではなく、構造的な変革の揺るぎない土台を、越前市と共に築き上げている。



職人 BAR



右 越前市副市長 龍田光幸氏

TRIGGER & STORY

千年未来工芸祭の誕生秘話

先端と伝統が共存する越前市において、伝統産業の「継承」と「活路創出」という課題から誕生した。市は、3つの工芸産地の組合や若手代表らと手を取り合い、「クラフトフェス実行委員会」を組織。プロデュースを株式会社ヒュージの内田裕規氏に委託した。内田氏は伝統工芸を「新産業」と捉え、「越前ブランド創造」のビジョンを実行委員会と共有した。祭典名は、1500年続く越前和紙の歴史背景から「千年続く伝統を、次の1000年先の未来へ繋ぐ」という壮大な目標を込めて命名。テーマは、「CoNEXTion」(Co=共同で、NEXT=次の次元に、ion=動かす)という造語を設定した。これは、単なる販売ではなく、「人」「技」「地域」「過去」を結びつけ、「未来を共創する祭」として設計されたことを意味する。地域や人種を超えて手を取り合い、工芸の散智をアップデートさせる場として、2018年に産声を上げた。

TOPICS

「職人 BAR」の誕生

2025年から、街中のスペースを借りて、毎月最終週の金曜日に「職人 BAR」を実施した。このことにより、千年未来工芸祭の核心である「CoNEXTion(繋がり)の深化」と「熱量の常態化」を達成できた。この企画は、単発のイベントに留まらず、毎月最終週の金曜日に継続開催することで、実行委員会、若手職人、伝統工芸を愛する人々、そして越前市副市長を含む行政関係者といった立場を超えた人々が「非公式かつ継続的に交流する」場を確立した。これにより、イベント当日だけではなく、深い人間関係と信頼、そして連帯感が生まれ、熱狂を年間を通じて維持し「発酵」させる装置として機能したと考える。この産官民を巻き込んだ日常的な交流こそが、祭典への「当事者意識」を強固にし、結果として開催日の2日間では達成し得ない、構造的な変革の土台を築き上げた。



(写真) 開催の様子等

滋賀、甲賀のモノづくりズム

モ
ノづくりズム



CORE VALUE

“ものづくり”で「街づくり」
「ひとづくり」「未来づくり」

- EVENT DATA -

開始年 : 2024年
開催回数 : 2回
開催期間 : 毎年10月頃
参加企業 : 10社 (2025年)
来訪者数 : 372人 (2025年)
主催 : 滋賀、甲賀のモノづくりズム実行委員会

FEATURES

滋賀県初の地域一体型オープンファクトリー

「滋賀、甲賀のモノづくりズム」は、滋賀県で初めて開催された地域一体型オープンファクトリー。産官学連携が特徴の本取り組みは湖南精工株式会社と株式会社ジョーニシを中心に甲賀市職員、立命館大学の教授や学生の協力体制で甲賀市に拠点を持つものづくり企業が参画。地域の小中高生や大学生を中心に工場内部を公開し、現場を体感してもらうことで様々な世代と企業間に新たな接点生まれ、まちの魅力を再発見する契機となり見学者だけでなく関わるすべての人が学び合う〈未来を描く共創の場〉としての広がりを見せている。

FUTURE

「ものづくりが学べる街」への進化を目指して

製造品出荷額県内1位を誇る“ものづくりのまち”甲賀市。しかしながら地元企業の存在が十分に知られておらず、市外での就職を選ぶ若者が多いという課題を抱えている。

「滋賀、甲賀のモノづくりズム」は、若い世代が地域企業と関わる体験を通じて未来の可能性や仕事の選択肢を広げる取り組みとして始動した。

将来的には工場見学ツアーを起点に「ものづくりをするなら甲賀へ」という流れを育み地域と企業の交流を促進し、甲賀市を「ものづくりが学べる街」へと進化させ小中高生のものづくりの知識のインプットとアウトプットが出来る学びの環境フィールド創出と地域活性化を目指す。

●事務局連絡先

滋賀、甲賀のモノづくりズム実行委員会 (株式会社ジョーニシ 内)

〒528-0037 滋賀県甲賀市水口町本鏡野4番1号
TEL 080-8310-3308

INNOVATION

産官学連携で醸成する新たなコミュニティ

2024年に始動した滋賀県初の地域一体型オープンファクトリー「滋賀、甲賀のモノづくりズム」は“産官学連携”によって実現した取り組みであり、その関係性を築けたこと自体が大きな成果といえる。

開催前には立命館大学の学生・教授、甲賀市職員が地元企業を訪問し外部日線で改善点を洗い出す「プレオープンファクトリー」を実施。学生に対しては「なにをやっても失敗はない」ことを伝え、企画への前向きな挑戦を促した。

イベント当日は学生実行委員が参加者の誘導やバス内で甲賀市に関するクイズ企画などを担当し、参加者の体験価値を向上。

市職員は、企業と地域・教育機関をつなぐ調整役として運営を支援し、取り組みの情報は運営の中核を担う広報が公式ブログやSNSで企画内容を可視化し魅力発信したことで取り組みの活動の幅と認知度を拡大した。

さらにオープンファクトリーでの交流をきっかけに企業と学生が新商品・サービスを企画する「B-1グランプリ」や学生から中小企業に提案する「魅力発信プロジェクト」も始動。製造業に限らず幅広い業界の経営者と学生がディスカッションを重ね共創型課題解決イベントへと発展している。

工業団地を越えた企業間交流も始まり、新たなビジネスや研究開発への展開も期待が高まっている。

この取り組みを通じて「企業」は地域連携による信頼構築を、「行政」は住民と企業をつなぐ街づくりを、「大学」は実践的な学びの場の創出を目指す。

製造業が県内総生産の大きな割合を占め18年連続で県内出荷額1位を誇る滋賀県甲賀市において、継続的な連携によって相乗効果を生み出し次世代へと受け継がれる「ものづくり文化」の礎を築くことを目指し、地域産業の強みを活かした新たなコミュニティ形成により街の未来を支える大きな一歩となる。

仕掛け人

TREND SETTER



「滋賀、甲賀のモノヅクリズム」創始者／発起人

OKUDA ARIHIRO

奥田 在弘 氏

湖南グループ／湖南精工株式会社 部長(2026年現在)
2010年に湖南精工株式会社へ入社。中小企業の可能性と地域・街の未来に目を向け、「動けば成る」の精神で滋賀県初の地域一体型オープンファクトリーを実現。産官学連携の基盤を築き、モノヅクリズムをはじめ多様な共創の場や体験と学びの機会を創り続けている。



「滋賀、甲賀のモノヅクリズム 2025」実行委員長

NAKANO YUSUKE

中野 裕介 氏

株式会社ジョーニシ 代表取締役
2007年に株式会社ジョーニシ入社。2017年に代表取締役就任。地域に根ざした技術と人材育成に注力し、企業間連携を推進。奥田氏の理念に共鳴しモノヅクリズムを共に牽引。第2回では実行委員長として企画を支え、若者に「地元で働く価値」を伝え地域との関係づくりにも力を注いでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



立命館大学／学生実行委員
初年度リーダー 第2回リーダー
安藤 飛鳥 氏 吉岡 翔大 氏

学生視点で企画の体験価値を高め
当日は進行の要として活躍



甲賀市役所／商工労政課
小野山 忠司 氏

運営に関する取り組みに
行政の立場から
バックアップ



産官学連携の実行委員



広報／共創ディレクター
東 加奈子 氏

企画の本質と魅力を
視覚化し全体を共に
設計・多面的に推進。

広報／湖南精工株式会社
坂本 智香 氏

第1回から運営を支えチ
ラシデザインなど実務面
でも尽力

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

【共催】

大学法人立命館大学経済学会

【協賛】

公益財団法人湖南グループ奨学会

【後援】

甲賀市

公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

一般社団法人中小企業家同友会

ともにあゆむ

OTHERS



【SPECIAL THANKS】

- 岩谷化学工業株式会社
- 株式会社エコバレット滋賀
- SUS 株式会社
- 株式会社 K & M
- 湖南精工株式会社
- 湖南電機株式会社
- 株式会社ジョーニシ
- 東部学校給食センター
- ヒロホー株式会社
- ボラテック西日本株式会社

TRIGGER & STORY

誕生秘話

この取り組みは、発起人・奥田在弘氏が香川県のオープンファクトリー「CRASSO」の講演を聴きその場で「滋賀でもやります!」と宣言したことがきっかけであった。構想からわずか8カ月で初開催を実現したのは奥田氏の行動力と『ものづくりで街づくり、人づくり、未来づくりを進める』という明確なビジョンの求心力により、地域企業のみならず学生や行政も自然と巻き込み「産官学連携」のプロジェクトへと発展したことにある。工場見学ツアーには県外や他市町の工業団地からも参加があり、初年度は136名・2年目は372名の参加者となり地域のものづくりへの関心を集めるイベントとなっている。

TOPICS

甲賀市を「ものづくりが学べる街」へ

「滋賀、甲賀のモノヅクリズム」では中高生や大学生が授業の一環として企業を訪問。日本の基幹産業である製造業を知り、自身のキャリアビジョンを描ききっかけとなるよう発起人の奥田氏が意図的に設計した。参加者は小学生から大学生までを主体としていることもあり、企業側の説明も分かりやすい内容にすることで働く方々の教育の機会にもなっている。見学に参加した学生からは「自分の住むまちに誇りが持てた」「将来人の役に立つ仕事がしたい」といった感想も寄せられた。オープンファクトリーを通じ「ものづくり」に触れる機会を作ることが街の発展に寄与する。今後も学びの機会を広げるために参加者を受け入れる体制を整え、ものづくりの街の魅力をより多くの人に届ける方針だ。

10/31(金)の様子 289名

いざ!出発!!!
忍の里プラザ駐車場にて記念写真

総勢
372名



参加者：立命館大学(19名)、甲南高校(138名)、水口高校(11名)、水口東中(84名)、オブザーバー(27名)、スタッフ(10名)



株式会社エコバレット滋賀



SUS株式会社



湖南電機株式会社

11/1(土)の様子 83名

工場見学を終えて、甲賀市役所で記念写真
掛け声は「オープンファクトリー!!!」



湖南精工株式会社

参加者：甲賀市の小学生・保護者(65名)、オブザーバー(18名)



ヒロホー株式会社



株式会社ジョーニシ



ボラテック西日本株式会社

DESIGN KYOTO / DESIGN WEEK KYOTO



CORE VALUE

**「公藝」という志を同じくする
ものづくりの担い手が京都に集い、
高め合う実践コミュニティ**

- EVENT DATA -

開始年 : 2016年
開催回数 : 10回
開催期間 : オープンサイトは、地域別・ターゲット別・テーマ別にツアーやミニイベントを通年で開催。カンファレンス等も実施。
参加企業 : 74社 (2023年12月現在)
来訪者数 : オープンサイトイベント約2,200人 (2022年)、カンファレンス約130名 (2025年)
主催 : 一般社団法人 DESIGN KYOTO

FEATURES

ものづくりが生まれている地域の風土・コミュニティ・文化・産業を一体化し、高価値ビジネスへと進化させる

各地のものづくりの現場で、国内外から訪れる多様な人々と担い手との交流を促進する「オープンサイト」を軸に、新たなつながりや価値、文化を創出している。

2016年に京都市で開始し、2019年亀岡市・宇治市、2021年より丹後地域、2022年より京都府全域を対象地域を拡大。

2023年から地域のものづくりの担い手を地域に根付く知恵の伝え手として位置づけ、国内外の企業・団体へ向けた体験型プログラムや人材育成研修、国際交流プログラムの造成・実施に注力している。

2026年からは関西を中心に地域を問わず、方向性を同じくする事業者が主体的に交流し、自分のビジョンや独自性・特徴・地域との関係性を掘り下げ、公益に貢献する工芸＝「公藝」へ進化していくための取り組みを実施していく。

FUTURE

ものづくりを公益的工芸＝「公藝」へと進化させる

アート、デザイン、クラフトの領域を溶かしながら、単なる利益・効率を超え、世界と人々の質の向上にどう貢献できるかを未来志向で考えたものづくりを「公益的工芸＝「公藝」と呼び、交流・刺激（インプット）と、発酵・熟成、披露・発信（アウトプット）の場を設けていくことで、さらなる発展・活性化の循環を生み出す。

2026年から始まる3年に一度開催される国際イベント「Kyoto YouMe Triennale」とも連携し、国内外に披露・発信をする場を設ける。

INNOVATION

自身の足元の掘り下げと、領域を超えた交流・思考・行動が生み出すイノベーション

京都という地は、古来から国内外から多様な人・原材料・技術・文化・感性などが混じり合い、昇華してきた。DESIGN KYOTOは、そういった京都の役割の原点に立ち返り、「つくること」の意味のイノベーションに取り組んでいる事業者が集まることで醍醐味である。そのために自分たちの根っこにある地域の自然風土・協働する関係性・美しいものを楽しむ文化、そしてそれを具現化していくものづくりのあり方を見つめ直し、既存の概念や関係性を超え、新しい取り組みやチャレンジに積極的に取り組むことが特徴である。

アート、クラフト、デザイン、テクノロジーといった境界はDESIGN KYOTOでは溶け合い、「公藝」として融合し、新たなものづくりや関係性、場が生まれている。「気づき」と「出会い」を形にすることで、そうした「経験」が「自信」に繋がり、自社全体のブランディングや認知度の向上につながっている。

こうした事例の積み重ねによって、参加企業の自主性も育まれており、さらなるイノベーションにつながる新たなサードプレイスとして機能する場となっている。

●事務局連絡先

一般社団法人 DESIGN KYOTO
〒600-8846 京都府京都市下京区朱雀宝蔵町34 Umekoji MArKet 3階
TEL 075-874-2718
MAIL info@designweek-kyoto.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



KITABAYASHI ISAO
北林 功 氏
COS KYOTO 株式会社 代表取締役
文化ビジネスコーディネーター
EDONOMY 研究者
一般社団法人 DESIGN KYOTO 代表理事

「美しい自然環境の中、人々が笑顔で過ごせる社会を構築する」がビジョン。日本各地の風土で育まれた文化や産業を持つビジョン実現のための叡智(=EDONOMY®)をアップデートし現代に活かすために、地域創生や研修、国際交流等の事業を展開。

地域の事業者が自社を取り巻く自然風土・文化・歴史との関係性や事業の根本にある想いを深掘り、自社の事業の核に据えて言語化と実践に取り組むワークショップや、地域と国内外の異文化の人々の質の高い交流を促進・コーディネートできる『クロスカルチャーコーディネーター®』と名付けた中間人材の育成にも取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



SATO TAKAHIKO
佐藤 貴彦 氏
執行メンバー
株式会社佐藤喜代松商店 代表取締役



OKAMOTO MASAKI
岡本 真樹 氏
執行メンバー
コアマシナリー株式会社 代表取締役



NISHIDA YUKO
西田 裕子 氏
執行メンバー
有限会社日双工業 代表取締役

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



北林 佳奈 氏
事務局リーダー
COS KYOTO 株式会社
取締役

ともにあゆむ

OTHERS

DK メンバー

ものづくりを公益的工芸=“公藝”へと進化させるために領域横断で年間を通じて交流し合い、お互いを高め合うコミュニティ



パートナー



岡村勇毅公認会計士・税理士事務所

COS KYOTO、京都府、京都市

TRIGGER & STORY

誕生秘話

京都は、美食を支える農作物や歴史深い工芸をはじめ、先端的な工業や建築等、世界に誇る多種多様なモノづくりが根付いており、府内各所の担い手が豊かな文化と産業を支えている。しかし、それらの現場は一般には閉ざされており、外部の人が現場を知ることや分野を超えた交流はハードルが高いものであった。2013年、仕掛け人の北林氏はアメリカ西部にある創造都市ポートランドを訪れ、様々な人々が現場で交流する中で関係を深め、協働して新たなアイデアを生み出して実現していく様子を目の当たりにし、衝撃を受ける。「これこそ京都に必要な取り組みだ」と考え、2016年に DESIGN WEEK KYOTO をスタート。京都だけでなく日本と世界の進化に繋がることを信じて活動を続けている。

TOPICS

2025年9月初旬に京都リサーチパークにて、「テキスタイル産地ネットワーク」と共同で国際カンファレンスイベント「DESIGN WEEK KYOTO-クラフト未来会議-」を開催。ゲストに英国の百貨店兼デザインハウス Liberty のマネジングディレクターらを招き、地域の背景を軸に、アート・デザイン・クラフトが融合していくこれからのものづくりのあり方を議論した。

今後は10年の DESIGN WEEK KYOTO の活動に区切りをつけ、通年で「公藝」を目指した、交流・刺激(インプット)と、発酵・熟成の場としての DESIGN KYOTO の運営に取り組み、披露・発信(アウトプット)の場として、2026年から始まる3年に一度開催される国際イベント「KYOTO TRIENNALE」とも連携していく。



次世代へのものづくり教育、経営を学ぶ研修、他産地との交流、そして感謝と誓いを込めた“ものづくり神事”等、多様なコミュニティ活動を行っている。

NeoTAN



CORE VALUE

スローなおどろき ほお～わあ～おおー

- EVENT DATA -

開始年	: 2025年
開催回数	: 1回
開催期間	: 10月頃
参加企業	: 28社 (2025年)
来訪者数	: 約1,500人 (2025年)
主催	: 丹後オープンファクトリー実行委員会、 京丹後市商工振興課、与謝野町産業観光課

FEATURES

心にしみるスローなおどろき

1300年の歴史を誇る絹織物（丹後ちりめん）をはじめ、豊かな自然を生かした農業や酒造、また、精密部品加工や鍛造・鋳造など、歴史と文化が織りなす魅力を持つ「丹後」。ここで生まれた「NeoTAN（ネオタン）」は、つくり手のことばや技術、豊かな食や文化にふれ、「ほお～」「わあ～」「おおー」と思わず声が出る“スローなおどろき”を味わうことができる、まさに地域の魅力をまるごと体感するイベントである。職人工房から海外展開をする3,000人規模の大手企業まで大小さまざまな事業者が参画し、地域や自社の魅力を「現場と言葉」で届けている。第1回の開催となった2025年は、初回にもかかわらず28の個性あふれる事業者が出展、延べ来場者数約1,500人に至るなど、地域がまとまって魅力を発信し、来場者は五感を通して体感できる貴重な機会となった。

FUTURE

想いを紡ぐ～ヒト・モノ・コト～

アンケートでは、来場者の約9割が「非常に満足（5段階評価の最高値）」と回答、出展事業者からも次回の開催・参加を希望する非常に多くの声があった。

事業者・社員が自社の説明・来場者の反応などを通して仕事のやりがい・誇りを再発見する機会にもなっており、まさにそれぞれが地域の顔として活動し、魅力をPRした。今後も、参加事業者を口コミ的に広げながら、開催地域も京丹後市・与謝野町を越えて、新たなつながり、広がりを目指していく。

●事務局連絡先

丹後オープンファクトリー実行委員会 事務局

- ①京丹後市商工観光部商工振興課 (TEL 0772-69-0440)
〒629-3101 京都府京丹後市網野町網野 385 番地の1 (ら・ぼと)
- ②与謝野町産業観光課 (TEL 0772-43-9012)
〒629-2292 京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1798 番地の1

INNOVATION

地域や業種を越えてまざりあう

初開催にあたり、先進的な事例である「CRASSO（香川県）」との交流・意見交換の機会を設けた。また、近隣市で開催している「まいづるグッドカンパニー（京都府舞鶴市）」の中核事業者への合同視察を実施したこともあり、事業者同士の横のつながりや、域内にとどまらない越境による学び合いなどが自然と生まれた。その結果、もっとこうしたいなど、事業者の主体性が育まれ、NeoTANに向けて社内プロジェクトで取り組んだり、出展事業者と参加者をつなぐ交流イベント「MazeTAN」がイベント期間中開催されたりと、独自の取り組みが生まれ、来場者の満足（おどろき）、出展事業者の次回以降の参加意欲につながるなど、好循環が生まれつつある。

イベント期間中、MazeTANに加え、メイン会場（TANGO OPEN CENTER）で3つのトークイベントを開催。地域の事業者が想いを発信する場を設けると同時に、日本政策投資銀行や近畿経済産業局、近隣の先進的な取組事業者などとトークセッション・意見交換を行った。その様子は、YouTubeを通して、リアル・アーカイブ配信を実施。また、丹後の地場産業を支える公設機関「京都府織物・機械金属振興センター」において、120周年記念イベントを同時開催、多くの来訪者をもたらした。オフィシャルツアー（NeoTAN号）を運行し、地域外の来場者が関わりやすくなるよう整えた。

加えて、地域金融機関の京都北部信用金庫は、海の京都DMO※と連携し、イベントに合わせたファミツアーを開催。全国各地から集まった参加者が、NeoTAN出展事業者等へ訪問し、好評を博した。その後も、海の京都DMOと連携し、京都北部7市町のオープンファクトリー事業者を巡る産業観光・企業研修等のツアー組成を進めるなど、新たな取組が生まれている。

※海の京都DMO・・・一般社団法人京都府北部地域連携都市圏振興社の通称
海の京都地域（福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町及び与謝野町地域）の連携とネットワークの強化を図り、京都府北部地域全体の振興に寄与することを目的としている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



丹後オープンファクトリー実行委員会
実行委員長

高杉 鉄男 氏

株式会社溝川 代表取締役

大学卒業後、室内装飾会社を経て溝川家具店に勤める。1993年の法人化と同時に専務、2007年に代表取締役に就任。日々精進を重ねる職人集団を束ねる。



丹後オープンファクトリー実行委員会
副実行委員長

糸井 宏輔 氏

丹菱株式会社 代表取締役

1960年に創業した丹菱株式会社の三代目。燃糸から機織りまですべての工程を自社で対応。2022年にオープンした Amanohashidate Terrace Coffee (ATC) では、オリジナルブランド「TRIP1」を販売。MazeTAN会場にもなった。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

丹後オープンファクトリー実行委員会

西村 友美 氏

丹後織物工業組合



丹後オープンファクトリー実行委員会

廣瀬 和加子 氏

ヒロセ工業株式会社



丹後オープンファクトリー実行委員会

京都北都信用金庫



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



丹後オープンファクトリー
実行委員会事務局

福崎 智子 氏

株式会社ウエダ本社
京都スタイル株式会社



丹後オープンファクトリー
実行委員会事務局

京丹後市 商工振興課
与謝野町 産業観光課

ともにあゆむ

OTHERS

【出展事業者】

(株)溝川 (株)丹菱 (株)丹後織物工業組合 (株)砂後建設 (株)大西衛生 (株)京都府織物・機械金属振興センター (株)久美浜観光園 KCSセンター京丹後/峰山 コウジュササキ(株) (株)シオノヅ工 創作工房糸あそび 染織工房嶋津 大善(株) 谷勝織物工場 谷口酒造(株) (株)タムラ 田勇機業(株) (株)丹後王国アルブリー (株)丹後蔵 丹後クリエィティブセンター西陣織あさぎ美術館丹後館 TANGOYA/ASOBI BEER (株)ローカルフラッグ (株)日進製作所グループ (株)白鳥リネン ヒロセ工業(株) 矢野(株) (株)山藤遊縁舎 与謝野町織物技能訓練センター

【協力団体等】

(株)ウエダ本社 / 京都スタイル(株) 京都北都信用金庫 (株)オーデザインチャンネルズ (一社) 丹後暮らし探求舎 与謝野町商工会青年部 京丹後市商工会 丹後織物工業組合 丹後機械工業組合 与謝野町観光協会 京丹後市観光公社 ハローワーク峰山 ハローワーク宮津 京都府丹後広域振興局 京都府織物・機械金属振興センター (一社) 京都府北部地域連携都市圏振興社

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2021年にコロナ禍で開催された「Design Week Tango」に、今回の取り組みをリードした事業者の多くが参加するなど「NeoTAN」につながる土壌が育まれていた。

“Neo”はギリシャ語の「新しい」を語源とし、歴史的な背景を持つこの地域の再構築・リブランドといった想いを表現。また、“TAN”は、「丹」であり丹後、丹波などこの地域の地名として用いられると同時に、身体を中心部である「丹田」など、様々な使用されている。「NeoTAN」には、地域の事業者が、「丹」をテーマに自治体の枠を越えてつながり、歴史や文化を大切にしながら、新たな価値の創造に取り組んでいくという想いが込められている。

TOPICS

NeoTAN、をテーマにつながらる・ひろがる

交流イベント「MazeTAN」は、副実行委員長の発案で、業種や地域、役職の壁を越えて多種多様な人が交ざり合い、交流を深める機会となった。当日は、参加事業者の社員から行政の首長まで多くの来場者で、当地にゆかりのある「精神科医 兼 DJ」や、「農業×音楽で地域の活性化に取り組む若手事業者」が会場を盛り上げた。

次年度はエリア拡大の話も進むなど、NeoTANの開催をきっかけに、多様な人々の間に地域の枠を越えた交流が生まれ、地域間の連携や産業観光の新たな可能性を探る機会になっている。ここから生まれたつながりが、京都北部の新たな魅力の創出につながっていくことが期待される。



大正・港・西淀川オープンファクトリー



CORE VALUE

ものづくりの力を結集して、地域の課題解決へ

- EVENT DATA -

開始年	： 2015年
開催回数	： 10回
開催期間	： 例年11月頃 / 4日間
参加企業	： 20社 (2025年開催実績)
来訪者数	： 約110人 (2025年開催実績)
主催	： 大正・港・西淀川ものづくり事業 実行委員会

FEATURES

行政と民間が自ら「考動」する集合体

大正・港・西淀川オープンファクトリーは、エリアの人口減少を背景に、エリアの魅力を外部に発信するとともに、地域住民が自らのまちに愛着を持ってもらうことを目的にスタート。2023年からは西淀川区が新たに加わり開催した。行政主導で始まったものの、民間企業も同じ目線・熱量で共に企画実施可能な関係性が構築されている点、すなわち「行政色が濃いにも関わらず民間企業も『やられ感なく』継続している」ことが非常に特徴的である。

さらにはまちの魅力発信を兼ねていることから、地元商店街等も訪問ツアー先に組み込み、地域一丸となって取り組んでいる。

FUTURE

多様な交流でさらなる飛躍へ！

本オープンファクトリーのスタートは、2015年の大正オープンファクトリーにさかのぼる。大正での取り組みがきっかけとなり、関西の他地域の新たな取り組みも生まれてきた。さらに、研究者、ベンチャー企業のアイディアをより早く具現化する為の外部資源を巻き込んだプラットフォーム「Garage Taisho, Minato」創出にも繋がっている。

2023年から新たに西淀川区が加わり、地域内での連携はもちろんのこと、それぞれの地域のネットワークを活かし、地域外ともさらに積極的に交流を図り、新たな「大正・港・西淀川」の魅力発信の手法を生み出していく。

INNOVATION

ローカル・カンパニー・プライドによる地域課題解決へ

主催者の大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会では、こどもたちを対象とした、拠点型ものづくり体験イベント「西淀川区ものづくりまつり」を2010年から、「大正ものづくりフェスタ」フェスタを2013年から継続して取組み、ともに8月に開催している。毎年4～5ヶ月かけて企画に取り組み中、「どうせなら現場(工場)も見せよう」という自発的な声からオープンファクトリーの取り組みに繋がった。現在までの参加企業は約50社で、区内の企業の関心も非常に高く、事業を通して企業間のネットワークも着実に拡大している。行政がツアーを企画し、参加企業が当日の体験・見学メニューを考える際、異なる参加企業同士でチームを組む。情報交換することで交流が生まれ、区内の企業間ネットワークが拡大していく。さらにオープンファクトリーを通して、自らを地域にアウトプットする出力先が出来たことで、徐々に「自分事」として活動するようになり、企業の地域に対する愛着(「ローカル・カンパニー・プライド」)も育まれている。

大正・港・西淀川オープンファクトリーの原点は「課題解決による地域貢献」である。本取り組みを通して業種・業界を超えた企業関係性が構築され、地域企業が悩んでいた若手社員教育の共同実施に繋がったり、コロナ禍での地域医療機関の困りごとを解決する商品開発を短期間で実現するなど、取り組みを継続することで生んだ「繋がり」が、結果的に地域課題を解決することが可能なイノベーションの苗床となっている。

●事務局連絡先

大正区役所

〒551-8501

大阪市大正区千鳥2丁目7番95号

TEL 06-4394-9942

仕掛け人

TREND SETTER



大阪市港区役所 総務課



大阪市大正区役所 地域協働課



大阪市西淀川区役所 地域支援課

ものづくり企業と行政が連携する「大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会」を通じ、まちの活性化を公民連携ですすめており、3つの区役所が事務局を担っている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

大正・港・西淀川ものづくり事業実行委員会

大正区、港区、西淀川区のものづくり企業と区民との交流やものづくり企業のネットワーク形成とともに、区外へもこれら地域のものづくりの魅力を広く発信し、ものづくり企業の活性化を目指すため、民間企業、支援機関、区役所で組織し、オープンファクトリーをはじめとした事業執行の意思決定を行っている。



実行委員長 中村 和也 氏

中村工業株式会社 専務

機械化が難しく、人の力に依るところが大きい、直径80mmを超えるような太径のロープ加工を得意とする中村工業(株)。同社は、主要メンバーとして、工場見学を積極的に受け入れ、同氏は工場見学の講師を務める等、子ども達にもものづくりの魅力を伝えている。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

木幡 巖 氏

株式会社木幡計器製作所
代表取締役



南 仁 氏

有限会社南歯車製作所
代表取締役



山本 忠 氏

山忠木材株式会社
代表取締役社長



東 弘之 氏

鹿島化学金属株式会社
取締役副社長



ともにあゆむ

OTHERS

オープンファクトリー 2025 参加企業

大正区：株式会社木幡計器製作所、紀洋木材株式会社、中村工業株式会社、ヨリドコ大正のつぼん&大正メイキング、ポリテクセンター大阪港、IKEA 鶴浜、鈴木合金株式会社、大阪港湾局鶴町機械工場、有限会社飛鳥鉄工所、株式会社藤井組

港区：有限会社南歯車製作所、成光精密株式会社

西淀川区：奥村機械製作株式会社、池永精機株式会社、フードテクエンジニアリング株式会社、末広工業株式会社
日本鏡板工業株式会社、株式会社ニッセイ・ニュークリエーション、江崎記念館、山陽紙器株式会社 (順不同)

TRIGGER & STORY

誕生秘話

大阪の湾岸エリアは、紡績産業を中心としてまちが発展してきた。また、日本屈指の近代港を擁することで、重工業も大きく発展し、“ものづくりのまち”として全国にその名を馳せている。そうしたものづくりのコアとなる、匠の技、現代に受け継がれたものづくりのDNAを体感してもらいたいという想いから、2015年に大正区でオープンファクトリーの取り組みが始まった。ものづくりの現場を見学する他、商店街や観光地を巡るプログラムも組み込まれた。2017年から港区が、2023年には西淀川区が新たに加わり、現在の「大正・港・西淀川オープンファクトリー」に至る。立上げ当時の事務局職員の近藤氏や、各企業の関係者による多大な尽力・想いにより地域が拡大してきた。

TOPICS

りびんぐラボ大正・港の発足

医療、工業、福祉の関係企業が連携し地域課題の解決をめざす「りびんぐラボ大正・港」のスタートは2020年1月。大正区は大阪市24区内で最も人口が少なく、高齢化も進んでいる。少子高齢化の顕著な大正区がこの課題を解決できれば、他の自治体でも活用できるひとつのモデルケースになるとして、「ものづくりのチカラ」で健康医療に係る様々な研究・実証を行い、未来の地域健康へフィードバックすることを目指す。

コロナ禍においても、地域医療機関が「被覆具」不足に困った際、本取り組みを通して25時間で企画・製造が実現し、解決を生んでいるなど、今後の成果も期待される。



(写真) 工場見学の様子

大阪靴と皮革の祭典 O-Round(オーラウンド)



CORE VALUE

発見！ 体験！
靴と革のまちを遊び尽くそう！

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 3回 (2025年)
 開催期間 : 9月 (2025年)
 参加企業 : 47社・団体 (2025年)
 来訪者数 : 531人 (2025年)
 主催 : O-Round 実行委員会

FEATURES

靴と革のまちの魅力を多角的に表現

大阪市の浪速区・西成区にまたがる地場産業＝革靴・皮革産業を一つにまとめるイベント。2025年は大阪・関西万博開催、浪速区・西成区の区制100年にあたり「人が動く」チャンスと捉え、「レザー EXPO」「まちなかパビリオン」をテーマとして、露出を高めることを目指した。9月7日大阪市立西成区民センターでのイベント「革いいもんフェス」をポイントとして、9月19日～25日を「オープンファクトリー」として各事業所を回ってもらうプログラムを組み、そこに向けて難波方面でのPOP UP イベントや広報を展開した。

FUTURE

多様な魅力をたばねるコンセプトを

開催の目的は、①消費者への認知度向上、②産地ならではの「良さ」を発信、③交流を通じた経営革新&ビジネス連携の促進、である。この地域の製品とサービスを一ヶ所に集約したことで、通常の流通経路にはない地域ならではの「良さ」が明確になり、足型測定→フィッティング→自分に合った靴の購入→メンテナンス→修理までのサービスへのアクセスをも示すことができる。また、大阪・関西に広がるオープンファクトリーとの交流は業界のイノベーションとビジネスの可能性をさらに押し広げるものになりつつある。

INNOVATION

経済を教育や地域につなげる萌芽

江戸時代から連綿と続く地場産業は蓄積された技術とネットワーク等の資産と公共機関や地域住民、金融機関、関連業界、大企業の応援を得やすいポテンシャルを持つ。しかし、近年海外から安価な靴の流入など厳しい経営環境にある。個社の取り組みを基本としつつも地域丸ごとのイノベーションが必要と考える。「地域一体型オープンファクトリー」は各社の有する技術・ノウハウを発見し交流し新しい商品とサプライチェーンを創出する挑戦である。これまでに得た成果と教訓をさらに発展させていきたい。

●事務局連絡先

O-Round 実行委員会 事務局 (A' ワーク創造館内)
 〒556-0027 大阪府大阪市浪速区木津川 2-3-8
 TEL 06-6562-0410

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



2025O-Round 実行委員会 実行委員長

高見 一夫 氏

A' ワーク創造館 館長
株式会社ワーク 21 企画代表取締役

企画運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



O-Round 実行委員会 副委員長

野口 貴弘 氏

野口彦株式会社 取締役社長



O-Round 実行委員会 副委員長

酒井 宏明 氏

株式会社口商店インターナショナル
代表取締役

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



株式会社口商店インターナショナル 取締役

山部 勇也 氏

有限会社オプ・ユース PRWSIDENT

牧野 浩之 氏

株式会社矢口製靴 代表取締役

矢口 誠斗 氏

地域精通者

米田 弘毅 氏

ともにあゆむ

OTHERS

南海電気鉄道株式会社

大阪府立西成高等学校

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2021年4月、東京浅草にあった日本最初の靴学校・エスペランサ靴学院が大阪市浪速区に移転し、第47期を開始した。浅草と同様に、この地には近代以来製靴業と皮革業で発展してきた歴史がある。付近にはNPO法人シューネクスト(芦原橋)や西成製靴塾(西成区鶴見橋)といった靴づくりの教育機関もあり、産業振興と教育を掛け合わせた地域連携の機運が高まっていた。

2022年10月のA-ROUNDの視察に大いに触発された、後の実行委員会メンバーは、大阪 浪速・西成でも靴と皮革の祭典を行うことを決意、翌年11月にA-ROUNDの助言を得ながらO-Roundを開催する運びとなった。

TOPICS

オープンファクトリーで企業の魅力をつたえる

今年4月、梅田や難波といった繁華街ではなくあえて地元・西成の住宅街にギャラリー(店舗)を開業した靴メーカーがある。O-Roundでは工場とともにギャラリーも見学に開放し、この地にギャラリーを開業した理由、そのコンセプトとねらいを来場者にプレゼンテーションした。

来場者の反応に手ごたえを感じたメーカー社長は、早くも次回の取り組みに意欲を示している。メーカー自らが自社の魅力を直接に発信することの大切さを示している。

また今回の開催を経て、「やっぱり街を歩き、街を知ってほしい」という想いが強くなった。今後も「伝統的な皮革産業地帯」としての歴史を伝えるべく開催を続けていく。



オープンファクトリーの様子

泉州オープンファクトリー



CORE VALUE

人・モノ・コトが交わる “コウバ”祭り！

- EVENT DATA -

開始年 : 2021年
 開催回数 : 5回
 開催期間 : 11月～12月頃 / 3～4日間程度
 参加企業 : 42社 (2025年)
 来訪者数 : 約3,000人 (2025年)
 主催 : 泉州オープンファクトリー実行委員会

FEATURES

業種を超えた交場「コウバ」を楽しもう！

大阪南西部に位置する泉州地域は、泉州タオル、ワイヤーロープ、泉州水なすなど、特色ある地場産業が数多く集積するエリアである。その泉州の5市3町を舞台に開催される「泉州オープンファクトリー」は、ものづくり体験を通じて、産業や文化、そして地域の人々との交流を楽しむことができるイベント。製造業に限らず、農業、ローカル鉄道、空港事業者といった多様な業種が一堂に会するのが大きな特徴。テーマは「コウバ祭り」で参加者は、商品やサービスに触れるのみならず、現場で働く人々と直接触れあうことで、地元企業の魅力を再発見し、泉州のコウバ（交場、工場、購場 etc...）の多彩な価値を体感できる。

FUTURE

課題解決のきっかけを生むプラットフォームへ

泉州オープンファクトリーには多様な業種の事業者が参加しており、その課題も人材採用、販路開拓、社内活性化など多岐にわたる。こうした状況において、年1回のイベント開催だけでなく、交流や対話を軸に、学び・協業・発信の機会を通じて参加企業の熱量を高め、関係性を深めていくことが求められる。今後は、地場産業や地域の担い手が抱える課題に対し、解決のきっかけを生み出す「共創型コミュニティ」としての機能を強化していく。

INNOVATION

エリアを超えた連携から共創を実現

泉州オープンファクトリーは、泉州地域においての広域開催を特徴としており、また、大阪府内における他のオープンファクトリー団体「O-Round」、「FactorISM」、「ワークワクワ河内長野」とも連携を深めている。主な連携内容としては、参加企業による定例会への登壇や情報共有、相互のイベントにおけるゲスト出展など、多様な形での協業を実施。さらに2024年度からは、「いこらも～泉佐野」をサテライト会場としたオープンファクトリーを展開しており、2025年度には前述の団体からゲスト企業の出展を受け、計17社による出展のもと開催。当日は延べ約2,400名の来場があり、府内の各団体が一体となって、大阪のものづくりの魅力を広く発信する機会となっている。

さらに、泉州オープンファクトリーでは、地域内の高校と連携した「学生向けオープンファクトリー」も開催している。バスツアー形式で開催エリア内の企業を巡ることで、製造現場のリアルな空気を体感し、地域企業への理解と魅力を深める機会を創出。2024年度は3日間で13社が参画し、過去の開催から就職内定につながる実績も生まれている。採用に課題を抱える製造業にとって、若年層と地場産業をつなぐ新たなキャリア支援のモデルとして、地域内外から注目を集めている。

●事務局連絡先

泉州オープンファクトリー実行委員会

〒597-0083 大阪府貝塚市海塚1-1-23 ポートフォリオ内

E-mail info@senshu-of.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



TAMADA SYOTA
玉田 翔太 氏
株式会社スプリード 代表取締役
泉州オープンファクトリー実行委員会
実行委員長



ENSHO KOUJI
延生 康二 氏
株式会社ポートフォリオ 代表取締役
延生建設株式会社 代表取締役社長
泉州オープンファクトリー実行委員会
相談役

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

泉州オープンファクトリー実行委員会

中野 壮人 氏
中野産業株式会社
取締役

木岡 幸子 氏
日本紙工株式会社
営業部 企画開発課
課長

前田 浩一 氏
一般社団法人貝塚市内町保存活用事業司
業務執行理事

神藤 貴志 氏
神藤タオル株式会社
代表取締役

植田 由貴子 氏
有限会社ユース
代表取締役

西出 圭宏 氏
株式会社ファム
マネージャー



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局

渡辺 葉一 氏

株式会社ひとは 代表取締役
泉州オープンファクトリー実行委員会
事務局局長



井上 達也 氏

一般社団法人泉佐野シティプロモーション推進協議会
リーダー

有地 鋭一 氏

Rocks 合同会社
マネージャー

山岡 安宏 氏

エスベール合同会社
代表取締役

福本 直洋 氏

福本企画
代表

ともにあゆむ

OTHERS



貝塚市
KAIZUKA CITY

古家 好仁 氏
貝塚市
総合政策部 産業戦略課
課長

櫛本 佳秀 氏
貝塚市
総合政策部 産業戦略課
課長補佐



泉佐野市
IZUMISANO CITY

今西 紀彰 氏
泉佐野市
生活産業部
まちの活性化担当理事

樽下 香都 氏
泉佐野市
生活産業部
まちの活性化担当理事



南海電気鉄道株式会社
共創事業部

TRIGGER & STORY

誕生秘話

普段は目にするものづくりの現場を一般に開くことで、地域住民や異業種企業とのコミュニケーションを促進し、地域での認知拡大、インナーブランディング、さらには自社の商品や技術の潜在的価値を再発見する——。そうした想いから「オープンファクトリー」は誕生した。当初は、貝塚市内の有志事業者によって「貝塚オープンファクトリー」としてスタート。開催を重ねるごとに参画する企業や来場者も増加し、その輪は泉州地域の5市3町へと広がった。現在では「泉州オープンファクトリー」として、学び・交流・連携のきっかけを生むイベント、そして地域共創のコミュニティへと発展している。

TOPICS

開催5周年とともに EXPO2025 と共創

泉州オープンファクトリー実行委員会は、「TEAM EXPO 2025」共創チャレンジ登録団体として、2025年度における大阪・関西万博との連携を強化すべく、各種取り組みを推進した。万博会場では、泉州地域の企業9社がブース出展およびものづくりワークショップを展開し、地域産業の魅力と技術力を広く発信した。あわせて、開催5周年の節目に、大阪府内の他のオープンファクトリー団体をゲストに招いた「オープンファクトリーフォーラム」を実施。さらに、万博との共創をテーマとした交流イベント「EXPO 酒場」も開店し、多様な人々が地域と交わる機会を創出した。これらの取り組みは、エリアを越えた新たな接点を生み出すとともに、泉州オープンファクトリーのこれまでの歩みをさらに飛躍させるものとなった。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験の様子

不器用 FACTORY



CORE VALUE

“できない”を楽しむ、 ものづくり体験

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 11回
 内訳 : 2023年3回、2024年4回、2025年4回
 参加企業 : 16社 (2025年)
 来訪者数 : 約5,600人 (2025年)
 主催 : ひらかた地域産業クラスター研究会
 オープンファクトリー部会、枚方市

FEATURES

地域一体で「日本一敷居の低いオープンファクトリー」を実現!?

「共創」をテーマに、地域の繋がりを活かし、企業の魅力発信強化とイベント集客難を克服。参加者同士が協力しながら無理なく持続できるオープンファクトリーを目指している。商業施設の協力やコワーキングスペース運営会社の支援により集客力を高め、企業の個性や魅力をクリエイターが抽出・表現しPRの不得手をサポート。地域住民に身近な商業施設「くずはモール」で、ポップアップ型のオープンファクトリーイベントを開催した。これは一人でも多くの人に地元のものづくりに触れる「小さな接点(窓口)」を創出したり、企業(工場)への興味や気づきを促すことで、参加企業、訪れる人双方にとって敷居を低くするためであり、結果として多くの人々が関心を持ってくれたことで、現地型のオープンファクトリーへと発展した。

FUTURE

ものづくり企業発! 「産学公連携」で地域の魅力度向上へ!

共創の推進ツールでもある「コラボマスターズ」を活用し、大阪万博に向けたインバウンド需要にも焦点を当てることで、地域と企業、大学との連携をより深めていく。さらに、地域資源や企業の特徴をカード内容に反映させることで、大阪・関西万博関連イベントやツアーなどでのカードの活用価値を強調。対戦型のゲーム性(カードバトル)も兼ね備えているので、地域文化や企業の魅力を「楽しみながら」来場者に触れてもらい、共創への気づきが生まれるきっかけとしたい。

INNOVATION

「共創を促進する」オリジナルトレーディングカード「コラボマスターズ」誕生!

地域の企業とクリエイターのコラボレーションから誕生した「不器用FACTORY」の「コラボマスターズ」トレーディングカードは、各企業の理念や提供価値をモチーフにした「ヒト・コトカード」と商品・サービス・取り組みなどの強みを表現した「モノ・バカカード」の2種類がある。それぞれの企業の特性や点数を組み合わせる(コラボする)ことで「共創」への気づきを促進できるツールとなっている。イベントやワークショップに参加することで入手できるので、来場者に対しては、現場を回遊しながらカード収集ができ、楽しい体験機会への促しになるだけでなく、ものづくりの理解と共に企業認知を親子間で高める効果になる。企業と来場者のコミュニティ形成の先には、将来の雇用促進も期待されるので、地域活性化への貢献にもつながりたい。

さらには、カード内容を企業内(社員同士)で考えることで、自社ブランディングの意識醸成の効果も。現場を開放することで人材成長に繋がるオープンファクトリー開催の効果に加えて、不器用FACTORY独自のトレーディングカードの特性を活かした「共創」の可能性を今後も探求していきたい。

●事務局連絡先

ひらかた地域産業クラスター研究会

〒573-1159 大阪府枚方市車塚1丁目1番1号(北大阪商工会議所内)
 TEL 072-843-5151

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



ASHIDA TOMOYUKI
芦田 知之 氏
 アクテック株式会社 代表取締役社長
 2021年に2代目代表取締役社長に就任。
 ひらかた地域産業クラスター研究会オープンファクトリー部会の
 会長として、イベントの立ち上げに関わる。



HARADA TAKUYA
原田 卓哉 氏
 香椎化学工業株式会社 取締役 副社長
 スキンケアをはじめとした化粧品製造・開発に取り組む同社の
 副社長。
 ひらかた地域産業クラスター研究会オープンファクトリー部会の
 副部長として、イベントの立ち上げに関わる。



TAKEMURA KAORI
竹村 香織 氏
 株式会社テイク・システムズ 代表取締役
 2023年2代目代表に就任。2022年より新事業として初のBtoC
 事業、メイカースペースのあるコワーキングスペース テイク・
 ラボを運営。不器用FACTORYではものづくり企業の中心的役割
 として立ち上げ時より活動。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



SAHARA KAZUYUKI
佐原 和行
 パイカイデザイン株式会社
 代表取締役

1975年石川県生まれ枚方育ち。大阪デザイナー専門学校を卒業後、印刷会社〜デザインプロダクションでの経験を経て、2012年パイカイデザインを開業。「現場が動くクリエイティブ」をモットーに、クリエイティブディレクターとして活動中。2023年からは、枚方市立地域活性化支援センター「ひらく」にて、地域事業者のクリエイティブ活用をサポートする専門アドバイザーも兼務。不器用FACTORYでは、立ち上げ当初からトータルディレクションを担当。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



交久瀬 清香 氏
 合同会社 PicnicWork 代表社員



平岩 愛理 氏
 合同会社 PicnicWork 業務執行社員



上田 周功 氏
 株式会社京阪流通システムズくずはモール



高田 研一 氏
 北大阪商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS



TRIGGER & STORY 誕生秘話

2022年に開催した、枚方産学公連携フォーラムの基調講演で「価値協創の時代における“サードプレイス”の重要性 手段としての地域一体型オープンファクトリー」をテーマに取り上げた。これを契機に、「飾らずにものづくりの魅力を伝え、地域との繋がりを創出し、それに貢献したい」という想いに企業が集い、初開催はのべ12社が参加。地域クリエイターや大学との連携体制も構築しながら、今後も持続して開催できるイベントを目指している。

TOPICS

新たに地元商業施設「くずはモール」のカードがコラボマスターズに追加される。これにより、カードを集める楽しみだけでなく、店舗で実際にサービスを受けることが可能となるなど、現実の世界でも活用できるようになった。この取り組みは工業と商業のコラボレーションを象徴し、さらなる展開を期待している。本イベントを通して「小さな成功体験」を次々と生み出すことで、地元商業と工業の結びつきが強化され、参加者にとってのイベントだけではなく、地域経済にも貢献する新たな機会になると見込んでいる。

実際、2度のポップアップ型オープンファクトリーの成功が、翌年2月の現地型オープンファクトリーの企画に繋がったことはその象徴ともいえる。

今後は現在の企業群の連携強化だけでなく、新たな関係者の関わりしるを作り出すことでさらなる多様な連携を創出し、地域全体の活性化を目指す。



不器用FACTORY2023の様子



いばらき、クルクル



CORE VALUE

まちをクルクルめぐる いばらき、参観日

- EVENT DATA -

開始年	: 2024年(2023年に試行実施)
開催回数	: 2回
開催期間	: 毎年11月～12月頃
参加企業	: 14社(2025年)
来訪者数	: 約1,100人(2025年)
主催	: 茨木市

FEATURES

市内企業の魅力を発掘するオープンカンパニー

茨木市は淀川の北側に位置し、大阪と京都の中間に所在するという立地の良さを背景とした市域南部の市街地と、北部の自然豊かなエリアという特色の異なるエリアを持つ。大阪と京都のベッドタウンというイメージを持たれがちな茨木市だが、まだまだ知られていない企業が多くあり、それらをクルクルとめぐることで新たな発見や刺激を受けてほしいという願いを込めて実施されているのが、「いばらき、クルクル。」だ。茨木市には製造業以外の企業も多いため、サービス業など、様々な業種が参加するオープンカンパニーと銘打ち、各企業の特徴を生かした様々な取り組みを展開している。

FUTURE

多様な事業者と共に歩む体制作り

2023年に4社が参加して試行的に開始した取り組みは、2024年に7社、2025年は14社と回を重ねるごとに倍増。開催日数も2日間とし、複数の企業や地域をめぐってもらいやすい体制を整えた。また、参加企業間での交流も活発化しており、月に1回の勉強会や他市への視察、開催実績のある先輩企業が、新規参加企業に取り組みの様子を公開するモデルツアーを実施するなど、個社での取り組みのブラッシュアップと、企業間の連携強化を進めている。

参加企業間での相互見学実施や、事業コラボレーションも生まれており、お互いのニーズと技術をマッチさせた共創の実例も生まれている。

今後もイベントの継続的な実施や地域を越えた連携なども見据えて、参加企業間で方向性を決定し、行政がそれをサポートする体制へと、検討を重ねていく方針だ。

INNOVATION

イベント実施を通して拡がり続ける輪

2024年のイベントは多くの来場者を迎えることができ、参加企業からは、「来場者の笑顔に触れることができ、達成感があった」、「他の会社の取り組みを知って刺激を受けた」という声が寄せられた。また、来場者からもポジティブな感想が多く寄せられており、社員のモチベーション向上にも繋がっている。

2025年からは参加企業が増加したこともあり、参加企業同士が交流する機会をより積極的に設定。オープンカンパニーの取り組み経験が豊富な企業が新規参加企業と連絡を取り、コンテンツの内容や不安点について相談に乗るなど、チーム全体の連帯感も醸成されている。

また、茨木市の特徴の1つとして、特色ある教育機関が複数所在していることが挙げられる。産学官金連携の取り組みが盛んで、市内で学ぶ学生も多い。こうした特徴を生かすため、2025年はオープンカンパニー当日に大学生のインターン生が各企業をサポートする取り組みを実施し、企業と学生が交流する機会とした。さらに、立命館大学大阪いばらきキャンパスの施設を借り、出張ワークショップを開催。当日は大学が主催する地域向けイベントも開催されていたこともあって多くの市民や学生が体験に訪れ、企業の魅力発信、オープンカンパニーの認知度向上にも結び付けることができた。さらに、オープンカンパニーと目的が近い民間イベントにも積極的に関与する企業も出てくるなど、参加企業の活動の幅も広がっている。

●事務局連絡先

茨木市産業環境部商工労政課

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
TEL 072-620-1620

仕掛け人

TREND SETTER



茨木市産業環境部
商工労政課

企業や地域の魅力発信、ひいては茨木市産業の活性化を目指して当イベントを主催。市内産業の状況を俯瞰する市役所の目線を生かして企画を進めつつ、市内企業を積極的に訪問してオープンカンパニーの魅力や効果をプレゼンし、認知度の向上を図った。

イベントを実施した結果、当初目指していた企業の魅力発信だけでなく、企業間の交流やネットワーク構築のきっかけにもなっていることに大きな手応えを感じている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

茨木市オープンカンパニー事業実行委員会

実行委員長
高石 秀之 氏
高石工業株式会社



副実行委員長
辰巳 雪絵 氏
辰巳工業株式会社



実行委員
古家 嘉人 氏
株式会社富士パッキング工業所



2024年から、オープンカンパニーの継続と、それに向けた機運醸成の検討を行う実行委員会を発足させており、3氏はその中心メンバーとして多方面に尽力。事業所公開に関するノウハウも豊富な3氏は、新規参加メンバーにとって頼れる存在となっている。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

事務局運営
茨木市産業環境部商工労政課
株式会社友安製作所



ともにあゆむ

OTHERS

参加企業 (50音順)

- | | |
|----------------------|----------------|
| アース環境サービス株式会社彩都総合研究所 | 高石工業株式会社 |
| アイシンシロキ株式会社大阪工場 | 辰巳工業株式会社 |
| 射場石利石材株式会社 | 株式会社T.M.G |
| 株式会社エフワンエヌ | 橋本食糧工業株式会社 |
| カリエール茨木 | 株式会社富士パッキング工業所 |
| 株式会社澤田商店 | みくりや青果株式会社 |
| 資生堂大阪茨木工場 | 株式会社吉野工業所大阪工場 |

TRIGGER & STORY

誕生秘話

オープンファクトリーが盛り上がっているという情報は、茨木市役所も以前から把握しており、近畿経済産業局の知見を借りながら企画を進め、2023年に試行という形で初開催。小学生以下の子どもと保護者を対象にバスツアーを2コース準備したところ、定員24組に対し、100組以上の応募があった。

この結果は市内でのオープンファクトリーへの注目を高め、2024年実施の際は、他地域で実績を上げている事業者と連携し、事務局の体制を強化して、改めてイベントの方向性を検討。茨木市内には製造業はもちろん、それ以外の業種にも特色ある事業者が数多く存在し、それらにもスポットライトを当てるべく、「オープンカンパニー」として2024年の実施に至った。

TOPICS

「いばらき、クルクル。」が大阪・関西万博に出展!

大阪府内のオープンファクトリー団体との交流も積極的に行っており、2024年はFactorISMに参加している企業との相互見学や、北大阪エリア(北摂地域及び北河内地域)のオープンファクトリー団体事務局との意見交換会を実施。

2025年も他団体と連携・共創する事例は続いており、10月には大阪・関西万博で特許庁が主催するイベントに、大阪府内の団体と共同でワークショップを出展。ワークショップは多くの来場者で賑わい、来場者と参加企業双方の記憶に残る体験となった。



FactorISM



CORE VALUE

こうばはまちの エンターテインメント

- EVENT DATA -

開始年 : 2020年
 開催回数 : 6回
 開催期間 : 例年10月頃/4日間程度
 参加企業 : 92社
 来訪者数 : 累計9万人以上
 主催 : まちのこうほうぶ
 (FactorISM 実行委員会)

FEATURES

FactorISM ～アトツギたちの文化祭

FactorISMは「こうばはまちのエンターテインメント」を合言葉に、地域と参加企業、来場者が一体となつてつくるオープンファクトリープロジェクトである。イベント当日は、ものづくりの現場を一般開放し、世界に誇る日本のものづくりを五感で体験、体感してもらふ文化祭のような催しが目白押し。年に一度のイベントにとどまらず、通年でものづくりの魅力を伝えるワークショップやこうば見学などの体験プログラムを提供するコミュニティへと発展している。

地域を自分事として楽しく盛り上げる「まちこうば」の姿勢が共感を呼び、その姿に感化された新たなコラボレーションが広がり続けている。

FUTURE

ものづくりの創造性を解放する

FactorISM (ファクトリズム) は、ものづくりの現場を公開する「オープンファクトリー」を通じて、地域のものづくり企業の創造性を解放し、挑戦を続けるプラットフォームともなっている。

通常、消費者が商品が作られる過程や、作り手の想いを知る機会はほとんどないが、一度その現場に足を踏み入れると、未知の世界が知的好奇心を刺激し、感動を生み出し、「知る」こと自体が価値に変わる瞬間がある。

参加企業自身が「自由に、楽しく、自分ごととして」文化祭を企画するように創り上げていくことを大切にしており、本業とは異なる分野に主体的に挑戦し、自ら参画して情報を発信する機会を創出している。

この普段とは違う挑戦から生まれた創造性は、日々のものづくり、新商品開発、さらには会社の広報や人材採用など、多岐にわたる活動に活かされていき、この好循環を地域に根付かせ、広げていくための「装置」として、これからも新たな挑戦を続けていく。

INNOVATION

業種を超えた新たなコラボレーションがまちを変える

FactorISMは、2020年の開始以来、開催地域と参加企業数を年々拡大している。この活動の継続が、地域や業種を超えた「こうば」が集い、お互いの「違い」を認識しながら、まち・ひと・こうばを活性化させる共創コミュニティへと進化。

これまで閉ざされていたまちこうばが、地域に開かれた存在として一つにまとまることで、電鉄会社をはじめとする大企業や異業種とのコラボレーション、地域を超えた繋がり、さらには地元大学生の職業観の醸成など、「まちづくり」に広範な影響を与え、まちの未来を創造する活動へと深化し続けている。

まち全体がコミュニケーションを取り合い、繋がり、絡み合うことで、独自のストーリーが紡がれ、地域住民にとって誇れる場所となり、現在では、海外からも地域のものづくりを学びに訪れる人々がいる。

私たちは、まちこうばを誇れる場所として次世代にバトンを渡し、失われつつある地域の「アイデンティティ＝ものづくり」を、その想いや大切にしていることを含めて後世に受け継いでいくために、こうばを開き、地域のものづくりの魅力を発信し続ける活動を推進している。

●事務局連絡先

FactorISM 実行委員会

〒581-0803 大阪府八尾市光町 2-60 リノアス 8F
 TEL 072-920-7128 (株式会社みせるばやお)
 email machinokouhoubu@gmail.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



MATSUO YASUKI

松尾 泰貴 氏

- ・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当 執行役員
- ・FactorISM 統括プロデューサー

元八尾市職員。「みせるばやお」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにもづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード 2019 を受賞。現在、友安製作所にてまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに邁進中！

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

**FactorISM
実行委員会
(まちのこうほうぶ)**

所属も業種も異なるメンバーが、「まちこうほうをエンターテインメントに変える!」を合言葉に、普段、私たちの生活を支え、暮らしを豊かにしてくれている日本のものづくりの素晴らしさ、面白さをもっとたくさんの人たちに知ってもらい、後世にバトンを継いでいきたいとの想いをもって活動している。



実行委員長
太田 泰造 氏
錦城護謨株式会社



副実行委員長
友安 啓則 氏
株式会社友安製作所



中エリア支部長
梶原 弘隆 氏
株式会社オーツー



北エリア支部長
北次 孝得 氏
北次株式会社



南エリア支部長
福田 康一 氏
株式会社河辺商会

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



幹事

山田 紘也 氏
株式会社ビーダッシュ
代表取締役社長



事務局長

野村 範仁 氏
合同会社つくみら
代表



人材育成研修担当

寺田 昌樹 氏
株式会社電通関西支社
プロデューサー

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

- | | | |
|--------------|---------------|----------------------|
| MUIC Kansai | 株式会社一瀬製作所 | 電通 関西支社 |
| 株式会社小泉製作所 | 株式会社ミナミダ | Forbes JAPAN |
| アベル株式会社 | 角野晒染株式会社 | 078 KOBE |
| 錦城護謨株式会社 | 吉川織工株式会社 | URBAN RESEARCH |
| 株式会社友安製作所 | 谷元フスマ工飾株式会社 | MOBIO (公益財団法人 大阪産業局) |
| 株式会社オーツー | 株式会社明和食品 | akippa 株式会社 |
| 株式会社河辺商会 | 株式会社渚技研 | 株式会社さかい新事業創造センター |
| 株式会社ユタニ | シルバー株式会社 | 日刊工業新聞社 |
| コミュニティ・バンク京信 | シンコーエステック株式会社 | 読売新聞社 |
| 光洋鑄造株式会社 | 近畿日本鉄道株式会社 | 菊水テブ株式会社 |
| | 北次株式会社 | |

TRIGGER & STORY

誕生秘話

開催エリアとなっている八尾市には「みせるばやお」、門真市には「もりかど産業支援機関ネットワーク」、堺市には「さかいセカンドスタートアップ」というそれぞれの事業を通して市役所産業担当者と地域企業群との関係性が構築されており、当該市役所担当者達が繋ぎ手となって始まったのが FactorISM。※なお、当該担当者達は近畿経済産業局への出向経験を通して繋がりを有していた。

そして、お互いの地域で躍動する企業の可視化とエリアを越えた交流を実現するため「オープンファクトリー」という切り口で支援方法を考え、役所の垣根を越えた広域の実行委員会が立ち上がり、現在の礎となっている。

TOPICS

FactorISM のシンボルデザイン

FactorISM のシンボルデザインは、イベントのサブコピー、「アツギたちの文化祭」の「アツギ」に着目したものである。アツギたちはリレーのバトンを渡された人と捉え、バトンを使ったシンボルで表現している。FactorISM のロゴにある5つのシンボルは、5種類のバトンであるとともに、人の五感も表現している。「音の震え」、「味の刺激」、「手でふれた触感」、「視野」、「匂い」をイメージし、これらが毎年の共通テーマとなっている。参加企業が共通テーマのもと、それぞれの企画内容を検討・開催することで、イベント全体の統一感を生み出している。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験の様子



みせるばやお
MISERUBAYAO

みせるばやお



CORE VALUE

誰もがいつでも気軽に クリエイティブを

- EVENT DATA -

開始年	: 2018年
開催回数	: 常設
開催期間	: 常設
参加企業	: 143社 (2024年3月末時点)
累計来訪者数	: 約14.6万人 (2024年3月末時点)
主催	: 株式会社みせるばやお

FEATURES

ものづくりのまち八尾を世界に発信

「見せる場」と「魅せる場」という2つが名前の由来である。出合いが加速する場を創出することがメインテーマであり、「シェアリングから生まれるイノベーション」を目指している。

みせるばやおの機能としては、2つ。1つは、子どもたちがワクワクできるものづくり体験を提供すること、もう1つは企業間のコラボレーションを創出する場である。企業間連携においては、様々なコラボ企画や商品開発、イベント等を数多く生み出している。参画は会員制を採用しており、約3割は八尾市外の企業（関東圏や大手企業等も参画）で構成されている。

FUTURE

広域連携からさらなる「苗床」づくりへ

みせるばやおでは、関西を中心とする他地域のオープンファクトリーとの連携や交流を通じて、横のつながりを強化し、ネットワークのさらなる拡大を目指している。RENEWとのコラボレーションで、参画企業同士の交流勉強ツアーの実施やサテライト会場としてタイアップした実績も既にできている。

みせるばやおは常設されている拠点であり、他にはない特長を活かし、上手く広域に連携し、さらなる苗床づくりを目指すとともに、関西の魅力を積極的に発信していきたい。

INNOVATION

ネットワークから生まれる圧倒的なコラボ実績

みせるばやおでは、様々な外部機関や会員企業間での交流によりローカルイノベーションが数多く生まれている。

1つの例が、木村石鹸工業×友安製作所による生活雑貨商品「LOMA」である。「LOMA」の例のように、企業がコラボレーションして生まれた商品も多い。みせるばやおに参加することで、従来は関わりがなく、存在さえも認知していなかった近隣企業との会話やネットワークが形成され、それがコラボレーション商品の誕生につながっている。こうしたローカルイノベーションが目立って、オープン当初から2024年3月末までに、のべ193件の視察や485件のメディア掲載、コラボ数は205件にものぼる。

また最近では、大学生とみせるばやお内の企業がコラボレーションしてワークショップイベントを開催するなど、学生とのコラボレーションの機会も増えてきている。

交流という観点では、みせるばやおでは、経営陣だけでなく、若手同士の交流も重視しており、多層的なネットワーク構築を目指している。企業同士が気軽に交流や相談ができる関係づくりを重視している。「あの会社ができるなら、うちの会社にも…」という良い競争心が刺激されて、参加企業のネットワークも着実に増えている。

受賞アワード

- 2019年 総務省ふるさとづくり大賞 団体表彰（総務大臣表彰）
- 2020年 国土交通省地域づくり表彰（特別賞 日本政策投資銀行賞）
- 2021年 イノベーションネットアワード（優秀賞）
- 2023年 第9回ものづくり日本大賞（人材育成支援部門 優秀賞）
- 2025年 あしたのまち・くらしづくり活動賞（振興奨励賞）



●事務局連絡先

みせるばやお

〒581-0803 大阪府八尾市光町 2-60 リノアス 8F
TEL 072-920-7128

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



MATSUO YASUKI
松尾 泰貴 氏

・株式会社友安製作所
ソーシャルデザイン部担当執行役員

元八尾市職員。「みせるばやお」の立ち上げに尽力。ものづくりのまちである八尾を広く知ってもらおうと、子どもたちにもづくりの楽しさを伝えるワークショップや、企業間の交流を促進するためのイベントなどを実施している。地方公務員アワード 2019 を受賞。現在、友安製作所にてまちづくり事業を立ち上げ、民間人としてもまちづくりに邁進中！

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

みせるばやお理事・役員メンバー



2018年5月8日に官民連携によりコンソーシアムである「みせるばやお」を立ち上げ。2020年8月3日に事務局機能強化、持続可能なコミュニティづくりのため、コンソーシアムを残しつつ、株式会社みせるばやおを設立。

- | | | |
|--|--|--|
| 代表理事
株式会社友安製作所
代表取締役社長 友安啓則氏 | 副代表理事
KISSA ZEROICHI
代表 武内 春樹氏 | 株式会社ビーダッシュ
代表取締役 山田敏也氏 |
| 理事
アベル株式会社
代表取締役社長 居相 浩介氏
ラビス株式会社
代表取締役 乾 真治氏
藤田金属株式会社
代表取締役社長 藤田盛一郎氏
株式会社コムラ製作所
代表取締役社長 小村 泰石氏 | ボードゲームカフェ & ショップ inst
代表 泉谷 徹二氏
株式会社タカヨシジャパン
代表取締役 高島 小百合氏
カネム工業株式会社
代表取締役社長 北村 悠太郎氏
株式会社ミナミダ
代表取締役社長 南田剛志氏 | 株式会社平井製作所
代表取締役社長 平井隆之氏
株式会社こきょう
代表取締役 森本 繁生氏 |
| 監査
錦城護謨株式会社
代表取締役社長 太田 泰造氏 | 株式会社みせるばやお 役員
木村石織工業株式会社
代表取締役社長 木村 祥一郎氏
株式会社友安製作所
代表取締役社長 友安 啓則氏 | 谷元フスマ工師株式会社
代表取締役 谷元 亨氏
株式会社オーツー
代表取締役 梶原 弘隆氏
株式会社ビーダッシュ
代表取締役 山田 敏也氏 |

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



みせるばやおマネージャー
堀垣 裕子 氏

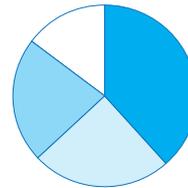
みせるばやお 館長
荒木 宏介 氏

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

みせるばやお会員企業のみなさま



TRIGGER & STORY

誕生秘話

全国でも有数の中小企業が集まる産業のまち、八尾市。しかしOEM企業が多く長年PRの機会に触れてこなかったが故に、その高い技術力はなかなか認知されていなかった。また地域内に異業種交流団体はあったものの、近隣企業での連携に留まり、八尾地域外との交流を得るような機会がなかった。そこで、当時八尾市職員であり、かねてより八尾地域内の企業間連携に奔走していた仕掛け人の松尾氏が中心となり、2018年に拠点兼プラットフォーム「みせるばやお」を設立。中小企業の新たなチャレンジ等を支援するとともに、ワークショップ体験等を通じて八尾地域の魅力を後世の子どもたちにも伝え、ものづくりの魂を次世代にも紡いでいる。

TOPICS

「まちのコイン (やおやお)」

2022年3月までの半年間、株式会社カヤックとの協業で、八尾市に「まちのコイン」を導入する実証実験が実施された。

「まちのコイン」とは、株式会社カヤックが企画開発した、人と人とのつながりを可視化できるコミュニティ通貨である。実証実験を経て、八尾市、株式会社カヤック、大阪信用金庫の3者による連携協定も締結され、今後さらに活用できる場が広がっていく。

みせるばやおは、その中で、コミュニティ運営を担い、スタンプラリーやクイズラリーなどで「やおやお」を貯める、使う仕掛けづくり等、町中に広がるための取り組みを進めている。



(写真) ワークショップの様子等

ワークワクワク河内長野



CORE VALUE

河内長野には ワクワクする現場と人がいる！

- EVENT DATA -

開始年	： 2022年
開催回数	： 4回
開催期間	： 8月下旬、11月下旬
参加企業	： 40社（2025年）
来訪者数	： 2500名（2025年）
主催	： 河内長野市 ワークワクワク河内長野実行委員会

FEATURES

河内長野はワクワクが止まらない！

ワクワクする『働く』を知ってほしい！

河内長野市は大阪府の南東部に位置し、東は金剛山を境に奈良県、南は和泉山脈を境に和歌山県と隣接している地域である。そんな、河内長野市で開催されているのが『ワークワクワク河内長野』だ。

『ワークワクワク河内長野』というイベント名には働く現場（ワーク）のワクワクを伝えたいという想いが込められており、会社見学、ワークショップ、展示等を通して市内の会社を「見て」「感じて」「知る」イベントとなっている。

また『ワークワクワク河内長野』は、製造業、保険業、研究業、美容業、運送業、農業等の多様な業種が『働く』を伝えるイベントのため、単にオープンファクトリーと言わず、あえてオープンカンパニーと呼称している。

FUTURE

ワクワクが紡ぐ未来の河内長野

河内長野市は大阪府の中でもベッドタウンのイメージが強く、就職する世代が流出してしまっている地域。市内に住んでいる人からも「河内長野に働く場所がない」という声が聞かれる中、河内長野の魅力ある会社を発信するために始めた『ワークワクワク河内長野』。

参加者からは「こんなすごい会社があるなんて知らなかった!」「将来働いてみたい」など市内の会社への関心が高まった声を多数いただいている。

消滅可能性自治体に名前を上げられた河内長野市にて『ワークワクワク河内長野』を行うことで、市内で働く人や移住者の増加を図り、未来の河内長野へつなげていく。

INNOVATION

官民が手を取り合い踏み出す新たな一歩

ワークワクワク河内長野は2022年に始まった。

参加事業者は来場者に喜んでもらうために、毎年試行錯誤を重ねながらワークショップを改善し、事業者同士で協力して新しいコンテンツを生み出す等、事業者の新たな挑戦や共創が芽吹いている。そこに、市役所という行政が関わることで取り組みを加速させている。

河内長野市では、2025年に南海高野線・河内長野駅に市内2カ所目となる観光案内所がオープンした。地域の顔となる観光案内所に、市内産業のPRを目的とした『ワークワクワク河内長野』展示ブースが設けられた。この展示ブースは、参加事業者の商品や新しく開発した製品などをPRする場として活用され、将来的に新製品等を世に出すための市場調査の場としての活用も期待されている。

また『ワークワクワク河内長野』は大阪・関西万博2025にも出展し、河内長野を代表して地域の産業や魅力を全国に発信した。イベント当日は多くの来場者から「こんな面白いことをしているなんて知らなかった」、「河内長野に行きたい」、「河内長野の会社はすごい」といった声が寄せられ、大きな反響があった。

このように、河内長野市のオープンカンパニーは産業の活力向上や地域の活性化をめざし、事業者と行政が手を取り合う場を創出するという重要な役割を果たしている。

●事務局連絡先

河内長野市役所 成長戦略局 成長戦略部
まちのソフト戦略室 産業観光課
〒586-8501 大阪府河内長野市原町一丁目1-1
TEL 0721-53-6075

ONE TEAM

実行委員会 会長

TREND SETTER



ARAKI NOBUKI
荒木 伸規 氏
瑞穂工作所 代表取締役
ワークワック河内長野実行委員会 会長

大阪府河内長野市出身。

1967年(昭和42年)から河内長野市に根付く株式会社瑞穂工作所は、精密板金加工など金属プレス加工を生業とする会社。「河内長野が元気になれば、自社もさらに元気になる」という信念に基づき初年度よりワークワック河内長野に参加。2023年より実行委員会会長を務める。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



熊谷 悦子 氏
第一生命保険株式会社
ワークワック河内長野実行委員会 副会長



大岡 祥晃 氏
日本農業株式会社
ワークワック河内長野実行委員会 副会長



河内長野市役所 産業観光課

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



株式会社アック
田中 真人 氏



Ebi stainless 株式会社
坂谷 隆乙 氏



株式会社 清明エンジニアリング
平井 美里 氏



株式会社サン・リド
浦 宏樹 氏



第一生命保険株式会社
橋詰 和子 氏



株式会社エム・エフ・ケイ
松原 緑 氏

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

- 共催：河内長野市商工会
- 協賛：株式会社エイチ・ツー・オー商業開発、株式会社関西みらい銀行、株式会社紀陽銀行、第一生命保険株式会社、南海電気鉄道株式会社、株式会社りそな銀行
- 後援：大阪府、近畿経済産業局
- 協力：近畿日本鉄道株式会社、桃山学院大学、ものづくりビジネスセンター大阪 (MOBIO) ハローワーク河内長野

TRIGGER & STORY

誕生秘話

2019年11月に提出された産業振興に係る提言書では、産業支援に係る課題に対する施策の1つとして、オープンカンパニーの導入が提言されていた。さらに、2020年以降のコロナ禍により企業の経営環境は急激に変化し、市として大きな危機感を抱いていた。

そうした状況の中、2021年に近畿経済産業局から織田氏が河内長野市役所へ出向し、関西で広がりを見せていたオープンファクトリーの具体的な話が共有されオープンカンパニーの構想が具体化していった。参加事業者の募集にあたっては、公募に加えて事業者への戸別訪問を重ね、趣旨を粘り強く説明した。その結果、最終的には18社が集まり、第1回開催を迎えることができた。

TOPICS

ワークワックの楽しみ方

ワークワック河内長野は、会社見学とワークショップの2種類から『働く』を楽しく体験できるイベントだ。会社見学は、バスに乗って半日で複数の会社を見学できるバスツアーに加え、来場者が好きな会社を見学できるフリーツアーなど、様々な楽しみ方がある。

また、イベントの拠点は河内長野駅から徒歩圏内にあるイズミヤとなっており、体験ワークショップや展示ブースはイズミヤ4階オープンスペース『ゆいテラス』で開催されている。バスツアーの出発地点もイズミヤとなっており市内外からの来場者がアクセスしやすい環境となっている。



(写真) オープンカンパニーの様子

だいたいオープンファクトリー CONTACT



CORE VALUE

働く一人一人がアスリート 工場はアリーナ

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 3回
 開催期間 : 11月(2025年)
 参加企業 : 11社(2025年)
 来訪者数 : 約1,267人(延べ)(2025年)
 主催 : 大東商工会議所、大東市

FEATURES

地域とともに築き上げたオープンファクトリー

「地域のものづくり企業を知ってほしい」という想いを叶えるため、イベントの作り込みから地域の教育機関と連携。教育委員会を筆頭に、大阪産業大学ではゼミの研究の一環として、大阪桐蔭中学校高等学校コンサルティング研究では授業のなかで各企業の工場見学時の問題の解決、四條畷学園高校吹奏楽部は当日の公演を実施。

工場を「アリーナ」、現場の方々を「アスリート」と見立て、地域の教育機関、地域音楽パフォーマーと共に作り込む「ものづくり体育祭」として躍動する。

FUTURE

さらなる地域の連帯感の醸成

検討を重ねる実行委員会では当初より開催までのプロセス共有の重要性を念頭に運営し、毎回各企業参加による充実した議論を展開したことで地域内企業間での新たな連帯感が誕生。「オープンファクトリー」という言葉は製造業のイメージが強いが、第1回から参加の調剤薬局を始め、今後も製造業だけでなく様々な業種の企業にも参画を募り、さらなる連帯感の醸成を育みたい。

INNOVATION

地域教育機関との新たな繋がり

一連の準備から当日の見学者との接点をとおして、各企業の従業員一人一人が自身の職場・仕事を見せる、見てもらえることに大きな喜びを感じることができた。具体的な当日の見学ルートや説明方法の検討など各社でリハーサルを重ねるうちに従業員それぞれが自身の担当分野で自ら創意工夫を凝らすようになるなど、能動的な成長が大きく実感される。また、終了後には「次年度さらに良い取り組みにしたい」との声が各社従業員から上がるなど、熱量はイベント後も継続している。

これらは「だいたいオープンファクトリー CONTACT」を進めるなかでのチームビルディングとして行った参加企業の相互訪問の実施も大きく寄与している。各企業の経営トップが自社の特色や魅力、経営の進め方などをオープンに説明し、それぞれの企業が事業の相互理解とともに、各々の経営手法の違いに大きな刺激も受けた。

また、企業の従業員が大阪桐蔭中学校高等学校に出向いて生徒に自社の説明を行ったり、生徒とともに見学者への説明の仕方などを議論できたことは学校側、企業側の双方にとって新鮮な体験となっている。四條畷学園高校吹奏楽部は、かつて同校の先輩方が社歌の演奏・録音を行った企業をこのたび訪問し、演奏を披露した。

地域のさまざまな連携とともに多くの見学者に足を運んでいただけたことは企業にとって大きなアピールの場になり、従業員にとっても大きな教育の場となった。

●事務局連絡先

大東商工会議所 事務局

〒574-0076 大阪府大東市曙町3-26

TEL 072-871-6511

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



KISHIMOTO MASATOSHI
岸本 昌利 氏
大東商工会議所
前専務理事

当所着任以前は機械メーカーで役員として経営に携わり、子会社では直接経営の能取りも行ってきた。企業買収や企業合併、人事制度構築など人にかかわる経験を多くしてきており、今回の企業の活力向上への取り組みに生かしている。より多くの人との接点を働く人にとって頂き、そこでの成長を期待するとともに今後は近隣で行われているオープンファクトリーとも連携しながら、さらに大きなシナジーを生み出したい。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



LEADER
古川 治樹 氏
株式会社 京伸 代表取締役



SUB-LEADER
篠原 篤史 氏
株式会社 生駒 代表取締役

企画検討を進めるための「実行委員会」を牽引したリーダー、サブリーダー。委員会発足時はともに49歳の同年齢同学年。大東市での独自オープンファクトリーにこだわり続け、大きな推進力を発揮。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



Tomoko 氏
大東市在住のハープ弾き歌いミュージシャン
NPO 法人大東夢づくりコミュニティ代表理事



十川 ももこ 氏
大東市在住の演歌歌手
野崎参道商店街公認演歌歌手

大東市の地元パフォーマーとして、実行委員会への出席からチームビルディングとなる各企業相互訪問そして SNS による PR。さらには開催当日の公演まで、幅広い協力を得る。

ともにあゆむ

OTHERS

参加企業

- | | |
|-------------|------------|
| 株式会社京伸 | 摂津倉庫株式会社 |
| 株式会社生駒 | 西村鉄工株式会社 |
| 株式会社アクセスライフ | ニッポー株式会社 |
| 植田油脂株式会社 | 株式会社マルイ |
| 管清工業株式会社 | 明星金属工業株式会社 |
| 共栄化成株式会社 | |

イベントを支えた教育機関

- 大阪産業大学経営学部浜崎ゼミ
- 四條畷学園高等学校吹奏楽部
- 大阪桐蔭中学校高等学校プロジェクトワーク「コンサルティング研究」

TRIGGER & STORY

誕生秘話

大東商工会議所として抱える地域製造業事業者減少の悩みのなか、2022年12月に実施された「枚方産学公連携フォーラム2022」に参加した折に開かれたオープンファクトリーに関するパネルディスカッションに、近畿経済産業局がモデレーターとして、東大阪で「こーばへ行くこう！」を牽引する株式会社盛光 SCM 草場社長がパネラーの一人として登壇されるセッションに巡り合った。内容は非常に興味あるもので、翌週には近畿経済産業局に面談を求め、さらには年末の忙しいなか草場社長にお話をお聞かせいただき、熱い想いに触れたことで、当所での取り組みが始まった。

TOPICS

「ものづくり」を超えた様々な方々の支え

検討を進める実行委員会ではハープ奏者の Tomoko さんや演歌歌手の十川ももこさんにも最初から加わって頂き、実行委員会の雰囲気づくりとともにインスタグラムによる情報発信など様々な協力を得た。また大阪産業大学では集客の検討、大阪桐蔭中学校高等学校コンサルティング研究では工場見学時の様々なアイデアと協力、そのほか四條畷学園高等学校吹奏楽部の公演、御領地車保存会によるだんじり囃子、世界全権真大阪府兼田道場の演武、さらには野崎商店街の方々、JA 大東東部、大阪府四条畷保健所の協力など、地域全体で活気あるオープンファクトリーを作り上げた。



参加企業相互訪問



せつつキッズファクトリー



CORE VALUE

子ども達と歩む 「産業のまち摂津」！

- EVENT DATA -

開始年	： 2024年
開催回数	： 2回
開催期間	： 毎年11月頃
参加企業	： 11社（2025年）
来訪者数	： 約2,600人（2025年）
主催	： せつつキッズファクトリー実行委員会

FEATURES

次の世代に将来を考えてもらうきっかけを

摂津市はコンパクトな市域に約4,000の事業所が集積しており、製造業や卸・小売業、サービス業等幅広い分野で事業が展開されている。淀川以北の市町では唯一、昼間人口が夜間人口を上回る「産業のまち」だ。そんな摂津市で、キャリア教育（子どもたちの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力を育てることを通して、自分らしい生き方を実現させるための教育）の推進を応援する企業が中心になってスタートしたのが、せつつキッズファクトリーだ。

子ども達に自身の将来の仕事について考えてもらう機会としてもらうため、楽しみながらもものづくりを体験してもらえ、コンテンツが多数充実している。

FUTURE

大人も子どもも楽しめるイベントの構想

2025年は2回目の開催ということもあり、前回のノウハウを活かしつつ、新たな取り組みを行うことを意識した。参加企業が前回から6社増え、11社で開催することとなり、当日は市内外から多くの参加者が訪れた。多くの参加者に来てもらうよう、今回は広報活動に力を入れた。告知動画の制作や市内小中学校の保護者向けに、配信を行うなどの取り組みを行った。当日は、天候にも恵まれ、自転車で来られる参加者が多かったが、シャトルバスを利用する参加者も多く、一部でシャトルバスに乗れず、民間のバスを利用してもらうなどの対応を行った。

親子一緒に体験できるプログラムの中で、親が子どもと一緒に学ぶことで、より深い学びの時間が得られることができるという声が多く、ワークショップの関心が強いことが伺えた。総じて、単なる工場見学にとどまらず、教育的な価値が高く、地域や企業のブランディングにも貢献する場として進化していくものと考えられ、子どもたちにとっては、未来の職業に対する興味を持つきっかけにもなる。今後も、多くの参加者に楽しんでもらえるよう、魅力的な取り組みを行っていききたい。

INNOVATION

多様なプレイヤーが躍動するオープンファクトリー

2025年は、6月から実行委員会を毎月開催し、実行委員会の中で様々な議論を行った。前回から参加企業が6社増えたことに伴い、各社とも様々な企画を用意しており、多くの参加者の心を掴むことができるものである取組みであった。

当日は摂津市役所が中心となり、工場を巡るためのシャトルバス、シェアサイクルを整備するとともに、電車や路線バスの案内にも注力した。また、各工場の受付で子どもバス無料チケットを配布し、シャトルバスだけでなく、路線バス等の公共交通機関の案内にも繋げた。各参加企業では、楽しみながら保有する技術や加工機械の特徴に触れることができるよう企画されているほか、ワークショップやフード&マルシェ、エンターテインメントの催しも各企業で実施され、ターゲットである子どもたちはもちろん、同伴の保護者も一緒に楽しめるコンテンツも準備されるなど、各企業が各々に工夫を凝らした取り組みが展開されていた。これらの催しも参加企業が手配し、自社だけで対応できない部分は外部からの応援を呼ぶなど、各社の持つネットワークを活かしたり、これを機会とした新しい関係の構築にも繋がった。

参加した企業からは、イベントの準備を通してチームワークの強化や、コミュニケーションの活性化に繋がったとの声が寄せられているほか、ものづくりの楽しさを伝える機会を得たことで、社員が新しい視点を持つようになり、アイデアの創出にも繋がっているなど、イベント参加を通して、地域・企業内に新しい風が吹いている。

●事務局連絡先

摂津市商工会

〒566-0021 大阪府摂津市南千里丘4-35-3F
TEL 06-6318-2800

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

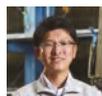


せつっキッズファクトリー
実行委員長
UENO YOICHI
上野 陽一 氏
上野鉄工株式会社 代表取締役

1988年上野鉄工有限会社（現 上野鉄工株式会社）に入社。製缶業に携わり、鉄を炙り、叩き、曲げ、削り、溶接、金属加工の基礎を学び、物作りの楽しさを深める。失われた30年を脱するべく、2002年にレーザ加工機を導入し業態を変え、製缶業で培ったノウハウを元に金属加工業に事業転換。2004年に社長に就任、事業基盤を築く。「物作りとは」を日々考え、地域に根差した企業、地域貢献を行い、子供達に笑顔のある未来を考える輪を広げたい。
摂津市商工会 工業振興委員長
摂津市鉄工会 副会長

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

 副実行委員長 谷川 幸広 氏 株式会社アサヒ工作所	 実行委員 小泉 尚行 氏 三島織工株式会社
 実行委員 松野 若斗 氏 株式会社カナタ	 実行委員 渡部 浩和 氏 ホクト工業
 実行委員 日野 南欧輝 氏 有限会社ワコーメタル	 実行委員 手島 正孝 氏 株式会社三協電材製作所
 実行委員 岩田 光正 氏 株式会社東洋工作所	 実行委員 三宅 正恒 氏 株式会社三和軽合金製作所
 実行委員 花岡 雅仁 氏 株式会社花岡工務店	 実行委員 田中 善慶 氏 株式会社レイホー製作所

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



摂津市産業振興課 摂津市商工会
福田 大輝 氏 白谷 将規 氏
摂津市産業振興課 摂津市商工会
岸本 雅司 氏 宮部 真弓 氏

ともにあゆむ

OTHERS

せつっキッズファクトリー実行委員会

上野鉄工株式会社	株式会社レイホー製作所
株式会社アサヒ工作所	北おおさか信用金庫
株式会社カナタ	尼崎信用金庫
有限会社ワコーメタル	京都信用金庫
株式会社東洋工作所	京都銀行
株式会社花岡工務店	摂津市教育委員会
三島織工株式会社	摂津市
ホクト工業	摂津市商工会
株式会社三協電材製作所	
株式会社三和軽合金製作所	

TRIGGER & STORY

誕生秘話

「産業のまち」摂津市には金属製品等の製造業をはじめ、優れた技術を持つ中小企業も多いが、高度な技術を継承する人材が少ないといった悩みがあった。これが今回の取り組みを始める原動力となり、摂津市商工会の工業振興委員会で、仕掛け人となる上野氏がオープンファクトリーの実施を提案。工業振興委員会の委員長でもある上野氏が中心となって鳥飼地域の企業5社が集まり、子ども達に将来を考えるきっかけになってほしいという想いを込めた「せつっキッズファクトリー」の誕生に至った。2025年は、参加企業が11社に拡大した。

TOPICS

多様なサポーターとともに盛り上げる

せつっキッズファクトリーはキャリア教育をコアとしているところから、取り組みを支えるメンバーにも教育やスポーツの関係者も多い。世界大会で準優勝の経験を持つ星翔高等学校のドローンサッカーチーム「BIRD ONE」は、工場を舞台にドローンサッカー体験会を開催。さらに大阪をホームとするプロバスケットボールチーム「大阪エヴェッサ」はフリースローチャレンジを実施するなど、多様なサポーターがイベント当日を盛り上げた。



こーばへ行こう!



CORE VALUE

モノづくりをもっとオープンに

- EVENT DATA -

開始年	: 2018年
開催回数	: 9回
開催期間	: 11月/4日間(2025年)
参加企業	: 正会員51社、準会員2社、賛助会員4社 (※2025年10月現在)
来訪者数	: 約10,200人(2024年)
主催	: こーばへ行こう!実行委員会

FEATURES

「まちなかパビリオン」を目指して

東大阪市は製造業の事業所密度が全国1位であり、徒歩圏内に幅広い技術を持った町工場が存在している。そのような「モノづくりのまち」である東大阪でも、世の中の情勢や事業承継の問題などにより、年々事業所数が減ってきている。こーばへ行こう!は、東大阪の町工場が中心となってモノづくりの魅力や楽しさを発信するだけでなく、東大阪を活気ある豊かなまちとするため、地元商店街・個人店舗、スポーツチームや学生など地域全体でスクラムを組み活動している。2025年には大阪・関西万博へ出展し、企業だけではなく地元の高校生の協力も得て、東大阪市の魅力を発信した。

FUTURE

工場を人が集う交流の場に

こーばへ行こう!の「こーば」には、「工場」と「交場(交流の場)」という2つの意味がある。普段は関係者以外立入禁止の工場が開放され、入ることができない工場に入り職人の技術に触れ会話をする。子供から大人まで幅広い年代の人々が「こーば」に集い、ホンモノの職人と一緒にモノづくりを体験し、マルシェで飲食をする等、各会場の工夫を凝らしたコンテンツを楽しむ。これまでは遠い存在であった工場が、世代を超えて人が集まる交流の場となる。

INNOVATION

人との出会いや交流から新たな挑戦が生まれる

2018年に1社のみで始まったこーばへ行こう!は、2021年から参加企業を募り始め、2023年には計33社となり、初めて東西でエリアを分け2週にかけて計4日間の開催となった。参加企業が増えて開催規模が大きくなるにつれ、より企業間の交流や協力が重要となり、現在は有志のメンバーが集まり役員会を運営している。本業では出会うことなかった企業同士が「東大阪や業界を盛り上げたい」という想いで繋がり、一緒に取り組む中で強い絆が生まれている。また開催までの定例会では、参加企業同士が自社コンテンツの発表や意見交換により互いに良い刺激を受け、各社のモチベーションの向上や企業間連携に繋がっている。2023年は地元高校2校が新たに参画し、会場のレイアウトや制作物へのアイデア出し等、企業と若い世代との交流も生まれた。学生が独自のポスター・チラシやSNSを活用した広報活動を行ったり、巡回バスでのガイドを担ったりと新たな取り組みも生まれている。また市内外の参加者との交流の一つとしてフォトコンテストを初開催した。

今後は各地方との連携も視野に入れながら、まずは東大阪の魅力を最大限に高めていくため、市内での新たな交流や協力関係を模索しながら挑戦を続け、各地域それぞれ強くなることで日本全体を盛り上げていきたい。

●事務局連絡先

三和紙業株式会社 TSUNAGI

〒577-0035

住所 大阪府東大阪市御厨中1-14-24

TEL 06-6787-1131(代表)

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



KUSABA HIROKO
草場 寛子 氏
 株式会社盛光 SCM 代表取締役
 株式会社 COBA 代表取締役
 こーばへ行こう！ 実行委員長

2009年、株式会社盛光 SCM 3代目代表取締役に就任。「これからのモノづくりは、技術向上だけではなく、企業ブランドの価値や業界の認知度も高めていく必要がある」という視点から、2018年より「こーばへ行こう！」を開催。また、人・ブランド・業界づくりに特化した「株式会社 COBA」を2024年より本格始動。現在は工業だけではなく、他業界ともボーダレスな関係を構築し、3つの役割（商業活性・地域連携・観光資源発信）にも力を入れることで地方経済を活性化する活動に精力的に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

こーばへ行こう！実行委員会

子どもたちは、東大阪の工場で何をつくっているのか知らないことが多い。閉鎖的だった工場を、もっとオープンに。モノづくりの楽しさを、市民と一緒に。住民も工業も商業も学校も役所も、境界線を取っ払って、みんなで遊ぼう！こんな思いから「こーばへ行こう！」が始まった。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

実行委員会正会員 (50音順)

- | | | | |
|--------------------|---------------|-------------|----------------|
| (株) アオキ | オージーケー技研 (株) | (株) 栄紙業 | トキワ印刷 (株) |
| (株) 朝日ワイヤープロダクツ | (株) オーミヤ | サクラテック (株) | ノースヒルズ溶接工業 (株) |
| (有) アートステージ | (株) 加賀商会 | (株) 三友自動車工業 | 野田金属工業 (株) |
| (株) アート宣伝 | 勝井銅業 (株) | 三和紙業 (株) | 畑ダイカスト工業 (株) |
| (株) イゲタ金網 | (有) カワチ | (株) ジェイ・エス | (株) 福井プレス |
| INGRY MONGRY | 木田バルブ・ボール (株) | 重田建設 (株) | 布施金属工業 (株) |
| (株) 上山製作所 | (株) 協立工業 | (株) 繁原製作所 | 布施精密発條 (株) |
| 大阪石材工業 (株) | 共和銅業 (株) | (株) 盛光 SCM | フセハツ工業 (株) |
| (一社) 大阪モノづくり観光推進協会 | 甲子化学工業 (株) | (株) 摂津金属工業所 | マツダ紙工業 (株) |
| (株) オカムラ 関西事業所 | (株) 高工社 | (株) たくみ芸 | (株) 松よし人形 |
| (株) オークマ工塗 | (株) COBA | デジタル本工房 | (株) 水野製作所 |

準会員 (50音順)

- (有) 電研
- (株) 日興電化工業所

賛助会員

- 永和信用金庫
- 大阪シティ信用金庫
- 京都信用金庫東大阪支店
- 株式会社南都銀行

TRIGGER & STORY

誕生秘話

住工混在のまち東大阪市。長年騒音や臭いの課題等を抱え、次第にシャッターを閉めて操業する状況を打破したのは、「こーばへ行こう！」だった。当初は19年ラグビーWCに向けた「モノづくりのまち東大阪」のブランディングとして、近畿大学と東大阪市、商工会議所の三者が協力してスタート。次第に出会いの「交場」として町工場と地域住民の関係構築、観光や地方創生を視野に入れた現在の企画が出来上がった。連携企業として、地域やモノづくりに熱い思いを持つ地場企業代表の草場氏に依頼。草場氏も他地域でのオープンファクトリーに刺激を受けていたところであり、産学官の連携が実現した。モノづくりの最盛期の活気を新たな形で取り戻すためにも「住工共生」を今後とも目指して行く。

TOPICS

万博で東大阪の技術力を発信！

2025年9月5日～8日、大阪・関西万博「ギャラリー EAST」にて、東大阪ブランド推進機構と共催で企画展「こたえのあるまち東大阪」を開催。こーばへ行こう！からは鉄工・紙工・金網・板金・くぎ・アルミ・レンズ・ワイヤー・アルマイトなど11社が出展し、物販とワークショップを実施。お子さまからご年配まで13,054名が来場し、東大阪の技術と魅力を体感する場となった。



(写真) 工場見学・ワークショップ体験、万博出展の様子等

開工神戸 -KOBÉ OPEN FACTORY-



開工神戸 KOBÉ OPEN FACTORY

5.16 | 金 | 17 | 土 |
10:00-17:00 入場無料・申込不要(原則)

見る、聞く、体感する 神戸オープンファクトリー



CORE VALUE

ものづくりを切りひらけ

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
開催回数 : 3回
開催期間 : 秋頃 / 2日間
参加企業 : 33社
来訪者数 : 約7,000名
主催 : KOBÉ OPEN FACTORY 実行委員会

FEATURES

工場(こうば)を開く。人がつながる。

「開工神戸(かいこうこうべ)」は、神戸市内にあるものづくり企業の工場・工房を公開し、見学やワークショップを実施するイベント。

「開工」は、オープンファクトリーをそのまま日本語にした「工場を開く」と、諸外国との交流の中から独自の文化を醸成してきた港町神戸の「開港」、「めぐり会うこと」を指す「邂逅(かいこう)」の3つの言葉が由来。普段は人を招き入れることのない仕事現場を公開し、様々な立場の来場者と交流することで、企業は自社製品や仕事に対する生の声や気づきを得ることができる。来場者にとっては地域産業のポテンシャルを体感できる場となる。

FUTURE

地域に根ざし、ものづくりと文化が響き合う未来へ

「開工神戸-KOBÉ OPEN FACTORY-」は、これまで「神戸全域への拡張」を目指してきたが、2025年度からは方向を変え、地域の中で深く息づく地場産業と文化を結び直すことを重視している。

靴や金属、木工などの伝統的なものづくりに加え、食やカルチャー、教育機関との連携を通じて、地域の魅力を「広げる」から「深める」へ。長田を中心としたこのエリアにおいて、工場や商店、大学、アーティスト、デザイナーがゆるやかに交わり、互いの価値を見つめ直す実験の場として進化していく。

今後は、単なるオープンファクトリーの枠を超え、「地域文化としてのものづくり」を体感できるプログラムを展開していく予定だ。地域に住む人が、自らのまちの技や素材、味を誇りに思えるような——そんな「ひととまちを再接続するプロジェクト」として、新しい開工神戸が動き出している。

INNOVATION

企業・クリエイター・学生など 多様なプレイヤーが立場を越えて活躍する場に。

オープンファクトリーの開催は、決してゴールではない。開催に向けて、企業・クリエイター・学生・支援機関など多種多様な人材が活動をともにすることで、自然とつながりが生まれてコミュニティができる。

企業とクリエイターが交流することで、型どおりに製造することを事業の軸としていた企業が、自社製品を新たに販売し、製造卸や製造小売などに業態を多角化させたり、企業と学生が出会うことで、大企業しか知らなかった学生が、ものづくり中小企業の魅力を知って、就職先として志すきっかけになったり、オープンファクトリーの開催後も良い影響が見込める。

神戸は、明治時代から港を中心に発展し、造船、鉄鋼といった重工業にはじまり、機械金属、化学、エネルギー関連などの日本を代表する製造関連の企業が多数立地している。さらに、欧米の文化や産業が流入したことで、洋服・靴・洋家具・洋菓子・パン・コーヒー・真珠加工等の独自の地場産業も発展してきた。

新しいものを積極的に取り入れる受容性から、様々なイノベーションが生まれてきた神戸の地で、「開工神戸」が新たな共創や地域産業の付加価値向上につながるきっかけになることを期待している。

●事務局連絡先

KOBÉ OPEN FACTORY 実行委員会

〒651-0087 兵庫県神戸市中央区御幸通 6-1-12 三宮ビル東館 7階
(神戸市経済観光局新産業創造課内)

Mail contact@kaikohkobe.com

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



IFUKU MOTOHIKO
伊福 元彦 氏
KOBE OPEN FACTORY
実行委員会 実行委員長
伊福精密株式会社
代表取締役社長



IWAMOTO JYUNPEI
岩本 順平 氏
Creative unit DOR
代表

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

KOBE OPEN FACTORY 実行委員会

開催初回のコンセプトメイク、企画の段階から関わっている神戸市内企業が中心となり実行委員会を結成。神戸市内で活躍するクリエイター達が事務局を担い、企業の想いをカタチにする。



MAEKAWA TAKUJI
前川 拓史 氏
副委員長
熾り株式会社 代表取締役



NAKASAKA KAORU
中阪 薫 氏
副委員長
株式会社神戸熔工

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

KOBE OPEN FACTORY 運営事務局



山下 和希 氏

神戸市

ともにあゆむ

OTHERS

YOUTH TEAM



江副 真文 氏
一般社団法人 SAZARE
代表理事



学生スタッフ
県内各地から集まった大学生スタッフの皆さん
誘導から各工場の案内まで、
運営に欠かせないメンバー

TRIGGER & STORY

誕生秘話

業種や立場を越えて、神戸の企業が協力しあい、魅力的なプロジェクトが日々生まれるようなコミュニティを作りたい。それがオープンファクトリー開催のきっかけだった。中小企業の経営者や、大手企業の開発部門、スタートアップ、支援機関がごちゃ混ぜになりながら切磋琢磨する環境が生まれるには、開催に向けて皆が協力して一致団結できるオープンファクトリーは最適のイベント。開催にあたって、主役となる企業をはじめ、事務局を務めるクリエイティブメンバー、ボランティアとして携わる学生など、普段は関わることもない人々が参画し、自然と良好なコミュニティが生まれつつある。

TOPICS

地域を編み直す、新たな連携のかたち

2025年度の開催では、長田区・兵庫区を中心に33社の工場と4団体が参加し、のべ7,000人が訪れた。新長田駅前広場にはサテライト会場と総合案内所を設置し、来場者の導線改善と地域認知の向上を実現。また、企業写真展やデジタルスタンプラリーなどの企画を通じて、「まち全体を歩いて巡る体験」を創出した。特に、地元企業とデザイナーの協働によるNPCタグ型デジタルスタンプラリーでは、380名が参加し、前回は上回る回遊率を記録。また、過去最多の16社によるワークショップや、43名のボランティア（うち社会人が過半数）の参加など、市民と企業が関わり合う機会も広がった。参加企業からは「実際の発注につながった」「学生ボランティアがその後就職・アルバイトにつながった」などの声も寄せられ、産業・教育・地域文化が交差するリアルな関係性が芽生えている。次年度は、これらのつながりをさらに育てるべく、高校・高専・大学との協働、食文化・デザイン分野との共創を視野に、新たな連携を模索していく。



(写真) 2023年3月開催の様子



市播～はりまオープンファクトリー～



CORE VALUE

ものづくり播磨を 世界に、未来に

- EVENT DATA -

開始年	: 2025年
開催回数	: 1回
開催期間	: 11月下旬頃
参加企業	: 9社(2025年)
来訪者数	: 約700人(2025年)
主催	: はりまオープンファクトリー 市播実行委員会

FEATURES

オンリーワン、ベストワンの播磨企業

播磨には、全国でここでしか製造されていない製品を取り扱うオンリーワンの企業や、製造日本一を誇るベストワンの企業が多く立地しており、「一番を体験出来る市(マーケット)」という想いを込めてスタートしたのが、はりまオープンファクトリー「市播」(いちばん)である。

地域の若者たちにもものづくりの楽しさを体験してもらい、自分の手で製品が完成する喜びを味わってほしい。ものづくりとの出会いを通して、オンリーワン、ベストワンの播磨の企業を世界へ、未来へ繋げるべく、地域企業をはじめ、地元金融機関、行政機関など様々な連携を礎に取り組みされている。

FUTURE

まちのインナー・ブランディング

「市播」は来場者に楽しんでもらうことはもちろん、地域内企業同士の新たな繋がりを通したインナー・ブランディングも意識した取組となっている。

それぞれの企業がオンリーワン・ベストワンだからこそ、参加企業同士がお互いを知り、互いを誇り合う「他己」紹介が当たり前になるようにと企業間のつながりも重視する。地域住民にも周知することで「まちのインナー・ブランディング」を推進し、シビックプライドの醸成をしたい。ものづくりの将来を担う学生たちが播磨のものづくり企業の屋台骨になるよう取組を推進する。

●事務局連絡先

はりまオープンファクトリー実行委員会

兵庫県姫路市南町7番地 城陽ビル2階 姫路コンベンションサポート内
harimaopenfc@hcs.or.jp

INNOVATION

「とりあえずやってみる」ことの大切さ

「市播」の取組を立ち上げてから、実施に至るまで紆余曲折があった。実行委員会を立ち上げるものの、ものづくりの現場のメンバーが少なく、課題が実感として湧かない。また参加企業を募集するも、まだ開催体験がない播磨地域において、参加の呼びかけが困難であったことは想像に難くない。一つひとつ丁寧に対話を重ねるうちに、外部の方々から「やってみなはれ」「がんばれ」の応援があり、第一回目の開催を実現することが出来た。

開催後の企業アンケートをみると、社員のモチベーションが高く、前向きに取り組んでくれたことで、普段の部署を越えた連携が生まれたといった声が多く聞かれた。中でも近所の方が来訪者として参加して、「前々から何作ってるのかと気になってた」と現れ、見学と会話を通して地域住民への理解に繋がったことも嬉しい声として聞かれた事象である。

さらに今回は、本年度合併により新設された「兵庫県立姫路海稜高校」との連携に繋がったことも特筆したい。同校は「地域科学探究科」を持つ県内でも珍しい高校で、「市播」にも学校での事前授業を実施した上で約40名の生徒が授業の一環として平日に参加し、地域企業との交流を深めてくれた。来年は今回の1期生のみならず、新たな新入生の参加も期待できることから、産学連携の舞台としての「市播」の躍進にも期待が寄せられる。

本年の実施においては様子見だった企業も、「来年は参加したい」という声が早速上がっている。また、今回の取組で「取引はあっても互いの社長同士会ったことがなかった」など、近いエリアにも関わらず繋がっていなかったご縁が紡がれる機会にもなった。

「播磨国」のエリアはまだまだ広い。「市播」の取組が広く伝播し、地域のオンリーワン・ベストワンが光る未来に期待したい。

仕掛け人

TREND SETTER



はりまオープンファクトリー
市播
玉田 恵美 氏
NPO 法人
姫路コンベンションサポート
理事長

大学卒業後、神戸ポートピアホテルで、宿泊部、営業企画部を経験。その後、姫路市役所に嘱託社員として入庁。行政イベントを手がける。任期終了後、NPO 法人を設立、現在に至る。平成 14 年 NPO 法人設立。姫路市とその周辺の市町を中心に「まちづくり、人づくり」をミッションに活動する。平成 18 年から 11 年に渡り地域住民とともに取り組んだ人情喜劇銀の馬車道が、神戸新聞社会賞受賞（平成 20 年）。

現在、起業プラザひょうご姫路（兵庫県）の運営を受託。起業家育成プログラムを手掛ける。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



はりまオープンファクトリー市播 実行委員長
佐和 吉敬 氏
佐和鍍金工業株式会社 代表取締役



嵯峨山 真史 氏
神戸マッチ株式会社 代表取締役

播磨の伝統産業技術の融合により生まれた新感覚で楽しむお香 hibi の製造、マーケティングの責任者として活動している。

2015 年 4 月に着火機能付きお香 "hibi 10MINUTES AROMA" を発売。オープンファクトリーではものづくり企業の立場として参加。ファクトリーツアーを通じてものづくり播磨の PR を実践する。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



太子町
経済建設部産業経済課
土井 優治 氏



兵庫県庁
産業労働部 新産業課 新産業創造班長
高橋 桐子 氏

ともにあゆむ

OTHERS

姫路市
太子町
兵庫県中播磨県民センター
姫路商工会議所
太子町商工会

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である玉田氏は起業プラザひょうご姫路の運営を受託する NPO 法人姫路コンベンションサポートの代表。支援活動を行う中で、「姫路らしさ=ものづくり」と捉え、支援の形を考えるために参加したセミナーでオープンファクトリー研究の第一人者である京都橘大学丸山一芳教授の話に出会った。触発を受けた同氏は「姫路でもオープンファクトリーを!」と、他地域の先駆的事例である「RENEW」を訪れ、現地での活気に感銘を受けたことでその想いはさらに加速した。自地域内の企業や支援機関を 30 社以上回り仲間集めに取り組んだ。

当初は開催の目的も定かでなかったが、企業を回るうちに、世界でもオンリーワン・ナンバーワンが並ぶエリアであることに気づき、企業の「誇り」を魅せる舞台としてディレクションすることに舵を切り「市播」が開催された。

TOPICS

「ロゴ」に込めた思い

丸山教授のアドバイス「ものづくりはオシャレに魅せることも重要」を意識し、ロゴはグラフィックデザイナーにコンセプトをしっかりと伝えて制作した。白色を基調にオンリーワン・ナンバーワンの想いも組んだ「市播」は、取組を進めるほどに「自分たちのロゴ」となり、団結を支えてくれた。



あまづくりパビリオン



CORE VALUE

“あまがさき”は ものづくりパビリオン

- EVENT DATA -

開始年	: 2023年
開催回数	: 3回
開催期間	: 1月頃
参加企業	: 8社 (2025年度)
来訪者数	: 600人 (2025年度)
主催	: あまづくりパビリオン実行委員会

FEATURES

「あまづくり」は「まちづくり」

様々な団体が目的を共有し協力して実施する「あまづくりパビリオン」は、地域一体型のオープンファクトリー「あまがさきエリア モノづくりパビリオン」を前身として始まった取組。

来場者や参加企業同士の交流による生じるイノベーションや、経済的利益追求だけでなく、雇用創出や生産性向上といった社会的な共通課題の解決の手段としても期待ができる取り組みとして、2025年度から「あまづくり」（尼崎のまちづくり）の冠を付けてリブランディング。尼崎のまちづくりを地域の企業と共に支える取組として進化させている。

FUTURE

ものづくりでまちづくりを支える人材創出

尼崎のものづくりは、直接最終製品として日常生活で目にするものは少ないが、各産業分野における「無くてはならないもの」をたくさん作っている「誇るべきものづくり産地」である。航空機の重要部品や、雷対策の避雷設備など、グローバルに見ても「ニッチトップ」を誇る企業も所在しており、地域の子供達に、見て、触れて、五感で感じてもらう機会をこの「あまづくり」で作り出すことで、将来の尼崎のものづくりを支える人材、そして「ものづくりでまちづくりを支える人材」の創出を目指している。

INNOVATION

産学官金連携の舞台として

前身である「あまがさきエリア モノづくりパビリオン」の取組を実施していたことから、近畿経済産業局の行う「関西オープンファクトリーフォーラム Vol.25 ～大学×オープンファクトリーの可能性」にも登壇。

本取組では産業技術短期大学の学生や市内の高校生等と連携し、企業の技術を訪れる子供達に伝える役割を企業と連携して実施。「企業」と「子供」を繋ぐ架け橋として、学生にとっても企業から「教わり」、子供達に「教える」リレー型体験学習の現場として活用されるといった産学官連携の舞台となっていることは、他地域からも参考とされる取組となっていることから上記登壇に繋がったもの。

また、本取組のもう一つの特徴は、「AG6（「ECO 未来都市・尼崎」宣言団体）間の連携イベントとなっていることである。尼崎信用金庫、尼崎商工会議所、尼崎経営者協会、協同組合尼崎工業会、公益財団法人尼崎地域産業活性化機構、及び尼崎市といった産学官金連携のプラットフォームが機能することで、この地域一体型オープンファクトリーを支えていることも、他地域から参考とされる一面である。

そして2025年の「あまづくり」は新たなフェーズに突入する。

別途行っている心揺さぶる逸品の開発を目指す「AMGASAKI DESIGN COMPETITION 2025」など、オープンファクトリーを通して見られるだけでなく、「魅せる」側面でも取組が始まった。

魅力ある尼崎のものづくりが、一般の人にもわかりやすく可視化され始めることで、オープンファクトリーと共に魅力有るまちづくりの両輪が回る「あまづくり」の今後に地域創生の期待が寄せられる。

●事務局連絡先

あまづくりパビリオン実行委員会 事務局

〒660-8501 兵庫県尼崎市東七松町1丁目23番1号 尼崎市役所 産業政策課内
TEL 06-6489-6670

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



尼崎市役所
産業政策課長
西岡 努 氏

大学卒業後、自動車販売ディーラーを経て、2010年尼崎市役所入庁。雇用就労支援や産業振興業務に従事した後、2015年より近畿経済産業局に出向し、地域資源事業やJAPANブランドなどの産業行政を経験し、2017年より現職。
※ディーラー時にはエリアの年間トップセールスを達成。

尼崎市役所に帰任後も、前身となる「あまがさきエリアモノづくりパビリオン」事業をはじめ、阪神タイガースの2軍球場「ゼロカーボンベースボールパーク」の誘致など、尼崎市産業における様々な実績を持つ市役所のトップセールスマン。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

あまづくりパビリオン実行委員会

実行委員長
片谷 勉 氏
株式会社特発三協製作所
代表取締役社長



副実行委員長
柏木 忠貴 氏
有限会社柏木鉄工
代表取締役



副実行委員長
前原 信之介 氏
株式会社 AtomsWorld
企画・広報室 室長



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



岡田 博行 氏
尼崎信用金庫
サステイナブル推進部部长



養田 茂雄 氏
尼崎商工会議所産業部
地域振興グループ課長

ともにあゆむ

OTHERS

【参加企業】

- ・株式会社特発三協製作所・有限会社柏木鉄工
- ・株式会社 AtomsWorld・有限会社中野製作所
- ・日亜鋼業株式会社・ヒロセエンジニアリング株式会社
- ・株式会社ヤマシタワークス・株式会社若本製作所

AG6 (ECO 未来都市・尼崎) 宣言団体

- ・尼崎信用金庫・尼崎商工会議所・尼崎経営者協会
- ・協同組合尼崎工業会・尼崎市
- ・公益財団法人尼崎地域産業活性化機構

TRIGGER & STORY

誕生秘話

前身である「あまがさきエリアモノづくりパビリオン」はスローガンを「ゼロカーボンをめざす企業で工場見学・モノづくり体験」として、脱炭素経営にチャレンジする市内企業の魅力発信と地域産業の活性化を目的に、市内の企業をめぐる工場見学や、尼崎商工会議所でのブース展示、モノづくり体験のワークショップを実施する形でスタートした取組。

この取組は、普段一般ユーザーと接することの少ない尼崎の企業にとって非常に刺激的な機会となるだけでなく、企業内でのインナーブランディングが進むなど企業成長のきっかけとなったことから、視座をまちに広げ、ものづくり企業集積地である尼崎における企業成長は、まちの成長とも捉えられと考え、現在の「あまづくり」へと進化していった。

TOPICS

AMAGASAKI DESIGN COMPATITION 2025

地域一体型オープンファクトリー事業とは別軸にはなるが、「尼崎ものづくりチャレンジ事業」の一環として、尼崎のものづくり中小企業と共に新たなプロダクトを開発する共創パートナーを選出するため、オープンコンペ【AMAGASAKI DESIGN COMPATITION 2025】がスタート。工場を見せるだけでなく、「魅せ方」「魅せるもの」を学ぶ機会を同時並行に行政が支援することで、尼崎の「ものづくり×まちづくり」が加速する。



あるこ～ば！



CORE VALUE

歩こう・出会おう・創ろう
 “あるこ～ば！”でつながる
 まち・ひと・みらい

- EVENT DATA -

開始年 : 2025年
 開催回数 : 1回
 開催期間 : 9月(2025年)、
 5月22日～23日(2026年)
 参加企業 : 6社(2025年)
 来訪者数 : 200人(2025年)
 主催 : あるこ～ば！実行委員会

FEATURES

歩いてつながる町工場

兵庫県の南東に位置する伊丹市初のオープンファクトリー「あるこ～ば！」。

JR伊丹駅の北側に広がる準工業地帯で実施される地域一体型オープンファクトリーで、ネーミングの由来にもなっている楽しく歩いて巡ることが特徴。

ネーミングの、【ある】には工場がここに「在る」。【あるこ】には、このエリアで長年行われてきた町歩きイベントの文化と楽しく歩いて工場見学を巡ることを表現。【こ～ば】には、『工場』とものづくりの魅力でつながる人々の交わる場として『交場』を表現している。

初回は様子見の企業も多く、ものづくり企業は2社での開催となったが、工場見学やワークショップのほか、地元の飲食店や大学生がキッチンカーを出店。その他、地元金融機関や行政なども地域を盛り上げるために仲間として参加した。工場見学とキッチンカーを巡るスタンプラリーも行われ、まさに「あるこ～ば！」が体現されたオープンファクトリーとなっており、大盛況の初開催となった。

FUTURE

新たな仲間が集まる“こ～ば”へ

「あるこ～ば！」は、地域の人々や町工場関係者にも広く門戸を開いており、来場者にもものづくり企業の現場を実際に見学し、ワークショップなどを通してプロの技術や創意工夫を体感してもらいその魅力を知ってもらうため、ものづくり企業だけでなく、地域の産業を支える多くの仲間を積極的に募集。他地域の様々なイベントへも「あるこ～ば！」として飛び出し、認知度を高め、次年度はまた新しい仲間が増えての開催となる見込みだ。

「あるこ～ば！」が伊丹のものづくりコミュニティの新たな一歩となるきっかけとしてこれからの活動が期待される。

INNOVATION

まちと産業を結ぶ新たな一歩へ

「あるこ～ば！」を開催することが決まったことがきっかけとなり、参加企業間の情報交換が活発になり、お互いの持っている人脈やリソースをお互いが活かせる関係性になった。その結果、一社だけが協賛だけをしてブースの出演もしていなかった地元の「伊丹ふれあい祭り」に「あるこ～ば！」として出張オープンファクトリーを行ったり、一社だけが掲載されていた伊丹市の教育本の企業情報を掲載する欄に、参加企業の掲載が新たに決まり、地域の方に工場の魅力を知ってもらうきっかけに繋がった。また、「あるこ～ば！」というコミュニティができたことで、直近では、大学や行政・金融機関などの協力企業が増え、新たな仕事に繋がった実績ができたことや、地元の広報媒体を中心に記事の掲載が増え、企業のPRに繋がっている。大学からも地域に開かれた企業として学生の紹介が増え、採用応募者数が増えている。

さらに内向きの効果としても、オープンファクトリーを実施する準備を進める中で社員の意外な一面を出てきたことや、工場勤務の社員が社会を知るきっかけができ、実際の消費者視点を持つ機会を得られる実践の場としての教育訓練を実施できたこと、さらには他部署との交流ができて、他の社員の活躍をみることで新しい気づきを得た社員も出てきており、仕事へのモチベーションの変化を感じることができたなど小さい成功体験が少しずつ増えてきている。

「あるこ～ば！」が生み出した地域の小さな産業革命の「芽」。これからの成長に期待が寄せられる。

●事務局連絡先

あるこ～ば！実行委員会

事務局 / 株式会社精和工業所 広報
 TEL072-782-0281



ARC08A2025

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



株式会社精和工業所 代表取締役社長

原 克彦 氏

株式会社精和工業所は、伊丹市にて60年間ステンレス薄板を溶接することでエコキュートなどで使われる貯湯タンクや様々な製品を製造している企業です。地域に自分達の仕事を知ってもらうことでお互いを身近な存在として感じ、共に幸せな日々を過ごせるような関係づくりを力を入れたいと様々な地域活動に取り組んでいます。



株式会社エムアンドエー 代表取締役

金澤 忠幸 氏

株式会社エムアンドエーは、商業空間や店舗内装の設計・製作・施工を一貫して手がけるものづくり企業。工場はまちと未来に開かれる存在であるべきだと考えるようになり、自社工場もガラス張りで新築し、いつでも製作の様子を見ることができるようになっています。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

〈事務局〉



株式会社精和工業所 総務部 課長

伊東 正茂 氏

事務局立ち上げ1年目として、地域企業の魅力がより多くの方に伝わる場づくりに取り組んできました。ものづくりの現場をより身近に感じていただけるよう、今後も企業と地域をつなぐ活動を継続して進めてまいります。

〈企画・広報〉



株式会社エムアンドエー 執行役員

山崎 真子 氏

企画・運営に関わる立場として実践する中で、オープンファクトリーは多くの出会いと気づきをもたらしてくれました。ゆるやかで和やかな関係の中にワクワクが生まれ、人や企業の成長を通して、地域の未来への希望が見えてきています。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



伊丹まち未来株式会社 事務局 主査

内田 悦子 氏

モノづくりに真摯に向き合う皆さまの思いや高い技術が、より多くの方々に届くことを願っています。 私たちのようにジャンルの異なる人々が出会い、つながることで、新たな発想や協働が生まれていく——。「あるこ〜ば」が、そんな素敵な化学反応の場となっていくことを、心から楽しみにしています。

ともにあゆむ

OTHERS

実行委員

株式会社エムアンドエー
株式会社精和工業所
株式会社パウレック

協力

尼崎信用金庫
伊丹商工会議所
伊丹まち未来株式会社
みなと銀行株式会社

TRIGGER & STORY

誕生秘話

あるこ〜ば!発足のきっかけとなった(株)精和工業所と(株)エムアンドエーは、隣の企業だったにも関わらず、お互い何の会社か知らなかった。さらに各社が単体でオープンファクトリーをこじまりとやっていたがその存在すら知らなかった。そんな中、(株)精和工業所から(株)エムアンドエーに製品開発の仕事として相談の話があり、話をする機会があった際に製品の話はそっこのけでオープンファクトリーの話で盛り上がったのが、誕生のきっかけ。お互い単体でやっていたが、社内向けや取引先向けに留まっており、発展の仕方がわからず、外部への発信もしていなかった。意気投合してからお互いの工場を見学し合うことで事業内容を理解し、オープンファクトリーへの思いを伝え、お互いのネットワークを武器に様々な協力者を募り、構想からわずか半年であるこ〜ば!の開催まで猪突猛進で進めることができた。

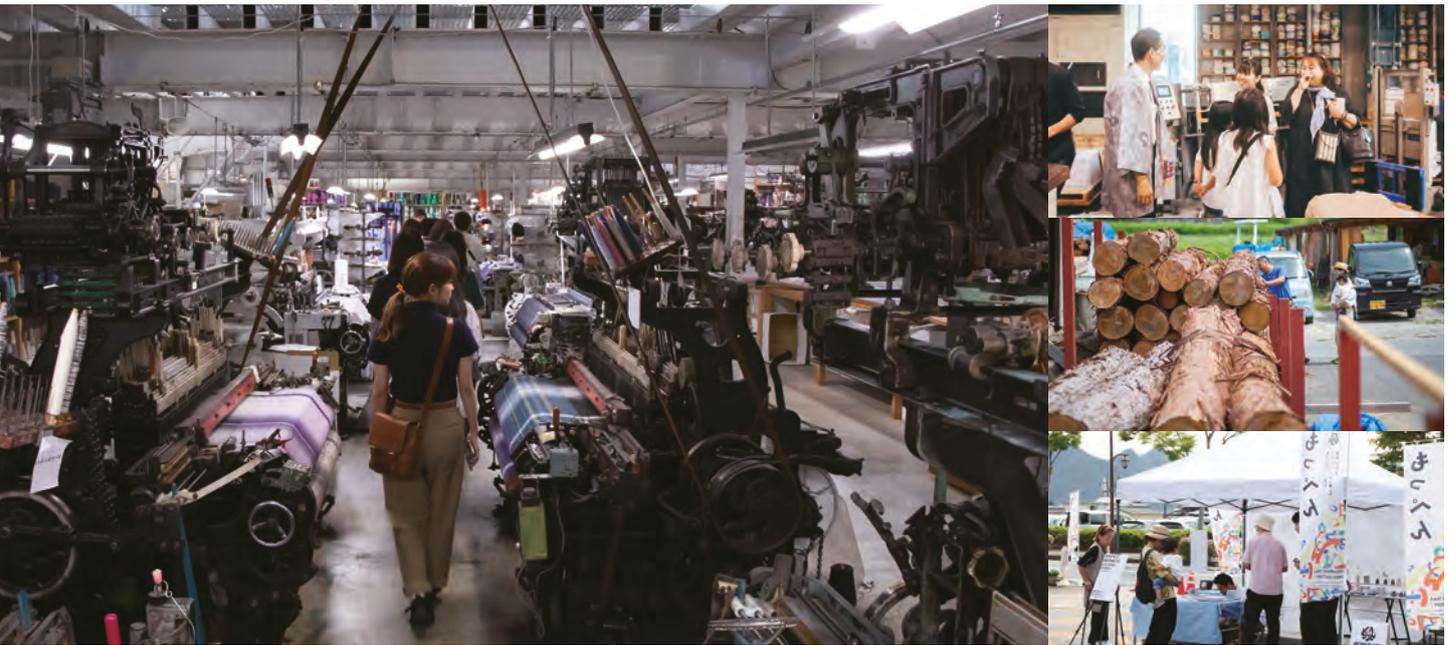
TOPICS

コンセプトブック作成

今後のさらなる発展を見据えて、実行委員会全員の想いが詰まったコンセプトブックを作成。



もっぺん



CORE VALUE

あのころも、いまも、これからも ぜんぶ愛しむ“まちびらき”

- EVENT DATA -

開始年	: 2024年
開催回数	: 2回
開催期間	: 毎年9～10月頃
参加企業	: 25社(2025年)
来訪者数	: 約1,200人(2025年)
主催	: もっぺん実行委員会

FEATURES

失敗を恐れない「挑戦」と「再起(もっぺん)」の精神

なんべんでも立ち上がり、挑戦する「もう一回」という想いから生まれた『もっぺん』。舞台となるのが『播州織』の産地として名高い兵庫県西脇市・多可町(以下、「西脇・多可」)。ふたつのまちを南北に流れる杉原川や良質な地下水など、水の恵みを地域資源として成長・発展を遂げてきた。しかし、社会情勢の影響などこれらの資源があるにも関わらず地域の活性化が進まない時期もあった。そんな逆境を乗り越え、先駆者の方々が積み重ねてこられた技術や知恵・伝統を大切に、現場を開くことで地域一体となって未来を紡いでいく、そんな想いの込められたオープンファクトリーイベントである。

FUTURE

地域の活性化とさらなる広域連携を目指す場所

日本列島のほぼ中央に位置し、豊かな自然に囲まれた人口約6万人のエリア、西脇・多可。この地域を中心に発展してきた播州織は、国内先染織物の約60%のシェアを占めている。一時は安価な海外製品に押され存続が危ぶまれたが、強みである素材生産を中心とした製品づくりを強化することに加えて、最近では、生地から製品までを市内で一貫して生産できる体制を構築し、最終製品の拡大と西脇・多可のブランド化を図ることで、国内のみならず、海外からも高い評価を受け、世界ブランドの生地にも採択されている。播州織の生地の多くは、そこから衣類メーカーやブランドに渡り製品となるためあまり名が知られていないが、実は身の回りの衣類や雑貨にも多く播州織が使われている。そんな播州織をはじめとする繊維業や農業、製造業、伝統工芸など、古くから多種多様な産業が営まれてきた兵庫県西脇・多可の未来を切り開いていくために生まれた『もっぺん』。今後は地域や業種の枠を越えたイノベーション創出にも目を向ける。

INNOVATION

伝統と革新を融合するコミュニティ

2024年から始まったオープンファクトリーイベント「もっぺん」。開催期間を2日間から3日間に増やした第2回目の開催では、第1回目の2倍近くの約1,200人(延べ人数)の来場があった。地域の高校生や服飾関係の大学からも来訪があり、未来を切り開く学生たちに地域の魅力ある産業や企業を知ってもらうきっかけの場となった。もっぺん開催に向けて社内で若手チームを組み、工場見学に加えて緑日などのおまつりを企画する企業も出ており、もっぺんが掲げる“まちびらき”に向けた風土が少しずつ形成されている。

また、西脇市と多可町をフィールドに、音楽や食、アートやファッションを切り口としたカルチャーイベント的なものが増えており、仕掛け人同士が手を組んで新たな取組みを企てるなど、遊び心溢れるプレイヤーやキーパーソンが増えているのも興味深く、もっぺん産地のポテンシャルを感じるところだ。まちの機運ともっぺんとを上手く融合させ、多様な人材が西脇市と多可町に流入し、新たなイノベーションが生まれることを期待する。

西脇・多可では、“織物のまちに、織物の名物市を!”という地元有志の想いから始まった播州織の生地マルシェイベント「播州織産地博覧会(播博-ぼんぼく-)」も開催しており、もっぺんの実行委員と兼任しているメンバーも多い。今後は、チームビルディングという観点から、播州織という共通の地場産業を有する西脇市と多可町が、また、播州織を中心とした企業間同士が、これまでの常識にとらわれず、相互に連携しながら地域内での機運醸成、地域一体での“まちびらき”に取り組んでいきたい。

●事務局連絡先

西脇・多可オープンファクトリーもっぺん実行委員会

E-mail info@moppen.jp

TEL 0795-22-3111(西脇市商工観光課)

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER

もっぺん ディレクター
西脇・多可
万博交流活性化推進協議会
推進ワーキングチーム代表

FUJII MASAHIRO
藤井 昌弘 氏
COME 代表



大学で立体造形分野を学んだ後、デザイン会社にてギャラリーのキュレーション、アート関連商品、イベントなどの企画・制作などを行う。その後、COMEを開業。色々な御菜（おかず）をつなぐお米の様なスタンスで、ものづくりに関わるイベントの企画、制作、コーディネートなどを行う。兵庫県西脇市で始めた綿花を育てるプロジェクトを機に同市との関わりを深め、2023年に移住。2024年に西脇・多可オープンファクトリー「もっぺん」の代表となる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

実行委員会コアメンバー

仕掛け人とともに「もっぺん」を作り上げるコアメンバー。“まちびらき”を合言葉に、西脇・多可のものづくりの魅力と文化を発信することで、地域の活性化を目指す。

高橋 直也 氏

大化産業株式会社 専務取締役

学生時代に10年間海外で生活し、帰国後は大阪の繊維商社へ入社。13年の経験を経て、地元で家業でもある大化産業に入社。地元で根付いたものづくりを絶やさぬようにワクワクする織物のアイデアで産地と世界をつなぐ。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

もっぺん実行委員会



西脇市商工観光課 / 西脇商工会議所 / 多可町商工観光課 / 多可町商会 / 公益財団法人北播磨地場産業開発機構

ともにあゆむ

OTHERS

もっぺん 2025 参加事業者 (25 事業者)

植山織物 / ウニスガ印刷 / excellence / 大城戸織布 / 太田工務店 / 岡治織物 / 郷土資料館 / 西日本コクボ / 小林刺繍 / 書家ごとうみのる / 杉原紙研究所 / セントラルフットウェアサービス / ソーイング竹内 / 大化産業 / TAKAMIOKAKI / tamaki niime / 土づくりセンター「ゆめあぐり西脇」 / 播-BON SEWING FACTORY- / 播州織工業協同組合 / 兵庫県立工業技術センター繊維工業技術支援センター / 廣田織工 / 藤祐繊維 / POLS (丸萬) / ユタックス / リナビス

<協力>ハローワーク西脇

TRIGGER & STORY

誕生秘話

もっぺん代表の藤井氏が西脇市と関わりはじめたのは、約10年前。友人に誘われて綿花栽培を行うようになったことがきっかけ。その後、2023年に京都から西脇市へ移住。西脇市が近畿経済産業局と共催した「オープンファクトリーフォーラム」で様々な関係者と交流する機会を経て、この地が培ってきた伝統や産業を未来へ紡いでいくため、かねてから必要性を感じていた「オープンファクトリーイベント」を立ち上げることを決意。取り組みを通じて地域に注目が集まることで、移住者や観光客を増やし、地域活性化につながる良い循環ができればと、「もっぺん」という新しいコミュニティを誕生させた。

TOPICS

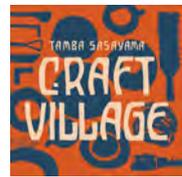
もっぺん× ヴィンテージ織機 LIVE

もっぺん 2025 では、現役のヴィンテージシャトル織機を使ったLIVEパフォーマンスが披露された。“オモロイコト”を追求し、自由に表現してもらった実験場として「もっぺん」を楽しんでもらいたいという思いから、代表の藤井が実験的に実施したものだ。

まるでダンスミュージックの様に軽快で楽しそうなリズムを織る現役ヴィンテージシャトル織機「HIRANO LOOM」が生み出す音とリズムを、パフォーマーがその場でシンセサイズし、ものづくり現場の匂いや空気間も含めて、臨場感溢れるひとときとなった。今後も多層的な要素を取り入れ、他のオープンファクトリーとは異なる、“もっぺんらしさ”が期待される。



CRAFT VILLAGE



CORE VALUE

工芸を身近に感じる5日間 広がれクラフトの輪

- EVENT DATA -

開始年 : 2021年
 開催回数 : 4回
 開催期間 : 5月頃(春開催)10～11月(秋開催)
 参加企業 : 32社(2022年秋)
 来訪者数 : 約1,200人(2022年秋)
 主催 : 丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会

FEATURES

つくる人・物・場所にふれる場

市内には850年の歴史を誇り、60の窯元がしのぎをけずる丹波焼の他、木工、ガラス、革、陶芸など数多くの工芸家が活躍している。他の地域のオープンファクトリーは「産地」の活性化を目的としていることに対して、丹波篠山には移住する工芸家も多く、「新しい産地」が生まれ始めていることが特徴。

CRAFT VILLAGEでは、丹波篠山の作家たちが出店する「王地山クラフトマーケット」と普段は見ることのできない工房を見学できる「オープスタジオ」が開催され、つくる人・物・場所にふれる場となっている。

ものづくりをする工芸家が心地よく手仕事に携わることができるよう、また、工芸について地域の人々が理解する、そんな地域を目指していきたい。

FUTURE

工芸品を中心とした好循環を目指して

初回開催は、2021年秋。2022年は季節の良い春・秋の2回開催を目指し、企画・開催してきた。

丹波篠山は移住者が多い町、すなわち多様な能力を持った人材の宝庫である。そうした多様な人材が集まるCRAFT VILLAGEは、今後さらなる多様な発展が期待される。

工芸品を使用する人が増え、工芸家同士も繋がり、ものづくりにとって良い里となっていく。そしてまた作り手が増えていく、そんな好循環を目指していきたい。

INNOVATION

試行的ガイドツアーから見いだす将来性と連鎖する拡張性

今回のCRAFT VILLAGEに併せて、様々な関係者をアテンドするツアーを、実行委員であり通訳案内士の田川氏の案内で開催した。

有識者、議会関係者、その他、外国人留学生など様々な視点からツアーを実施したところ、参加した方々にリアルを体感いただき、CRAFT VILLAGEを応援する意義を共有出来た。

またこの共有は訪れた事業者の方のお話から得られる刺激ももちろんであるが、参加者同士が移動途中の行程で「ここが良かった」「ここはこう思った」など意見を交わす時間があり、その互いの発見同士を共有することでより理解が深まることとなった。これらは、本気でCRAFT VILLAGEを楽しむ「ファン」が増える効果に繋がったと考えられる。

さらに、今回の取組に当たって市民の方々に大きな刺激を与えたことも印象的。自分たちが住む町への新しい気づきが生まれるなどシビックプライドが形成される効果を生み出した。

工芸家同士の交流にもつながり、創得意欲をかき立てるものともなっている。「互いを知るため」と小さく始まった取組は、まだまだ大きく進化する。

●事務局連絡先

丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会

公式サイト <https://ts-craftvillage.com/>

公式Instagram @ts_craft.village



ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



KAKO KATUMI
加古 勝己 氏
丹波陶磁の陶芸家
丹波篠山クラフトヴィレッジ製作委員会
代表

京都市出身の丹波陶磁の陶芸家。
京都・西脇・丹波篠山と活躍の場を移しながら数々の作品を生み出す一方、山の楽しさなど地域の魅力発信に尽力するキーパーソン。移住者が増えるまちで、ゆるやかなネットワークを求める声を「CRAFT VLLAGE」という形で実現した。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



中西 一矢 氏
SANROKU

田川 剛 氏
通訳案内士

竹内 保史 氏
王地山陶器所

仙林 寛実 氏
地元大好き丹波篠山っ子

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



林 健二 氏
一般社団法人 TSUMUGI 代表理事



仙林 寛実 氏
地元大好き丹波篠山っ子

TRIGGER & STORY

誕生秘話

丹波篠山市では、丹波焼に代表される工芸や建築、農林業、祭礼など地域固有の文化や生活文化が持つ「創造性」に加えて、京阪神からの利便性や自然豊かな生活環境もあり、近年移住して工房を構える方々が目立つようになった。そうした中、訪れる観光客との交わりだけでなく、移住工芸家同士の交流、地域の人々との交流の必要性が高まっていた。地域の人々に、どんな人が近所でものづくりをしているのかを知ってもらうとともに、現場の空気感や使い古された道具などを見てもらい、ものづくりの深さやおもしろさを知ってもらいたい。また、工房で作業する作家にも、自分の工房で販売する強みを理解してもらいたい。そんな思いがあり、「作り手」と「使い手」の思いが伝わるイベントとして2021年秋に「丹波篠山クラフトヴィレッジ」が企画・開催されることとなった。

TOPICS

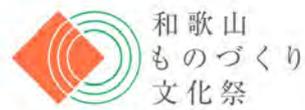
コラボレーション商品「ワークエプロン」の製作

2022年春、クラフトヴィレッジ製作委員会と4名の作家によるコラボレーション商品「ワークエプロン」の製作企画がスタートした。4名の作家である agarito(デザイン・縫製担当)、居七十七(ボタン製作担当)、けせら工房(染色担当)、handmade shoes Nelio(レザーパーツ製作担当)の、それぞれの技術・強みを活かしたワークエプロンである。同年秋に完成し、10月に開催された王地山クラフトマーケットにて10着限定で販売された。



(写真) 開催の様子

和歌山ものづくり文化祭



CORE VALUE

ものづくりの未来を創る、 体験と学び

- EVENT DATA -

開始年	： 2022年
開催回数	： 2回
開催期間	： 12月（2023年）
参加企業	： 26事業者
来訪者数	： 延べ約5,000人（2023年）
主催	： 和歌山オープンファクトリー推進委員会
共催	： 和歌山県

FEATURES

ものづくり企業がつくる、体験参加型イベント

和歌山ものづくり文化祭は、「ものづくりの未来を創る、体験と学び」をテーマに、和歌山県北部の伝統産業等をはじめとする製造業が一堂に和歌山城ホールに集い、各社の技術をその場で体験し楽しめる、「ものづくり企業がつくる、体験参加型イベント」である。

体験型ワークショップや製作実演等全22ブースが並び、会場内には段ボールによる仕器や大工によるゲート、参加事業者が提供する端材を使った巨大なアートオブジェも飾られた。

FUTURE

もの文×〇〇！ 「産地・和歌山」を共創するコミュニティへ

2回目にあたる2023年はものづくり企業からなる実行委員会と、金融機関・支援機関・デザイナー等多様なステイクホルダーが関わる事務局で組織的な運営を行った。EXPO 酒場和歌山店や和歌山市民図書館でのポップアップイベントなど、他団体と連携し通年で数々の企画を開催することで、通年で和歌山のものづくりの魅力を発信している。外部のステイクホルダーと連携することで、自分たちだけではできなかった新しい挑戦や情報発信が可能となる。今後も「もの文×〇〇」でさまざまなパートナーと響き合いながら産地を盛り上げていきたい。

●事務局連絡先

和歌山ものづくり文化祭 事務局

〒641-0007

和歌山県和歌山市小雑賀2丁目2番31号 菊井製製作所内

TEL 080-5331-4495（菊井）

INNOVATION

初回開催で生まれた他地域や学生との連携

和歌山ものづくり文化祭2023では、12月2日・3日の2日間にわたり紀北エリアのものづくり企業が和歌山城ホールに結集し、各ブースでそれぞれの技術を使った体験ワークショップを開催。初回時以上に、ポップアップイベントや出展企業の交流機会を創出した。さらに年間を通じて県内や他地域との連携を図り、2023年はEXPO 酒場和歌山店 with 和歌山ものづくり文化祭（7月、和歌山城ホール）、小学生対象のものづくりイベント「なつやすみファクトリー」（7月、和歌山市民図書館）、和歌山ものづくり文化祭チームでの千年未来工芸祭への出展（8月、越前市）などを行った。

また、株式会社ミテモ 杉谷昌彦氏をアドバイザーに加え、出展企業の参加目的や伝えるべきことを深掘りする相談会を複数回開催し、出展を通じて自社のものづくりの価値や伝え方の磨き上げを行った。文化祭当日には、新山直広氏をはじめ鯖江・越前のオープンファクトリー RENEW をゲストに招き、トークイベントを開催。テーマごとに4つのセッションに分かれ、他地域の取組から産業観光やものづくりの可能性を学んだ。

さらに、学生との連携を目的に、和歌山県の移住定住推進課が有するプラットフォームを活用して、学生ボランティア「ミラスト」を募集。「イベント全体の募集」ではなく「ブースごとの手伝い」という形で募集し、希望する学生には事前に工場見学を行った。これによって、学生にとっては興味のある企業・分野に応募でき、学びを得るとともに、仕事内容を知ることができた。事業者にとっては、採用に向けたPRの機会となった。

過去2回の和歌山ものづくり文化祭を通じて、これまで交流がなかった事業者どうしが繋がりを作ったことで、本業でも新しいプロジェクトが生まれ始めている。2023年開催からはものづくり企業ではない行政・支援機関が運営に加わったことで共創の幅が広がっている。本業でない文化祭での出会いだからこそ、新たなイノベーションを生み出すための「砂場」として機能すると感じている。今後も、出展企業やステイクホルダーが学び合うコミュニティとして、関わる人とともに「もの文」が成長していくことを期待している。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



KIKUI KENICHI
菊井 健一 氏
有限会社菊井鋏製作所 代表取締役
和歌山ものづくり文化祭
実行委員長（全体統括）

大学卒業後すぐ、祖父の代から続く有限会社菊井鋏製作所に入社し、ハサミづくりの基礎から学ぶ。2016年、28歳で3代目として事業承継を行なう。他地域のオープンファクトリーイベントに触発され、地元和歌山市での開催を志し、実行委員会を立ち上げる。実行委員長として、2022年11月に「和歌山ものづくり文化祭」の開催に尽力。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

YAMAGA YUICHI
山家 優一 氏
株式会社山家漆器店 代表取締役
「黒江るるる」 実行委員長



TSUJIOKA DAIKI
辻岡 大樹 氏
合同会社ウッディーズ
代表 / CEO



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



アートディレクター
大碓 伸 氏
株式会社ハクシャ



事務局
吉田 圭吾 氏
和歌山県庁 企業振興課



事務局
太田 佳宏 氏
公益財団法人わかやま産業振興財団



事務局
西 政也 氏
きのくに信用金庫 地域支援部



事務局
長命 洋史 氏
株式会社リーディット



アドバイザー
杉谷 昌彦 氏
ミテモ株式会社 シニアディレクター
立命館大学デザイン科学研究センター各員研究員

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

きのくに信用金庫
地域支援部

南海電気鉄道株式会社
まち共創部

- ・葛屋書店、和歌山市民図書館でのポップアップストアの企画提案・協力
- ・デジタルサイネージ広告の掲出
- ・当日の本部運営スタッフ支援 他
- ・南海和歌山市駅直結の複合施設「キーノ和歌山」のクーポン券の発行
- ・南海線駅構内や南海電鉄公式 SNS での情報発信、和歌山バスでの告知物掲示 他

TRIGGER & STORY

誕生秘話

仕掛け人である菊井氏は、2021年に開催された日本工芸産地博覧会（大阪府内万博記念公園にて開催）に出展。その時、各地のキーパーソンが参加しており、「和歌山でも産地を盛り上げていかなければいけない」と強く感じたことが大きなきっかけである。今、産地のイベントをできているかどうかで2025年以降の様相は変わってくる、そんな危機感を持った。

同博覧会への参加は、ものづくりの価値を再考するきっかけにもなった。ものづくりの場面のどこを切り取り、どうしたらワークショップ参加者に喜んでもらえるか等様々な学びがあった。そうして学び、吸収したものを、和歌山でも取り組みたいと考え、第1回開催に向けた活動がスタートした。

TOPICS

官民が連携することで、持続可能な運営に

和歌山ものづくり文化祭では、今年度から和歌山県、きのくに信用金庫、公益財団法人わかやま産業振興財団、株式会社リーディットが事務局を構成し、運営体制を強化した。Web会議ツールの「ZOOM」やチャットツールの「Discord」などを活用することで、様々な組織のメンバーが情報をスムーズに共有できる体制を構築した。

運営についての課題は山積みであるが、一つずつ解消し、持続可能な運営を目指す。



（写真）会場・ワークショップ体験の様子

黒江るるる



CORE VALUE

あるく・みる・つくる
ものづくりの楽しさを体感！

- EVENT DATA -

開始年 : 2020年
 開催回数 : 4回
 開催期間 : 11月頃
 参加企業 : 8社
 来訪者数 : 約93人(2023年)
 主催 : 黒江あるく・みる・つくる実行委員会

FEATURES

多様なものづくり体験やまち歩き提供の場

4回目となる2023年開催では、2022年開催同様、「紀州漆器まつり」と同日開催をし、体験人数以上に数多くの方に黒江の町並みや職人体験などに触れていただきました。タンプリン作り、棕櫚たわし作り、竹あかり作り体験などの体験だけでなく、過去開催で人気のあった、プロタンプリン奏者の田島氏のライブなども盛り上がり、黒江周辺のものづくり企業を知っていただく機会となりました。黒江るるるが開催される海南市黒江は、迷路のような家並みと職人の技が光る建物が今も残る町。町歩きも楽しめるようにと、謎を解きながら地域内をめぐるゲーム「るるる謎」も企画・開催されている。

FUTURE

他イベントとのタイアップで地域に賑わいを

2023年はこれまで同様黒江の町並みに集結し点在した場所場所で体験や見学ができる黒江るるるを開催をしたが、やはりものづくり企業に直接伺いたいという意見も多数いただくようになっている。

今後は各工場などをオープンにすることで、オープンファクトリー的要素を強くしていきたいという意向もあり、2024年以降は新しい「るるる」を魅せていければと考えている。

INNOVATION

刺激と触発を連鎖させるイノベティブな地域

イベント開催をきっかけに、漆器産業と同様に和歌山の重要な伝統産業「棕櫚たわし」、隣町紀美野町で活躍する手漉き和紙、木製国産タンプリンのトップシェア企業、木製打楽器カホンなど、業界を超えた新しい繋がりができたことが、1つの大きな効果である。

加えて、企業同士、また住民が企業について知ることができ、ローカルインナーブランディング形成に大きく寄与したことは、地域にとっては大きなイノベーションであった。実際、参加企業が知らなかった事業者等もあり、黒江の町の魅力再発見に、大いに期待できる取り組みである。

また日頃行っているものづくりについても、お客様に喜んでいただける大きなコンテンツの一つであるということを知るきっかけとなった。「こんなもので喜んでくれるのか?」といった疑念から、自分たちの技をもっと知って欲しいという意欲につながっている。

2021年の「黒江るるる」の実施に際して活用した「クラウドファンディング」は、地域に新たな学びを与えた。クラウドファンディング実施後、古民家を修繕、保全に取組み、コミュニティスペースを作るために、クラウドファンディングに取り組むメンバーが生まれている。

業種を超えて、互いに「あるく・みる・つくる」を共有し、様々なチャレンジをすることで刺激と触発を連鎖させ、イノベティブな地域へと着実に進化を遂げている。

●事務局連絡先

黒江あるく・みる・つくるプロジェクト事務局

〒642-0011 和歌山県海南市黒江692

E-mail yamagakinan@gmail.com (山家)

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



YAMAGA YUICHI
山家 優一 氏
株式会社山家漆器店 代表取締役
株式会社やまが 代表取締役
黒江るるる 代表

日本四大漆器産地の一つである紀州漆器を中心に工芸品を取り扱う山家漆器店の四代目。2023年10月に法人化し株式会社山家漆器店へ。

紀州漆器の新たな可能性を模索するインテリア製品ブランド「KISHU+」の運営にも参画。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

発起人
池原 弘貴 氏
池庄漆器店 五代目店主

創業明治9年の漆器問屋で店舗は築220年の国の登録有形文化財に指定されている。7年間町づくり団体「黒江の町並みを活かした景観づくり協定（通称：黒江Japan）」で代表を務め、地元住民とサポーターを巻き込みながら古民家や景観を活かした様々なイベント企画や活性化に尽力。



黒江ぬりもの館 代表
瀬戸山 江理 氏
まちづくり会社 株式会社楽善舎 代表

古民家カフェ黒江ぬりもの館 店主
和歌山市から海南市黒江に移住。海南市地域おこし協力隊（2018年10月 - 2021年9月）広報担当。仲間たちとともに『黒江』の魅力を発信すべく『黒江めった祭り』『こみちあるき』等の地域イベントを手がける。地域にある遊休不動産を活用したコミュニティスペース『黒江tettote〜旧岩崎邸』を創造中。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

黒江 Japan



黒江の町並みを活かした景観づくり協定（通称「黒江Japan」）は、2011年に和歌山県景観条例知事認定第1号として認定された。紀州漆器で栄えた黒江の町並みを守り、育て、次世代に引き継いでいくことを目的に、空家の有効活用・町並み保全・地元住民を巻き込んだ様々なイベント開催など、地域に根付いた活動をしている。

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

協賛パートナー

池庄漆器店、黒江ぬりもの館、ケアチーム大河、株式会社小久保工業所、株式会社サンコー、株式会社仕事旅行社、タカラ製菓株式会社、東京医療保健大学ボランティアサークルLeverage)、有限会社なかにし、早川工業株式会社、有限会社原見段ボール、古田組、株式会社星田建設、株式会社やまが

後援パートナー

近畿経済産業局、海南商工会議所、海南市教育委員会、海南市観光協会、和歌山県、海南市

コラボレーションパートナー

和歌山ものづくり文化祭

TRIGGER & STORY

誕生秘話

これまで31年間続けられてきた黒江地区で開催される大型イベント「紀州漆器まつり」が新型コロナ禍により中止に。これは漆器業者だけでなく、周辺飲食店においても深刻なダメージを経済・精神面共に与えることとなった。そのため、漆器業界やまちづくりに関わるメンバーが「出来ること」を考えたいと「黒江あるく・みる・つくるプロジェクト」を企画。参加者を限定する予約型ワークショップの形とすることで、感染リスクを抑えながらも、黒江の魅力を知ってもらう取組として企画されたのが始まりである。資金もクラウドファンディングで集め、目標金額を達成。



(写真) イベント・ワークショップ体験の様子

つやまエリアオープンファクトリー



◎ みんなが参加できる、見学会 ◎

つやまエリア オープンファクトリー 2025

TSUYAMA-AREA
OPEN FACTORY
2025

工場や会社を
見学する

ものづくりを
体験する

みんなの話を
聞く

開催日 2025.7.25(FRI)-26(SAT)
9:00～16:00
企業によって異なります

つやまエリアの会社・工場を見学したりものづくり体験ができます！



CORE VALUE

工場・会社の魅力を発見！！

- EVENT DATA -

開始年 : 2018年
開催回数 : 6回
開催期間 : 例年7月中・下旬 / 2日間
参加企業 : 66社 (2025年)
来訪者数 : 2,609人 (2025年)
主催 : つやま産業支援センター

FEATURES

地域の子どもたち向けプログラム

人材確保に苦慮している状況が続く中、地域の小・中・高校生たちに地元の中小企業を知ってもらうことで、将来の地元就職につなげることを目的に、つやま産業支援センターと岡山県美作県民局が企画・開催。2018年の初開催では合計45社・47カ所の工場等を公開。モノづくり体験+工場見学、市教育委員会と連携したバスツアー、金属加工企業体によるモノづくり企画ツアー、スタンプラリー、ノベルティグッズ等、充実したプログラムを開催した。現在では、当初の製造業に加えて、サービス業、農業、林業等、様々な業種の企業にも参画いただいている。

FUTURE

参画企業の多様化でさらに魅力あるイベントに

今後も小学生とのお父さんやお母さん、中学・高校生たちをメインターゲットとして開催し、親御さんも含めて地元企業の取組や魅力を知ってもらうことで、将来の就業につなげたい。2020年、2021年はコロナ禍のため、やむを得ず開催を中止したが、2022年は規模を縮小して再開し、その後も順調に参加企業、参加者を増やしている。

今後は、これまで参加されていない企業にも声掛けし、参加企業数はもちろん、将来を見据える中学・高校生以上の参加者数も増やしていきたい。

INNOVATION

特別企画と職場環境の改善

つやまエリアオープンファクトリーのプログラムの1つとして、2から3企業をまとめて訪問することができるバスツアーを企画している。このバスツアーには、元々高いステンレス加工技術を持った企業グループが共同で企画する「津山ステンレスネットバスツアー」と、津山市教育委員会と連携して地域の企業を勉強する「つやま子ども未来塾バスツアー」があり、ともに人気の高い企画となっている。

また、各企業を訪問・体験することにより、スタンプを押してもらうことで、参加企業から提供された景品と交換ができたり、抽選で地域の特産品などが当たるスタンプラリーも複数の企業を訪問してもらう動機付けとなっている。

個々の企業の動きでは、参画企業の内、それまで外部との交流がなかった企業が、オープンファクトリーをきっかけに、外部交流への参加を従業員に積極的に促すというような変化も生まれている。

また、夏場に開催するため、工場を訪れた小学生が汗びしょりになっている姿を見た経営者が、「子どもたちに快適な環境で見学して欲しい」と工場内の環境改善を痛感。翌年度には空調設備を導入するなど、職場環境の改善にも役立っている。

受賞アワード

2020年 第9回地域産業支援プログラム表彰事業（イノベーションネットアワード2020）一般財団法人日本立地センター理事長賞 受賞

●事務局連絡先

つやま産業支援センター（津山市みらい産業課）
〒708-0004
岡山県津山市山北 663 津山市役所東庁舎1階
TEL 0868-24-0740

仕掛け人

TREND SETTER



NUMA YASUHIRO
沼 泰弘 氏
津山市産業経済部 次長 兼 みらい産業課 課長
つやま産業支援センター 事務局長

津山工業高等専門学校卒業後、IT 企業を経て 1996 年津山市役所に入庁。商工観光課、企業立地課、産業政策課などを経て、2014 年に新産業創出課でつやま産業支援センターの設立に尽力。多年に渡り地域産業の振興、地方創生に関わる業務に邁進。

「私自身を振り返ると、津山高専在学時も津山市の企業についてはほとんど知らないまま過ごし、同級生の 9 割は都市圏に就職しました。IT 企業から転職する際にも、企業情報がわからず民間企業ではなく公務員を選びました。だから、若い人たちが津山を出ていく、津山に根づかない、津山に戻ってこない、という事情もわかるのです。
自分の経験も踏まえ、人材育成の第一歩は地元の産業を知り、興味を持つことだと思い「つやまエリアオープンファクトリー」を企画しました。」

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

つやまエリアオープンファクトリー主催
つやま産業支援センター

つやま産業支援センターは 2015 年設立。地域企業のチャレンジを応援し、魅力的な雇用の創出、地域経済の活性化を目的に活動。企業との密接なネットワークを基に、つやまエリアオープンファクトリーへの参加企業を集めている。



つやまエリアオープンファクトリー共催
岡山県美作県民局

津山市・真庭市、美作市、新庄村、鏡野町、勝央町、奈義町、西粟倉村、久米南町及び美咲町を所管しており、つやまエリアオープンファクトリーの開催をサポートしている。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

株式会社 RELATION

市内 IT 企業。つやまエリアオープンファクトリー HP 制作担当。市内 IT 企業グループ「つやま ICT ネット」、市内クリエイター連携グループ「津山クリエイティブ人材ネットワーク (C's n e t)」会員。WEB による参加企業・参加者申込やリアルタイムでのイベント情報発信を実現。



クレア・デザインオフィス

市内のデザイナー。市内クリエイター連携グループ「津山クリエイティブ人材ネットワーク (C's n e t)」会員。2024 年のつやまエリアオープンファクトリーより、メインビジュアルをはじめとした各種デザインを担当している。



中鉄北部バス

津山を中心に市内巡回バス、路線バスを運行している。つやまエリアオープンファクトリー開催日は参加者が無料で路線バスを利用できる。



ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

津山ステンレスネット

ステンレス加工技術と最先端のロボット技術により、設計からメンテナンスまで一貫対応できる地域企業 12 社による連携グループ。オープンファクトリーバスツアーに携わる。



バスツアー

津山ステンレスネット会員企業複数社をバスで回り、金属加工や機械製造の現場を体験するバスツアー。



TRIGGER & STORY

誕生秘話

地域には製造業が多いにも関わらず、少子化の影響により、若い人材が不足していることが課題の認識にあった。地域の特に若年層に地元企業が存在・魅力を知ってもらい、就職時の選択肢の中に地元企業が入るきっかけとなるべく、津山市職員の沼氏がオープンファクトリーを企画した。初回開催にあたっては、ネットワークのあった企業を 1 社 1 社直接訪問し、趣旨やその想いを語り参加を呼びかけた。その結果、初年度でありながら、合計 45 社から賛同を得て開催することができた。

TOPICS

「プレイベントバスツアー」市内高校とのコラボ企画

津山市が抱える最大の課題は「18 歳の崖」。高校卒業を機に多くの 18 歳が進学・就職等で市外へ転出し、その後も津山市へ帰ってこない。

「18 歳の崖」を解消すべく、津山市内の高校と連携し、つやまエリアオープンファクトリーを通じて地域内企業を知ってもらい就職時に就職先の候補として選択肢に入れてもらうことを目的に「プレイベントバスツアー」として 1 クラス丸ごと 1 台のバスで移動する企業見学会を複数日に渡り実施した。2025 年は計 14 台のバスを貸し切り、304 名の高校生が参加してくれた。

参加した高校生にとっても、地域企業の高い技術力や魅力的な製品などを改めて知ってもらうきっかけとなっており、地元就職につなげるべく、今後も継続して実施していく。



(写真) 工場見学、製作体験ワークショップの様子

瀬戸内ファクトリービュー



CORE VALUE

100 のなりわいを残す
100 の景色を残す

- EVENT DATA -

開始年 : 2019年
開催回数 : 2回(2019年・2025年)
開催期間 : 10月・11月(2025年実績)
参加企業 : 28社(2025年実績)
来訪者数 : 延べ4,600人(2025年実績)
主催 : 瀬戸内ファクトリービュー実行委員会

FEATURES

多様で特色あるものづくり現場の見学・体験

広島県西部の安芸地域(広島市)と広島県東部の備後地域(府中市・福山市)で開催するオープンファクトリーイベント。地元産業である、仏壇・ガラスビーズ・家具・繊維・味噌などを含め、多様で特色あるものづくりの現場を見学、体験することができる。

2020・2021年はコロナ禍で全体での開催は中止となったが、一部の参加企業が手を挙げ、マルシェや工場見学、オンライン配信などを実施。2025年に復活し、従来の備後に加えて安芸の2地域で開催しリニューアルした。

FUTURE

365日オープンファクトリーに向けた学び・ツーリズム展開

活動の主体がNPO法人であるため、運営に割ける人員や時間は限られる。そのためイベント当日の熱量だけに依存せず、移住者を含む多様な人材が「ものづくりによる地域づくり」に関心を持って関われる入口(きっかけ)を増やしていく。あわせて、オープンファクトリーを単発の催事に留めず、365日タッチポイントを展開できるツーリズムへと設計し直す。また、参加各社や関係者が相互に学び合う機会を定期的にセットすることで、産地が一步前に進み、さらには世界がこの産地から気づきを得られる地域へと変容させることを目指している。

●事務局連絡先

瀬戸内ファクトリービュー 実行委員会

〒726-0005

広島県府中市府中町 754-2

<https://factory-view.jp/>

INNOVATION

開催をきっかけとする活動・取組の発展

●いる(時間を共にする)→なる(仲良くなる)を重ねる取組

瀬戸内ファクトリービューは、当日だけでなく準備段階から「いる(時間を共にする)→なる(仲良くなる)」のプロセスを重ねてきた。事務局は週1回のミーティングを継続し、企画・広報・受入設計・現場課題を持ち寄って、オンラインと現地を行き来しながら意思決定をそろえた。工場や現場を一緒に見て対話し、誰が何に困り、何を強みにできるかを「情報」ではなく「実感」として理解したことが、信頼の土台になった。そうして「まず一緒にやってみる」が当たり前になり、自然に声を掛け合える継続前提の関係へ育っていった。

●多様な人が関わるコミュニティの形成

ものづくり企業を中心に、学生や移住者など年代も職業も異なる人が交わるコミュニティが生まれた。学生の率直な質問が現場の魅力を掘り起こし、企業の応答が伝え方を磨き、移住者や若手が編集・導線設計でつなぐ。参加/支援の固定役割を超えて学び合い助け合う空気が育ち、「関わりしろ」が地域に増え、継続的な関係を支える土壌ができた。

●今後のアクションを見据えたチーム作り

県の東西それぞれの地域にもものづくり企業のリーダーが生まれた。具体的には、オープンファクトリーの開催に向けた勉強会の開催など、常に先を見据えたチームに育っている。



何もなくとも集まる週一事務局

移住者・学生を中心にした週一回の集まり。
瀬戸内ファクトリービュー事務局運営を話題にしながら、「楽しみながら地域に浸る」というコミュニティとなっています。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



KOTANI NAOMASA
小谷 直正 氏
事務局長

NPO 法人府中ノアンテナ副理事長
広島県府中市出身。東京にあるメーカーに就職後、Uターンして地元府中市で、行政機関や地元プレイヤーとともに、公團づくりの実証実験、子育て支援、移住促進事業の企画・運営などを担当。ものづくりの家系で生まれ育った背景から、地域の魅力として地元のものづくりを発信できないかと日頃から考えている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

瀬戸内ファクトリービュー実行委員会 安芸支部長
一般社団法人 My Japan 代表理事
株式会社文宏堂

三村 理紗 氏

1907年創業の文宏堂を家業に、広島県熊野町で伝統工芸・熊野筆を製造販売。ものづくりと文化をつなぐ活動を行う。

瀬戸内ファクトリービュー実行委員会 福山支部長
デニムのイトグチ事務局長

山本 尊也 氏

「デニムの魅力を産地から」をテーマに、企業の垣根を超えてデニム生産量日本一のまち・広島県福山市のPRを行う。

瀬戸内ファクトリービュー実行委員会 府中市支部長
株式会社モノミラ 代表 / DDD.Labo 運営

山路 大介 氏

府中市で、製造業のDXにつながるシステム提案を行う。またファブラボ「DDD.Labo」を運営。3Dプリンタの利用やワークショップを通じて、子どもから大人まで「アイデアを形にする」体験を広げている。



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



事務局メンバー
瀬戸内ファクトリークルー
学生・職人・移住者を中心に構成



取材・週一ミーティングで
府中焼き配達担当
中西 充彦 氏
NPO 法人府中ノアンテナ

ともにあゆむ

OTHERS

SPECIAL THANKS

株式会社タテイシ広美社 会長

立石 克昭 氏

瀬戸内ファクトリービュー 実行委員長
広島県中小企業家同友会 代表理事
府中市立府中明郷学園 学校運営協議会会長



1977年創業、屋内外サイン・電光掲示板の企画・設計・制作・施工・メンテナンスを行う。

TRIGGER & STORY

誕生秘話

展示会やイベントなどで府中市および備後領域の方々と関わる中で、仕掛け人である小谷氏は、備後の企業が一般向けの発信に弱いところがあるという点を感じていた。そこで、トランクデザイン 堀内康広氏の勧めにより職人の技術継承と地域活性化の好事例として挙がっていた福井県鯖江市の「RENEW」を訪問。現場の規模感や景色など、自分たちの地域に通じるものもあり、大きな影響を受けた。一方で、府中市には木工業者が多いが外部との交流が少なく、メーカー間のコラボ等の連携もなかった。そうした中、横の連携を深める方法を、若葉家具の井上社長をはじめとした府中家具組合の青年部が模索していた。そんな時、NPO 府中ノアンテナと府中家具組合の中心メンバーが話す機会があり、2団体の意見が一致。会議を重ね、「瀬戸内ファクトリービュー」の開催を決定するに至った。

TOPICS

対話による気づき、気づきを起点とした未来づくり

2023年に実施「Setouchi Factory View to 2050」は、澤田哲也氏（ミメモ）のファシリテーションで、ものづくり企業が2050年の備後のビジョンを構想する対話の場として開催され、この対話を起点にオープンファクトリーは2025年に再始動した。その流れを受けてFactory Talkは、開催前・会期中に参加企業・事務局が学び合う対話企画として展開。2025年1月20日の第1回では和田哲史氏（近畿畜産産業局）、松尾泰貴氏（友安製作所 / FactorISM）、三村理紗氏（My Japan）が登場し、2025年7月1日には府中・忍まで第2回「祭りを日常へー燕三条モデル」を開催。齋藤新也氏（ドットアンドラインズ / 燕三条こまの窓）が実践を共有した。それにより、自地域でのオープンファクトリーの具体像を参加者各々が描いた。



(写真) 工場見学、ワークショップ、瀬戸内ファクトリービュー RELAY! の様子

来て見てみい、とくしま。



CORE VALUE

徳島の木工に次なる一步を

- EVENT DATA -

開始年	: 2023年
開催回数	: 3回
開催期間	: 毎年11月頃
参加企業	: 9社+クリエイター5社(2025年)
来訪者数	: 延べ人数約1,000人(2025年) トークイベント、レセプションを含む
主催	: 来て見てみい、とくしま。実行委員会

FEATURES

船大工の精練された技術が地場産業の土台に

「来て見てみい、とくしま。」は、徳島で生まれたものづくりの現場を開放するイベント。そのネーミングは、阿波弁の「一度は来てみれば」「見て、ためしてみれば」からとったもので、徳島に来てものづくりの現場をみて作り手の想いを感じてほしいという願いが込められている。

家具で有名な徳島は、遡ること室町時代に既に木材加工品が作られていた記録が存在する。安土桃山時代には、蜂巣賀氏が水軍基地を置き、200名ほどの船大工を住まわせ、以降、木材の加工技術が磨かれてきた。船大工で培われた技術は、明治の世になっても家具や筆筒、計箱、鏡台、仏壇作りなどに生かされながら、現在の徳島の地場産業の土台となってきた。近年のライフスタイル・婚礼慣習の変化、大手の安価な代替品など時代の流れの中で、200社ほど存在していた徳島家具メーカーは、20社ほどに縮小。危機感を持った一部の事業者が、2000年以降、デザイナーと共に悪戦苦闘しながら新たな木工のあり方・姿・形に果敢に挑戦。2023年からはオープンファクトリーを通し、更に輪を広げながら、地域の産業のこれからを育んでいる。

FUTURE

作り手の一步、使い手の一步、関係者の一步

過去、徳島においても家具の祭典が開催されていた。その当時、空港に降り立った全国各地のバイヤーに地元メーカーが殺到し、自社への案内をするほど盛り上がっていた時代もあったという。それをもう一度この徳島で、という想いを胸に、新たな参加事業者(作り手)や参加者(使い手・関係者)を巻き込みながら裾野を広げ、関係人口を増やすことで、ひいては日本における木工を中心とした産業全体の活性化を目指していく。

INNOVATION

見てみい、聞いてみい、会ってみい。試してみい。

2023年に開催した「来て見てみい、とくしま。」(2025年現在の「来て見てみい、とくしま」へ名称変更)は、初年度2日間の開催で、参加企業9社であったものが、2025年は、とくしま伝統産業振興協会他36社が協賛し、開催期間を5日間に延ばすなど、着実に裾野を広げている。本イベントは、見てみい(オープンファクトリー・展示・バスツアー)、聞いてみい(トークイベント)、会ってみい(レセプション)から構成される。

「見てみい」では、徳島の木工メーカー9社がものづくりの現場を公開。突板張りに手彫りの彫刻、繊細な組子に厚みのある一枚板。曲木から成形合板までと、多種多様な素材や技術が長い年月をかけて集積している。これら徳島ならではの匠の技を、実際の現場でじっくりとみることができる。「聞いてみい・会ってみい(トークイベント・レセプション)」では、水辺の倉庫街万代中央ふ頭のカフェ(BANDAICAFE)を舞台に、木工メーカーとデザイナー、またはバイヤーによるトークイベントが開催され、参加メーカーの職人やデザイナーなど、ものづくりに携わる人たちが集結し、徳島産の食材を使用した料理やスイーツ、そしてドリンクとともに集まった人たちと交流を深める場が提供されている。レセプションは、プロ志向が強い方を対象に実施される。現場と交流機会の相乗効果によって、新たな出会いや学び、触発が生まれ、この土地ならではのマインド(試してみい)によって、数々のイノベーションが生み出されつつある。

●事務局連絡先

来て見てみい、とくしま。実行委員会

〒877-0005 徳島県徳島市津田海岸町5-75 椅子徳製作所内
TEL 088-663-0018

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



来て見てみい、とくしま。実行委員会委員長

SAGIIKE HIROYUKI
鷺池 博行 氏

有限会社 椅子徳製作所代表取締役

徳島市生まれ。1986年大阪デザイナー専門学校卒業後、椅子徳製作所入社。専務取締役を経て、2009年代表取締役就任。



来て見てみい、とくしま。実行委員会事務局長

AKIZUKI OSAMU
秋月 修 氏

秋月木工 有限会社代表取締役

1965年徳島生まれ。
1988年富士ファニシア(株)入社。
1993年秋月木工(有)入社。
2000年代表取締役就任。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



来て見てみい、とくしま。プロデューサー

村澤 一晃 氏

ムラサワデザイン
股旅デザイナー



来て見てみい、とくしま。プロデューサー

山田 佳一朗 氏

KAICHIDESIGN

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



運営サポート

布川 知徳 氏

富士ファニシア 代表取締役社長



広報ディレクター

横田 茂 氏

Afterhours

ともにあゆむ

OTHERS

徳島県、徳島商工会議所
徳島伝統産業振興協会他 36 社
徳島県木竹工業協同組合連合会



TRIGGER & STORY

誕生秘話

もともと家具の名産地として名を馳せた徳島では、2000年以降、依然として高い技術はあるものの、流通先であるいわゆる家具屋頼みの状況が続いていた。積極的にデザイナーと組んでいた秋月氏や鷺池氏は、業界の今後に危機感を覚えつつ、家具屋の変化のスピードが時代に追いつけていないことも肌で感じていた。試行錯誤を重ねた中で、新たな製品として一つ抜け出したのが鏡台に付随する「椅子」であった。以降、数多くの東京等への出展、他の家具産地の見学などを通し、改めて徳島に見に来てもらうことの重要性（出向くことから迎えることへの発想の転換）を強く感じ、まずは2社でもよいので始めてみようとする事業者へお声かけを始めたことが、結果的に今の「来て見てみい、とくしま。」につながっている。

TOPICS

刺激が連鎖する

木工の産地・徳島には、無垢の木を曲げる曲木や、木を薄くスライスした突板を貼ったり曲げたりする技術、欄間を作る組木や遊山箱に代表される箱もの技術だけでなく、椅子張りや塗装などの仕上げまで木工に関係する多種多様な素材や技術が集積している。その一つ一つを知っていただくために昨年第二回開催では、「ワークショップ（木工の体験）」で、今年第三回ではメイン会場を設けて地元クリエイターと共に「展示」することで、製品の魅力を伝える機会を増やした。また日頃協力関係にある企業様にお声がけし、37社より「協賛」を得ることで関係人口を増やし、イベントの認知と集客に繋げている。このような取り組みは、産地内だけでなく、他産地への触発をもたらしている。「来て見てみい、とくしま。」は、木工産地としての更なるブランド化と、他産地との交流を通じた相互作用を目指している。





Heroes



CORE VALUE

Happy & Emotional Real Our Events リアルな仕事体験で、 幸せと感動を。

- EVENT DATA -

開始年	: 2025年
開催回数	: 1回
開催期間	: 12月 / 1回 (2025年実績)
参加企業	: 8社 (2025年実績)
来訪者数	: 125人 (2025年実績)
主催	: 徳島県中小企業家同友会

FEATURES

徳島県中小企業家同友会の熱量をかたちに。

「Heroes」は「情熱にふれ心が動き出す」を合言葉に、徳島県の製造業や農業などの多様な産業の企業見学やワークショップ等を通して、普段は見ることができない貴重な体験を来訪者に提供するオープンファクトリーイベント。徳島県中小企業家同友会の多様な業種の会員企業が中心となり、「徳島の中小企業の魅力をもっと知ってもらいたい」という想いから2025年に発足した。BtoB・BtoCに関わらず、各社の社員が誇りを持って働く姿や現場を公開することで、企業そのものを観光資源に昇華し、地域の魅力を発信する新たな挑戦。

初開催となる第1回は小松島市を中心としたエリアで開催し、125名の来訪者が参加し、徳島県内のみならず県外からも多数の参加があった。

FUTURE

徳島の産業が観光資源になる「まちづくり」。

全国的に人口減少が進む中、徳島県も加速度的に人口減少が進んでいる地域であり、若者の地元定着率の低下や、シビックプライド（地域への誇り）の希薄化が懸念されている。「Heroes」では、企業見学やワークショップを通じた体験のなかで、そこで働く社員とふれあう機会を提供し、徳島の企業の隠された魅力を来訪者に知ってもらうことにより、地元住民の地元定着率の向上（Uターン促進）やシビックプライドの醸成を目的としている。

また、今後は地域外からも新たな人流を生み出すため、参画企業数の増加や開催地域の広域化を図り、観光コンテンツとして全国から注目されるイベントにすることも目標としている。

将来的には、「Heroes」によって徳島県の中小企業のリアルにふれる機会を創出し、仕事を通して徳島県の魅力を体感してもらうことで、若者が住みたくなる「まちづくり」を目指す。

INNOVATION

徳島で働く「英雄たち」が地域の魅力へ。

徳島の産業を担う現場が、地域の未来を照らす舞台へと変わりつつある。

オープンファクトリーイベント「Heroes」は、多様な企業の日常を開き、訪れる人々に働く人やその現場の息づかいを感じてもらい取り組みだ。そこには、工場や企業見学を超えた、働く人々の誇りや情熱が息づいている。

終了後には参画企業から出た「今の想いを早く伝えたい」との声が、各企業へのアンケート実施につながった。アンケート結果には、「自社の歴史や良さを考えるきっかけになった」や「やるまでは億劫だったが、やってみると大変良かった」、「社員が主体的になった」といった声が寄せられた。

このイベントを支える徳島県中小企業家同友会の会員企業たちは、自らの仕事に誇りを持ち、地域に根ざした価値を信じている。本イベントのタイトルは徳島で懸命に働く人々を「Heroes（英雄たち）」になぞらえて、「地元の仕事のかっこよさ」を地域の人々に伝えたいという強い思いがある。

また、徳島県中小企業家同友会では「Heroes」初開催までの準備期間に経営フォーラムや勉強会で香川県「CRASSO」のキーパーソンから、オープンファクトリーの魅力やファクトリーツーリズムの価値観を学び、そこで得られた知見をもとに徳島県のリソースを使った新たな取り組みを創り出している。

今後は、観光コンテンツとしても全国から注目されるイベントへと成長することを目指し、他の地域一体型オープンファクトリーとの連携による広域イベントの開催も視野に入れ、四国全体の産業観光の可能性を広げていく。

●事務局連絡先

徳島県中小企業家同友会事務局

〒770-8056 徳島県徳島市問屋町43
TEL 088-657-7363

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



徳島県中小企業家同友会 副代表理事
KUME TOMOYUKI
久米 智之 氏
株式会社 NDK 代表取締役

1975年 徳島県生まれ
1994年 NDKの前身となる日進電子工業(株)に入社
2015年 代表取締役就任。
オーダーメイドに特化した省力化機械の設計・製造を強みとして、国内だけでなく海外にも幅広く事業を展開している。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS



徳島県中小企業家同友会
理事/地域連携委員長
WANI KOHSEI
和仁 孝成 氏
四国生コンクリート工業株式会社
代表取締役

1971年 徳島市生まれ
1997年 四国生コン入社 常務取締役を経て
2018年 代表取締役就任
四国で一番老舗の生コンクリート工場の4代目として、現在は生コン業界の枠を超えた事業を展開している。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

FUJIOKA MIKA
藤岡 美香 氏
徳島県中小企業家同友会
事務局長



2005年 徳島県中小企業家同友会 入局
2024年 事務局長 就任
事務局として、Heroesを通して中小企業とそこで働く社員たちの技術や情熱を広く知ってもらい取り組みを共に進めている。

ともにあゆむ

OTHERS

- | | |
|-----------------|-------------|
| 徳島県中小企業家同友会 | 地域連携委員会 |
| 株式会社アズマ四国 | 山田包装株式会社 |
| 株式会社 NDK | 徳島県中小企業家同友会 |
| 有限会社櫻山農園 | 株式会社演田印刷 |
| 株式会社シケン | |
| 四国生コンクリート工業株式会社 | |
| 株式会社庄の屋 | |
| 株式会社浜田農園 | |

TRIGGER & STORY

誕生秘話

発起人の久米氏が参加した2024年1月に開催した香川県中小企業家同友会主催の経営研究会第4分科会「ファクトリーーツーリズムで自社と地域を輝かせる!」にて、CRASSO実行委員会の田中氏と田部氏の報告から、地域にある会社や工場が観光資源になり、人を集められるという考えを聞き、強く感銘を受けたことが発端。その後、和仁氏、藤岡氏に徳島でも同じことをやってみようという熱い想いを共有し、2025年に徳島同友会に地域連携委員会を設立。約2年をかけて各地のオープンファクトリーの視察や勉強会等の準備期間を経て、開催が実現。徳島県中小企業家同友会の会員には、2025年10月に開催した経営フォーラム(250名が参加)にて初開催を宣言し、本開催に向けて意気込みを高めた。

TOPICS

ロゴマークである「渦」

「Heroes」のロゴマークは、徳島県の観光名所である「鳴門の渦潮」をモチーフにした渦である。これは鳴門の渦潮のように見る者を惹きつけ、引き込まれるような魅力を来訪者に提供するイベントであること、そして徳島の企業が中心となり、地域内外の住民、企業、支援機関、自治体と関係を創り出していく渦のような力強さを表現している。



オープンファクトリー CRASSO



CORE VALUE

いざ、ものづくりの聖地・瀬戸内へ

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年
 開催回数 : 5回
 開催期間 : 毎年11月頃
 参加企業 : 34社 (2025年)
 来訪者数 : 来場者数 : 約2,200人 (2025年)
 主催 : CRASSO 実行委員会

FEATURES

四国最大級のオープンファクトリーイベント

CRASSO (クラッソ) は、香川県東部地域 (東かがわ市・さぬき市・三木町) から始まった四国最大級のオープンファクトリーイベント。2023年6月に手袋、革製品、刺繍、印刷など地元8社でものづくりの現場を巡るプレ開催を行い、以降は香川県東部地域外にも地域を拡大して開催。普段は見ることができない、地域に根付いた様々な「ものづくりの現場」を開放し、実際のものづくりの技術・技巧を見学・体験し、ものづくりを支える職人と交流しながら、製品に込められたものづくりの想いやスピリットに触れる。

各社が趣向を凝らしたワークショップでは、実際に自分でものづくりを体験することで、職人の技術の高さを実感できるとともに、ものづくりの楽しさを感じることができる。

FUTURE

ものづくりの聖地、瀬戸内の魅力を世界へ発信

ものづくりの現場で職人とふれあい、技術の高さを体感し、また地域を巡ることで自然に育まれた食、歴史、観光など、瀬戸内の魅力をたっぷり味わってもらおう。

職人による高度な縫製や加工技術を必要とする、日本一の手袋産地を中心に、地域の自治体や事業者との協力が生まれ、地域の魅力発信のための活動が活性化。

CRASSOの取り組みが瀬戸内全体に広がり、個々の企業が独自のこだわりと演出で、子供から大人まで満足できる充実したコンテンツを企画することで、瀬戸内の地域が「ものづくりの聖地」として、世界中の人々に認知してもらった夢を描いている。

INNOVATION

企業や社員の成長にもつながる、工夫やチャレンジ

CRASSOの開催をきっかけに、ファクトリーショップのリニューアルや新規オープンなど、企業の付加価値向上の動きだけでなく、イベントを通じて、社員同士や社長とのコミュニケーションが生まれて、社員の自主性・成長やモチベーションアップにもつながるなど、取組の効果が現れている。

大阪・関西万博と瀬戸内国際芸術祭が開催される2025年を目標に、2023年、2024年と年2回の開催で認知拡大や出展企業の増加に努めてきたこともあり、開催するたびにエリアの拡大や出展企業・来場者の増加に繋がっている。

目標としてきた2025年の開催では県外からの参加者も増加。瀬戸内国際芸術祭と連携することで多くの方に地域のことを知ってもらおう契機を創出。地域の飲食店と連携しマルシェを開催したり、地域の大学と連携し、小学生の自由研究としてもづくり体験を実施するなど産学での連携も進んでいる。

また、国の事業と連携して、地域おこし協力隊のインターンの受け入れやイベント民泊を実施するなど、人口減少が進む地域において課題解決に向けた取り組みを行っている。

●事務局連絡先

CRASSO 実行委員会事務局 (タナカ印刷株式会社内)

〒769-2521 香川県東かがわ市大内200-12

TEL 0879-25-0185

E-mail crasso.setouchi@gmail.com

URL <https://crasso-setouchi.jp/>

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



香川県中小企業家同友会 東讃支部長
TANABE TOMOAKI
田部 智章 氏
株式会社タナベ刺繍
代表取締役社長

1972年香川県東かがわ市生まれ。2020年より瀬戸内地域の地場産業を担う中小衣料会社が連携する団体「セトウチメーカーズ」を結成。その代表を務め、アンテナショップへの出品やネット通販、自社ブランドの立ち上げなどに尽力。2023年には瀬戸内地域をものづくりの聖地とすべく、香川県東讃地域を中心にオープンファクトリー CRASSO の取組をスタート。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

実行委員長
田中 克紀 氏

株式会社バリューアップシステムズ
代表取締役



事務局長
田中 英城 氏

タナカ印刷株式会社
代表取締役



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

CRASSO 実行委員会メンバー

実行委員長 株式会社バリューアップシステムズ 代表取締役 田中 克紀 氏
事務局長 タナカ印刷株式会社 代表取締役 田中 英城 氏
委員 株式会社タナベ刺繍 代表取締役社長 田部 智章 氏
委員 (さぬき市担当) 榎原工業株式会社 代表取締役 榎原 拓史 氏
委員 (三木町担当) 株式会社グッドワーク 代表取締役 平井 陽介 氏
委員 (飲食担当) 株式会社味道源 代表取締役 上原 養敏 氏
委員 東かがわ市わくわく課 片川 直樹 氏
委員 松田哲也税理士事務所 所長 松田 哲也 氏
委員 株式会社ディレクターズ 代表取締役 岸本 広宣 氏



後援/四国経済産業局、香川県、高松市、三木町、さぬき市、東かがわ市、土庄町、小豆島町、香川県教育委員会、高松市教育委員会、三木町教育委員会、さぬき市教育委員会、東かがわ市教育委員会、土庄町教育委員会、小豆島町教育委員会、高松商工会議所、(一社)香川県中小企業家同友会

TRIGGER & STORY

誕生秘話

コロナ禍をきっかけに地域のものづくりの現場を見せてもらい、職人の手仕事や技術力の高さに感動して、工場見学と産地観光を主体としたファクトリーツーリズムの企画を経営者団体の会で発表。

また、オープンファクトリーの先進地となる福井県の「RENEW」を視察し、地方のイベントに数万人の観光客が訪れ、高齢の職人さんたちが若い世代に向けて、ものづくりの想いや技術を熱心に魅せている姿に感銘を受け、我々でもやりたいと経営者仲間と話し合った。

その後、先進地のキーパーソンを講師として招聘するなど、地域のやる気を高めていながら、約2年をかけて準備を進め、国や自治体の協力のほか、ものづくり企業だけでなく飲食店の参加も得て、若い世代の経営者層を中心に、地域が一体となって実現した。

TOPICS

飲食店との連携によるオリジナルメニューの開発等

「CRASSO/2023vol.2」では、2市1町が連携し、様々なものづくり企業のほか、地域の飲食店も数多く参加。ものづくりの現場だけでなく、地域の食文化も楽しめるように、訪問した土地ならではの料理を食べてもらいたいと、飲食店との連携によるオリジナルメニューの開発や、マップの制作、また共同のノボリ、ロゴシール、法被などをつくり、地域の一体感を演出。

2025年度に開催された大阪・関西万博や瀬戸内国際芸術祭のダブル開催を契機と捉え、地域の大学との産学連携や飲食店を中心としたマルシェを開催。ものづくりの聖地として、地域のものづくりの現場や瀬戸内の魅力を国内・海外に向けて伝えていきたい。



(写真) 工場・工房見学、ワークショップ体験の様子

諫早工場博 -ISAHAYA KOB A HAKU-



CORE VALUE

モノづくりは、人づくり
— 工場新発見 —

- EVENT DATA -

開始年	: 2023年
開催回数	: 2回
開催期間	: 毎年11月頃
参加企業	: 6社(2024年)
来訪者数	: 約2,000人(2024年)
主催	: 諫早工場博実行委員会

FEATURES

未来の地域づくりを工場から

中心となって取り組む長崎金属工業協同組合は造船・プラント関係の仕事を数多く手がけながら地域経済の発展に寄与してきた。一方で若者の他県への流出や製造業離れによる人口減少で働き手不足など様々な課題に直面。培われてきた技術とものづくりの楽しさを伝え、未来の地域づくりに貢献すべく、普段は見ることの出来なかった稼働するものづくりの現場をリアルに見学できるツアーや、工場の技術を体験できるワークショップ、県内でも有名なマルシェの同時開催など、地域の魅力が詰まった「諫早工場博」を立ち上げた。

FUTURE

地域で創り・地域で育てるコミュニティ

「地域の基幹産業であるものづくりの現場は、格好いい。」

そうした意識を、外（製造現場に携わっていない方）からの声を通じて実感してもらうべくブランディングされているのが、諫早工場博。

見学者から飛び交う「すごい!」という声が、再び現場の職人達の心を焚きつけ、より格好良く見せるための工夫を現場がさらに考え、自立的に成長していく「地域で作るコミュニティ」となっている。

格好いい現場を誇る職人と、そこに憧れる地域の人々が交流する地域の新しい「博覧会」として、特に近い働き手となる高校生にも訴求できるよう地域と共に育つ取組となっていくことを目指していく。

INNOVATION

外の声で触発される現場の誇り

取組を始めて感じる最初の変化は「参加している企業の発言」であった。

開催前こそ、率先して取り組みたい企業、付き合ってくれている企業など、企業ごとに温度感は様々。しかし開催中に企業から出てくる声は「次回はココをこうしておいた方が…」といった改善や新しい提案ばかり。諫早工場博という事業が、「自分たちが創っているコミュニティ」という概念に昇華されている証左かもしれない。

また会場となった「貝津工業団地」は立地する企業や取引のある企業、運送に関わる業者等を除いた地域の方々にとっては、見えないものづくりの現場であっただろう。だが、この諫早工場博を通して「何を生み出している場なのかを伝える」ことで、徐々に地域理解が進み始め、本工場博の目的である地場企業の存在をアピール出来た。特に同時開催で協力してくれている「ワイヤーマルシェ」は県内ではSNSで子連れの家族に大きな発信力を持つ運営団体が実施しており、「工場」に関する理解を促進する大きな推進力になっている。

そして、地域の課題とも言える就職面においては即効効果が生まれているわけではないが、来場者に社員の家族が多く訪れ、現場に対する格好良さを伝えられたこともあってか、参加企業における離職率低下に繋がっている肌感は参加企業感でも共有されている。

今後は長崎県内を越えて、九州他地域の取組、そして全国の事例とも互いに触発しながら、「工場は格好いい」という切り口で更なる発展を目指す。

●事務局連絡先

諫早工場博実行委員会

事務局：長崎県金属工業協同組合 担当：井上・山下
TEL 0957-26-1900（代表）

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



有限会社細木製作所
代表取締役

YUKIZAWA YUKO
雪澤 佑子 氏



株式会社プラス
代表取締役社長

SAKAI YUJI
酒井 裕次 氏

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

長崎金属工業協同組合
事務局長
井上 康晴 氏



長崎金属工業協同組合
課長
山下 直美 氏



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



長崎県金属工業協同組合
理事長
光武 直哉 氏

ともにあゆむ

OTHERS

- | | |
|-------------------|---------|
| 有限会社秀工社 代表取締役 | 光武 直哉 氏 |
| 株式会社新長崎製作所 代表取締役 | 梶原 正雄 氏 |
| 有限会社細木製作所 代表取締役 | 雪澤 佑子 氏 |
| 長菱ハイテック株式会社 代表取締役 | 水口 一人 氏 |
| 株式会社峯陽 代表取締役 | 原田 篤 氏 |
| 有田工業株式会社 代表取締役 | 有田 一彌 氏 |

TRIGGER & STORY

誕生秘話

本事業のデザインディレクションを行う株式会社プラスは、広島県尾道市で「造船鉄工祭」を牽引しており、その評判を聞きつけた長崎県金属工業協同組合が同社に相談し、企画検討がスタート。

取組を進める中で、有限会社細木製作所の代表を始め、組合内の熱量を持った経営者達に火が付き、企業みずからが資金も拠出し、地域のため、ひいては自分たちのためにもなる地域共栄の取組としてスタートした。

TOPICS

やってみたからこそその新しい御縁

取組を知ってくれた九州経済産業局との出会いから、九州オープンファクトリーフォーラムへの登壇が決定。

これまで、九州エリア内での他地域のオープンファクトリーとの交流はあまり無かったが、互いの取組を伝え合い、触発し合う機会とすることで、次年度の取組への学びの場となることを期待している。

また、実施後には他の工業組合からも同様に取組みたいので参考としたいといった問い合わせが入ったり、当日は地域の民放が放送してくれたりと、「やってみたからこそ」の新しい御縁がたくさん生まれたことは、嬉しい驚きだ。



ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



一般社団法人日田縣産業振興会代表理事
SENZAKI MASAHIKO
仙崎 雅彦氏
hi-count 代表

北九州出身。1999年日田のソファを中心としたホームユース家具メーカーに就職、その後コントラクト家具メーカーを経て独立。企画デザインの仕事をする傍ら2008年に観光地にてショップをオープン。家具だけでなく生活雑貨や地域材を使用した商品などを販売しつつ日田の産業周知に繋げている。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

副実行委員長
矢羽田 匡裕氏
合同会社 ウッドアート楽 社長



副実行委員長
中村 広樹氏
ベストリビング株式会社 代表



取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS

日田縣産業振興会役員



梶原 和人氏
梶原食品 社長



高村 真志氏
高村木材 社長



森 真一郎氏
力峰彫刻 社長



用松 太一氏
日田市観光協会

ともにあゆむ

OTHERS



協力：日田市

TRIGGER & STORY

誕生秘話

日田家具工業会が地域産業とともに発展する未来のものづくりの姿を表現した IFFT2018 に出展後、凱旋イベントとして協力頂いた地元企業を巡る工場見学ツアーを2018年に行ったことが起源。元々、別途開催されていた日田市工業連合会が3年に1度の「工業展2019」が10回目を迎える節目ということもあり、日田家具工業会が工場見学ツアーを提案。当イベント内で「第1回日田ものづくり探検隊」としてオープンファクトリーを開催したことが第一回目の開催となる。第2回目以降は独立した組織により毎年開催を目指すこととなり、現在の実行委員会方式での開催へと繋がっている。

TOPICS

日田異業種コラボ

「なかしまおやさい」が育てたスイカを使い「日田とらや」が和菓子を作る日田異業種コラボ商品の開発を「日田ものづくり探検隊」の活動の一環として実施。試作段階の商品を一般参加者からご意見を伺い、一緒に検討し、商品化をめざす事業として注目を集め、多くの参加者から示唆に富んだアイデアをいただくことが出来た。



NEXTRAD



CORE VALUE

磁器のものづくりを伝える

- EVENT DATA -

開始年 : 2021年
 開催回数 : 5回
 開催期間 : 11月下旬に5日間
 参加企業 : 13社(2025年)
 来訪者数 : 約1,000人(2025年)
 主催 : NEXTRAD

FEATURES

有田焼窯元若手有志による企画イベント

日本初の磁器として誕生以来、400年の歴史を誇る有田焼。その窯元若手有志の集まりであるNEXTRADが毎秋開催している展示・体験イベントである。毎回2～5社のファクトリーツアーと有田焼のものづくりを伝える展示をメインプログラムとして開催。展示会場では、それぞれの窯元が得意とする技術や製造工程を紹介し、分業制による基本的な有田焼の製造の流れを説明してから、工場に誘導するスタイルとした。さらに産業の持続可能性を広く伝えるため、産地の抱える課題や廃棄物問題など、SDGsへの取り組みについてもパネル展示を行うなど、対話を大切に作り手自らが積極的に発信している。

FUTURE

より深化したNEXTRADへ

今後も継続して、NEXTRADのイベントを開催していきたい。プログラム構成は大きく変えないものの、より深化した内容で見せていきたいと考えている。

また、有田駅を中心に、半径約3km以内に原材料となる陶石の採掘場から最終製品に至るまでを担う工場が集積しているという特長を活かして、クラフトツーリズムの可能性にも取り組んでいきたい。少ない移動距離で全ての製造工程を見ることが出来る点は、他の地域にはない強みであり、産業観光のポテンシャルがあると考えている。

●事務局連絡先

NEXTRAD

〒844-0026

佐賀県西松浦郡有田町外尾町丙1217番地 佐賀県陶磁器工業組合内

TEL 0955-42-3164

公式サイト <https://nexttrad.jp/>

INNOVATION

オープンにすることで生まれる新たな可能性

2017年から、有田町クリエイティブアドバイザーでもある浜野氏参加のもと、月1回のペースで継続的に勉強会を開催している。メンバーは窯元の若手経営者および後継者で構成され、当初は勉強会ごとに座長を持ち回り、各社の取り組みや課題について議論してきた。個々の技術的・経営的な課題をオープンにすることで連帯感や結束力が生まれ、さらに議論を深める中で産地全体が抱える課題や方向性について皆で考えるようになった。

その解決方法として有田のものづくりの魅力を広く伝えるために、磁器の生産現場を紹介する展示・体験イベントを企画。オープンファクトリーも期間中複数回実施した。作り手であるメンバーそれぞれが有田焼のものづくりについて説明することで、参加者と作り手が産地の現状や課題を共有し、これからの磁器のものづくりを一緒になって考えていくことを目指した。

メイン会場には磁器の製造工程を実際に使用する材料や道具とともに順を追って展示。普段は公開していない製造現場を見学できるオープンファクトリーも作り手自らが案内した。製造工程の体験を実施した窯元もあり、機械を使った量産体制でありながら人の手による技術も多くあるということに参加者に実感してもらった。会場内にはSDGsへの取り組みを紹介・実践するエリアも設けた。廃棄物問題や二酸化炭素排出量の見える化、商品の検品基準に関する提案を行ったところ、産地の現状を知ることによって人々の検品基準に対する許容範囲が拡大するというアンケート結果も得られた。

2022年のイベント終了後、会場を提供頂いた佐賀県陶磁器工業協同組合からの依頼を受け、同組合ギャラリーにイベントで企画した製造工程の展示を常設することになった。若手からの問題提起が産地を少しずつ動かしつつある。

個々の課題や産地の現状をオープンにし、様々な人達と問題意識を共有することによって、持続可能な産業の構築に向けて産地をよい方向へ導けるものと考えている。

ONE TEAM

仕掛け人

TREND SETTER



NEXTRAD 初代リーダー
藤本 浩輔 氏
有限会社藤巻製陶 代表

大学卒業後、京都の窯元・有田の陶芸作家の下での修業を経て家業の藤巻製陶に従事し、10代目として継承。現在、佐賀県陶磁器工業協働組合の青年部である「陶交会」会長も務める。



NEXTRAD ファウンダー/アドバイザー
浜野 貴晴 氏
production 代表
佐賀県窯業技術センター外部アドバイザー
有田町 クリエイティブアドバイザー
佐賀大学客員研究員

毎月東京と有田を往復し、商品開発やブランディングなどの事業化支援や産地活性化事業に取り組んでいる。

仕掛け人と企画・運営を担う中核的存在

CO-LEADERS

NEXTRAD 現リーダー
下村 耕司 氏
有限会社 福泉窯 専務取締役



社内各セクションの調整、新開発案件の折衝などを担い、新しいものづくりに挑む。

NEXTRAD 現サブリーダー
百田 真平 氏
有限会社 弥源次窯



オンラインによる情報発信やデジタルデザインなどにも意欲的に取り組む。

取り組みを支える屋台骨

BASEMENTS



事務局
一ノ瀬 かりん 氏
佐賀県陶磁器工業協働組合



運営サポート
前田 真一 氏
有田商工会議所

ともにあゆむ

OTHERS

佐賀県陶磁器工業協働組合

NEXTRAD の親組合にあたり、若手の取り組みを積極的に応援。



アリタセラ

運営：有田焼卸地協同組合

主要な産地商社 22 社が集い、ショップやホテル・レストラン、ギャラリーを運営する有田焼ショッピングリゾート。NEXTRAD と同組合青年部とが連携し、2025 年よりアリタセラ内のギャラリーをメイン会場として展示・体験を開催。

アリタセラ Arita Será



TRIGGER & STORY

誕生秘話

事業規模や形態の異なる、伊万里・有田の窯元の若手経営者や後継者等で結成された「NEXTRAD」（2025 年現在 13 名・社）。その名には、次代（NEXT）の伝統（TRADITION）を考え、若手集団であるからこそ革新的（RADICAL）に取り組もうという思いが込められている。NEXTRAD の活動として、若手が集まり定期的な自主勉強会を開催していた。その中で、色々な人に産地に来てもらうためにはどうすればよいかという議論になった。現場を見てもらい、知ってもらいたいという思いがメンバーにあった。企画を練っていたところ、新型コロナウイルスが拡大し、企画は一時中断。それでも開催する構想は持ち続け、2021 年に開催に向けて本格的に活動を開始、初回開催に至った。

TOPICS

"P" にまつわる磁器のものづくり

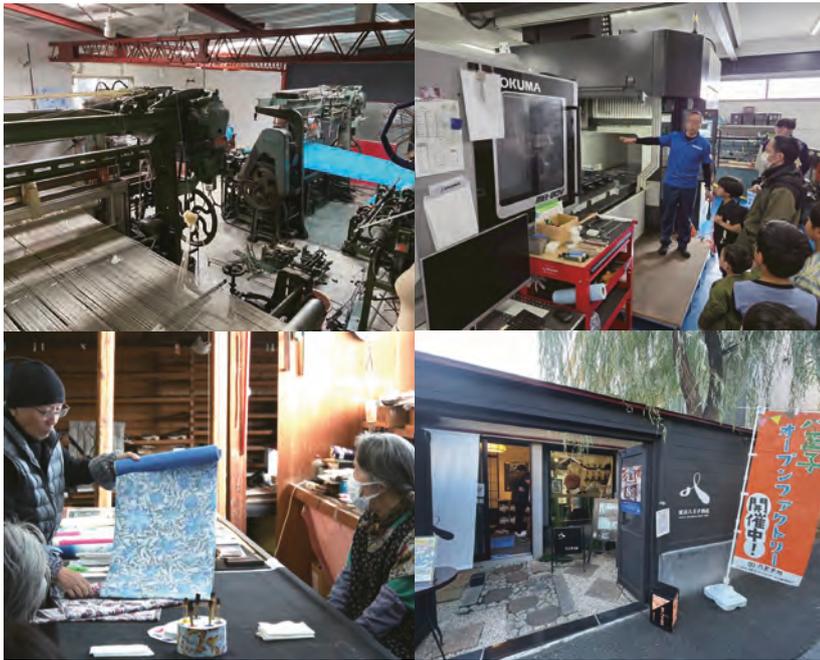
初年度開催より、「P」を頭文字とするキーワード（Porcelain 磁器 / Process 工程 / Polyethism 分業制 / Professionalism 専門性 / Peculiarity 独自性 / Planning 企画 / Prototype 試作 / Production 生産 / Pricing 価格設定 / Path 流通 / Promotion 販売促進 / Purchaser 顧客 / Passion 情熱 / Partnership 協働）から有田焼について学んでいただける展示にも取り組んだ。有田焼の製造工程や各窯元の得意技術など、産地での磁器のものづくりを作り手自らが創意工夫しながら紹介した。



（写真）展示会場、製造体験ワークショップ、オープンファクトリーの様子。

II . その他 各地の取組について

八王子オープンファクトリー



仕掛け人



FUJII YASUTAKA

藤 泰隆 氏

日本コンベンションサービス株式会社 (JCS)
ニューノーマル推進事業部
ソーシャル・イノベーション推進部 部長

国際会議やカンファレンス、展示会やまちづくりなど幅広いMICE事業を手掛けるJCSで産業振興支援や地域活性化事業を担当。

事業を通じて全国の工場等を訪問しものづくりに携わる企業・現場を支援。オープンファクトリーが企業や地域にもたらす効果に惹かれ、自身も参加者として全国各地のオープンファクトリーを訪問。

Destinationとしての八王子市のポテンシャルを踏まえ、産業振興で協力関係にあった同市と本事業を立ち上げた。

各地域の取り組み好事例やネットワークを織り交ぜながらよりその地域らしい事業への発展を目指し奔走中!

TREND SETTER

CORE VALUE

ものづくりと伝統のまち・八王子で今、ここでしかできない体験を。

FEATURES

伝統と革新が交差する体験

高尾山がある街、八王子市は桑都と呼ばれ、古くから織物を地場産業とする産業都市として栄えてきた。さらに、日本経済の発展のなかで、高度な技術を持つ多くの製造業が集まり多様な産業が集積する地域へと発展していった。

また、八王子は産業の他に、東京都唯一の日本遺産や東京都内最大級の農業生産高を誇るなど多様な魅力を持っている。

行政や民間など多様なプレイヤーが協力することで魅力を磨き上げ『八王子ならではの』体験を市内外に発信する。その取組の一つとして2023年から「八王子オープンファクトリー」を開催した。同取組では、伝統産業から先端技術を持つ八王子市内の企業を広く認知してもらう目的で開催される体験型イベントとなっている。

FUTURE

新たな観光資源の発掘・活用へ

地域の企業を市内外に知ってもらい、産業観光として誘客につなげる目的ではじめた本事業。繊維工業や製造業といった地域の魅力の発信につながる産業の存在もあり、市外から人を誘客できる魅力がある事を感じ取れた。

実際、東京観光財団が実施するファミトリップに選定された企業も出てきており、今後もテクニカルビジットなど幅広い用途で、市外から産業に興味をもって来訪する機会づくりを行っていききたい。

INNOVATION

広がる共創の輪

八王子の後継者育成塾（はちおうじ未来塾）卒業生の企業を中核に、幅広い業種のものづくり企業が集まり初開催された八王子オープンファクトリー。3年目を迎えた今回は、参加企業数が前年より7社増加し、過去最多となる33社が集結。製造業を中心に、伝統工芸、建築、農業など、多様な分野の企業が参加し、八王子のものづくりの厚みと広がりを感じられる構成となった。

今年の大きな特徴のひとつが、大人向け体験「プレミアム」の新設。プレミアムは本格的な技術や素材にふれて、じっくりものづくりと向き合える大人のための贅沢体験。プレミアムだけでも12社が参加しており、大人がときめく、非日常のひとつときをゆったりと楽しみ、大人のための特別な“つくる”時間を過ごすことができる。

プレミアムだけでなく、先端技術の工場から伝統工芸の工房見学、宮大工やミルクファームなどのお仕事体験もあり、八王子オープンファクトリー全体で体験の幅と質の両面で充実した内容となった。

交流の視点では、墨田区の地域一体型オープンファクトリー「スミファ」の中心人物でもある株式会社浜野製作所の浜野慶一氏が同取組のアドバイザーを担うなど、企業間の連携だけでなく他地域のオープンファクトリーとの連携も進めており、異業種の交流が生み出す今までにないコラボ企画なども今後創出していきたいと考えている。

さらに、八王子市に2022年に開業した「東京たま未来メッセ」は東京都における産業の振興を図るための産業交流施設と位置づけられており、オープンファクトリーとの相乗効果を期待したい。

- EVENT DATA -

開始年 : 2023年	参加企業 : 33社 (2025年)
開催回数 : 3回	来訪者数 : 約4,825人 (2025年)
開催期間 : 毎年11月頃	主催 : 八王子市、日本コンベンションサービス株式会社

●事務局連絡先

八王子市役所

〒192-8501 東京都八王子市元本郷町3-24-1
TEL 042-620-7378



～職人探訪～十日町きもの GOTTAU



CORE VALUE

知るともっと好きになる。

FEATURES

「きもの総合産地」を楽しむ

新潟県十日町市は、糸撚り、染め、織り、加工、メンテナンスなどのきもの工場が揃う「きもの総合産地」。「十日町きもの GOTTAU」は、普段は非公開のきもの工場の見学や、製造工程の一部を体験できる全国唯一のきものに特化したオープンファクトリー。全国でも珍しい一貫体制で製造する企業が存在し、きものづくりの工程を一気に見学できる。2025年は、10社のきもの関連企業が参加。生地からきもの完成までの各工程で伝統を引き継ぐ職人の技を存分に楽しむことができるほか、金彩加工体験等のワークショップも評判が高く、多数の来場者で賑わいをみせた。

FUTURE

きものファンのさらなる増加へ向けて

きものへの愛着を深めてもらうため、2025年は、きもの着用者への特典や、染と織の体験ワークショップを実施した。さらに、地域の飲食店と連携し、コラボメニューを開発するなど、産地全体で来場者をおもてなしすることで、きものファンのさらなる獲得と地域活性化を図る狙いだ。

INNOVATION

訪れるユーザーのナマの声、職人を刺激

きもの産業が停滞するなかで、「職人」にスポットを当て、伝統産業であるきものをソトへ向けてPRすることを目指して開催されている「十日町きもの GOTTAU」。

これまで着物に触れてこなかった若い世代は、新鮮な感想を伝えてくれることも少なくない。それは職人にとっての新しい発見や誇りを生むことにもつながっている。十日町市民も普段、実際の工場を見ることが少ないなかで、きもの産業も「つくるもの」から「みせるもの」へと、その可能性が広がったと捉えられている。

また、若い人に向けたアピールとして、GOTTAUでの体験が、きもの企業への就職を促す機会になっている。

企業個社では、業界として先駆的な取組を積み重ねてきた十日町。オープンファクトリーを通じて、産業観光、次のビジネスへとつなげていく、新たな可能性を見出すことを目指している。

- EVENT DATA -

開始年 : 2018年 参加企業 : 10社 (2025年)
 開催回数 : 7回 来訪者数 : 414人 (2025年)
 開催期間 : 5～6月頃
 主催 : 十日町きもの GOTTAU 実行委員会

●事務局連絡先

十日町きもの GOTTAU 実行委員会
 十日町市役所 産業観光部 産業政策課
 〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地
 TEL 025-757-3139

OSAKA 町工場 EXPO

大阪関西万博 2025



仕掛け人



MEGURO MITSUAKI

目黒 充明 氏

MP-Strategy 合同会社
代表TRENDS
SETTER

目黒氏は東大阪市出身。社会人としてのキャリアは、より豊かなビジネス・チャンスを探求めて東京でスタートした。ITに強いコンサルタントとして外資系企業、ベンチャー企業、製造業などさまざまな職場を体験。

「モノづくりでいのち輝く未来を」

町工場の長所を、オンラインで手軽に工場見学ができるVRバーチャルツアー制作サービスを展開し、2020年から万博活動をスタートし、万博の出演で町工場の素晴らしさを世界に発信。

CORE VALUE

「モノづくりでいのち輝く未来を目指す」 大阪関西万博でVR使って町工場の未来を体験

FEATURES

普段見ることのできない世界を気軽に体感。

普段見ることができない町工場の空間を360°バーチャルツアーや映像を使って、実際工場見学に来ているかのような体験を来場者の皆様楽しんでいただくことで、「モノづくりのまち」を離れた場所でも体感してもらおう取組。

万博では、たくさんの方にバーチャル体験をしてもらいたいという思いから、3mのVRドームを開発し、VR映像をドーム内で体験できる空間を実現した。このVR体験では一度に約10人の方が体験でき、1週間で12,219人の方に町工場働く人の素晴らしさ、未来の町工場を体験頂くことに成功した。視聴後、モノづくりへの応援メッセージをお願いしたところ、5,000以上の暖かいメッセージが届き、真っ白なVRドームが付箋で覆われる感動的なシーンが生まれた。

FUTURE

万博レガシーへ

OSAKA 町工場 EXPO は、2025年大阪・関西万博で、町工場の技術をバーチャルツアーで体験頂いた。今までは、発信することをメインにやってきましたがこれからは、この町工場の技術を活かし、新製品の開発、新事業への参入、海外展開と新たな事業を目指し、収益を上げ、雇用を増やし、税金を払い、地域を豊にすることを目指し、モノづくりでいのち輝く未来を実現していく。

INNOVATION

互いに学び合い・刺激合う先に。

チームとしての活動意義は以下の5つを設定しており、この想いを成すために2ヶ月に1度の定例ミーティングを実施。

【活動意義】

- ・モノづくりの素晴らしさを世界に伝える
- ・自社の技術力で新しいイノベーションをつくる
- ・世界のいろんな方と繋がる
- ・チーム内で情報共有し、新たな文化が生まれ、新しい発想でビジネスを展開していく
- ・モノづくりでいのち輝く未来を目指していきます

こうした活動を通して、企業間交流が促進され、様々なイノベーションが創出してきた。万博後は、我々以外にも、行政、商工会議所、銀行を新たにチームに参画していただき、広報、マッチング、マーケティング、海外支援等支援していただく。今後のモノづくりの新たな可能性を見つけるべく、未来実証実験を行ったり、産学官連携の促進など、幅広い活動を通じたイノベーションの創出が期待される。

また、2030年のリヤド万博の出演を目指す。

- EVENT DATA -

開始年	:2020年	開催期間	:2025年8月12日～8月18日
開催	:大阪関西万博2025	参加企業	:25社
	リポーター	体験者数	:延べ12,219人
	チャレンジ	主催	:OSAKA 町工場 EXPO チーム

●事務局連絡先

MP-Strategy 合同会社

〒501-3894 大阪府大阪市中央区難波 5-1-60 なんばスカイオ 27F

代表: 目黒 充明

モノシロ



仕掛け人

TREND SETTER

モノシロ実行委員会
実行委員長
ISHIKAWA YUDAI
石川 雄大 氏
株式会社富士印刷
副社長

平成元年 愛媛県四国中央市生まれ
平成26年 株式会社富士印刷 入社
令和元年 株式会社富士印刷 副社長就任
地域に根ざしたモノづくり企業と、そこで働く社員たちの魅力を広く知ってもらうことを目的に取組を進めている。近隣の地域一体型オープンファクトリーであるCRASSOに同業である印刷業者がキーパーソンになっていることに刺激を受け、地元での開催を志し、実行委員会を立ち上げ、実行委員長として、2025年10月に第1回「モノシロ」の開催に尽力。

CORE VALUE

モノづくりはおもしろい

- EVENT DATA -

開始年	: 2025年
開催回数	: 1回
開催期間	: 毎年10月頃
参加企業	: 25社(2025年)
来訪者数	: 約700人(2025年)
主催	: モノシロ実行委員会

FEATURES

地域に根ざしたモノづくりの魅力発信の場

「モノシロ」は、2025年10月に香川県観音寺市で初開催された香川・愛媛両県のモノづくりの魅力を伝えるためのオープンファクトリーイベント。イベント名は、実行委員長の信念『モノづくりはおもしろい』に由来している。また、イベントでは会場となっている株式会社富士印刷を拠点として工場見学やワークショップ体験、業種を超えたブース出展・販売などを通じて、来訪者に多彩な体験を提供している。

モノづくりに携わる人々の誇りを育み、地域産業の魅力を広く発信することを目的としていることから、「モノシロ」では、製造業だけでなく、飲食業やサービス業も巻き込み、地域の多様な産業が集まる機会を創出しており、地域に根差した企業のモノづくりの魅力を発信し、来訪者がモノづくりに関心を持つきっかけを創出している。

FUTURE

モノづくりとオープンファクトリーの可能性

「モノシロ」の今後の展開としては、近隣の地域一体型オープンファクトリーとの連携によるコラボイベントや企業間交流などを検討しており、将来的には、四国に根差したモノづくりの魅力を地域内外に広く発信し、地域産業に人の流れを生み出すことを目指して活動を展開する。

また、オープンファクトリーの通年開催や開催エリアの拡大など多様な可能性を模索し、工場などのモノづくりの現場をより身近な存在にすることによって、老若男女問わず、幅広い世代の人々にモノづくりの魅力を発信していき、「モノづくり=おもしろい」と感じてもらえるイベントを目指す。

INNOVATION

モノづくりはまだまだおもしろくなる

初開催地である観音寺市では、少子高齢化や人口減少等による働き手不足など、企業を取り巻く事業環境が大きく変化しており、地域産業の活力が低下することが懸念されている。

「モノシロ」では、参加企業各社が持つ工場や人材を公開することによって、モノづくり産業にとどまらず、地域全体の産業の活性化を目指している。また、「モノシロ」という地域に根差したコミュニティが、普段は接点のない業種同士が交流するプラットフォームとして機能し、新たな付加価値や発想を生み出す場となることを目指している。

今後は、他の地域一体型オープンファクトリーとの連携も視野に入れながら、地域産業の魅力を強く発信し、地域産業の取組から生まれるイノベーションを通じて、地域に新たな価値や変化をもたらすことを目指す。

地域産業の魅力を強く発信する取り組みから生まれるイノベーションを通じて、人と人をつなぎ地域に新たな価値や変化をもたらす原動力になることを目指し第二回開催の企画を進めている。

モノシロは始まったばかりの白地のキャンパス。この「シロ」のキャンパスを地域の企業が「モノシロく」彩っていく未来が楽しみだ。

●事務局連絡先

モノシロ実行委員会 事務局

〒769-1617 香川県観音寺市大野原町青岡 172-3
TEL 0875-27-6494

III. オープンファクトリーフォーラムの開催軌跡



2019年～2026年

関西オープンファクトリーフォーラムの取組



2019年8月～2026年3月 計43回開催

IV. LOCAL X STAGE ガイドライン

2024年、2025年に近畿経済産業局が開催したLOCAL X STAGEでの実証をもとに、LOCAL X STAGEガイドラインを作成しました。

本ガイドラインでは、LOCAL X STAGEにご協力いただいた皆様との意見交換を経てまとめた、大切にしたい考え方、共通認識となる考え方「LOCAL X STATEMENT」、「LOCAL X STAGEの創り方」をご紹介します。今後、LOCAL X STATEMENTに賛同する、企業、地域産業コミュニティ、公的機関、またはそれに準ずる組織が連携し、共に地域の価値共創が推進を目指して、活動が続くことを期待します。

LOCAL X STAGE とは

「LOCAL X STAGE」は、地域産業コミュニティ(※)、大企業等、主催者が連携して、地域社会の課題への貢献、より良い地域社会の未来を目指すための実験的な場として開催してきました。2024年度は、インベーション・ストリームKANSAI8.0の一部として、2025年度は、EXPO ThemeWeeks CONNECTの一部として開催しました。

「LOCAL X STAGE」では、それぞれの地域産業コミュニティが生み出したイノベーション(ソーシャルインパクト)についてプレゼンテーションを行い、地域の大企業等が「内容に共感した」、「発展可能性に期待する」等の視点から考察。考察後は、大企業等から自社の成長とベクトルが合う地域産業コミュニティに対して「企業賞」を授与するとともに、今後のコミュニケーション機会を約束してきました。

これまで開催された2回のLOCAL X STAGEでは、様々な大企業等と地域産業コミュニティとの間に、単なるマッチングを超えた「熱量」ある新たな繋がりが生まれています。この新たな繋がりから、従来とは異なる新しい形での、地域社会の課題への貢献が少しずつ生まれつつあります。

地域・社会課題解決と経済活性化の両立
に向けた仕掛けとして

Local X STAGE



「LOCAL X STAGE」の開催

地域産業コミュニティ(※)

特定地域に根ざした文脈(歴史・文化・産業)を背景に、異業種の企業、教育機関、行政などが、組織・分野・立場の境界を越境し、地域固有の課題や価値創出に取り組む、自律的かつ継続的な共創型コミュニティ。

【提供できるリソース(例)】地域に根差した取組、地域のネットワーク、社会課題解決に向けた熱意・パッション

(※)「地域産業コミュニティ」の定義は、「産業コミュニティとオープンファクトリーの共進化—全国の事例から—(京都橋大学 経営学部 教授 丸山一芳氏)」より引用

大企業等

地域産業コミュニティとの協業・共創に関心があり、以下を例とするリソースを提供できる大企業、一般社団法人等。

【提供できるリソース(例)】自社の所有する共創スペース、人材、広報ツール等、社会課題解決に向けた熱意・パッション等

主催者

大企業等、地域産業コミュニティいずれにもネットワークがあり、以下を例とするリソースを提供できる主体。

【提供できるリソース(例)】会場、企画提案、人的ネットワーク

様々な大企業と地域産業コミュニティの新たな繋がりを創出。
新たな繋がりから、新しい形での、地域社会課題への貢献へ

継続することで

様々な形から地域社会の課題へ貢献、そして、より良い地域社会の未来の実現へ
(social good)

LOCAL X STATEMENT

これまで開催された2回のLOCAL X STAGE参加企業との意見交換を経て、大切にしたい考え方、共通認識となる考え方を「LOCAL X STATEMENT」としてまとめました。今後、以下のSTATEMENTに賛同する、企業、地域産業コミュニティ、公的機関、またはそれに準ずる組織が連携し、共に地域の価値共創が推進を目指して、活動が続くことを期待します。

LOCAL X STATEMENT

あるべき姿(Being)

**地域に根ざした挑戦をきっかけに、共創し、学び合う、おもしろがる。
そして、そのプロセスが中長期的な”パートナーシップの土壌”となる**

(Behavior)

- **視点(時間軸):関係づくりから中長期的な相互成長を大切にすること**
短期的な成果を急ぐのではなく、まずは「対話」を通じて信頼関係(関係性)を深め、そのプロセスを楽しみながら、中長期的な相互成長を目指す考え方を大切にします。
- **アプローチ:まずは小さくても「始める」こと**
個人の「やりたい」、「できる」、等想いや動機から始める「スモールスタート」の考え方を大切にします。
- **スタンス:対等なパートナー(イコール・パートナー)の姿勢をとること**
支援する/されるの関係性ではなく、イコール・パートナーとしての関係で取り組みます

参考資料として、これまでのLOCAL X STAGEの開催経験から、「LOCAL X STAGEの創り方」を次ページにご紹介します。

(参考)LOCAL X STAGE の創り方

LOCAL X STAGEでは、「企画」、「準備」、「開催」、「開催後」という流れに沿ってSTEPが進行します。それぞれのSTEPでの運営のポイントを次のページからご紹介します。



それぞれのSTEPでの、運営のポイントは次のページからご紹介します。

～それぞれの立場からみたLOCAL X STAGEの魅力～

「LOCAL X STAGE」開催またはプレイヤーとして参加することは、それぞれのプレイヤーにとって、次のような魅力があります。

主催者にとっての魅力

地域の自立的な価値共創を促す仕組みとしての構築と編集者としてのプレゼンス

- ◆ 地域経済・社会活性化への貢献
- ◆ 「支援者」ではなく「編集者・接続点」の立ち位置
 - ー 地域の大企業等/他地域の地域産業コミュニティとのネットワーク構築
 - ー 組織プレゼンスの向上 など

地域産業コミュニティにとっての魅力

未完成的な状態で認められる場と仲間

- ◆ 大企業・行政と対等に語り合える
- ◆ 完成していなくても良い公式の語り場
 - ー 成功事例ではなく、試行錯誤・未完成・悩みを語れる希少な場
 - ー 未完であることが価値になる など
- ◆ 自分たちの取組を言語化・再定義できる
 - ー 登壇プロセス自体が自己内省・成熟度確認の機会となる
 - ー 「なぜ続いているのか」「何が変わったのか」を整理できる
- ◆ 他のコミュニティの取組内容からの学び
 - ー 優劣比較・ランキングが起きず、「真似される/されない」ではなく翻訳される関係性

大企業等にとっての魅力

案件化前の理解と、学びとしての投資価値

- ◆ 表層ではない「地域コミュニティ像」に触れられる
 - ー 地域課題・社会課題に貢献するコミュニティにおける地域単位での意思決定・文化・動き方を知ることが出来る
- ◆ 案件化より前の“理解フェーズ”にアプローチできる
 - ー 営利にとらわれず純粋な関心からコミュニティとの関係性をスタートできる
 - ー 既存事業外の取組に、スモールステップからのアプローチができる
- ◆ 社内に持ち帰れる“翻訳可能な学び”
 - ー 手法ではなく、考え方・条件・プロセスを得られる

①プログラムの企画・検討

「LOCAL X STAGE」では、それぞれの地域産業コミュニティ(以下「コミュニティ」と記載)が生み出したイノベーション(ソーシャルインパクト)についてプレゼンテーションを行い、それをもとに、地域の大企業等が「内容に共感した」、「発展可能性に期待する」等の視点から考察・評価します。そして、大企業等から自社の成長とベクトルが合うコミュニティに対して「企業賞」を授与する流れとなります。



コミュニティによる
プレゼンテーション



企業による考察・評価



企業賞の授与式

②協力いただく大企業等との調整・募集

協力いただく大企業等はLOCAL X STATEMENTの考え方について理解、共感する企業等であることが前提となります。加えて、満たすことが望ましいポイントには以下が挙げられます。

【望ましいポイント】

◆対話から関係を築き、実行へと導く「コミュニケーター」の存在

「対話」から始める関係性からの発展は、「大企業ならではの目線を持ちつつ、地域と共創するために必要なステップなどを理解し、実行に移せるようなコミュニケーターがいることが、共創実行における加速度を高める重要なポイントとなります。

◆連携手段の可視化

企業と地域が連携する際、(比較的実現が容易なものなど)連携手段をあらかじめ目に見える形で示しておく、コミュニティ側から企業に対して連携の相談をする際にわかりやすく、「お互いに出ること」から小さく連携を始めるスモール・スタートを促進することができます。

◆これまでの地域や社会との共創活動を自ら発信・可視化していること。

社会的責任(CSR)への取り組み内容や成果を、外部に積極的に開示していること。そのことが、企業にとって『次の一歩』となる新たな取り組みを組織として求める背景にもなっているため、共創をスピーディーに進めやすい状況が期待されます。

③実施体制の検討

実施体制の検討に際してのポイントは以下が挙げられます。

◆運営体制チームの結成

運営体制が明確となることは、協力する大企業等や参加するコミュニティにとって、安心感につながるとともに社内手続き、関係者の合意を得る上で重要な視点になります。公共または公共に準ずる組織による主催、協力体制があれば、さらなる安心感に繋がります。

◆登壇するコミュニティ・協力企業双方に理解がある担当者の配置

コミュニティ(登壇者)・協力企業双方について理解している人が担当となり、企画に関わることで、より確度の高いマッチング・共創の場づくりにつながる、開催テーマ・コンセプト設定が可能となります。

◆自由度の高い参加形式

イベント参加においての「義務」をできるだけ排除し、「ゆるく・ふわっと関わる」ことを認める形式とすることで、「自分事」としての共創に繋がります。

④登壇するコミュニティの検討・依頼

「LOCAL X STAGE」にて登壇いただくコミュニティは、企業一社ではなく、企業群となって社会・地域課題解決と地域成長を実現する「地域産業コミュニティ」として参加いただきます。コミュニティにおいても、LOCAL X STATEMENTの考え方について理解、共感するコミュニティであることが、前提となります。加えて、過去2回の実施結果をもとに、その後の大企業等との共創にも繋がりがやすいコミュニティの特徴を以下の「望ましいポイント」として整理しました。

【望ましいポイント】

◆行動力と熱量のあるコミュニティ

行動力と熱意のあるコミュニティは、共創パートナーとなる企業等に対して、将来的に自社の本業や新規事業と結び付き、互いに学び合い高め合える関係になり得るのではないかと期待を抱かせます。さらに、コミュニティの持つ活気や熱量が社内にも波及していくことへの期待感にも繋がります。

◆地域に根差した企業が参画しているコミュニティ

地域に根差した企業が参画しているコミュニティは、行動の具現化が早く、共創の早期実現が期待されます。

◆「関わりしろのある面白さ」を醸すコミュニティ

企業と地域が共に元気になる取組を「循環」させている等、共感を起点に、「関わりしろのある面白さ」を醸すこと。目的・目標・次の行動を語るキーパーソンがコミュニティに存在することも「関わりしろのある面白さ」に繋がります。

【過去登壇したコミュニティ例】

●FactorISM

(2025年にて、最多数の賞を受賞)

ものづくりの現場を一般開放し、人々の生活を支え、世界を魅了するものづくりを体験、体感してもらうイベント「FactorISM」の開催等を通じて、地域競争から地域共創を目指す。



●フィッシャーマン・ジャパン

(2024年にて、最多数の賞を受賞)

水産業に革命を起こす若き漁師集団。水産業を「カッコよくて、稼げて、革新的な、新3K産業へ」とすることを旨とする。



⑤広報・集客

主催者、大企業等、コミュニティのネットワークを活用して、広報・集客を図ります。

【LOCAL X STAGE 広報用フライヤー】



⑥プログラムの実施

ここでは、当日のタイムラインイメージと共に、効果のあった工夫点をいくつかご紹介します。

●当日のタイムラインイメージ

13:00	開場・受付開始
13:30	開会挨拶・趣旨説明・参加企業紹介
13:50	コミュニティによるプレゼンテーション1 (5コミュニティ)
15:10	休憩
15:30	コミュニティによるプレゼンテーション2 (4コミュニティ)
16:30	審査時間及び出展会場内ブース紹介/
16:50	企業賞発表・授与式
17:30	クロージング・交流会



効果のあった工夫点

- ◆「協力する大企業等が連携できること」のイメージを登壇するコミュニティに共有した上で、発表内容を考えていただく。
- ◆コミュニティの発表資料を、協力する大企業等に事前に共有
- ◆イベント後の交流時間を確保することで、聴講者も(次回の)参加者となる仕掛けにつなげる。

⑦振り返りの会

「LOCAL X STAGE」実施後の振り返りの会は、協力する大企業等同士のネットワーキング機会になると共に、「次回はこうしたい」といった課題と次回への期待をアウトプットする有意義な機会となります。ここでは、振り返り会のモデルプログラムについて紹介します。

2025年度では、より活発な意見交換の場とするため、グラフィックを用いて意見を可視化しながら対話をするグラフィックレコーディングの手法を用いました。

●モデルプログラム

13:30	オリエンテーション
13:50	グループディスカッション ・参加したきっかけ ・授与の理由、コミュニティへの期待
15:00	休憩
15:10	全体ディスカッション ・LOCAL X STAGEへの期待・継続のために必要な取組等
16:30	ラップアップ・クロージング



グラフィックレコーディングによる
意見の可視化の様子

⑧イベント後のフォローアップ

「LOCAL X STAGE」開催後、コミュニティと大企業等とのコミュニケーションがどのように進んでいるのか、定期的にフォローアップすることが、次回開催に向けたヒント・関係づくりに繋がります。

LOCAL X STAGEをきっかけに生まれるイノベーション

LOCAL X STAGEでの出会いをきっかけに生まれている共創事例のうち、LOCAL X STAGE 2024をきっかけに共創の取組がスタートした「RENEW×一般社団法人関西イノベーションセンター(MUIC Kansai)」の事例をご紹介します。



RENEW × MUIC Kansai

KOGEI COMMONSは、オープンファクトリーイベント「RENEW」を運営する一般社団法人SOEと、株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、一般社団法人関西イノベーションセンター(MUIC Kansai)の3社で発足した、日本のものづくり産地に新たな循環を生むプロジェクトです。

作り手・産地・地域外の方が垣根を越えて集い交流する「COMMONS＝共有地」をなることを目指しています。最大の目的は、全国の伝統工芸や産業工芸の担い手が集い、知識や技術を交わらせる「学び合いの場」を築くことです。互いの課題や知見を交換し、得たノウハウをそれぞれの地域へ持ち帰ることで、産地の新たな展開を促します。



写真出所:LOCAL X STAGE EXTRA登壇資料(RENEW×MUIC Kansai)



KOGEI COMMONSの取組として、2025年10月10日～12日に福井県鯖江市のうるしの里会館で開催され、「RENEW」と同時開催されました。会場では、全国のオープンファクトリー関係者や事業者が対話する「MEET」、多様な技術を体験できる「WORKSHOP」、ものづくりの背景を伝える「EXHIBITION」や買い物を楽しむ「MARKET」、実践者が語り合う「TALK EVENT」といった多彩なプログラムが開催されました。

今後は、産地間の交流促進・情報連携や特定産地に対する伴走支援、体系的なマニュアル整備等を予定しています。

継続的に魅力あるステージを作る上でのヒント

LOCAL X STAGEは、コミュニティと地域の企業のより良いマッチングの場となるためのSTAGEが中心的な企画ですが、目的によっていろいろな仕掛けを組み合わせることもできます。地域性を演出、集客を図る、来場者を楽しませる、新たな登壇者につなげるなど、目的に応じたイベントを組み合わせ実施することも可能です。

こうした工夫や仕掛けが、継続的に開催される魅力あるSTAGEづくりにも繋がります。

◇開催地や現場訪問の仕掛け

前回、最多数を受賞したコミュニティの拠点エリアを、次回の開催地とすることで、開催前後にコミュニティの現場訪問(Excursion)やコミュニティメンバーとの交流を取り入れることが可能となります。こうした仕掛けにより、さらなる共創を促す、または、まだ参画していない企業がLOCAL X STAGEへの参画を検討する入り口としても声かけができ、継続的な開催に繋がります。

◇次回以降の登壇候補のコミュニティ・協力企業発掘につながる仕掛け

イベント開催時には、登壇候補のコミュニティ、協力企業候補も参加者として参加いただける仕掛けを設けることで、継続的な開催に繋がります。

◇登壇したコミュニティや大企業等が繋がりを続けることの出来るアルムナイ的な仕掛け

一度出会って終わりではなく、コミュニティ同士や他の協力企業とも関わり、一緒に育っていけるアルムナイ的な仕掛け作りがイベントそのものの魅力創出に繋がります。

写真で振り返る LOCAL X STAGE 2024 / 2025



<制作・編集>

事業名：令和7年度 地域の大型企业等がローカルゼブラ企業を中心としたコミュニティ型産業集積を育てる実証と本活動自主化にむけた共創ガイドライン作成事業

委託事業者：株式会社ダン計画研究所

<これまでの制作>

OPENFACTORY REPORT 2.0

<https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/webOPENFACTORYREPORT2.pdf>

委託事業者：株式会社 地域計画建築研究所

OPENFACTORY REPORT 1.0

<https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/R4fybooklet.pdf>

委託事業者：株式会社ダン計画研究所



OPEN FACTORY REPORT BEYOND EXPO

経済産業省近畿経済産業局 地域経済部地域連携推進課

〒 540-8535 大阪市中央区大手前 1-5-44

TEL: 06-6966-6013 | MAIL: bzl-kin-openfactory@meti.go.jp

HP: <https://www.kansai.meti.go.jp/1-9chushoresearch/openfactory/openfactory.html>



※掲載内容・画像の無断転載・複製を一切禁じます。

2026年3月 発行

OPEN FACTORY BEYOND EXPORT EXPLO